

Puboo X Puboo

2013

Architecture
Product
System



五島千尋Xゴトチヒ

最新更新情報はこちら

[Puboo×Paboo2014](#)

コンテンツ案内

[日記 ドラクエ休暇](#)

[日記 『ナウシカ』論文が面白い](#)

[書評 悪の研究 『リトル・ピープルの時代』宇野常寛](#)

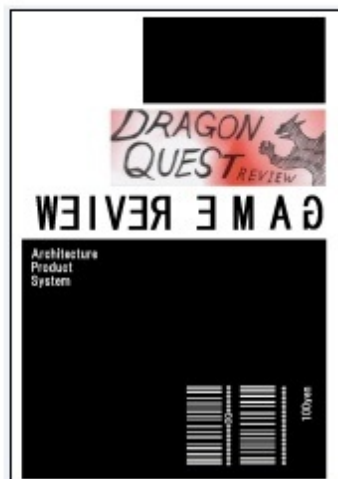
[批評 ボカロ小説の肝心](#)

[随筆 キン肉マンの批評はなかなか・・・](#)

広告

ドラクエ研究指針

ブックログのパブー



「80年代のテキスト空間」より
ドラクエを確実にプレイした作家は、糸井重里と高橋源一郎さんである。作家と限定しなければ、齋藤はドラクエをプレイしていたと思われ、天野祐吉はドラクエをプレイしたことをエッセイに書いている。彼らをひとくりにすると、みな文筆業を営んでいるといえる。文筆業を営む彼らがどうして、ドラクエにはまったか。

「80年代のテキスト空間」の作家たち、ドラクエにはまる



100yen

Architecture Product System

<http://p.booklog.jp/book/50844>

広告

マンガとかを「天体観測」



Architecture
Product
System

2013年12月23日 今年最後の更新情報

[アニメレビュー『魔法少女まどか☆マギカ』](#)を修正した。これ以後は映画評として「暁美ほむらが私たちにかけた魔法」を足せばいいはず。小ネタとして「『けいおん!』人気は『まどか』を作った?」は取材不足で裏が取れないし、コスチュームやカラーリングのことに触れた「蒼い樹にウメの実が生ることもある」は、まあしなくていいか。『あの花』の方のレビューは、できそう。でも、アップは来年になるだろう。

それから「コトタベ解説編」のチャプター3…チャプター3の「物語と登場人物は後付け」の半分くらいをアップ。

来年は『ななつとみつとひとつ』だ。

早く、片付けないと。

カラヴァッジョをモデルした画家は、ハル君が名前を持たないムーア人を「来なさい。僕が君に、名を与える」と、奴隷解放するシーンの横にいたりする。カラヴァッジョの有名な絵の構図と同じで、やりとりを横で見ている画家は私の場合、カラヴァッジョ同性愛者説を取るから、「脊髄に稲妻を流された。インスピレーションを感電させられた」と語るほど創作意欲が沸く。(同性愛のタグ回収?)

…何か、私は自分が言いたいことと、受け手が感じることが一致しないことを書いてしまった気がする。

感動的なシーンなはずだ。名前を与える=自由を与えるである。カラヴァッジョの絵で長年レビと思われていた指を差している奴がシャイロックであろう。



トルンカの話をちょっとだけすると、最近読んだ本で、トルンカのスタジオに川本喜八郎が通っていた時期があったらしいことが書かれていた。

建築の世界でいえば、前川國男がル・コルビュジェの弟子に入って、その前川を師事したのが丹下健三。『エヴァンゲリオン』の第三新東京市は、丹下の「都市計画1960」の影響があると指摘されている。遡れば、コルビュジェも「ユニバニスム」で都市計画の話をしている。

それならじゃあ来年は、コンセプトは建築だ。屋号が“Architecture Product System”なのだから

、「建築だあああああ！」

ということで、いわゆる「弾を揃える」ために、いろいろしていた。

日記に「ドラクエ休暇」（伊豆大島＝アレフガルド説）があり、書評に「悪の研究」があり、充実させるつもりでいる。[「ボカロ小説の肝」](#)で、「ボカロ小説はもう見切ったあああ」と思われてしまうと、いけない誤解を生じさせる気がする。ラノベ作家になれなかった奴が、テキトーなこと書いてあるだけだよ。

「アーキテクチャープロダクトシステムの直訳は建築製品制度だから、来年は建築なのでは？」

「うーん。思うんだけど、このゲームはキミがプレイしてきた全てのなんたらかんたらの続編を作るためには、キャラクターとシチュエーションを代えているけど構図は今までの作品から抽出するのがいいのでは？ お姉さんたちの見た目にオリジンがそもそもいるのだから。ブルーな画家だし、子供に舐めさせるのもあったと思うし」

「何言ってるの、さっきから？ メガネの話題は？ メガネメガネ」

2013年12月13日 ゼロで割る

『The man of the overlooking06』が公開されているはず。

違うところで、今年のベストアニメを決めようとして、チビチビ書いているのだが、

『境界の彼方』のオープニングは頭の水滴に濡れる窓あたりから、異常な気合を感じる。内容は本編がはじまる前日譚で、弥勒が桜に槍の使い方のてほどきをしているとか、姉妹三人揃っている写真が光沢紙だから反射した光で見えないとか、エピソードゼロを90秒間に圧縮している。満月が海面に映っているのが上の逆さビジュアルが、なにかを象徴しているのだろう。

というのを、10話目を見る前に気づいていた。

「私は気づいていたのだあああああ」

今年は豊作年で選ぶのが大変だった。謎の特別賞を設けなくては行かず、『京騒戯画』はビデオソフトが出たら買わなくちゃいけないし、一応放送前のネット配信のエピソードだからゼロ話（ゼロ番目？）から始まる…ゼロといえば、ゼロで割ることはできないけど、仮に割ったら「幽値」というものを設定する。

$56 \div 0 = 5\ddot{6}$ ← ウムラウトのような記号で幽変化していることを表す

「7掛ける8は56」だとしたら、「56割る8が7」なのだから、「幽値56掛ける0は整数56」となる。

乗除逆算式
の法則 $a \times b = x$
 $x \div b = a$

代数に変数を入れると

$$7 \times 8 = 56$$

$$56 \div 8 = 7$$

したがって
幽値の逆算式は

$$56 \div 0 = \overset{2..}{56}$$

$$\overset{2..}{56} \times 0 = 56$$

これは簡単に破綻する。ゼロで幽値を割るのである。

すると、割れないことに気づく。

だが、もう一度ゼロで掛けると、幽値に戻る数、第二幽値を設定する。

これでいくらゼロで割っても、第三、第四、第五、・・・第nと、無限に幽値があればいい。

第n次とした方がいいか？

破綻するが
二次幽値の
仮説設定

$$\overset{2..}{56} \div 0 = \checkmark \quad \overset{2..}{56} \div 0 = \overset{2..}{56} \quad \overset{2..}{56} \times 0 \times 0 = 56$$

↑ この場合の
二次とはゼロを
二回掛けると元に
戻るという意味

$$\overset{2..}{56} \quad \overset{3..}{56} \quad \overset{4..}{56} \quad \overset{5..}{56} \quad \dots \quad \overset{n..}{56}$$

これが『俯瞰の男』の胎盤なる魔力をたとえる説明になるのでは？

一応、ケルティウン・マジックの設定では魔孔（発力器官・ガン細胞のようなもの）が血中の負の物質を平方根作用で虚数物質である魔力に変換しているとされている。（作中、そういうシーンがあるのだ。『06』の宣伝だよ）

では、負の虚数（マイナスi）を平方根すると、正の数になるから、ハーバー・ボッシュ法みたいに空から物質化減少が起きる・・・作中ではこれをする、化学実験をしたような臭気があたりに漂うようにしていたが、違うのではないか。

第二虚数が生まれるのでは？

それなら、たしか五次以上の方程式の解を求めることができるのではないか？ もうその証明ができていないはずだから、ダメだろう。

私自身はわからないけど、ちゃんとした数学知識がある人間には、破綻の切れ目がわかるはず。

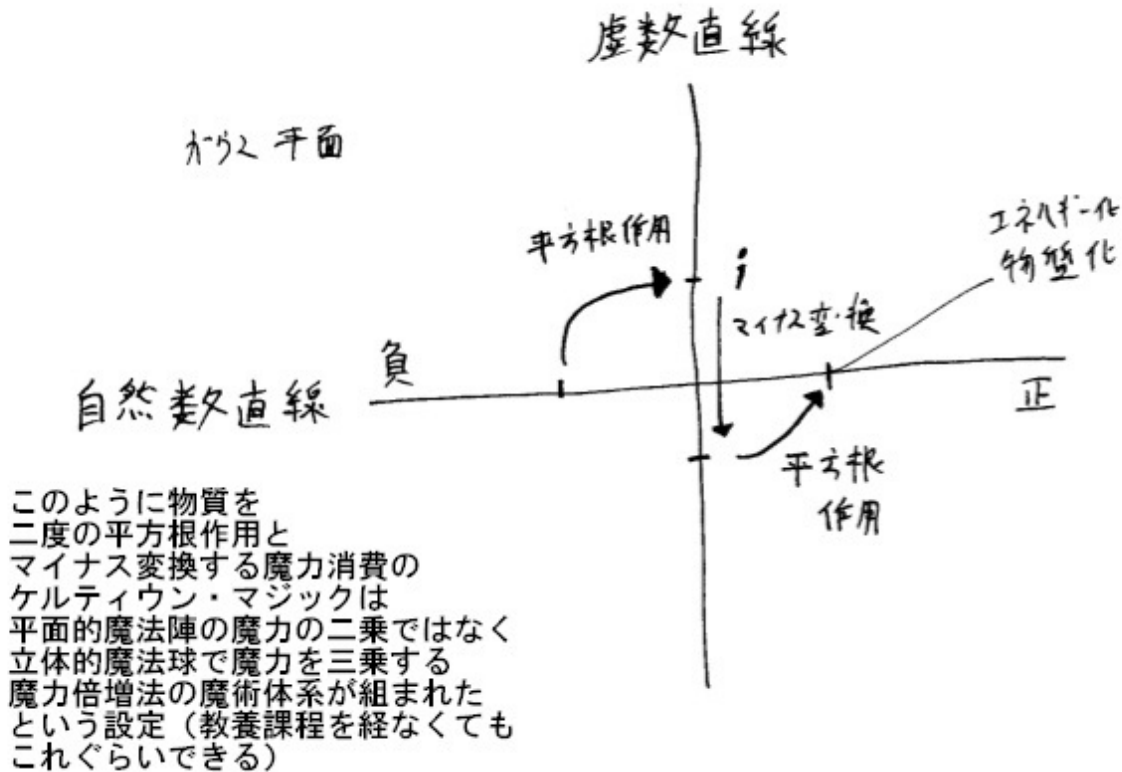
一応（本日二度目）、二番目のありえない未来の思い出である『ななつとみつつとひとつ』の発案者だから、これぐらいできるけど、クリーチャーズに見せても、ダメだったんだよ。

ポケモンカードのルール開発の担当だから、知育的ボードカードゲームのパッケージと演算処理は電子的に行なうビデオゲームソフトの二つ作りたかったから、私はクリーチャーズに入社したかったけど、ダメだった。

ちょっと前、山本寛が「監督の域に達していなかった」ということが話題になったけど、「社

員の域に達していなかった」わけだから、それは仕方ないよね。

では、社員の域に達するにはどうするか、そこは境界の彼方じゃないか？



「報告があります。こんな数学の話題をしてかしこさんを装っていますが、『ばふばふ』を更新しました」（直球）

2013年12月4日 感謝をいいそびれる。

更新情報は、2014の方で「国民皆兵の話」を少し直した。

それから、四コママンガを足したりした。

『トモダチコレクション』の新生活で、同性婚をすると子供ができるのは、記事を読むまで気づかなかった。

気づかないということは、けっこうある。

それは知識人でもそうで、吉本隆明が『アキラ』のマンガ評で、「なんで超能力者たちにナンバーがふられているのかわからない」と書いているように、気づいてない。

編集者とかが、「鉄人28号のことですよ」「アキラは28番だから鉄人のことかな」とか、遠慮せずに言えばいいだけだよ。

金田少年が金田で、鉄男が「悪人の手にリモコンが渡った」状態の鉄人をさすのだろう。

ちゃんとしたマンガ評論家、夏目房之介さんなどが指摘していることだから、専門家でないとはまっちゃう落とし穴なのだろうか？

『FAREBALL』あたりから、アトムが出てくるし、戦後マンガを本源的蓄積して、自分のスタイルで描きなおそうとしたのが大友克洋である。

……それはともかく、この間、3DSのすれちがい通信で、半年以上すれちがいのメッセージを入れて、「ネットのブックログのプブー見てね」と宣伝していたら、「見てるよ」という個別メ

メッセージが来た。

うっかり、返事を入力するのを操作ミスしてしまった。

ちゃんと、

「どうも、ありがとうございます」

と、しないといけなかった。

半年以上、すれ違うMiiから何もリアクションが無く、リアクションがあるとは、思っていなかった。

それから、この「Puboo×Paboo」は、実は女子禁制なんだけど。



月毎にバックタイトルを替えている

玲子ちゃん見てる？
もちろん女子禁制だから
見てないよね

(男子更衣室を覗くようなもの)

Puboo×Paboo

女子禁制



2013年11月26日の更新情報は解説編を二頁アップしただけ

『The man of the overlooking』の第五巻が公開されているはず。

『Book Agent 本のセールスマン 試読版』も公開されている。

そして、解説編に「よくわかるカイエ・ソバージュ・モチーフ」のプレとして、補足説明として複論理について語られている。

たった二頁だけだが。

少し休むつもりで少なくしたのに、テキスト量が多くて苦戦した。

遊びの四分類を加減乗除にたとえると、眩暈は除法にあたるのでは？ だから複論理はモジュラー形式なのだが、それは別にいいとして、眩暈は遊びの四分類の暗黒大陸のようなところがあって、「ゼロで割る」ことができないみたいな謎が残されている。（カイヨワはどうも四分類目を眩暈という言葉をあてがうしかなかったようだ）

数をゼロで割ることは、現代数学でもできない。二乗するとゼロになるラムダ λ は設定されているけど、ゼロを掛けると元の数字に戻る数記号があると聞いたことがない。話は逸れるが、ギリシャ文字を数学記号に配したのは、中学の数学教科書に書いてある通りデカルト。おそらくピタゴラスに敬意を示して、ギリシャ文字を数式に使われる記号にして、各国で違った計算法をヨーロッパ圏で統一したと思われる。（…ウラドリしないといけないな）

S Fだと、数学が言語っていう宇宙人がいたりする。それは数式が数学という国際的統一言語であるためである。

国際的に数学者が競うようになって数学が発展した欧州と違い、鎖国政策時代の和算日本がどうしてあんなにすごかったのかは謎なのだが、いろいろそうした謎解きを、ビデオゲームの神が解法を用意しているなら解かれるだろう。数学の神が支払った以上の見返りをけして与えないのなら、ビデオゲームの神はより残酷である。

憶えておくといい。

「MS少女の細くて長い歴史」をリライトしたら、アームストロングラインを超えても、血が沸騰しない話を思いつく。酸素補給マシンも登場するのは、ひみちゅ。たいしたこともないものをひみちゅというのも、心が苦しいなあ。

来年度の控えめな四コマの タイトルページの原稿



2013年11月18日 ほんの少し調べるのも 大変

更新情報といえるものはない。

「Puboo×Paboo2014」の方では、「国民皆兵の話」がアップされていたりするのだから、数日前のアップである。

本電書の「川内康範のヒーローたち」や「山内の死」などが更新されている、というよりも完成している。あとは誤字や副詞を微調整するだけである。

山本会長がと学会で言っているらしい、「ほんの少し調べることを怠ったせいで、批評が娯楽に化した不手際が今年あった。

そこで、トルンカの『手』の話題をしたい。

チェコアニメでアートアニメでコマ撮リアニメの『手』は、アニメ製作者のトルンカの遺作になのだが、作中で葬式を描いたせいで本人が死期を悟っていたのではないかと邪推されている、いわくつきの旧社会主義圏アニメだ。

アニメで社会主義といえば、この人、宮崎駿は当然影響を受けている。ところが、影響を受けていることの裏づけをとるために、いろいろ調べても、裏は取れなかった。

まず、映画『ナウシカ』の回想シーン、そもそもこの回想シーンだけセルアニメというより個人製作のアートアニメっぽいのだが、ナウシカが隠していたオウムの幼生を取り上げられる時に、非現実的なまでに手がたくさん出てくる。ナウシカの主観で印象芸術的なシーンである。

ストーリー上は幼生は腐海に帰されている(そうではない場合大海嘯が起こる)が、ナウシカにとっては幼生が奪われた「葬式」である。

一見しないと説明を聞いてもわからないと思うが、トルンカの『手』では手(軍手をはめた役者の手)が主人公(人形)を葬っていることから、回想シーンはこれをオマージュしているのではないかと、宮崎の発言などから裏取りを取ろうとして、ほんの少し調べたが、

「裏付けられませんでした」

という、残念、しょんぼり、「ここまで読ませてそんなオチかよ」という調査報告を出さざるをえない。深夜番組『キングコングのあるコトないコト』で久石譲の娘さんが「ララランラン♪」と、歌っていたことをちゃんと取材して裏取りしていたのに比べて、なんとも見劣りする結果である。

『出発点』や『折り返し点』にあたってみたが、宮崎がトルンカに言及した発言はなかった。見落としがあることも十分考えられるが、一応無かったと結論付けている。

『オタク学入門』でも書かれているとおり、宮崎は過去作のオマージュ、歯に衣を着せなければ「パクリ」をしていることが多々あるのだが、このトルンカの『手』が影響されているのか、たまたま似たように思える映像ができたのかは、わからず終いである。

別に裏付けられないことが全てではなく、杉浦茂のマンガの影響を受けていることは、本人はどこかで話していたはずだ。

後は恨み節を書くと、レーザークレーのワンプレイの料金や山内社長が否定しているカスタムチップ300万個発注などの真相を、任天堂レジャーシステムに出向していたらしい上村雅之氏に取材で聞くはずが、事情によりできなくなった。

いつもいつも、つまらないことをされて良質に近づけない、私は歯噛みするだけだ。

マルチナのしゃべり方は、例の使徒だろ。

ハセクラの使徒なのか？（両遣欧使節団をニコイチにしているとバレルぞ）

『デート・ア・ライブ』で精霊=天使みたいな、3DS版が出るらしいから確かめるといい。ガールズ・ギフトとは精霊の力とか、新作『IX』とかの話題をした方がよかったかな。

BSでちりとてちんの再放送をたまに観ると未来・・・



「しほりのおしゃべりクッキング」が白塗りすぎて料理の途中で暗黒舞踏を踊りだすようになる！のを想起してしまう。

2013年11月5日の更新情報はひどい

「コトタベの解説編」の先月の残りをアップした。

それと、「Puboo×Paboo2014」をフライング発行している。

やっと、かむなぎ事件の話題に触れていたのを回収できた。

長かった。

その点については、説明不要だと思う。

「いいじゃないか、中古品でも」

中古品は長く愛されていることの証だから、悪いことじゃない。悪いのは、中古品を悪いもの

だと思っ方である。ただ、新品を買ったと思ったら、中古品を掴まされていたのなら、それは怒るだろう。あの事件は、みんな新品を買っていたと思っっていたのである。懺悔ちゃんの謀略であったのかどうかなんて、どうでもいいことなのだ。

そもそも、終わったゲームクリエイターの描いた低クオリティーマンガに書いてあることである。それから、他者からの評価というのは、「評価をする価値が無い」という評価を戴いているから、たいしたことは書いていない。

褒められたことがない。

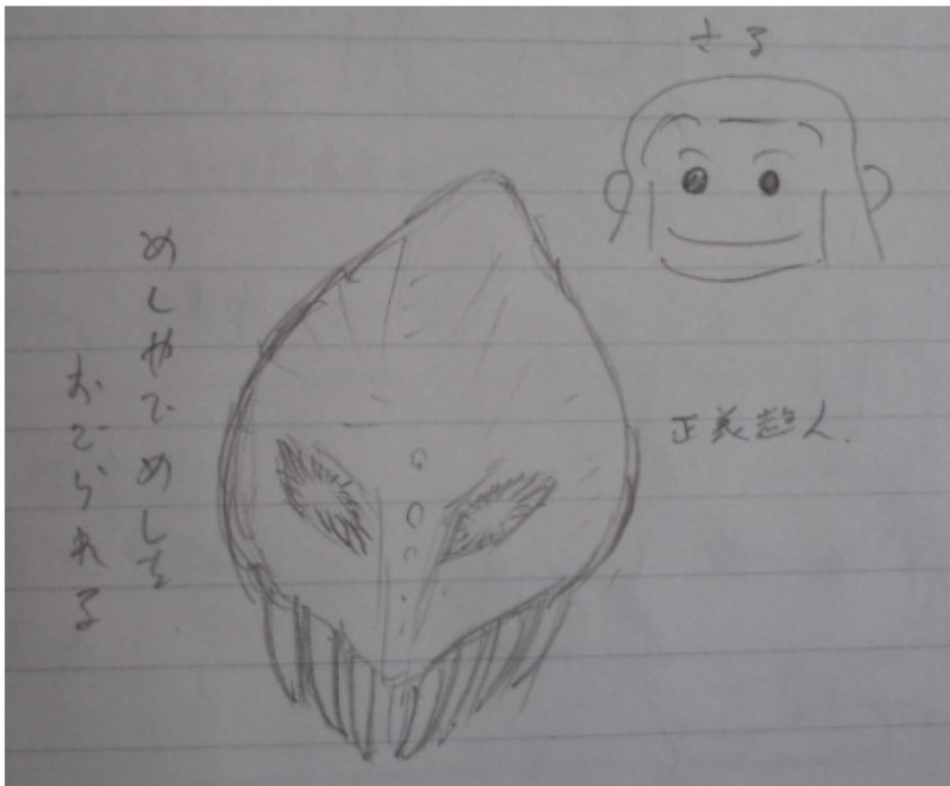
それは、これからのゲームクリエイターにとっては、私以上のことができないと、誰からも褒めてもらえないという、状況が顕れている。

「スペクトルがどうのこうの」とか、テキトーなことを書いているのではなく、眩暈のことに触れた場合必ず出てくるジェットコースターをスペクトルで解析したものがある。

それと声に関して、同じものがあるんじゃないかと思っっていたら、テレビ番組で加藤英美里には、そういうスペクトルが出ているということが発見されているのを見て、頭の中にぼんやり描いていた仮説が正しかったことがあった。

第五巻あたりで、このことができればいいけど、伏線回収できるのか、わからない。本当なら、今回のアップで、せめてジェットコースターにはスペクトルがあるという、ところまで(前振りとして)描かないといけなかったのかもしれない。

そういうことは、他のルトロジスト(ゲーム学者)が私の百倍優れた知見で書かれた論文・レポートがあるはずだから、そちらを探してみた方がいい。



子供を
正義超人は
正義超人は
正義超人は
正義超人は
正義超人は
正義超人は
正義超人は
正義超人は
正義超人は

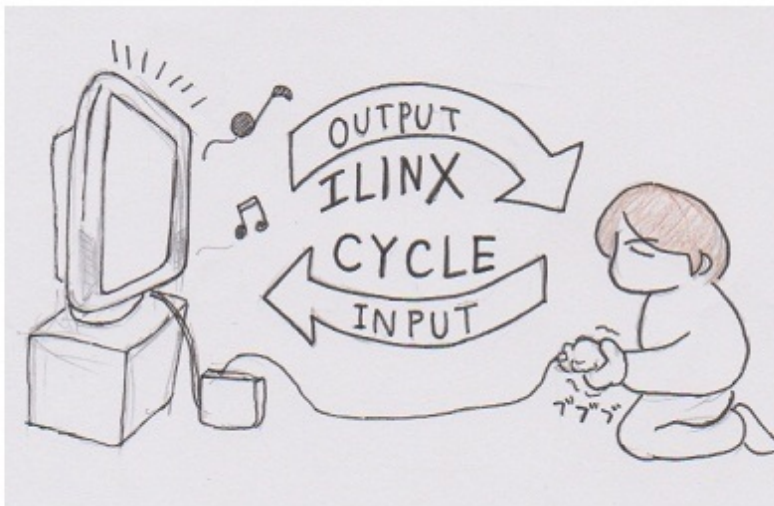
2013年10月30日 ハーレムラノベに飽きたからボカロ小説？

「コトタベ解説編」が12頁アップされているのが、5ページしかアップされていないはず。そして、なぜか「ぱふぱふFREE」が公開されているはず。

今回は12ページ分のテキスト量が多く、プリントアウトしていろいろ、校正を入れたり、途中で描いておかなくちゃいけない、「四分類の一つ足すなら“論理”」の具体的説明が抜けているのに気づいたり、行き当たりばったり、それで今月今日で全12ページアップの予定が、来月にずれてしまった。

作画に比べて、そんな作業量が多いわけではないが、手間取ったことはたしかだ。これは“はず”じゃない。

「これ、うまいでしょ。何度も描いてるうちにうまくなっちゃった」



をイリックスサイクルの最適化パターンにしたモノ

ラノベの歴史は積層のように積み重なっている。それは戦後マンガが大きく、手塚マンガ、劇画、大友マンガに分かれているようなものだ。地理的だと、手塚のいたトキワ荘を中心にした新・マンガ党、関西中心に赤本で活躍した劇画家たち、そして大友のホームタウンの吉祥寺界隈のニューウェーブ勢、こういう東西東が交互に入れ替わっているように見える。(精査すると違う)

ラノベは広義区分の大まじめファンタジーから、狭義の軽いファンタジー(80年代の「軽薄短小」を取り込んでいる)が現れ、ラブコメ性を高めてラブコメラノベが登場し、さらに純度を高くしてハーレムラノベがゼロ年代をほぼ席卷した(あと『おとまほ』の少年魔法少女という性倒錯ラノベ)。そんな時代に二昔前の大まじめファンタジーである『俯瞰の男』を書いたら、それは受けないだろう。

ところが現在、地殻変動が起きている。

ハーレムラノベから、ボカロ小説に「政権のようなもの」がシフトしつつある。ボカロ小説は小説版『初音ミクの消失』が先鞭をとって、小説版『カゲロウデイズ』あたりで、ジャンルとして認知された。ジャンルとして認知されたから、ボカロ小説から着想された、架空の音声生成ソ

フト・キャラクターを登場させたSF小説がある。題名は忘れたけれど。

というのが、横から眺めた印象だけど、熟読談義したら、違う結論にいたるかもしれない。三田紀房さんのマンガって、その業界を何も知らない素人判断として先入観で予断を持ったものは、ことごとく覆される。

同じように、素人同然の私が見たら、素人判断の予断をしていたと、後からわかるのでは。だから、確実に外すことを書けば、「ノイタミナ枠でボカロ小説を原作にアニメができる」と、書いておけば、素人判断だったとわかる…はず。(今回の更新情報で“はず”が多いのはこの終わりをつけるため)

こんなことより、子供たちの貧困を表現しているラノベとかがあるらしいから、そちらを語るほうが有意義では？

2013年10月22日はやはり更新情報が無し

今回は、更新情報が無いにもかかわらず、更新情報の欄に記録をつけるのは、他でもない。

ちゃんと名前を切って、下書きに入っている。

「コトタベ解説編」の。

何もしていないのではなく、準備に忙しいのだ。

「ごらん下さい」と谷岡ヤスジのマンガに出てきた、厚生大臣に衛生面を清潔であると認められた特殊な犬のように、パターンをみせてみる。



文宝神社の巫女さん

↑ ディスコクイーンみたいな服を着ているためあまり見せられない

同一なキャラクター

ミツギちゃんと藤原清美が同じ素体で成長した方と成長していない方のような違いしかない……
宇宙人にさらわれて遺伝子操作された方とされていない方では？



色を塗る前の段階の巫女さんがいる。それで、もう一人は魔女の方で、キリスト教が入ってくる前の土着の信仰の対象であるモノの巫女の子孫が、魔女だという説があったけど、それは現在では否定されているのだが、同じ巫女系統のキャラクターだから、手塚スターシステムのように

役者は同じということである。

今回は、文章量としてこのぐらいしか用意できなかった。

アニメファン限定ギャグ2 追加キャスト

サクラちゃん ワロンちゃん(ぜんぜん似てないし、むしろお姉さん)

ピンクのプラグスーツ着たメガネ ゆかり先生

ヴンダーの駆動に使われているなんか ポキモン山田(辻褃があってる?)

シンちゃんとカヲルくんの間に生まれた赤ちゃん(元の映画に無い) キャリバン

オークラ登場のボッドキャストは、だいたい面白い。

2013年10月8日 今日は横井さんの告別式の日

予定通り、「横井レポート2013」は下書き設定にした。

バンドデシネレビュー『メビウスリング・ザ・オリジン』の脱字を修正した。

『あの花』のマンガがあるだろう。

作画者の泉光(いずみ みつ)さんは、つる子の内面を踏み込めていなかった。

メガネのつるを透けさせないから、つる子は花火の打ち上げの時に髪を切ってこない。

マンガ版と原作アニメの違いは、ここが大きい。

長井監督や岡田さんは、つるこの内面に踏み込んでいると思われる。

作画でつるが透けて魂の窓が開いているということは、つる子のやさしさを表現することになる。髪を切るのは、超平和バスターズの頃に戻ろうとしているということだ。つまり、めんまの願ってあの頃にみんなが戻ってほしいんじゃないか、というつる子の考えがおそらくあるのだろう。

だから、超平和バスターズにいた頃のようにショートにする。(めんまが好きだったやさしいつる子)

マンガではメガネのつるを透けさせないから、そこまで踏み込められなかったから、つる子が髪を切らない。

これが『マガジンミステリー調査班』なら、キバヤシのメガネが透けるのは、作画者が、

「頼む！ 子供たちよ、少年たちよ。キバヤシに騙されてくれ！！」(オレも騙されているから！)

という祈りにも似た願いを込めて描いているから。

キバヤシに宿った魂が透けて見える…

大人ののめり込みである。

この電書自体、民明書房やミステリーレポートのようなものだということが、最近読み返してみても、判明しつつある。

こんな余技のマンガ表現論より、本業といえる横井さんの話を書くべきだろう。

今から16年前の今日、宮本茂が告別式で「彼は任天堂そのものでした」と言ったから、「横井軍平とは任天堂の無意識である」と言えるわけだ。

それで、宮本茂がデザインした横井さんのお墓にある四コママンガは、タイガー立石の影響を受けているだろう。つまり、タイガー立石が載っているようなポンチ雑誌が好きだったと考えるべきだ。

ポンチ雑誌に線を使った頓知の効いたマンガを描くタイガー立石は、戦後マンガ史を知らない人間には、まったく知られていない、知名度の低い人だ。海外で少しアーティストの活動をしていたらしいから、芸術関係の人の方が詳しいかもしれない。

『ぶらぶら美術・博物館』を観ればわかるだろう。山田五郎さんは、たまに私が書いたことと同じコメントをするんだから。

だから、もしかしたら、当時の現代美術に影響された部分、東京ミキサー計画がチリトリとか、何らかの相関関係にあるのかもしれない。

「すいませんね。横井さんの話を読みたい人が多いはずなのに、マンガの話をして。ゲームについては、別にフリーでいいけど(プロになれなかったから)、マンガやアニメについての本は、積極的に有料本を作るから、そこで得た資金を元手にして、ゲームについての本をただにしていこうから」

ブクログのプブーをはじめた頃の、ビジネスモデルを明かして、どうする。

2013年10月4日 今日横井さんの命日

『Legendary developer 横井軍平』に「横井レポート2013」というものをアップしている。期限付きの公開で四日後にはレポートを非公開にする予定である。

それから「コトタベ解説編」を修正した。

これで三島に「章を与える」ことにはならない。ドナルド・キーンさんの『私の20世紀クロニクル』などの複数の著作で、このカイヨワの謎行動が触れられているけど、ホントに謎で著者もわからないようだ。仮に何かの仕返しとしても、キーンさんがカイヨワに仕返しされるような心当たりが無いし、何をしたらこんなわけのわからない仕返し・意地悪をするのか、理解不能。

この理解不能行動をする人が、遊びを科学したものに卓見ある著作を残しているので、タチが悪い。

結論としては、カイヨワの全てを理解する必要は無い。テキスト論じゃないけど、本人とは切り離して著作を検めた方がいい。カイヨワの人物をとりあえず紹介するキャッチーなエピソードとして、とりあげたのだが、逆に混乱を招いたかもしれない。私のナウシカの評論の冒頭に引用したことのよう、かなり正鵠を得たファンタジー批評ができる人物だ。

そろそろ「本のセールスマン」も片付けないといけない。

ホームページとしての「本のセールスマン」はたたまないといけなかった。

理由は出版不況だからだ。

一応、アフィリエイトサイトだったから、何が売れたかわかるのだけど、まったく本が売れなかった。売れたのは日用品のせっけんのようなものぐらいだった。せっけんが売れたからといって、せっけんを営業するわけにはいかない。一応本に関連したDVDとかなら、アフィリエイトを貼ることはできるけど、「本のセールスマン」なのにせっけんが売れる方向にシフトするわけにはいかない。

商業流通している本ですら、売れないという事実には正直、未恐ろしさを感じた。

これらの話は「Book Agent 本のセールスマン」に改題した電書に書く予定の話題だ。「本のセールスマン」は、そもそも小ネタ集みたいなものだったはずだけど、スペシャルでもないのに、長い読み物が増えてしまった。

青沼英二さんがさ、青島じゃないよ、青沼さんが「社長が訊く」でネコ目のリンクのイラストから『風のタクト』は生まれたみたいなお話をしているけど、どうも青沼さんは私の『ありえない未来の思い出たち』の第一巻「コトタベ解説編」を読んだようだね(これは自意識過剰で冗談である)。

「一枚の絵からビデオゲームができる」を実践していたのが『風のタクト』だったという、裏づけみたいなことを語ってもらったけど、当の本人である私は、超人たちが自分自身(男の持ち物)をさらしてプロレスごっこをしている四コママンガの隣に、想像上の任天堂社長と「社長が訊く」ごっこをしているという格差社会的なネタになっているのだが、それはいいのだろうか？一ゼリフコマのつもりで構図をデザインしているのだが、気づいていただろうか。

「社長が訊く」で話されていなかった『ピクミン3』の話題は、実は「ほぼ日」の樹の上の秘密基地で糸井重里と社長と専務(ミヤポン)のビッグスリーが鼎談しているのだが、それはもうちょっと知られていいのでは？

「あいつは一本もビデオゲームを作ったことがないのに、なんであんなにゲームを作ることを知っているんだ？」

それは高野長英や大村益次郎の真似をしているだけ、なんだけどね。

そういえば、「コトバを食べる、ケモノ。」を読み返してみると、面白いマンガだね。作者が自ら自分の描いたマンガを自画自賛するなんて、変だ。

「社長が訊く」のパロディには、任天堂の首脳陣がバカでなかったらわかることが書いてあるけど、ヒントを書けばタイトーの社員だというZUNさんと岩田社長はたしか同じ東京電気大学出身らしい。だいたい、何をしたらいいのか、ピンと来るはずだ。

2013年9月30日 もうだましネジを回したくない

『The man of the overlooking』の第四部を、せっかくだから公開。

コトタベ解説編の「遊びの四分類+1」をアップした。実は解説編にはサブタイトルがあるがいくつかあるが、サブタイトルを記入するのを毎回行うのは面倒なので、記入していない。だいたい、内容そのまま前回「一枚の絵からビデオゲームが生まれる」というサブタイトルであった。

Puboo×Paboo

女子禁制

ネームを切るのがなかなかうまくゆかず、いろいろ幾つかトラブルが続き、八ページしかアップできず、2002年末に『風のタクト』が出て2003年頃にはもう、

「ミニゲームの数は究極的には四の倍数になる」

という答えは出していたところまで、描けなかった。(来月に持ち越した)

これは十年前にできたモノだから、蔵出ししている。(カイヨワ座標に十年以上前に気づいてないとしたら、今現在のルドロジーに20年遅れているということだぞ。私は十年遅れているから)こんな古いモノの話をしているからゲーム会社に入社できないんだよね。

そういえば、遊びの四分類といえば井上明人さんがにらめっこの話をしていて、

「相手の顔を見なければ一方的に勝つことができる」

という点をあげている。

これはカイヨワもゴルフをしていたら、いくらでも誤魔化しが出来ることをあげているのに似ている。ただ、誤魔化しをすると途端にゴルフというゲームは面白くなくなるとも、語っている。

これはにらめっこで「相手の顔を見ない」のと同じである。

にらめっこの相手の顔を見ないこととゴルフの誤魔化しは、脱ルール行為だ。だから、勝ち負けの競争のルールから外れ、眩暈に近くなる。もちろん、カイヨワも語っているように、競争と眩暈は組み合わせとして、繋がらないが私はそうとは思わない。

眩暈の範囲を拡大させれば、競争で脱ルール行為をすることは、うしろめたさという「眩暈」を覚える。詳細は避けるが、もし勝負ごとでワザと負けることで信じられないくらい多額の報酬を得ることが約束され、うしろめたさを感じてしまったら足が震えるくらい眩暈を感じるだろう。

うしろめたさを感じるのが眩暈の一種なのだ。

しかし、脱ルール行為をし続ければ、やがて遊びでは無くなる。大相撲の八百長で日常的に星の貸し借りをしていたら、やがて後ろめたさがなくなる…「本源的蓄積によって忘却する」ということだ。それによって、眩暈の要素が失われる。

これを我々は普段、なんというかと言うと、「生活」と呼ぶ。

見に覚えがあるはずだ。本来、競争をしなければならないのに、脱ルール行為という短絡(ショートサーキット)を通して眩暈に達し、それが日常的に繰り返されればうしろめたさを失い、ただ流されて生活を送っているだけになる。(実は眩暈に訓練されることは狩猟採集生活においても重要)

それが我々の近代的労働なのだが、『遊びと人間』を読み返すと、こういう文体になるわな。

最近、

「ああ、ブログみたいなものを書いてばかりいて、それで筆が荒れてきた。押井守さんのいうとおりだった」

と思い、ちゃんとした真面目な文章を書こうと思い立ったので、もしかしたら普段哲学書などを読まない人にはとても読みにくいモノを読ませてしまっているかもしれない。

それはまあ、別にいいじゃないか。

話を逸らすと、ダイヤモンド(六芒星)ユカイさんがドラマ『孤独のグルメ』で沖縄料理店の店主役をしていて、電子ジャーに手を伸ばした瞬間、視聴者であった私の体内に青い電流が流れた。

そういえば、青い電流といえば「あれはだましネジかな」というネタがある。

神前さんの「happy bite」は「星間飛行」が元ネタ、原曲？ なのとか、例の物語シリーズのニコニコ動画のコメントであったのだが、私はそうは思わない。

しょこたんがカバーした曲でもある「雨にキスの花束を」ではないだろうか。旧姓田村亮子こと『YAWARA』のオープニング曲で今井美樹が歌う原曲を聴きなおしても、谷にスクランブルの中央でプロポーズされたのか、ちょっとよくわからない。(テレビ放映が終わったから付け足すけど、交差点のど真ん中で求婚するように暦くんは「ずっと迷い続けよう」と誰かに言う)

だましネジを回しちゃったのが、例の有希ちゃんのアニメレビューであって、原作者にはめられたのだから、それは出来が悪いと書かざるをえない。だから、だましネジを回していないか、つつい慎重になりすぎるようになってしまった。

だましネジを回してないのが、きゃりーぱみゅぱみゅの「インベダー×インベダー」の元歌は「おふろのかぞえうた」である。

これはオマージュ、あるいはルーツミュージックとして間違いなく正解だ。正答である。なぜなら「おふろのかぞえうた」の歌詞には湯気で曇った窓ガラスに、侵略者である宇宙人の絵を描く。そして、きゃりーぱみゅぱみゅもリピートのところで連呼する「イエイ」と「ウオウ」を連呼して宇宙人が歌って踊るアニメーションが『ひらけポンキッキ』に流れていた。(ここでケモノの話題を出してはいけない)

ただ、苦言を呈すると順位上げ業者に手を回させていないか？ という疑問も残る。動画サイトでの閲覧数の多さに詳しく語りたくないのだが、この件はだましネジであってほしいなあ。

もしかしたら、「happy bite」も「星間飛行」も、「雨にキスの花束を」をルーツにしているのかもしれない。さらに言えば、「雨にキスの花束を」自体がなんらかのアイドルソングを元にした曲かもしれない。

メガタイカはやっちゃいけないネタだった。

うっかりやってしまった。

まあ、別に気づかずに一生を過ごしていただけたらと思う。普通の人は、虚淵さんみたいなクレバーな方に見られるとバレル。

そんなことより、「4月26日は部分月食の日」より「ホンキイトンク・ウィメン・スタイル」の方が、閲覧数・ページビューが多いのは問題だ。
シーモネーターの型番みたいな理由があるのかもしれないけど、スーザンの方が人気だ。ゆかり先生はくもりのせいで、観測できなかったから、かねてから買っておいた家庭用プラネタリウムを動かそうとして半分壊してしまった。(主人公の理数系値が高くないと修理できない)

2013年9月19日 縦組みのときはじょしらくのラノベ

更新情報としては、「Puboo×Paboo2012」の『あり equal』
製作日誌の方を少し加筆した。

『あの花』のレビューを完成するまで非公開にした。ダウンロードデータの入れをしなくちゃならないから、いろいろしなくてはいけない。

「じょしらくのラノベ 弐」をやっと書き終わった。
ピクシブの方でアップしたので、よかったら読んでもらいたい。

内容は、かねてから存在を明かしていた「天狗裁き」である。

「もわほー きもちいいー」を入れようとしたけど、入れられなかった。覆面の方に技(キン肉王家に伝わる秘技)を決められて、『花のズボラ飯』みたいな顔になる人。

そういうのをやりたかったけど、別にもういいじゃないか。

すごく閲覧者数が少ない。『じょしらく』自体が今月最終回を迎えて、なんだかいろいろ投げっぱなしで終わってしまったような気がする。

私も、投げっぱなしで終わろうか。

サイトリンク

勝亭式羅之兵衛「デッド・●・ライブに出てくる天狗裁き」

<http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=2814516>

2013年9月10日 「僕のような危険な男には君たちのようなかわいい女の子達に近寄ってほしくないだよね」

「Puboo×Paboo2012」の更新をした。

他は「メガネびいき」のファンブック電書で、ちょっと足しただけだ。

オリンピックの東京開催については、番組冒頭謝罪みたいなことをしなくちゃならない。

他にもいろいろ、修正や誤認について語ると、まず、寺脇研が寺沢研になっていたのをずっと放置していた。

最近直したけど、これは本当なら寺脇が「寺沢研」に改名すれば、一件落着する話だけだね。

冗談である。

ミリタリー知識がないのも露見していて、ハヤタは「疾風」からきているかもしれない。ジークのスペルはZekeであって、iをaにしているのではなく、eをaに置換している。製作陣に取材したら、実際は違うかもしれない。

「やっぱりそうだったのか」を「やっぱりそうだったのか」と脱字している。これはしょうがないだろう。次の四コマには悪魔将軍がジェロニモに技をかけている例のやつを、パロディにする決めていたからだ。

作者自身が息子に『あらびき団』でネタにされた、おなじみのやつである。

そういえば、『マッスルファイト』をやってみたら、80年代のプロレス技がけっこう『キン肉マン』の中で表現されているようだ。レッグラリアットとかをラーメンマンがする。それならマスク・ド・プーリーはレインメーカーをしないといけないな。

『アイカツ!』のレビューは完成するのが、難しくなっている。

『21エモン』との相対評価だけをすればいいのではなくって、低学年の女子向け筐体市場の話をしないと、ビデオゲームがホームグラウンドの人間としてはまずいことになった。ここの資料が足りない。

一応、『ラブ&ベリー』と女子向けじゃない『アイドルマスター』のアーケード筐体があって、その掛け合わせのように『アイカツ!』のアーケード筐体がある。それで子供たちをよそにゲームの『アイカツ!』ばかりするアイカツおじさんがいる…というところまでは掴んでいる。

ところが、雑誌とかではみかけない話題だ。(スリップストリームができない)

後は同じサンライズ製作の『銀魂』とどのくらいスタッフが被っているのか、調べたくないことも調べないといけない。

近くを通り過ぎたが、



寄らなかった。

女子禁制にしたのは、男性向けだからマリツファの艶姿が…別に本当のことを書かなくていいので、私が「危険な男」だから女子禁制という理由でいいのではないかと、蘭ちゃんが好きなんだけど、私は子役上がりが好きなのだろうか？ 危険な男だ！

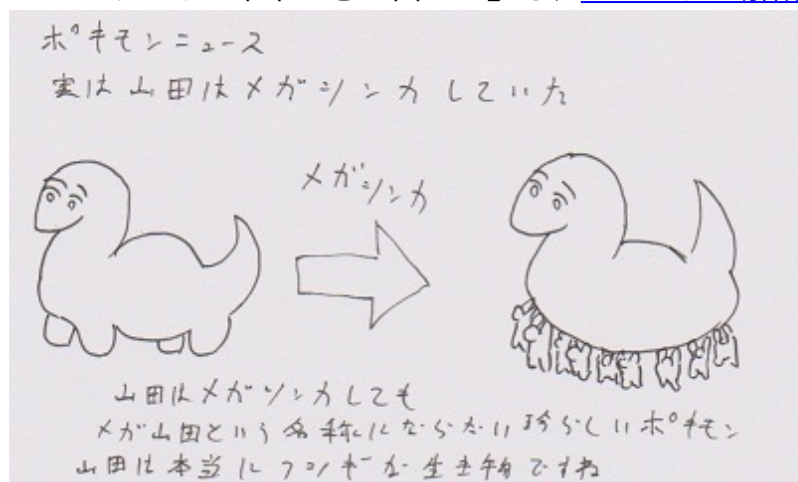
2013年8月29日 あばれん坊天狗と紅天狗

ホームページの「本のセールスマン」をたたんで、窓口電書をまず非公開にして、後でホームページに書いた記事を掲載した有料本をアップすることに決めた。書き下ろしも含めて、bos108ぐらいのボリュームを提供したい。

『石油を浪費するホドの人生か!』を少し修正した。

「Puboo×Paboo2012」の方も、少し修正した。

『ありえない未来の思い出たち』も、[「コトタベ解説編」](#)をなんとか10ページアップした。



メガタイカの間違いでは？

皆さんもご存知の通り、ゲームクリエイター残酷物語が始まった。

そんなものは、読んでもあんまり楽しくないだろう。

そこはブレてはいないんだよね。初めから、残酷物語として描かれるなんて、マンガフィリアの方たちは、わかっていただろう。

そもそも、この二年間でコンシューマの据え置き機の市場が衰退し始めているのを見ると、将来必要とされるゲームクリエイションのスキルが得られるわけではない。あんまり大きな声では言えないけど…今回は言わなくていいか。

早く完成させたいけど、遅れているんだよね。

解説編でいろいろ用意しなくちゃならないものが、まだ出来ていない。

「デッド・●・ライブに出てくる天狗裁き」も、遅れていて出来ていない。

「天狗裁き」の天狗が裁かれる側になる話だけど、それって、モリミーの小説の赤玉先生だよ。

女子学生を拐かしするという、天狗のくせに生意気…ではなく天狗のくせに裁かれる側に回る赤玉先生。（ここで私は裏サイトやファイル共有ソフトを駆使して情報を集めていたと、うそぶいてみるのも悪くない。やったこともないのに「2ちゃんねるで誹謗中傷や暴言を吐いてました」とラノベ作家みたいな真似をするのも、悪くない）

ナイスだね。

この小説こそ、「実際の法律とは違う」とかの但し書きが必要だ。

弁天様がくじらの尾を引っ張るのは、林静一のマンガを思い出した。

そういえば、天狗といえば中島かずきの戯曲『花の紅天狗』がある。

もちろん説明不要だと思うが、『ガラスの仮面』の「紅天女」を性移項したパロディ作品だ。『あまちゃん』で海女さんを演じる木野花が月影先生にあたる人物で、奇病「奔馬性爆心症（ハイテンション・ビックバン）」にかかっているという設定だった。

それで、『ガラスの仮面』をよく読むと、最近スピリチュアルな表現が多く、螺旋の話も出てくる。

「なるほど、これがグレンラガンの起源だったのか」と、一人納得したものだ。

飛空奏者が野田秀樹のセリフをもじったものをどこかで言わせてしまったせいで、そのセリフをもじったものを、彼自身に言わせたくなる。

「人は空を飛ぶために、二足歩行になって助走している。今、助走を終え、人は空を飛ぶ！」と、空色の絨毯爆撃をサイレント・エフェクトして、飛行する。それも、ワオンちゃんをおんぶしながら楽器を演奏して飛ぶ。（空鳴楽器だから）

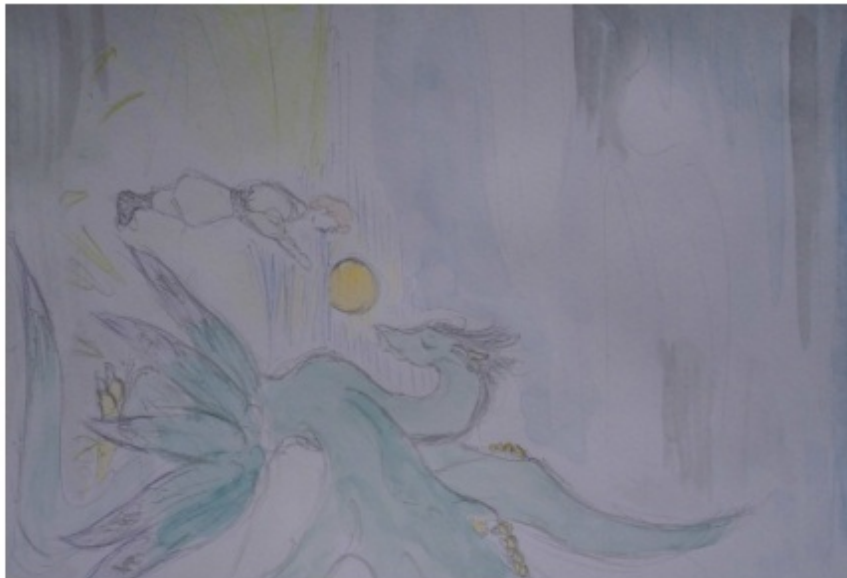
それで、「エキサイ天狗」とか、言ってみたり。

う～ん。

どうやってシューティングゲームを通すかという、「ゲーム」をしていたことになるが、別にもう終わった話である。「君がプレイしてきた全てのシューティングゲームの続編」は、ありえない未来の思い出になってしまったのだ。

「この間さ、度が進んじゃったから、メガネのレンズだけを換えに眼鏡屋に行ったんだけど」
「そんなことできるんだ」

これでは最近の
おふざけ画像アップと
同じでは？



吾郎監督が描いた絵を
自分の竜にすりかえて
作画（興業成績百億）

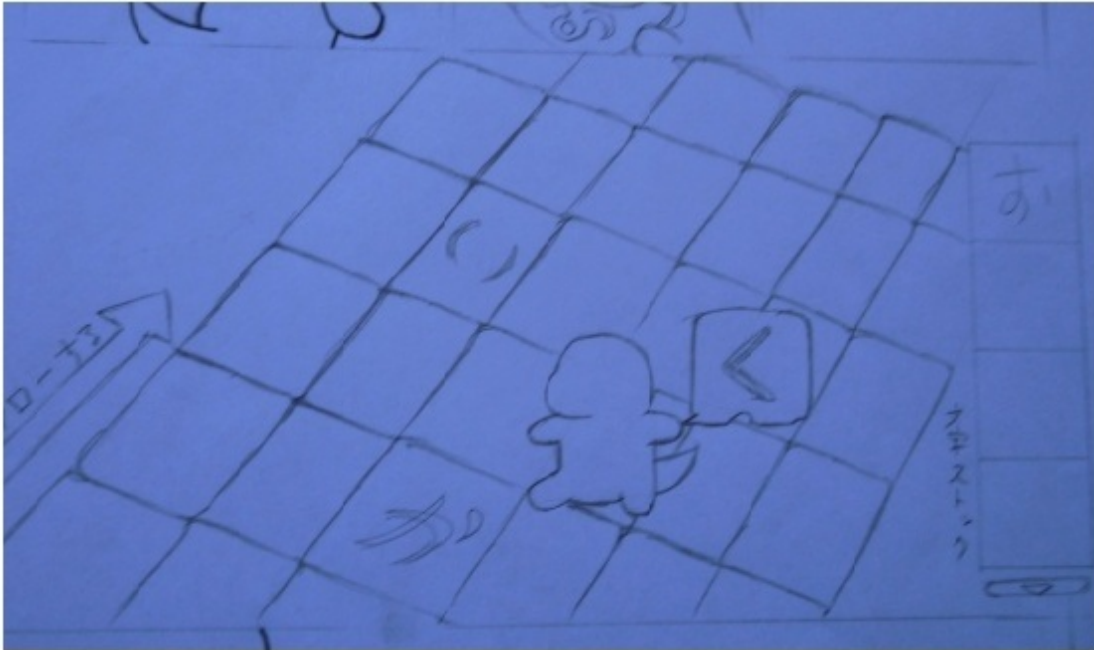
2013年8月22日 よっこいしょ～りゅ～け～ん

今回は更新情報はない。
更新していない。

「ゲーム帝国」なら、「いつもいつも更新があると思うな！ 若人よ」と語り部に叱られるだろう。

この更新情報記事はなんなのかという、「ちゃんと『あり思』の作画をしていますよ」ということをアナウンスするためにある。（遊びの四分類の話、やだなあ。井上明人さんが読んだら、がっかりされるだろうなあ）

解説編1頁目の原稿



何もしていないと思われたいために
「現在公開可能な資料」
（『進撃の巨人』をバカにしている）

今週号かな、『ダイヤのペース』で本塁突入しているけど、今のアマチュア野球規則では、本塁突入で体当たりすると無条件でアウトになる。怪我しないように、ラフプレー防止のために取り入れられたが、甲子園ではタイムリーが出そうなところでは三塁回った後に、コーチャーが止める。マンガだから、そこは別にいいか。

こんなことは『ジョジョ』の粗探しをすることより面白くもないし、最近『21エモン』と『エスパー魔美』をレンタルしてきて、観ているけど、面白いね。

面白いよ。

原監督にテレビシリーズのアニメをもう二三度やってほしい。

藤子作品の予見性も出ていて、ハッピー星はどう考えても、北朝鮮のような国としか思えない（表現の自由）。

マジカル星は町工場で高品質の部品が作られて、アップルやサムソンに買い叩かれている日本の現状のようで、見ていて辛くなる。

寒暖切り換えスイッチで星ごと氷河期になるのは、地球が一度、全球凍結したらしいという説が出てくる前に、藤子不二雄が描いていたとしたら、すごいね。（科学雑誌とかで昔から唱えられていた説かもしれない）

どうも、シンエイ動画は東映アニメーションから光の演出、光学的撮影技法をのれん分けの際に「タレ」としてわけてもらっていたようだ。

『21エモン』にも記者になった『魔美』にも、そうした光の具合を調整して撮影した映像がある。

映画『2001年宇宙の旅』のスリットスキャンの十分の一のスケールだと思われるが、『21エモン』のオープニングには、そういうのをやっている。チャプターから映像にジャンプして、魔

美ちゃんがテレポートするときの背後に、どうやって輝かせているか、謎の光の撮影法が使われている。

予防線を張ると、取材して聞いてみたら、違うかもしれない。

赤備えのヴァルキリー レッド・ヴァルキリー

ジャポニズムの
シェイクスピアである
蜷川シェイクスピアが
上流に流れているから

真田の赤備えだけど
三途の渡し賃である
六文銭とヴァルキリーは
通じるものがあるのかも



サイトウのおばちゃんに
見た目がそっくりで
エスパー魔美の
よこざわけい子さんが
いいなあ

三魔女の一人が装備
として渡してくれる
赤の能力値が上がる

「なんだか、バブルが終わった感じが。今年の前半はバブルだった」

「ひみちゅけど？」

2013年8月13日 アップルの衰退無くして、日本の製造業の復活無し

「本のセールスマン窓口電書」のダウンロードデータを更新。

「Puboo x Paboo2012」の表紙が新しいのに差し替えられているから、ダウンロードデータも更新されている。

ただ、ダウンロードデータを作成するのは、意味が無いということを最近知った。それはまあいい。手間が省けるだけだから。

ともかく、後は微調整を繰り返して、更新を終わりたい。

名無しのムーア人が、『シャイニング・フォースII』の仲間にしたオッドラーが後でオッドアイとして戦うみたいにできればいいけど、あちらさんの方が許してくれるかなあ。（注・秋波を送っている）

それはともかく、「社長が訊く」のパロディでカットした話に、ラフォリアンハウンド（ダイジロウの犬種名）の生まれてきた赤ちゃんにトニクさんが口付けして、それをワヨンちゃんも真似して犬にチュウするってエピソードの話、「生まれて来たことにおめでとう」をするんだって話している途中で、それで私が泣き出すわけだ。（「おめでとう」は三魔女がマクベスに言う言葉だから繋がりがあがる）

そこでいわっちはもちろん、あの性格だから「泣いてんじゃねえよ！」と設楽統のように、「それ、演技だよねえ？ くっせえな」とラジオでリスナーに天才と呼ばせている設楽統のようなことを言わせて、社長を貶めることをしようとしたけど、やめた。（岡田さんの『スマートノ

ート』の通りにしていれば、設楽のような天才になれる！)

社長を貶めたくて、やっているのではなく、本来はビデオゲームとしてリリースされるはずのモノが、私の才能がいたらなかったことで、リリースできなかったから、「続きはWebで」みたいに「それならパロディで」ということになった4コマの企画だから、マジコンヌ帝国がどういう風に面白いジョークなのかを知るためには、こちらの下記アドレスのサイトにアクセスしてもらおうと、わかる。

任天堂プレスリリース

<http://www.nintendo.co.jp/corporate/release/2013/130709.html>

マジコンヌ様らしいけど、マジコンヌでいかせてもらった。

このジョークも、ゲーム業界から距離を置いているからできる。どのくらい距離を置いているかは、雑誌「ゲームラボ」とゲーム業界の間くらいである。

私のようなものになると、表立っていえないが、マジコンでソースコードを抜いて、プログラム内容を解析し、プログラマーの癖や強みを見つけ出しているなんてことを陰でしている、かもしれない。(2012年の段階ではもう秋葉原でマジコンは買えない)

理数系には弱いんだけどね。得意科目は「無し」だから。文系とも言えない。ラノベ作家としてプロデビューできていたら、「私は文系だ」と言えたが。

今年はギャグ強化年として、いろいろしてきたけど、四コマを読んで多分、夏目さんのご息子が「オレ、『ボボボーボ・ボボーボボ』がわからない」と言ったみたいに、「この四コマわからない」という方が多いと思う。

それは、仕方ないよね。

「社長が訊く」のパロディは、そもそも「にんしん」以外に「社長が訊く」を見ない(実際に任天堂の社長の前で「オレはマジコンを作っている国から来た」とは言えない)し、『ガールズ&パンツァー』を観ていることが前提条件のギャグをやりすぎている。

日本の部品工場がアップルに押さえられているようなものだ。

利益があがるか、あがらないかのギリギリの契約を結ばされるという、「奴隷契約」に似たものだから、日本には「奴隷工場」が実際存在していたんだね。

「ゆ、ゆかり先生で…ゴニョゴニョ」
「女子の前で、そんなこと言うなあ!」

2013年8月7日 「山田栄子さんは生きています。知っていましたか？」

『The man of the overlooking』の第三部を公開されているはず。

マリツファ幼少期の前半部は、ピクシブの方でアップされているので、そちらをご覧になればよい。

ただ、読まれるとね。

「アレでしょ。『初恋がきた道』でしょう。あの葬式のやり方」

と、思われるかもしれないが、本当にそうなので、仕方ない。

何が言いたいかというと、チャン・イーモウ監督はあんな純愛映画を撮っているのに、愛人にも子供がいるという「ワイ、監督イイナア」である。

見習わなくちゃ。

『俺の彼女と幼馴染が修羅場すぎる』の登場によって地位が確定した『ジョジョの奇妙な冒険』の話を、「粗探しは楽しむ遊び」ではしているけど、はやく完成させないとネタをたくさん放り込んで、收拾がつかなくなりそうだ。

どこかで書いていることを二重にやるのも損だと思うし、テキトーなことを書けば、『ジョジョ』はジャンプマンガの影響下で『キン肉マン』の「火事場のクソ力」を元にスタンドをデザインしたんじゃないか？ とか書けるけど、それはもう誰かが書いているだろう。

私が知らないだけで。

仮に無かったとしたら、このレビューは他の誰かがやるべき。

たとえば、スタンドは昔はワンハード・ワンソフトのデジタルガジェット（ゲーム・アンド・ウォッチや電子手帳・電子辞書、iPod）だったのが、ホワイトスネイクでスマートフォンのiPhoneのようなアプリ・ダウンロード型になったんだよ。

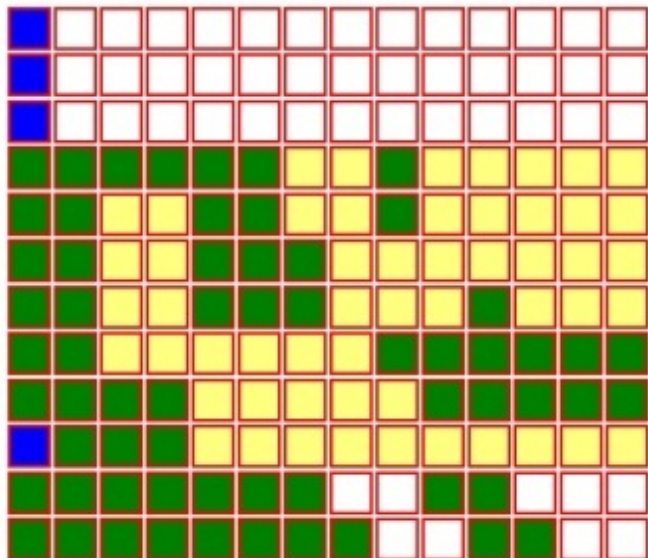
詳しく説明しなくても、なんとなくわかるはずだ。

だけど、新城カズマさんがトールキンとダーガーの類似性を指摘していたのを知らないで文芸批評を書いてしまったことがあったから、今度は同じような目にあわないように、触れる程度にすませようと思う。

もしかしたら、トールキンとダーガーが日本近代文学の鴉外・漱石のような存在かもしれない。

そうだ、忘れるところだった。

マリツファは、アン・シャーリーと同じ声にしたいくて山田栄子さんとか、テキトーに書いてしまったが、山田栄さんは今でも現役で『ポルフィの長い旅』に出ているぞ。



ファミコン30周年記念に
Pixivにアップ予定のつもりが
資料をちゃんと集めて
作らなかったの
で何か中途半端になったルイージ

作り直し

2013年7月24日 インテリ源ちゃんの夏休みはsiriとデート

「ばふばふFREE」を非公開。

『The man of the overlooking』の第二部が、なぜか今、公開されているはず。

林先生が、いいともでふられた「家で落ち着くところは？」に、今と居間をかけているから、おなじみのフレーズを言うかと思ったら、「台所」と答えてディレクターに叱られたことから、今である。（バラエティーを学習していないから、わからないのだ）

ゲームレビューは難しい。

そのため、少量生産になってしまう。

アニメの方は、著作権法にさえ気をつければ、たいしたことがないが、『あの花』のほぼ全国ネット放送は山本プロデューサーからの「レビューを早く書け」という催促なのか？ ……映画公開に合わせたものだよ。（あんなレビューを本人が読んでるはずがない）

お金を払ってくれば、催促には応じるけど、お金を払ってもいない人間には、誤字脱字の間違いを指摘されたから修正するぐらいしか、やらないけどね。

『化物語』のセカンドシーズンは、どうも御法川が『沈黙の艦隊』の「深度ゼロ」の回のように「爆圧で飛行」した『428』の影響があるようだ。（こういうネタを書いても、一万人ぐらいしかわからないだろう）

講談社BOXでノベライズが出て、もしかしたら献本か何かあったかもしれない。

それならジロさんが監督でザッピング系のサウンドノベルを作れば、売れるんじゃないか。ゲームシステムそのまま、「家が火事で燃えてる…」というところでキープアウト（実際テレビアニメでもCM入りしている）して、誰かの話を進めているときに「あその方角は羽川邸では？」とジャンプして話を進められようにすれば、原作通りに作れるのでは？（あとで観返してみたら「CM入りしていませんでした！」ということで大人は嘘をつき、間違う）

後半で話がシリアスになってくると、柳下みたいなコメディリリースする人が出てこなくなる。

「あなたたちに足りないのは…」

これ以上はよそう。

足りないものは、本人が一番よく知っているだろうし、美少女コンテンツユーザーが泣いて喜ぶようなキャラクターを出せばいいのではないかな？（足りないものを持っているだろう）

講談社BOXのシリーズを揃えると、ゲームソフト一本分くらいの値段になるから、コストパフォーマンスはあるね。

こういうグランドホテル方式は、シナリオディレクターの腕が試される。

スパイク・チュンソフトは、集英社か小学館などと仕事をして、しがらみがないなら、可能性はあるけど、難しいだろうね。いろいろと。

（トレジャーがデベロッパーなら、オチに使われる）

おもいきり横道にそれたが、話を戻そう。

究極のイライザは、すでにアップルのsiriに取って代わっている。

大竹まこと経由の話によると、高橋源一郎は「siriさえあればカノジョはいらない」と言っていたそうなの。

つまり、国民的ガールフレンドは、もういない。

それから「はるかなる西方」を読めば、『パルテナの鏡』の新作と「東方」シリーズをプレイしたことがない人が書いていると、わかる。

誰でも気づくことだから、「いつものアレ、してるな」と、したり顔で言われるのである。

ゲームレビューは、難しい。なかなか完成しないし、労力がかかる。

「フロー理論のゲーム化」は、表も作らないといけないし、当分できないのではないかな。

『Free』はあまちゃん先生がどうもグラビアアイドルが何かしていて、「けしからん」身体つきをしているのか、スライム乳なのか……「見たこともない景色」を早く見せてくれ！

松岡お江さまは競泳水着がよく似合いそうな体型で、彼女が見たものを映すショットによってクレショフ効果で筋肉がいいものに見える映像演出をしている。小さい女の子が見たら道を間違えそうだから、親御さんは見せないようにしてほしい。

スライム乳とは「胸板にまるでドラクエのスライムが乗っているかのような形の乳房」である。

2013年7月13日 ボロキレっが飛んで火事

「本のセールスマン窓口電書」のdos70までをアップした。

本書の表紙も、ワヨンちゃんが何故かセーラームーンの服を着たものに、摺りかえられている。

ジロさんがシェイクスピアのゲームを作りたいと言っているらしいから、別に私がわざわざ作らなくてもいい。

楽ができるって、いいなあ。

グローブ座が燃えちゃった話とか、ジロさんの方が詳しく知っているだろう。みんな知ってると思うが、当時のイギリス演劇はリアル志向だから音響でホンモノの大砲の音を出そうとしたんだ。

「我が軍の大筒が、大気を劈く轟音を響かせたとき、女神から勝利が送られるであろう。さあ、天界にお待ちしているお方に伝令を放て！」

ドーン！ みたいな演出をしようとするために、火薬に火のついたボロキレを大砲の中に入れて、空砲を響かせる……はずだった。

これがグローブ座の屋根裏で火のついたボロキレを入れたもんだから、火薬に火をつけるも、燃えきっていないボロキレが爆風で飛んで、骨組みが木製の屋根だったのだろう。燃えてしまった。

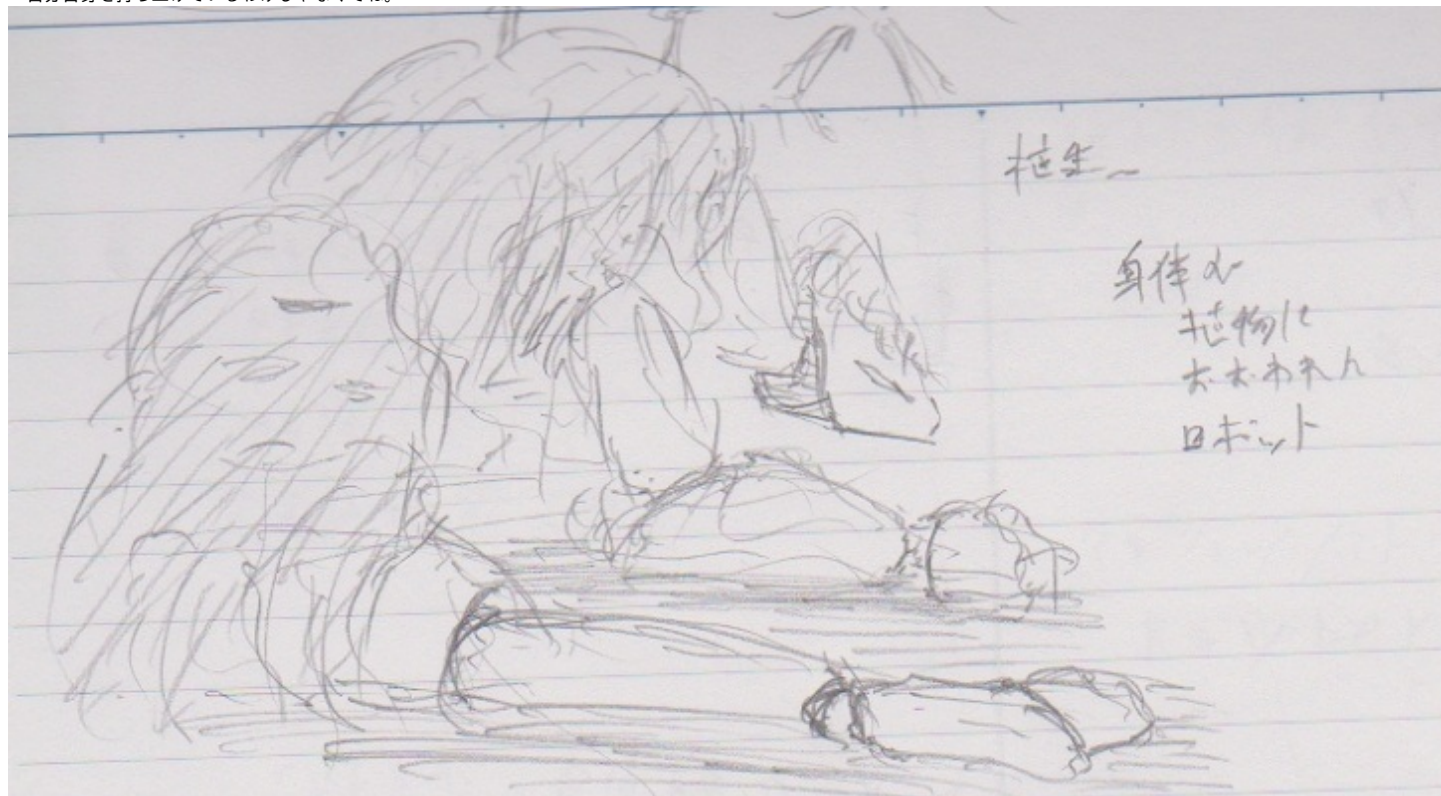
グローブ座は火事で焼失して、どうなったんだろう。

『七人のシェイクスピア』とかだったら、陰謀で燃やされたとかなんだろう。

そういえば、痩せるドリンク、ネコ（の着ぐるみ）がバーニングハンマーを持ち出して、火事

を起こす話があったけど、ジロさんが作るなら、ザッピングで誰かがボロキレと何かを交換して、ことなきをえるのだろうね。（このように、ひとつひとつ、ザッピングのネタになるようなものを、潰していくべきなのだろうか）

『ニセコイ』の作者の前の作品って、タイム諒介の『アベックパンチ』だよなあ。『ダブルアーツ』って、『アベックパンチ』だよ。こう見ると、『アベックパンチ』はジャンプ作家にも影響を与える、名作だったんだね。
自分自身を持ち上げているわけじゃなくてね。



2013年7月4日 アサヒ芸能

「Puboo×Paboo2011」を少し修正して、音楽リンクに追加をした。なんで今まで、「ジャンピング・ジャック・フラッシュ」のリンクが無かったんだ、という話だ。

この「Puboo×Paboo」2013年版は、二三日前からダウンロードデータは作っていた。

ネタにしようか、どこか他のところでやろうかとも思った、雑誌「アサヒ芸能」の話題があるのだが、いいのだろうか。

「アサヒ芸能」の連載マンガは中年男性の欲望に従っている。

『めしばな刑事タチバナ』のめし。

『テレクラのひみつ』を描いた成田アキラのマンガは、おんな。

なぜか複数ある『ナニ金』の続編のひとつが、かね。

めし、おんな、かね。

これが満たされれば、中年男性は文句が無いという、ここまでユーザーニーズに合わせることは普通できない。

同じ出版社のマンガ雑誌「コミックリュウ」の到達点として安彦良和のマンガがあるとすれば

、「アサヒ芸能」は安野モヨ子の叔父さん小島功のマンガが到達点だ。(「コミックゼノン」なら原哲夫が到達点…ヤだな)

私も小島さんのマンガを目指そう。

マンガ家じゃないけど。

まあ、雑誌で『めしばな』を追っている人はあまりいないと思うが、駄菓子の話で、よっちゃんイカ、イカソーメン、タラタラしてんじゃねえなどの連続口撃を立ち読みしていて、格闘家の素早いコンビネーションを食らったみたいに、その場に膝を着いた。

駄菓子、買って帰ろう。

そう思った。

テレビドラマになった『めしばな刑事タチバナ』は、アニメなら新房監督にやってほしい。

順当なら、キャリア的に『美味しんぼ』の出崎統門下の人だろうけど、チャルメラのみを食べる話を聞くと、袋麺の話は新房監督しかできないだろう。(閲覧者・読者を置いてきぼりにしている。こんな小さい文字を読むような暇している人間には不親切であるべきだ。杜王町の人みたいに)

実際に私も、新房監督が食するというチャルメラの袋にあるだけの食材でラーメンを作ってみた。

「これはソバだ」

新房監督はソバ好きだから、チャルメラだけのラーメンは、ソバを食うようなものだ。それなら、

ガリガリ君梨味=梨

を演出するのは、新房監督しかない。

味のみならず、高い製氷技術で食感が梨そのものの、ガリガリ君梨味を語ることが許された人は新房監督だけだ。

問題はアニメの場合はパチンコメーカーがスポンサーにならないといけないが、そのパチンコ批判をしているアニメを作った人だから、人選上新房監督がオファーされることは限りなくゼロに近い。

テレビドラマなら、視聴者の中年男性に自動車のコマーシャルを見せて認知度を上げるという効果を期待して、広告を出してくれるかもしれない。あるいは新製品の家電とかね。

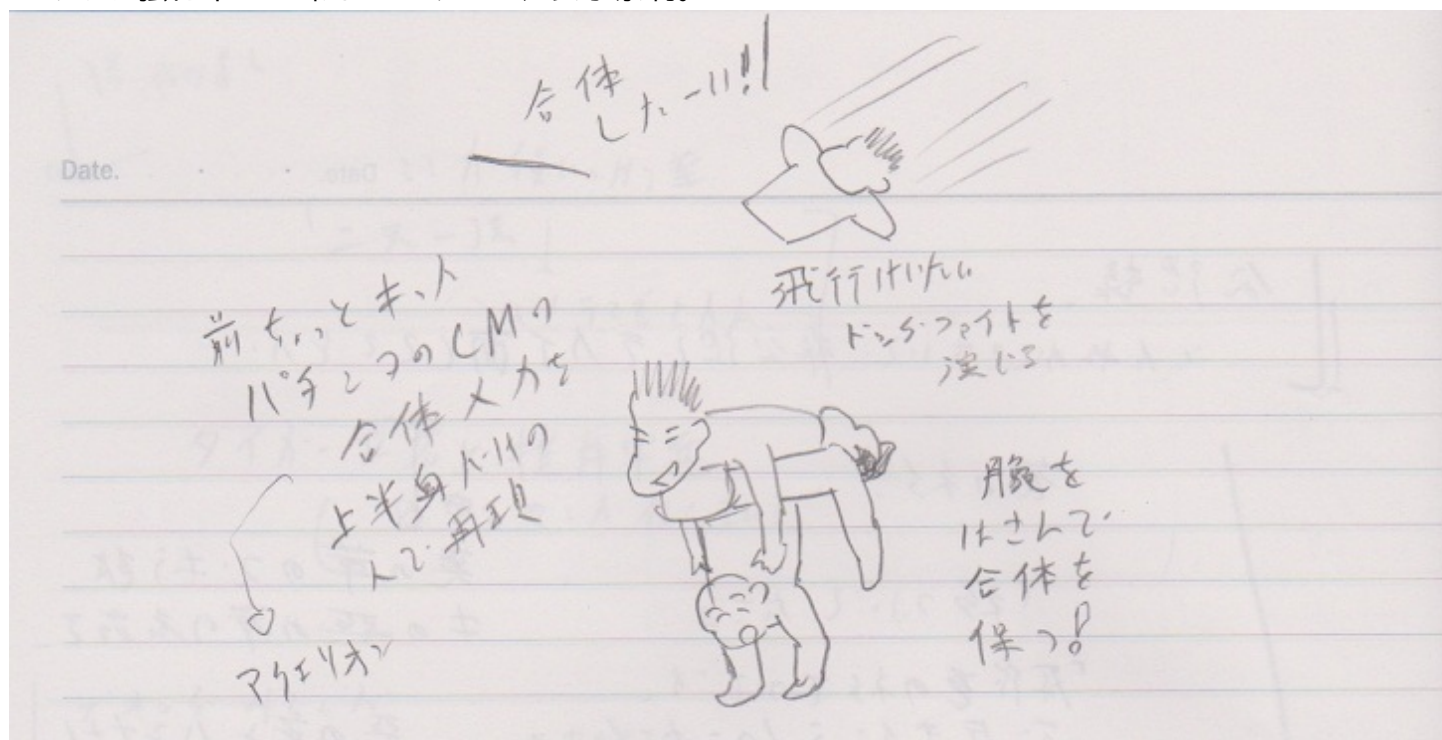
しかし、アニメーションだと、それが難しい。

昔の『おじまんが山田くん』や『がんばれタブチくん』の時代だったら、よかったんだけど、今のスポンサーの感覚では、パチンコパチスロの会社、ケータイのソシャゲを運営できるプラットフォームホルダーしか、お金を払ってくれないだろう。

『めしばなパチスロ』、作ればいいじゃないか。「アサヒ芸能」の読者層と被るんだから。メスの河童がセクシーな「CR小島功」。

はしゃぎすぎて、いきおいあまっているから、後で修正することになると思う。

ギャグ強化年の一環なんだけどね、女子禁制。



2013年6月29日 物語編二年間の執筆終了

『ありえない未来の思い出たち』には、「コトタベ」の物語編の終わりがアップされているので、二ヶ月くらい休む。

「本のセールスマン 窓口電書」は、英文訳の原文がアップされているはず。

昨日、ホタルを見た。

3DSのゲームコインを稼ぐために歩数を…夜涼みに外に出て、たんぼのあるところまで行ったら、ホタルを見た。

夜、撮影するのは露光時間をかけなくちゃならないから、難しいので内蔵カメラで撮影はしなかったが、ホタルが見れてよかった。

それから、二年もかけちゃ、ダメだろ。

ケモノはピンクという記述があるから、カラーマンガを描いてピンクを表現しようとしたのが、初期計画の誤りであった。（148ページもカラーで描くと、そのくらいの時間がかかると計算できなかった）

雑誌の巻頭カラーやセンターカラー、映画でいえばパートカラーみたいにすればよかったのだ。

ただ、モノクロマンガみたいにすると、シルエットが重要になって、ケモノの頭だけシルエットはスヌーピー頭の形に似ているように描いているとか、あるんだけどさ、打ち切りみたいな終わり方をしている。

脚本（という体の小説で前述の記述がある）と補完関係にあるって、前に書いたけど、それはたとえばとして、シータは回想シーンで子羊か子山羊が死んだから、おばあちゃんに泣きついていたわけだ。映画の『ラピュタ』ではそのことは触れていないけど、小説版だとちゃんと地の文が何かで説明されているらしい。

同じことできないかなあって、ちょっとやってみたんだよね。

「ぱふぱふ」の発行や、女子禁制ギャグを入れたら、私の読者登録を止めた人がいる。（わかりやすいなあ）

何か、知らないうちに、勘違いを私はさせていたらしい。

平沢唯のTシャツに「ゲームラボ」とか書いたり、ホトちゃんの絵心の無いペンギンの模写を描く、こんな二つの画像をアップする人間に、いったいどんな幻想を抱いていたのだろう。

そもそも女子禁制って、ネタ枯れしているから、ネタを増やす仕込みなのに、それを真に受けているのだろうか？

他人の勝手なイメージに振り回されるのは、もうこりごりだ。

バラといえば



三島由紀夫を
細江英公
が撮った
「薔薇刑」
素薔薇しい

2013年6月20日 今後の展開

今日は更新情報多目。

「抜群の構成力 『20世紀少年』 浦沢直樹」を微妙に調整して、読みやすくなっているはず。
「はるかなる“西方”」を少し、問題のあるところを削除した。

「メビウスリング・ザ・オリジン」も修正。スカイバードをロフトバードに替えたただけなの
けどね。

「ぱふぱふFREE」を再公開。

「本のセールスマン 窓口電書」も、更新。

ケモノが年老いているのを表現するためにくすんだ色を出したかったから、いつものピンクに
コチニールという昆虫染料を水で溶いたものを使った。『完璧な赤』で語られた染料だが、なぜ
か家にあるのである。他にも染料としての銅などがある。（まあ、商品には手を出さない。豚
肉触った手で売り物を扱ったんだから）

コチニールというのは、実は『シェイクスピア・ロマン』でも、赤い服を着ている人の、赤い
服はコチニールで染めたものである………いらぬ、裏設定だろう。

Bcksの方では、iBooks Storeに配信可能だから、そちらを通して『ありえない未来の思い出
たち』を無料配信できるかもしれない。

場合によっては、『あり思』をブックログのパーから引き上げることも、ありえる。

ブックログさんには、なんにも恩義も情も義理もないから、別にねえ、私一人が引き上げても、
影響はないだろうしね。

う～ん。

ブックログのパーさんが無料でiBooks Storeに配信してくれるなら、パーに落ち着くのも、や
ぶさかではないが、有料会員のみなら、作家は離れていくだろう。

どうなるか、わからない。私も指針めいたものをここで書くか、少しためらいがある。何か確証のようなもの、「これをするべきだ」ということが、思いつけばいいのだが、今はまだない。とりあえず、すぐ動けるように待機している。

「なんか、メガネの上にメガネかけてるけど？」

「重複しているってことじゃないか」

「メガネかけた女の子が胸が大きいとたまらない」

「何、急に欲望に忠実なことを言っているだ」



Architecture Product Systemは
なのはワールドを
リスペクトしています
(こう書けば叱られないだろう)

敵に捕まっても
はずかしめを
受けるフェイト

2013年6月15日 小さい文字のひみちゅ

「本のセールスマン窓口電書」を更新、後ろの裏表紙の画像を差し替えした。

「はるかなる“西方”」もいろいろ修正した。

「Puboo × Paboo2012」も少し画像を足した。

今は「コトタベ」の最終局面を描いているけど、カラー月8ページは楽でいい。ネームを全部切っているから、頭を悩ますことも無い。

あすなひろしのマンガみたいに、製版で縮小原稿をデジタル合成とか、マンガ家っぽいことができて、楽しい。

でも、「社長が訊く」のパロディでも、触れてるんだけど、事実のものすごい残酷。

「こんな結末、誰も望んでいない」

ケモノが子供に抱きしめられながら、デレク・ハートフィールドの最終詩を口承通りに口にする…ワヨンちゃんも、トニクさんに抱かれながら、お母さんを「生まれてから一番泣かせる」

。映画のナウシカとマンガのナウシカは違うように、「トニクのダブルハーブ」でも書いたけど、オーマをナウシカが「私はこの子の死を願っている」と心中思っていたようなもの。

それから、「メビウスリング・ザ・オリジン」で書いたように、秘石も命の水も同じ。

『ARZACH』を読むと、それはわかる。(……宣伝)

カイエ・ソバージュでは、秘石が燕石で、命の水がアムリタやソーマといわれる、シャーマンがベニテングダケを食らって…女子禁制でも言えないことがあるよね。

チェーンソーと女の子

パイを焼くのが趣味のジェシカちゃん

焼きあがった丸パイを
チェーンソーで切るんだね

う～ん、やっぱり、
かわいい女の子は
お金を払って誰かに
描いてもらった方がいい。



「さしこがメガネをかけさせられたらしいよ」

「それ、どういうこと？ どういうこと？」

「ヤレヤレ。そうなんだよ」

2013年6月10日 東京大仏はどこにあるんだ

『はるかなる“西方”』は、奥付に少しテキストを足し、奥付と裏表紙の順序をなおした。

『メビウスリング・ザ・オリジン』はタイトルを差し替えた。よく見たら、スペルを間違えていた。こんなキー入力の「n」と「m」を打ち間違える凡ミスは、うっかりしていたとは、思わなかった。

とくに、最近は何にかあったということはないが、『悪の華』は21世紀の『月光のささやき』ではないか。マンガ読みならわかるはずだが、もうちょっと時間があれば、こうした話をしたい。なにか書けたと思う。

いろいろとやることが多いので、なかなかできないが、『ダ・ヴィンチ』の宇野さんの連載読んだら、「アスノ家が血統的な平氏で、イナズマイレヴンが仲間の絆の源氏では？」と思った。

他にも、『女神転生』は東京大仏みたいな地元の人しか知らないようなマイナーな地名が出てくる。

そんな話は、今月はできないはず。

ウェブマガジンを読めばいいじゃないか。

多根さんのウェブマガジンとかに、私よりも質の高いものが書いてあるよ。

もう一回書くけど、アニメに愛はない。

評論家がアイドル（商業的なモノ）を批評対象とすると、かなり鉾脈があるようなものであって、圧倒的なカリスマ性を持つ教祖亡き後に教団を率いる弟子たちみたいなものが、今のグループアイドルでは？ などと語るのが面白いわけであって、その教団（宗教的にしろ商業的にしろ）にたいして愛があるかという、無い。

愛の無い批評って、問題があるんだけどね。

「校長が怪我したって、らしいんだけどさ、みんな『おちんちんの骨を折った』って、噂しているんだけど、ホント？」
「そんな教育者は、存在しない！」



パナップを逆さにするな

そうか、
スーザンは抹茶黒蜜味
(朝露のような
透明なミルク付)
をなめたのか

2013年6月3日の更新情報

やっと出来たよ。

シューティングームの話である『はるかなる“西方”』が。

ぱふぱふの2011の方に・・・パブパブの2011の方に予定に書いていたのに、なかなかできなかった難物だ。(リンクを貼ってこなくちゃ)

バンドデシネレビュー『メビウスリング・ザ・オリジン』もアップできた。本書にある批評の方の「メビウスリンク」とは「リング」が違う。(リンクを貼ってこなくちゃ)

七月になれば、やっとダウンロードデータを作れる。

『俯瞰の男』も、もう終わりだ。

正直、たいして閲覧数も稼げなかったし、こんなものだろう。

最近書いている日記には、グチばかり書いている。

こんなことではいけない！

もっと、こう、何かグッと来るやつを書きたいが、だいたい時間が取れないので、できない。

最近、ちょっと誤字脱字が多めで、それはもともと、紙とインクがもったいないから原稿をプリントアウトしたモノを読んで校正や調べることがないからだ(貧乏)。

この間も、『「紙」の結晶』と『絹と立方体』の名前を誤っていたのが判明した。でも、同人誌だと百部ぐらいしか刷ってないから、影響はそもそもないのでは？

『絹と立方体』を手に入れようと思って、まんだらけみたいなのところに行っても、手に入らないだろう。『仮面ライダー・クウガ』に出てきた文字とか、書いてあるはずだけどね。

2013年5月30日 うっかり忘れておりました

今月の「コトタベ」をアップ。来月にズレこまないで、本当によかった。あと一回で物語編は終了。早く、解説編といきたいが、2ヶ月ぐらい構成や計画を練るために休むはず。この間に逆転現象をネタにした「デッド・●・ライブに出てくる天狗裁き」を書けるはず。

「本のセールスマン 窓口電書」をbos50までアップ。

「Puboo × Paboo2012」にも、画像を足し、「キン骨マン 江頭2：50」という文字修正はしていないか。

アニメレビューの『魔法少女まどか☆マギカ』の脱字と誤字を少し直した。ノルシュテインの人名に誤りがあると、三オブックスの『超読解』の悪口を言えない。

ノルシュテインで思い出した。

今回は、撮影工程が「アニメで本当に撮影している人」みたいに大変だった。

コトタベ136頁から139頁のやつ。（計算すると、数が合わないが、「She Son's Voice」を後で足す）

これは、アニメーションの技法を転用しているのではなく、ゲームのウィンドウとスプライトを表示させる方法をちゃんとマンガで再現しようという試みだけど、誰もやらない。

左上がウィンドウにあたり



右下のキャラクターがスプライト

中央が背景三枚で小林七郎さんの百分の一ぐらい劣化したもの
ユーリ・ノルシュテインの『外套』のちょっとマネかもしれないが、やってみたら、
「こんな手法でアニメを作ったら、一生『外套』なんて完成しないよ」と、思った。

ただ、ここらへんは脚本の方を読まないで、何が起きているのかわからないし、熊が出てきていることに気づいて、思わず口に含んだ牛乳をふいてしまうことがない。

そもそも、紙資源的にも12頁を17枚のスケッチブック紙を消費して、
「石油を浪費するホドのことか？」

と、思う。

現代社会で紙を使うということは、化石エネルギーを使っているのだから、紙は実は貴重な。全て人力で紙をすいて作ったら、一枚千円ぐらいになる。

それで、石油を使って大量生産すると、銭の世界で一枚を買えたりする。B5のコピー用紙が200円ぐらいで500枚だと、1円以下だ。

そういえば、『The man of the overlooking』は縦組みを作るという予定だったけど、作ってなかった。

EPUBデータで読めば、三点リーダもおじぎしないから、閲覧はそちらを推奨するという、キャッシュも加えていないと思われる。

うっかりしていた。

弁明をしなければ。

「私が書いた小説は、ほぼ必ず私が書いたものであることが、わかる。よく読んでご覧よ」

みそ先生の『銭』を読んでいたの、アベノミクスの円安誘導がアニメの動画賞金の高騰を招いて、海外に発注しているアニメ製作が崩壊するのは、去年から実は知っていたけど、今まで黙っていた。

夏から秋にかけて、国産力の高いところか、リミテッドアニメーションが強いところは生き残る。あとはネットの住民に「作画崩壊」とか言われて、叩かれる。

2013年5月22日 永沢君がアリなら、ラブラブROUTE 21もアリだろう

「Puboo × Paboo2012」で「アニメの感想文」の“味読”を“未読”に直した。こんな凡ミスを去年の八月からずっと放置していたのか。もっと味わい深い、ミスはなかったのか。たとえば、犯人をヤスと決め付けて、レビューを書き上げてしまうとか。

…ヤスのところに、違うキャラクター名を代入しないといけないのだけど、それはちょっと、できない。はからずもミスリードしたことが、意味を無くす。

劇団ひとりこと川島さんが、永沢君を演じているじゃない。

たぶん、深夜娯楽番組「ゴットタン」の「マジ歌選手権」で特殊メイクで火男（ひょっとこ）になったり、マーメイド柴田さんになったりしているのを、キャスティングの人に評価されたのだろうか？ 視聴率1パーセントなのに、業界の影響は1パーセントどころじゃないということだ。

永沢君を実写ドラマにできるなら、『ラブラブROUTE 21』も劇場映画にしてほしい。

全身白塗りの豊原功輔が「あんな女捨てちまえ！」といいながら、「悪者だから」という理由で子供にビンタする。大森南朋演じるひさしは、無表情のまま、やはり子供にビンタする。

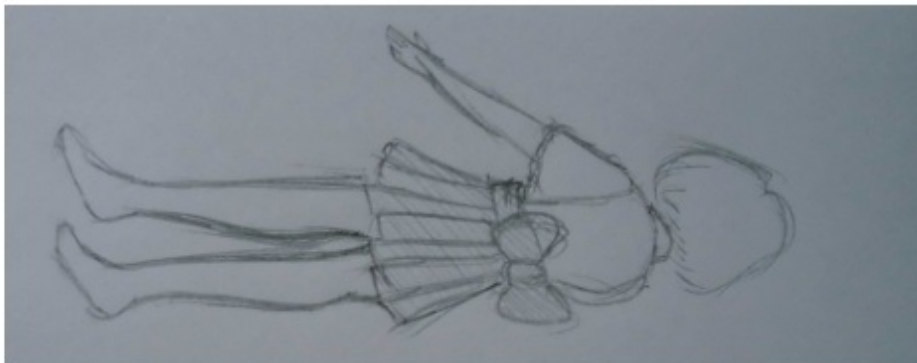
『稲中卓球部』も、サンチェをバナナマン日村が演じて、「い〜ざ〜わ〜」とか言わせて、志村けんのマネの「東村山音頭」を踊らせる。ついでに一人二役でデルモも演じさせ、中身は「ヒム子」で演技指導無し。

最後は、栗山千明によく思われたいから、『けいおん！』の山中さわ子先生を、私の憧れのマ

ドンナであるさわちゃん先生を彼女に演じてほしい。山田真哉の見解とはちがって、私はちゃんとした女優さんをキャスティングできれば、実写版『けいおん!』は大丈夫だと思う。生けるアナ・ド・ノアイユに眼鏡をかけるとさわ子先生になるんだという、衝撃を観客に味あわせたい。

でも、目伏せのクラウザーさんは、松山ケンイチに…

『テルマエ・ロマエ』の映画化権が百万円らしいから、資金的にも可能だと思うけど。



ワランちゃんが聖衣剥奪されるシーンね
「ぶらぶら美術・博物館」で
ピーター・ラビットが聖衣剥奪されたのやっていたから
同じイベント入れなくちゃと急造した

告死天使は、『さようなら、ギャングたち』の美しいギャングで、ソング・ブックを奪いに来るような。チビのギャングが新さんで、太ったギャングは、角ちゃんのかな。

4コマで「社長が訊く」のパロディを準備していて、いわちに「コトバを食べる、ケモノ。」が『ドンキーコング』で「サイレントエフェクト」が『ドンキーコングJR.』ですよね?と言われて、そのことに気づくという。

有野課長なら、「いわちに言われるまで、ボク、ぜんぜん気づきませんでしたよ」だ。

2013年5月16日の更新情報

「本のセールスマン 窓口電書」を更新。

PDFデータも新しくした。

そういえば、「理想のマンガ喫茶」を今書いているけど、「理想ではなく未来のマンガ喫茶」というオチがついているから、なんとか出来そうである。

途中までしか書いていないのは、ほとんど、オチが綺麗にストンと落ちてないとか、オチが問題でペインティングになっている。『あの花』のレビューは、「岡田さんは高畑宮崎の血を受け継いでいる」分析は終わったけど、それを締めくくる言葉がない。

有料販売なんだから、それなりに質を求められるのだが、自分でなかなかOKが出ない。誤字脱字の校正をして、フィルタリングをすればいい、というわけではない。

他のオチが問題じゃない「書きかけ」になっているやつは、文芸批評以外は、膨れすぎたから、收拾がつかなくなる。

少しずつ、やっていこうとは、思う。



ブルーローズは
画像編集ソフトを
使うと簡単に
作れる……安っぽい

2013年5月9日 戦争は第n次産業である？

ようやく、「コトタベ」の最終話をアップしはじめた。

<http://p.booklog.jp/book/24527/page/1739941>

カラーマンガをろくに描いたことがないので、作業量がわからず、「これだけ作業量を抜いても、まだ完成しないのか？」と、毎月思っていた。閲覧者にとっては、「なんで、こんなに手を抜いてるのに、まだ完成しないんだ」という、ギャップがあったと思う。マンガに色を付けると、工程が増えて、いろいろな作業をしなくはいけないのがわかって、「メビウスは偉いなあ」と素直に思った。

あとは解説編で、量産ができるように、宮崎駿の『雑想ノート』みたいな、ラフな絵のスタイルで、一年も経たずに解説編が終了しなくてははいけない。

少し、「Puboo × Paboo2012」で画像を挿入したくらいの編集はした。

日記の方の「このレビューは誰か他の人がやるべきだ」で、

「システムに流されず、かつ反体制でもなく、踏みとどまる」って、夏目さんが言っていたと思っていたら、覚え間違いだった。

書籍の方を読み返すと、岡田さんが言っていた。

夏目さんが岡田さんに同調していたから、これが覚え間違いの原因と思われる（失敗学）。

それはともかく、システムの抑圧の問題は、『サイコパス』でうまく描けていた。たまちゃんこと齋藤環先生も触れているけど、システムからコンタクトを受けない「免罪体質者」というのは、非常に孤独な存在で、なんか『ボーダー』みたいな話でも「あちら側」に行ってしまったヤツと、踏みとどまった朱ちゃんの側の明確な対立軸があって、それは士郎正宗の描いてきたテーマを継承している。（「マスシステム対ミニシステム」が富野監督の一貫して描いてきたテーマに似ている）

その士郎正宗は第一次産業を無視、完ムシしているのに対して、虚淵さんは目を配っている。『ガルガンティア』でも、「魚を釣ってきた者には、水を与えよ」って、原始共産社会のなつかしい（実際に体験してはいないが）思想である。

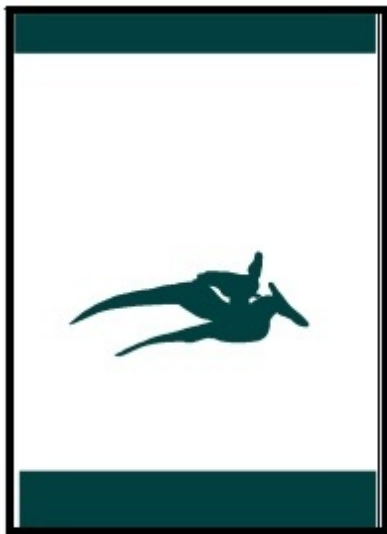
川原泉教授のマンガみたいとは言わないけど、「美貌の果実」シリーズのキャッチフレーズ

が「大切にしたいね、僕たちの第一次産業」にたいして、「忘れないでよ、第一次産業」というような、戦争という高次産業の従事者が、なんというか、非情に社会主義的なというか、「労働で子供は自然と出会う」ような、これは誰か他の人がやるべきだ！（サヨクの人がやった方がいい。私は民族主義に片足を突っ込んで人間だから）

覚え間違いについては、あとで直しておく。

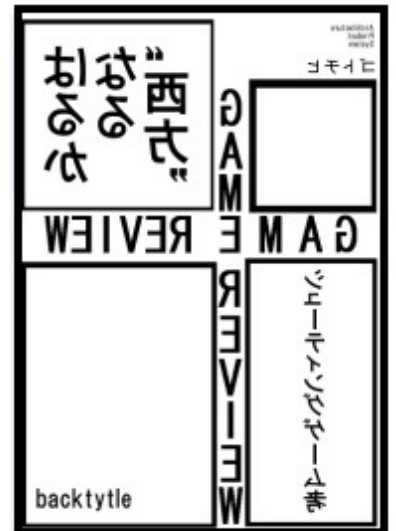
まあ、日記に書いてあることだから、裏も取らず、テキトーなことを書いているのだが。

それから、電書の「マンガ夜話を明るくふり返る」ができないのは、明確な理由があって、ビデオデッキが壊れてしまったからである。録画ビデオを見返すことができないので、「どうしたものかなあ、なんとかならんかなあ」と思案している。



ちよつとずつ
作っている画像

あとは原稿だけか



2013年5月4日 メビウスはアーティスト

とくに更新は、していないはず。

では、まずいので、「ぱふぱふFREE」を引っ込めて、『The man of the overlooking01』を公開販売。

今週の『ぶらぶら美術・博物館』で、印象派の人々がアルジェリアのことを描いていたことを鑑賞したけど、メビウスも『ARZACH』で描いている。

まず、アルジェリアの説明として、旧フランス領時代もあって、フランスと縁があり、暗黒大陸に日があたっていた部分だったのか、いろんな画家が赴いたりしている。

「ARZAK」の砂漠は、アトラス山脈以南の北アフリカの砂漠、地平線が見える平面的なすなばらに、人が暮らしていた遺跡・遺構があるという風景、アルジェリアの荒野（サハラ砂漠周縁部）だと思われる。

もしかしたら、『ブルーベリー』に出てくる西部は、アメリカ北西部じゃなくて、サボテンが

生えている北アフリカ砂漠かもしれない。検証していないので、そこは知らないのだが。

ただ、このようにメインカルチャーとして絵画の美術文脈を継承しているということは、メビウスは間違いなく第九の芸術を作るアーティストだ。

こんなことを書いている暇があったら、「メビウスリング・ザ・オリジン」を完成させたほうがいいのは、わかっている。

他にも検証が難しい話として、フェルナンド・フェルナンデス（スペルからこう読んでいるが、違う発音をするかもしれない）の『ZORA』（批評のタイトル写真にある本）は言わずと知れた「ヘビーメタル」に掲載されていたマンガで、主人公の女は『ファイブスター物語』のスパーク（ピッキング・ハリス）のモデルと思われる。

しかし、元ネタが同じかもしれない。

洋楽で、こういう扮装の女性ボーカルから、『ZORA』が取られていて、永野護も同じことをしている、可能性もある。

そこらへんは、謎なんだよね。

（「そここころへんは」と書いたほうがよかったかな）

『ピーナッツ』の
ルーシーのような奴が
こんなふうになったら
詐欺だ！



明美ちゃん 想像の中で
自分を美化しすぎだろ

4月の更新情報

2013年4月30日 純情きらりはゲテモノ俳優たちがキラリ

「本のセールスマン窓口電書」の更新、ダウンロードデータも「ぱふぱふFREE」は未完成でも、公開。追加修正されている。それで『The man of the overlooking01』は表紙をまた差し替えたいから、再び非公開。

今月中に、「コトタベ」のアップはできなかった。

「それはまあ、いいじゃないですか」

先月は8ページぐらい、追加しているのだけど、ダウンロード数が増えていない（ページビューも少ない）のを見ればわかるとおり、「誰からも求められていない」のが、判明している。

まあ、そんなものだから。

ただ、意外にまだリーダーが普及していないのではないかなあ。

テレビゲームのハードが一万円台になったら、爆発的に普及したんだけど、もう一万円を切っているのに、リーダーが爆発的に売れているような雰囲気がない。

私は、説明書や雑誌を自炊して、テキストをブックスキャンに委託して、電子書籍化しているから、モノクロのリーダーがほしいのだ。

ただ、大衆というか、一般層というか、あまりリーダーやタブレットの必要性がないのだろう。ガラパゴスケータイやスマートフォンで電書が読めれば、リーダーそのものが、必要ないのかもしれない。

「純情きらり」の再放送、面白いなあ。

自主制作映画で、男同士でキスしたイケテツと、バラエティー番組でバナナマン日村に指をつっこんでタバコ吸っているときに「臭い」と言っていた劇団ひとり（川島さん）が出ていて、こんな真面目ドラマに出演していることが、不思議なドラマである。

2013年4月24日 天才ではないという悲劇を引き受ける

『俯瞰の男』の第一部である、『The man of the overlooking01』を再販売している。表紙が他のシリーズとわかりやすくなっただけで、内容は何も変わっちゃいない。

重複していた文章があった「Puboo×Paboo2011」を少し修正し、「あの華」こと、『あの悪の華の名前を僕たちはまだ知らない』のレビューで、関川夏央さんの誤字を直したぐらいだろうか。更新情報終わり。

よくギャグで「順調に遅れている」と、あるけど、本当に遅れている。

「コトタベ」の作画は、やっぱり月12ページはきつい。

ここまでクオリティーを落として、量産的に作っているのに、量がこなせない。

ここ二三ヶ月は、とにかく「コトタベ」を終わらせなくてはいけない。はやく「解説編」にいかないと、先が思いやられる。鈴木みそ先生の『オールナイトライブ』の「専門学校の話」みたいに、「てにをは」から始めなくてはいけないから、大変だよな。

私は本物の専門学校の講師でなくて、本当によかったよ。

ああいう、見込みのない人たち(それは私も含む)のせいで、日本のビデオゲームが国際競争力を失っていったことは、否めない。まあ見込みはあるとは、小中学生の段階で、「コトタベ」や「731」、「色彩少女」を越えないといけない。

もしかしたら、

「そんなのは、天才だ」

と、言われるかもしれないが、

「その通りだよ」

としか、返せない。

パブリッシャーや大手デベロッパーは、私を越える人材でなければ、入社させない。天才しかいない。前の「専門学校の話」にあるように、「就職実績ゼロ(なんらかのゲーム会社に就職できた卒業生はいない)」の専門学校が実在しているように、ゲーム会社は雇用に慎重だ。

このように入社できない場合、自力でやらざるを得ないのだが、『ありえない未来の思い出たち』第一巻の「イントロダクション」を読めばわかるとおり、それはうまくいかなかった。

ラノベ作家として売れていれば、任天堂と仕事するデベロッパーを設立できたかもしれない。意外にゲーム作家は、ライトノベルとか書いていたりするから、それが反転されたシナリオディレクターとしての地位を会社内で確保できれば、それなりのクオリティー、それこそ「ゲームラボ」のデベロッパー特集で取り上げるくらいの業界内での評判は獲得できた。(嘘でも断言しておかないと)

だが、それはもう無い。

それがもう無いとわかったから『ありえない未来の思い出たち』を描いている。当面の課題は、こんなに長い文章の記事書かないで、もっと早く完成させることだね。

金子君のお父さんは
よし子先生のハンカチか何かで
靴の先を磨いたから
「味」がしたのだからか？
という話は
例の組織と関わりがあるのか



タグに名前が書かれているのが
見受けられるので
ナイトスナックの
ボトルキープらしい

現在公開できる設定
(『進撃の巨人』を
パカにしてる)

2013年4月11日 映画化したいマンガ

「本のセールスマン窓口電書」に、特別掲載の「ラブラブROUTE 21を映画化したい」を足した。ダウンロードデータも更新している。

女子禁制にしてから、閲覧者数が激減したが、

「のびのびした気分だよ」

なので、とてもいい。

やっぱり女の子に、尻を見せているキャラクターのイラストを描いていることがバレるのは、よろしくない。（すれ違い通信で「ブクログのパブーを見てください」と宣伝しているのに）

なんとか、「はるかなる西方」が出来そうだ。

前年の同じ頃にも、似たようなことを書いていたが、もう少しで出来そうだ。後はマネタライズというか、有料化するのが悩ましいところだ。

私は今、「見えない敵」と戦っている気分だ。『エネミーゼロ』の不可視の敵ではなく、話を急に変えるけど、飯野賢治が死んでしまったけど、よく考えたらイノケンのゲーム表現主義は、生き残っていた方が日本のゲーム業界のためによかったのではないか？ 昨今の洋ゲーの質量ともに充実した荒波に抗えるために、ひとつのテトラポットになっていたかもしれない。

「波に飲まれたと思うけど」

そういえば、章の順番を替えたのには、理由がある。

『俯瞰の男（The man of the overlooking）』のような利口とはいえない、小利口なものを書いている人が、うんこやおちんちんを扱った下劣な4コマ漫画を描いているというギャップではなく、うんこやおちんちんを扱った下劣な4コマ漫画を描く人が、小利口なものを書いて自分をよく見せようとしている、と思われていたかもしれない。

わかりやすく言うと、「アホがかしこを装っている」と思われる。

違うからね。「かしこを装っている人間がアホを装っている」というのが実態だ。

かしこを装っている小利口なものを具体的に挙げれば、三つの月がある世界・惑星では、月の満ち欠けでだいたい時刻がわかる。夜は当然、場合によっては、昼でもわかる。

それぞれの月の公転周期が違うから、南を向いたときに、西側に月が半月で東側に三日月が出ている、もう一つの月が空に出ていないなら、何月何日の夜半過ぎ頃とか、わかるんだよ。衛星が三つもあれば、おそらくわかるだろう。だから、日付もわかるから、待ち合わせの託けに月の満ち欠けのことを伝える。普通、あの世界の魔法使い（唯力論者）は知識があるから、そういうことは諳んじているものだけど、メルデアは勉強しないやつだから、遊郭で暦を読むという。

こういうことを不親切にも、あまり詳しく書いていない。

あの4コママンガは痛烈な批判なんだけど、伝わってるのかな。

「イケメンジャンプばかり描いて、昔のトイレット博士を思い出せ！（女子禁制だからの

びのびした発言が出来る)」

それがルネッサンスだよ。もう一度、あの頃の輝きを雑誌「少年ジャンプ」には、取り戻してほしい。だ・け・れ・ど、映画の『変態仮面』は別に応援していない。

これを映画化するなら、ラブラブROUTE 21を映画化しろよ。と映画会社に言いたい。

「なんか、ゆかり先生が天文雑誌で天文ガールとして表紙を飾って、噂を小耳に挟んだけど」
「それ、裏表紙の間違いじゃないか」

敵キャラ

これもトレジャーでないと
まとも動かせない
バンナムではムリだね

別にディスってないよ(>▽<)
本当のことだからね



2013年4月3日 レベルアップして女子禁制になった

「ぱふぱふFREE」を未公開設定にした。

そして「コトタベ」の第六話をアップ。

<http://p.booklog.jp/book/24527/page/1639117>

三月中旬にはできていたが、分割してアップすることにした。

ドラクエ7の最初の石版のように、焦らしたわけではない。

そもそも、リメイクの方のドラクエ7を手に入れていない。

「ひかりのたて」はもう、手に入らないのだ。

それから「Puboo×Paboo」は今月から女子禁制になった。

以上、報告終わり。

これでも一念発起したのだ。

だいたい、女子が見て楽しい、読んで面白い企画はない。

お尻の穴を手で押さえるイラストが活躍する4コママンガを見ても、女性はなんとも思わない。

あとは、「子供が歡ぶような4コママンガ」は、残虐すぎて、お手当をいただかないといけないような、ちょっと暴力表現が過ぎるから削除して、予定通りなら「ぱふぱふ」に移籍する。

残虐行為手当は天内潤氏の「我ながら名訳」。

もう、一年ほど経ったので、裏工作をしたことをこっそり書く。

前にふくみっちゃん（グーグル検索にかからないようにジャミング）に裏工したことは、志倉千代丸の息のかかっている者と思われてしまうと書いたが、それと似たようなことである。

本人は読んでいないだろうし、裏工作がうまくいかなかったという結果が出ているので、明かしてもいいだろう。アメリカがイランの核開発を遅らせるために仕込んだものと比べると、しょぼい話だが。

マンガレビューに取り上げてくれないか、週刊誌の漫画評にちょっとハガキを出して、結果はとりあげてくれなかった。

影待くんの『GROUNDLESS』を。

裏工した理由は、「女ゴルゴのマカロニウエスタン」がうまくいかなかったから、「他の人がレビューしたら、そのスリップストリームで、いけるんじゃないか」と、思いつきでハガキを送った。

いつも人のレビューを読んだ後出しジャンケンでレビューを書いていたのだから、今回もそれをやった方がいいと、クレバーなアイデアを思いついたのだ。

繰り返すが、マンガレビューはされなかった。

『GROUNDLESS』がどこかの出版社が紙製書籍の単行本として書店に流通しないと、とりあげてもらえないだろうね。扱われ方が存在しないものとして、低く見られているともいえるかもしれない。

ただ、逆に考えるとネットマンガは未開地であり、漫画批評にさらされないユートピアなのだ。

なぜなら、とりあげられないから、何をやってもいい。（フォローとして著作権法違反や名誉毀損系の刑法犯罪でなければ、という但しがつく）

ゲームにたとえると、商業マンガのストーリーはレギュレーションによって規定された、ほぼ一本道のシナリオ。だけど、ネットマンガはフリーシナリオでレギュレーションやフィルタリングがない。あらかじめ決められた道ではないが、自分で突き進む楽しさがある。

この自由さは、マンガ批評によって損なわれる危険性を孕んでいるとも言える。『ワンパンマン』あたりが、マンガ批評にとりあげられはじめると、一気に流れが一本道に変わる可能性がある。

伏流がいくつも分かれていたのが、批評のせいで大河になることもありえるのだ。

それにしても、「Puboo×Paboo 2012」の表紙は、あざといやつに差し替えている。女の子たちの画像をコラージュして何をしているのだろう。安西水丸の描いたSLの絵の真似以外、

「こんなの本当の自分じゃない！」

ほとんどのキャラクターが本編で一肌脱いでるじゃないか。（女人禁制だと、こういうことを

ためらわずに書けるんだ。これが本当の私だ！)

そういえば、表紙に静ちゃんがいないのが……

そろそろ、『シェイクスピア・ロマン』の話振ろうか。

オフィリアを悲劇回避ルートで助けられれば、『ラバース』のチャン・ツイイーみたいに羽衣を操って剣の柄を掴んで攻撃する、あまり役に立たないクラス（天女もどき）が仲間入りする。

ハル君が法王と謁見して、気前よく「素薔薇しいもの」を与えたことにジュリアスは苦言を呈するが、法王はとりあわない。そんなものだから、

「悪魔卿に魔術卿、死霊卿とくれば、いよいよこの法王庁も魑魅魍魎の跋扈する魔窟と化したか」

と、見てないところで柱を殴りつけて、拳から血を流す。

「所詮はオレも、吸血卿か」

流れる血と血で、映像ブリッジ。

権力争いに敗れ何もかも失った最終教皇が、水も杯もないから自らの腕を傷つけて、少年ジュリアスに鮮血で洗礼する。手の平で作った杯に溜めた血をなすりつけながら、

「この流れる血が、キリストの流した血と同じく、そなたの原罪を洗い清めるであろう」

この教皇の洗礼によって聖別された少年は後に枢機卿になる。

これがジュリアス卿を“聖堂の帳に潜む吸血鬼”と揶揄されるようになる一挿話である。

この教皇様の声をあてるのが、シェイクスピア俳優ね。

日本中のシェイクスピア役者を集めて声をあてさせる、とはいっても、みんなの知っているあの博士の声をあてている人は、実はシェイクスピア役者だったなどの話をするわけだ。

他は文士に声をあてさせたいから、僭竜王エドモンドは「日本一カッコイイ文士」といえばこの男、古川日出男だろう。だから、エドモンドが全キャラクター中で一番カッコイイ。

色付き片眼鏡に二刀流で、腰には火縄銃の短いやつをして、クラスは竜騎兵（ドラグーン）で声が古川なら最高だね。（『刀語』なら、「最高カッコイイ」。バカにしてる）

実際には、こんなの造れないけど。

スイス傭兵部隊は、天正遣欧使節の少年たちを女体化という、マニアックすぎる行為に歴女もお怒り。「私たちが求めているのは、こんなものではなく、男同士が友情を越えて愛し合う話だ！」と言われるのは、わかっている。……ジャンプ読みなよ。女子禁制だから、このテキスト読んでないと思うけど。

「見よ、あの勇壮なるハンニバルの戦象部隊が、アルプスを越えていく」

ブロスベローがテンペストの魔法を使って、トルコ海軍を沈める、竜言語魔法ならぬキャリバン言語魔法（原典とは「そこは逆」と笑い飯）という、これは『タクステイクスオウガ』をドロボ……

ルパン三世好き向け「やつは大変なものを盗んでいきましたよ」

マザー好き向け 「我々の技術をジョージは盗み出した！」

ウウ、胸が痛い（努責作用）。任天堂の社員でもないのに、横井さんの技術をルパンやジョージのように盗み出している私としては、スウェーデンのモデルを使ったゲームを考案したいところ。

そのころは、

「竜言語魔法ファッションेशन」

背中に星を背負った男が虹色の金管楽を奏でながら、七つの海ならぬ七人の兵……ツワモノを抛り合わせたセブンフォースを操る話は、『サイレントエフェクト』。ジョージが盗……

はしゃぎすぎて、いきおいあまっているから、後で修正することになると思う。

ギャグ強化年の一環なんだけどね、女子禁制。

三月はぜんぜん 更新できなかつたので 女性が喜びそうなイラストをアップ

やじきたインディープの表紙のマネ



悟空のしっぽ
弱点、弱点



逆さにされ、口を塞がれ
大の方をもらすほど
長時間姿勢を固定
されているわけではない

別冊マガジンのマガの現場の
ハロウは音羽系への牽制...
牽制悪送球で全走者生還!

2013年3月12日の更新情報は危なかった

「コトタベ」の追加をした。

一時はアップできないんじゃないかと、危ぶまれていた。

とりあえず、4ページを先行してアップして、後の10ページはおいおい、掲載されて第六話は終わり、最終話になる。

あとは、「Puboo × Paboo2012」で画像を足した。

だからといって、ダウンロードデータを更新してはいない。

遅れても、3月初旬だと思っていたら、3月中旬にさしかかってしまった。

こんなに遅れてしまって、予定が経たない。

それにしても、わからないよ、人生。

殺しても死なないと思っていたゲームライターの前田勝彦さんが交通事故で亡くなったこともあったし、ノロウィルスでやられたり、その他不慮の事故で死んでも、人はおかしくない。テロリストに殺されたりね。

その場合は、閲覧者の方の場合、私が死んだことに気づかず、ず〜と更新されるのを待っているハチ公みたいになってしまうわけだよね。

それはイヤだな。

話のついでだと、納谷吾郎さんが亡くなった。

ヘンリー少尉の中身が天国に行ってしまった。おそらく新劇俳優だから、吹き替えをしていたと思われる。「まずは内面から」ということで、輸入されてきた外国劇を演じるにあたり、外国人の内面に肉薄する演技を行うのが、新劇の思想であり志向だから。それにたしいて、新国劇は歌舞伎を国劇として、チャンバラを継承した新しい国劇、新国劇として明治大正に展開して、一応は高取英まで直接的な系統ではないが、続く…のか？

「答え合わせ的なもの」だな。後で、裏をとらないと、納谷さんが新劇系統の俳優なのか、違ってたら、どうも恥ずかしいね。

「+」のほうも、早く書かないといけない。

2013年3月4日 なかなか先に進まない

『本のセールスマン』を少し、追加修正した程度である。

まだ、「コトタベ」はできていない。

その「コトタベ」は、最終話前っぽい話になってきている。

第六話はトシヒコというゲストキャラクターが来る話だ。

このように、文宝町にゲストキャラクターがやってくれば、いくらでもマンガ連載を続けら

れる。ただ『おじゃる丸』ではないのだから、そのようなことに興味は無い。『賢い犬リリエントール』は面白いと思うけど、自分が作る側だと、さして意欲がわかない。

そもそもゲームを作る方法を伝授するためのマンガだから、別にストーリーが続いていなくてもいい。ゲームとしてリリースできないとわかった時点で、人気作品にはなれないのだし、連載を続ける意味も無い。

解説編は普通にストーリーマンガを読みたい人たちにとっては、楽しくないものになるだろう。ゲームクリエイターを目指す人のコンテンツだから。

もう、気持ちは最終話のネームを切ることに移っている。

というよりも、早く切り上げて、いい加減に解説編に入って、ちゃっちゃと終わらせて、「ななつとみつとひとつ」や「シルエット・アクター」に早く入りたい。

それで、最後に非業の死を遂げるのが、いいオチである。私がここまで、有名人の悪口ばかり書いて、非業の死を遂げなかったら、それは詐欺だ。



ポルノスターをこっそりだすなよ。

2013年2月28日の更新がない情報

「コトタベ」は、ちょっと今月のアップは難しかったね。

月に14ページもカラーマンガを描くのは、無理があった、と。

実は4コママンガを描いていて、遅れたとか、「そんなことは、ありません」。

三月の上旬には、本来今月分にアップされる話が、『ありえない未来の思い出たち』の第一巻に追加されるであろう。

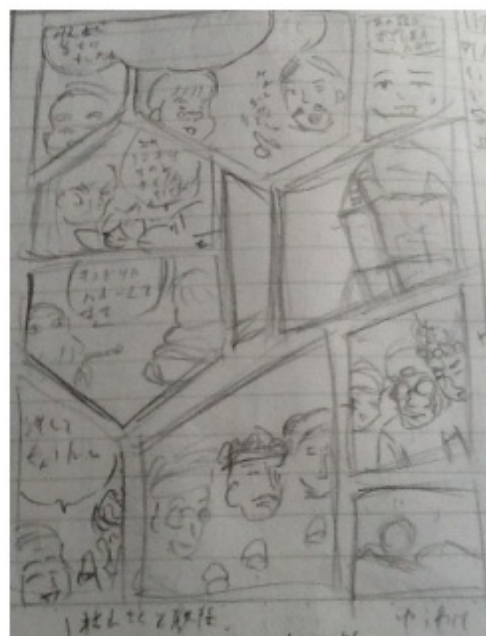
ただ来月分、あるいは再来月分はアップできないかもしれない。

最終話のネームが全て完成するまで、作画に入らないで、ちゃんと作ろう。今まで、真面目に作っていなかったわけじゃないけど、本気は出してないよね。

何もしていないと思われるのは
心外なのでちょっと画像挿入



ぺしゃんこん家
ぺしゃんこんになる



ネームで切っている
縄文建築団のように、
みんなが集まって家を建て直すシーン

来月はもう、『俯瞰の男 (The man of the overlooking)』は第三部でマリツファの回だ。

男性読者向けに登場する、我らの金髪婦人 (クロチルド)。読者に媚びているから、本当は…
・ (作者はこういうことを言っちゃいけない)

前半は、ピクシブにアップしているプロモーションの中にあるから、後半からアップする予定だ。(こちらの方にも書いているが「ハードボイルド小説の中には令嬢が出てこないといけない」というジャンル小説のルールを踏まえているだけ)

『俯瞰の男』の話って、意図的にしてこなかったけど、錬金術が達成された社会は、金まみれになるのではなく、金鉱山を閉鎖して、金価格を管理して、魔術師が作った金を政府が買うという、常識的なものを描いているわけだ。いくらでも金を作れるのに、国民から吸い上げた税金

で金を買って、魔術師の資金源とされる…つまり原発政策と同じことをしている。

それはつまり、密造金や鉱山を勝手に掘るのは、重大な罪になる。6エピソードしか小説化しなかったけど、全体で30エピソードぐらい用意するはずの『俯瞰の男』の中には、そんなエピソードがある。

そういえば、やめてくれないかなのネタがひとつあって、大丈夫かとかいっていた『アバンチュリエ』が、いつのまにか雑誌「ヒーローズ」に移籍していた。（何があったんだろ）

心配通りのことを起こされても、「やめてくれないかな、そういうの」としか言いようが無い。

4コマのクソノートに安倍さんの名前を書いたら、今日の読売新聞の記事で頻繁（麻生さんはハンザツと読む）にトイレに行っているそうじゃないか。

2013年2月20日 とりあえず更新情報

更新は「Puboo × Paboo2012」で画像を多めに足した、ぐらいかな。

「本のセールスマン 窓口電書」もbos20まで追加し、ダウンロードデータも更新。

今年はギャグ強化年にして、4コマギャグマンガを面白くしよう。

真珠王のように、「まずはバンナムを血祭りにあげる！」と、息巻いて復讐球団みたいに必殺技（字義通り当たると必ず死ぬ必殺打法や必殺投球）を編み出したり、もうゲーム業界には行かないという決意表明としか思えないものを出したりする。正確には行きたくても「行けない」のだけだね。

もういいんだよ。

いずれ、科学も技術も役目を終えて、人間に最も必要なものは私自ら作る電書「ぱふぱふ」になるだろう。

「社長が訊く」を見ていたら、堀井さんが『D Q VII』は『ミスト』を参考にして作ったと、言っていて、『里見の謎』のことに触れていない。

「心配 入りません」が声に出して読みたいゲーム文学のひとつである『里見の謎』と『D Q VII』の類似点をあげる検証動画をどこかでアップされないかな。

この間、評論書くためにアニメの方の『けいおん!』を観返していて、それで、秋山澪が「萌え萌えキューン」までしか言わないのは、どうしてだろう。

メイド喫茶だとオムライスにケチャップを塗ってから「萌え萌えキューンでおいしくなーれ」って、やるだろ。このくだらない一連の件（くだり）。それで平沢唯あたりが、そこにオムライスがあるかのように、スプーンで一口すくって口に入れ、「ああ、律ちゃん、どうしよう。ホントにおいしくなっちゃった」と言って、乗せられた田井中律が「どれどれ?」と言って、オムライス食う真似して、「ああ、うまい! 澪の萌え萌えキューンは最高だ」というやりとりに、秋山澪「二人ともやめろ」と突っ込みを入れる。

……ドロボウしよう。

それは私が「るばーん、しゃんせい」だから。（←フログマンのアニメを見たな…アレをよく許したなモンキー・パンチは）

「やつは大変なものを盗んでいきましたよ」

女子教員寮の食堂で、ゆかりちゃんが罰ゲームか何かで「萌え萌えキューンでおいしくなーれ」と言ったら、久美ちゃんがやっぱりオムライスを食べる真

似して、「ああ、清美先生、大変です。ホントにおいしくなっちゃいました」と言って、清ちゃん先生は乗りがいいから、オムライス食う真似をして、「ああ、うめえ（注・花のズボラ飯みたいな顔をする）。ゆかりの萌え萌えキュンは天下一品だ」と言う。

ゆかりちゃんがメガネにライトを入れて「あなたたち、私をバカにしているでしょ」と、怒りだす。（メガネのことに触れているが、「おぎやはぎのメガネびいき海賊Eファンブック」に更新はない。まぎらわしい）

今回は、ちょっと長くしてみた。

2013年2月14日の更新はすたすたケモノの行進行進

「Puboo × Paboo2012」の表紙も差し替えして、ダウンロードデータも更新した。

ダウンロードデータを作る工程を面倒にしたために、とても億劫になって、文字修正などをして、なかなかダウンロードデータを更新していなかったのだ。

ダウンロードデータのためのコンテンツなんて、作るべきではないのだ。

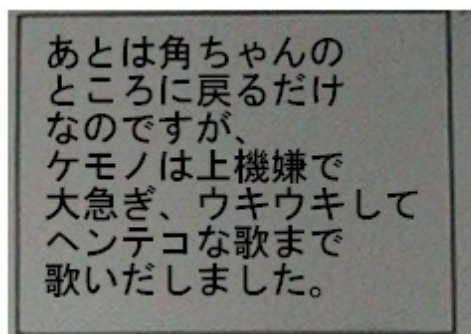
「鏡の国の任天堂」なんて、『鏡の国のアリス』の読み込みをしていないから、先入観丸出しにしている。

今年の4コマは振っておいたネタを回収するようなモノでいいと考え、やっとりぷりまんⅡ世の4コマを載せてもいい、と判断した。

アスキーアートでキン肉マンを文字打ちしたのをアップしただけで、著作権違反を指摘したが、実のところは無理が無いらしい。

この間の「ぶら美」で白隠の個展の所に行っているのを放送していた。

それでこのケモノ、ご覧あれ。



すたすたケモノが
又きたきた



白隠の布袋さんと同じ。すたすた坊主を描いていた。

山田五郎さんが見たら「これ、すたすた坊主だよ。この間Bunkamuraで見たのとそっくりだよ」と言ってくださるかもしれない。

この次が通称「ケモノのターン」で、すたすた坊主が大道芸をやっているのと同じく、歌って踊りだす。

白隠についてはまったく「存じ上げておりませんでした」だから、すでに私は白隠を越えていた。（そんなワケないだろ）

「サイレントエフェクト」も隻手の音にヒントを得て、“A Girl meets mama and not sound music”という『花男』の表紙に添えられている英文をもじって、女子大生に人気…ではなく、「サイレントエフェクト」の英名だよ。

2013年2月6日 ワンセンテンスで撃ち抜け

そろそろ、『俯瞰の男』の第二部をアップしなくてはと、用意をされていて、やっとアップした

。他は…何もアップしていないかもしれない。

そろそろ、「Puboo × Paboo2012」の表紙を差し替えて、ダウンロードデータを作りたい。

ジョブズは大学での講演での発言、

「海軍に入るくらいなら、海賊になれ」

という言葉のあとで有名な、

「オレは海賊王になる」

と、言ったとか言わなかったとか。

これは『シャーマンキング』をライバル視して、対抗したのだろうか。

そんな言葉といえ、ひとつネタがある。

『百万回生きた猫』のラストシーンで「百万回泣いた」とある。

戦後日本の文学史上で、最も優れたセンテンスのひとつだろう。

これに拮抗しうるセンテンスを作ろうと、考えたとき百万回も、泣かなくていいと思った。

それはたった一回でいい。

ワンセンテンスで打ち抜けばいい。

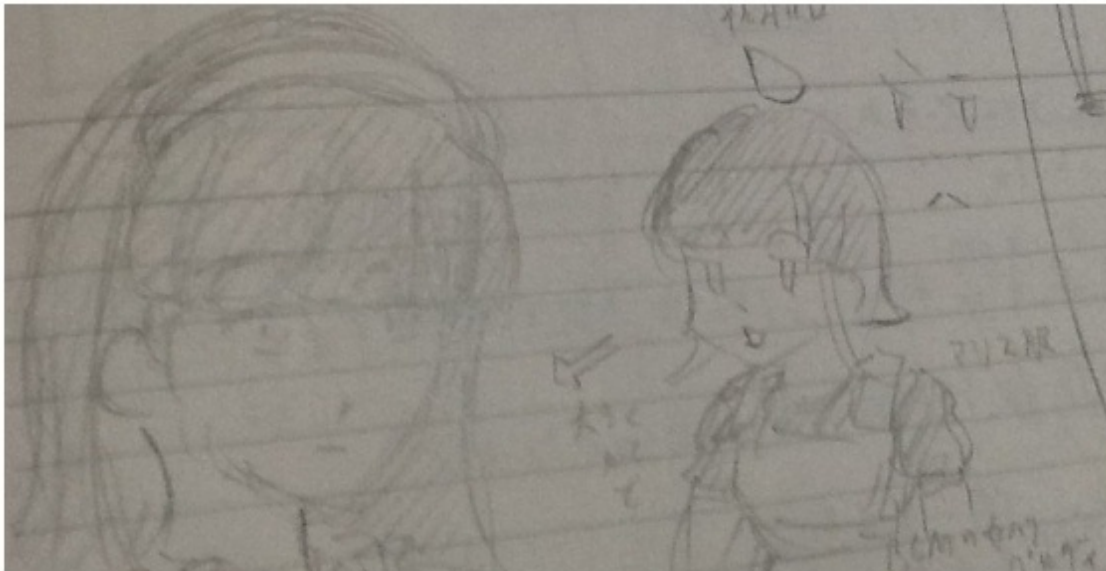
生まれてから一番泣けばいい。

だから、『石油を浪費するホドの人生か！』で少年が窮乏生活をしている時に、肉親である祖父に再会したとき、生まれてから一番泣いたと、私は書いた。

「まあ、ギャグで使っているのだけどね」

「この雑誌、最近表紙が差し替えになっただけぞ」

「えっ、オレのゆかり先生は？」



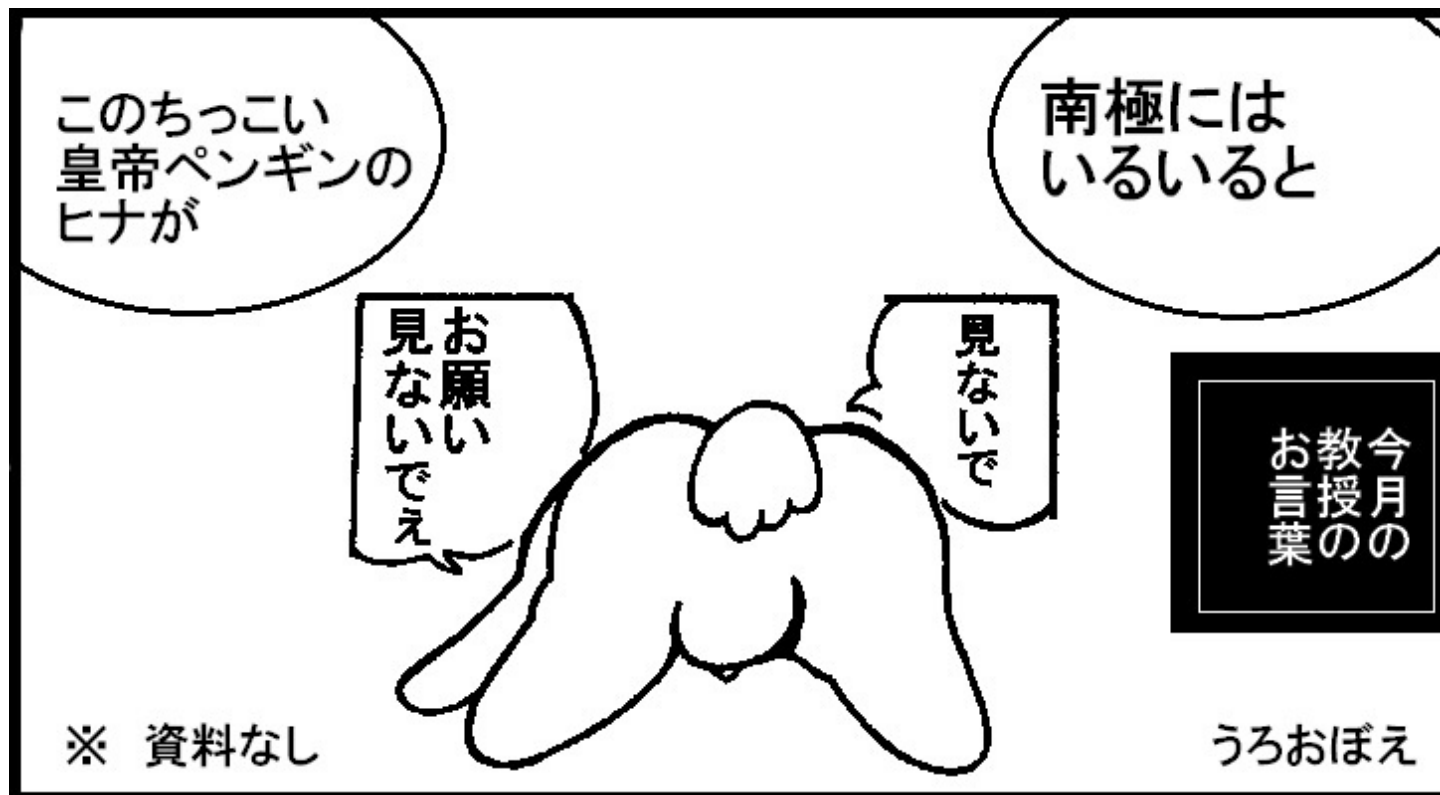
コンパチキャラは
スーザンなのに

アケミちゃんが大きくなったら
間違つて遠山雪になるように
イタズラ書きで描いてしまった

2013年1月26日 「コトタベ」をアップしたよ

『ありえない未来の思い出たち』の第一巻の「コトバを食べる、ケモノ。」の続きをアップした。

だいたい、短くして、“「コトタベ」をアップした”にするところを長ったらしく、電書のタイトルからはじめた。



4ページしかアップしていないじゃないかとか、それはまあ、いいじゃないか。人造人間だもの…じゃない。アウトサイダー・アートのヘンリー・ダーガーの作品から抽出などは、関係ない。

あの、横山さんが教授と待ち合わせしているとか、なんとか言っていたら？ あれは、ある雑誌で山口晃と藤森輝信が日本の有名建築を見に行く企画記事があって、キャラクターのモデル同士が京都に行ったりしているから、それは文宝町でも同じことが起きていなくちゃいけないと思って、脚本に書いてないことをマンガでは描いているのだが。

横山さんちの屋根裏、ロフトかな、でかいステンドグラスがデザイン的でオシャレなんだよ。「オサレは敵だ」という人には、実は向かない作品だったんだね。「コトタベ」は。

2013年1月10日 キャプション

「Puboo×Paboo2012」はリンク先の動画サイトにあるサムネイル画像を足したり、少し章を変更したぐらいで、それほど修正箇所は多くない。

キャプションに書き忘れていたね。

コピペこと、コピー&ペーストするときに、うっかりシフト指定を入れ忘れて、そのままペーストしてしまったみたいだ。



「おフロの数え歌」の
「イエイ イエイ
イエイ イエイ
ウオウオウオウオ」
をしているケモノ

ちょっと正月に、誤字脱字がないか、自分のものを流し読みしていたら、「カオリンの花嫁修業」と「サイレントエフェクト」のオープニング、内容同じだ。プロットが同じ、骨格が同じ、サイトウのおばちゃんが水瀬家の庭先に残したものと、ある人物から渡されたものをトニクがワヨンに与えるかの違いしかない。同じ、「贈与」を巡る物語なのだが、ユーザー層が分かれているから、いいか。

「ネタ使い回し、している」

と、思われたくないから、何かしなくちゃならないなどは、一瞬思ったけど、これならいいか。

『石油を浪費するホドの人生か！』の第三部第四章の『楽しい児童漫画』の一エピソードである「カオリンの花嫁修業」は、Pixivの方では会員でないと読めないが、ブックログのパーブなら無料閲覧できる。「サイレントエフェクト」のオープニングはブックログのパーブでは、五六年後にアップされると、早いほうだ。まあ、別のところでは、すでにアップされていたり、いなかったり。

福袋も、今日で非公開化である。

来年は、何か、できるといいな。

2013年1月3日の最初の更新情報

今年も、よろしく。

でも、福袋企画はやらなかった。

平成25年はやらず、24年のやつを再販した。

去年の最終更新に書いた、「テクノプロデューサー横井軍平」をダウンロードデータとしてセットした。

「Legendary developer 横井軍平」にある、ダウンロードをしてみると、手に入るように仕込んだ。



サイトリンク

Legendary developer 横井軍平 <http://p.booklog.jp/book/58297>

こんな変則的な提供の仕方は、ありなのだろうか。もっと、ちゃんとした学術的なサイトで、アップされるべきではないのか。

ところで、本電書である「Puboo×Paboo」のダウンロードデータは、まだ、作らない。

「Puboo×Paboo2012」はダウンロード数が極端に少ない。一年間でページビューが一万はいかないけど、100ダウンロードはあってもおかしくないほどのページビューがあった。（一万に届かなかったのか、という方が衝撃的）

つまり閲覧者の感覚は「ネットビューワーで十分」らしい。

「それなら、そもそもダウンロードデータを作らなくていいのでは？」

という見解になる。

ダウンロードデータを月末に作るのが、実は大変だった。

「香奈ちゃん大好き」…じゃないや、「香菜、頭をよくしてあげよう」はダウンロードデータ専門のはずが、ネットでも閲覧できるようになっていたり、その「ほむほむ便箋」がちゃんとしていなかったり、いろいろあった。

「鏡の国のアリス」は読んでみると、意外に鏡の反射反映のネタが少ないなど、けっこうダウンロードデータを作るのが、骨が折れる作業なのに、なかなかダウンロード数が稼げなかった。

そこでいろいろ考えて、そもそもフリーで提供するものに、ダウンロードデータは必要か？ということになる。私は必要である。誤字脱字修正のためにタブレット端末でブラウジングし、トライ&エラーで、エグゼブティブでチーフ・オフィサーである。（一度やってみたかったんだ

よね、ヨコモジの羅列)

有料案もあった。

仮に一部有料にすると、めんまフォントや著作権関係で、いろいろなことで制約が生まれてしまう。

ゲリピーみたいなマンガに金を払わせるのか？ などの疑問点もある。昔はゲリピーみたいなマンガに、お金を払っていた時代があった。『できんボーイ』や『トイレット博士』の時代である。あのマン研のサンデーに「お尻を出した子…」、こういうのに著作権的制約がかかるのだな。

今だと、都条例にひっかかるから、放送できないじゃないのか？ 『まんが日本昔ばなし』のエンディング映像。

「小学生同棲」なんて、都条例にひっかけてくださいというマンガだろう。一般少年誌に、読みきりでモルタル作りの安アパートに、男子女子二人の小学生が同棲を始める…いわゆるよくある「一つ屋根の下モノ」だ。ちゃんと、都条例にひっかかるように性表現を描かなくてはいけない。

それから、キャプションに書いてある通り、なぜか『俯瞰の男』の連載が載っていたりする。一ヶ月ごとに、各一部をアップする予定である。

向こう半年の予定になる、ということは、それまでダウンロードデータは作らないということだ。

Puboo×Paboo2012

更新履歴情報は、こちらにバックナンバー的にある。

Puboo×Paboo2012

<http://p.booklog.jp/book/41497>

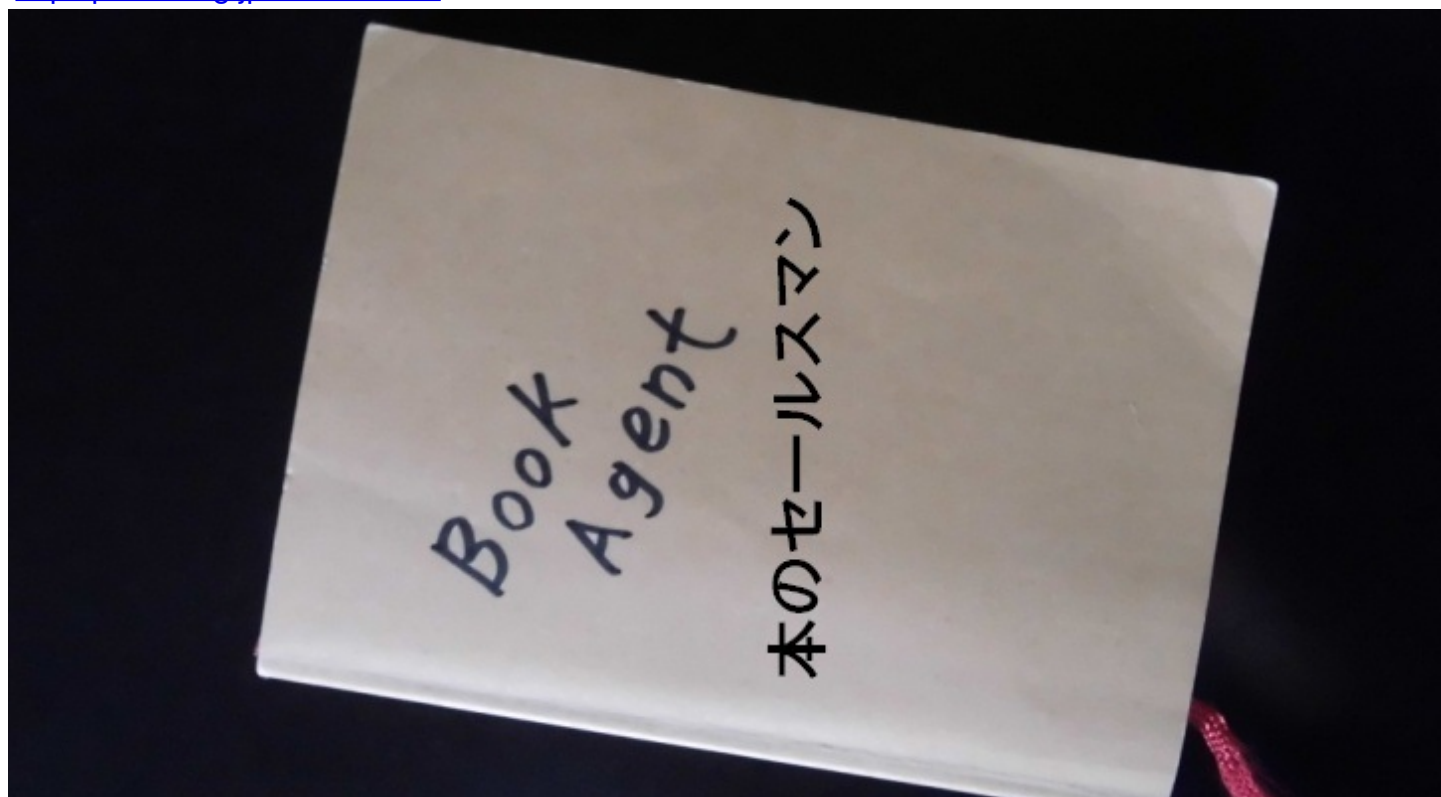
その他のコンテンツ

[日記 ああ、食べたくなる](#)

[エッセー 友情を彩る曲は僕たちの思い出となる](#)

本のセールスマン

<http://p.booklog.jp/book/63074>



隨筆

本のセールスマンでやってること

本のセールスマンという、変わったタイトルのホームページを開いている。

基本的に、自著の宣伝をタダでできるのだから、ホームページを開設して、営業しようというのが、「本のセールスマン」のコンセプトである。だから、セールストークの「ですます」調なのだが、それは別にいいだろう。

あとは、小ネタの消化もある。

そこでいろいろな本の紹介している。

実際にやってみてわかったことは、図書館や新古書店などに赴かないと、読めない、手に入らない本が多く、そもそも『丹下健三』のように一万部以下のシリアルナンバーがついた本の話とか、そうした話題ばかりだ。

そんな「本のセールスマン」でやっていることを書く。「本のセールスマン」では浅く触れているのにたいして、やや深く掘り下げていると言えればいいか。

今、執筆中で窓口電書にも掲載予定のspecial1「ラブラブROUTE 21を映画化したい」は、暴走している。

大森南朋に暗黒舞踏家を演じさせて、屋台のおでんのナベの中に入れてもらうとか、くだらなさすぎることを書いてある。

宇多田ヒカルのように「ドラゴンボールで上原美優を生き返らせて、ひさこを演じさせよう」なんてことは、あまりにも無慈悲なので、さすがに書けないが。（ヒトンチの庭で死んだヤツをドラゴンボールで蘇らせたいなんて、考えないでさ、死なせて置いてあげなよ）

だから、このネタはさすがに封印して、『泣くな、はらちゃん』の麻生久美子にひさこを演じてもらえるなら、監督は三木さんとなり、暴走に歯止めがかからなくなった。

「犯人以外、だいたいわかりました」とか言っておいて、最終的に「犯人のことはだいたいわかりませんでした」と、推理ミステリードラマを根底から覆して、「事件さえ起これば、犯人なんて捕まらなくてもドラマ成立する」という推理ドラマの約束事を吉岡秀隆君みたいにどこかに置き忘れている。（『ダメジン』）

町山さんの本についても書いている。

週刊アスキーで連載していた「本当はこんな歌」が好きで、升田アナが知らない「Livin' on a Prayer」の話をしてほしかったなあ。

それは今現在の日本の経済状況を歌っているからだ。

現在はアベノミクスをしなければいけない景気浮揚対策が急がれるが、80年代のアメリカも、レーガン大統領がシカゴ学派の方針をとった景気浮揚策であるレーガノミクスをしなければならなかった時代に、バンドのボン・ジョヴィが「俺たちのスタンダードナンバーを作ろう」という意気込みで作曲したのが「Livin' on a Prayer」で、名曲だ。（そら耳で「ガリットチュウ！」と聞こえる箇所があっても）

原曲の状況を説明するより、「トミーが現在で言えば派遣切りであって、ジーナがパートタイムを掛け持ちして働き詰めだ」という今の日本の10sの雇用状況でたとえた方がわかりやすいだろう。

経済が落ち込んでいるときに、ブルーカラーのカップルを励ます応援歌として、「希望を持って生きよう」という曲名にされている。これは今の日本でこそ歌われなくてはいけない曲だろう。

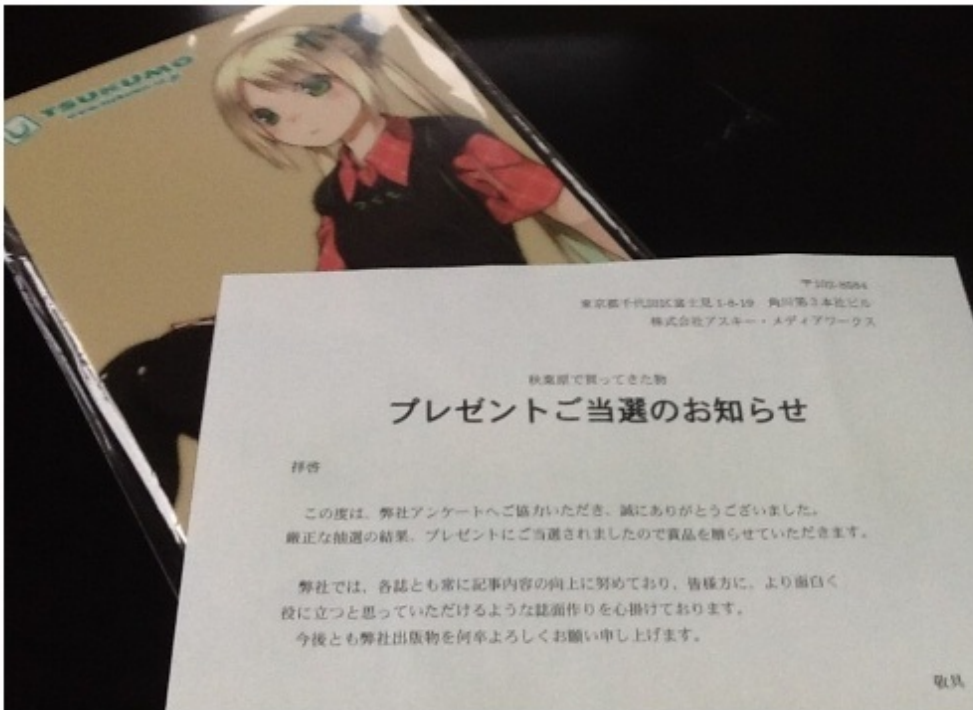
トミーがギターを質に入れているなんてさ、ハードオフにズラッと並べられた中古ギターを見れば、同じような人生を歩んでいる人がいるだろうと、容易に想像できる。

美輪さんの「ヨイトマケの唄」とは似ていて、違う。関係性が親子で一人称の「ヨイトマケ」にたいして、「Livin' on a Prayer」は籍を入れているのかわからないが一緒に生活している一組のカップルを三人称で歌う。この三人称の人物は、アメリカなんだから二人の守護天使ではないだろうか。(だからドラクエで天使文化にシフトしているのではなかろうか)

話からずいぶん遠くなるけど、「六万 坂東でオマ(脱税)」で、英語版では骨男(中身は影男)が妹にあたるような人物に「希望を持って生きろ!」と、台詞を変えていたりする。

こういうのは、実はうれしかったりする。

ただ、こういう話って、男子は中学時代とかに洋楽好きから聞いていなかっただろうか? 逆に洋楽好きはこういう話をしないのか? 私と町山さんだけ? その他は小林克也とピーター・バラカンだけ?



12月8日(マジコンを手に入れた日ではない。マジコンを手に入れたかと思せかけるアリバイ作りの日)、無料配布の秋葉原版を手に入れて、マウスパットがプレゼントにあったからアンケートハガキに「町山さんの連載よかったのに、終わっちゃうなんて残念だ」に近いことを書いて送ったら、当選したのだ。

うれしいことはうれしいが、「つくもたんってなんなのだろう」と、思っている。純粋にマウスパットが欲しかったので、つくもたんがナンなのかどうかどうでもよかったのだ。

いざ、当たってみると、「つくもエクスプレスを擬人化したキャラクターなのだろうか?」と考えられるが、わざわざ検索エンジンで調べたりもせず、ほったらかしにしている。

パットにあるwww.tukumo.co.jpというアドレスを覗いてみたりしない。……「転売目的」ではなく、マウスパットとしての実用で使っている。

『ひまわりさん』とかの話もしている。ケモノが「どこに隠した」と言っている作品と言うか、ゆかりお姉さんの元ネタというか、それは別にいいじゃないか。葉子さんのどこがどう好きとか、「安楽椅子探偵のような深い洞察力」が好きに決まっているだろう。

「他に何があるっていうんだ！」

それにしても、先にあげたキャラクターたちに、何か共通項のようなものがあるような気がしてならない。

高屋敷英夫さんが、昨今普及している「幼馴染幻想」の犯人では？

もちろん『ドラゴンクエスト』のノベライズでローラ姫が勇者ロトの子孫と実は昔出会っていたとか、出会っていなかったとかの話である。

これを堀井雄二さんが面白いと思って、ビアンカとのエピソードにして、運命の女であるフローラさんと出せるといって、ここ最近のラノベのフォーマットを作ってしまった感がある、罪深い行いをしている。

マンガでたとえるなら、柳沢きみおが双眼鏡を覗いたとき「ドーン」と目が飛び出す今読んでも面白いギャグを描いているのに、「ひとつ下の屋根モノ」というジャンルを作ってしまったって、パンドラのフタを開けてしまったような、何が言いたいかと言うと、『とある飛空士の追憶』のことだ。

ラノベ作家は皆とは言わないが、ドラクエのノベライズをけっこう読んでるし、そもそも日本独自の「勇者文化」を形成してしまったオリジンとしての本編であるドラクエを、ほぼ通過している。

だから、ファナがローラ姫で、飛空士がロトの子孫というキャラクター配置で、プロットが同じとはいわない。よく似ているのだ。

「見たらわかるか？ わからぬか？」の延長かもしれないけど、「見たら(読んだら)」わかるだろ。

ほとんどの読者は、「そんなの知っているよ。いちいちネタにするな」という反応だろう。

ただ、「80年代のテキスト空間」や「カルチャ・インフラ」の考察が、意外にも裏付けられていた、というのがラノベ作家になれなかったが一応ラノベ評論家の意見となる。持論が正しかったことを自慢したいのではなく…自慢したかったのだ。

「水平の軽音部と垂直のバンド」は、もうちょっと詳しくやりたかったが、收拾がつかなくなる可能性があるから、小さくまとめた。

大河ドラマの『平清盛』を宇野常寛さんが、「血縁の濃い垂直的な平氏が、仲間同士の絆が強い水平的な源氏に敗れる」話と言っていた（雑誌「サイゾー」出展）ように、垂直志向の『BECK』に水平志向の『けいおん！』が勝ってしまうという話を小さくまとめている。美術家が秋山澪を描いたりしないだろう。

黒い靴下を履く登場人物なのに、白い靴下を履かせる、『美味しんぼ』で言えばなんだっけ？

養殖物の鮎を描いてしまう画家崩れの料亭の息子だっけな。この話読み返してないのだ。(また裏を取ってないとイカンじゃないか)

それで、『うああ哲学事典』のパスカルの回みたいに、誰かに「極度の知識を得る者は極度の無知とかわりない」みたいな、そんなことを言われて「はいはい、おっしゃるとおりですよ」ということになる。

完成しなかった『リトルピープルの時代』の書評で、触れたかった「カツマーが垂直志向で香山リカが水平志向」を敷衍すると、自然と『BECK』や平氏は垂直志向、『けいおん!』と源氏は水平志向の構造が見える。カツマーと香山リカの対立は、実は『清盛』の平氏と源氏の対立だったのだ。

だから『平清盛』は視聴率は振るわなかったけど、優れたドラマだった。

これらを本格的に批評するのは、宇野さんの出番であって、私が批評してもたいしたものにならないだろう。

こんなものでいいのではないだろうか。

あとは関連する記事のリンクを貼れば、完成だろうか。

そうそう、サイトのキャラクターとして、「コトバを食べる、ケモノ。」で文宝町に営業に来ている人(小道迷子のキャラクターの見た目だけモデル)にしようと思っている。(こういうのが枯れた技術の水平思考なんだろうね)

別に、学習教材とか英語の本とかを訪問販売しているわけではないのだが。

本のセールスマンのホームページは八月に閉鎖

以下有料本として下記に記事を掲載した電書

本のセールスマン <http://p.booklog.jp/book/63074>

中原の比類なき迷走、古井の恐ろしき予見

雑誌「文学界」で、ちょっと前、面白い企画があった。今調度、手元に資料があり(珍しいことに)、それによると、

十一人大座談会「ニッポンの小説はどこへ行くのか」

という題で、高橋源一郎さんが進行役で文学者である小説家と評論家が集まって、題通りに「これからの文学はどうなるのか」を話し合っている。

ここで登場する中原昌也を『ゼロ年代』の宇野さんが「サイゾー」の対談でけなしているのだ。

「作家は無頼派に弱い」とかなんとか宇野さんが言っていたのを記憶している(これは資料が手元にない)。

たしかに、中原はふるっている。

「もう頭に浮かぶ言葉は全部ネガティブなことしかない……」

「日本の文学が終わる前に、世界が終わる前に自分が破綻する……」

「ワーグナーを聞くとやる気がわくなーっていう、駄洒落をさっき考えたんですけど(笑)」

とか、文学者さんたちの前で言うのである。みんなが文学のことを生真面目に話し合ってる輪の中で、こんなことばかり言うのである。

さらに中原は意味不明なことまで言ってる。読者がいなくなって、他人が書いたものを自分の名前で出して、それで原稿料が出ればいいと、中原は言って、高橋さんに「でも、読者がいないと原稿料はでないと思うけど」と突っ込まれると、中原は「でも、出るんですよ」と、意味不明なことを言う。いったい、その原稿料はどこから出てくるのだ。私は理解に苦しむ。高橋さんの言っていることが、正論なのである。読者がいなくなったら、誰も原稿料を払う人がいなくなる。これは誰にでもわかる論理だろ。

話が変わるように聞こえるかもしれないけど、「ファミ通」って雑誌で昔、「ゲーム帝国」という投稿コーナーがあって、そこで読者の投稿で「帝国の軍事費は国家予算の90%ですか？」というのがあって、帝国の回答は、「否。帝国の軍事費の90%が全国家予算であり、あとの10%はどこからともなくやってくる」というのがあったんだけど、中原の弁だとこれと同じで、原稿料がどこからともなくやってくる……のか？

最後に、「僕は文学上の安楽死をしたい」と中原はいい、それを高橋さんが「どういうこと？」と聞くと、「いや、単に言ってみただけです」と中原は答える。なにも考えてない。「嫌オタク流」のときと何も変わってない(変わってたらヘンだけど)。頭が悪くて、サイコーだ。

この中原がおかしなことを言っている以外は、みんな真面目に話をしている。

筒井康隆さんが、ラノベやケータイ小説が売れているのが羨ましいのだろうと言ったり、川上未映子さんが青という字が青色でないことに子供の頃苛立ちを感じていた(この話を聞いて『緑色叙述』という小説のアイデアがひらめいた)と言ったり、諏訪哲史さんが国民総オナニズム時代がやってくると恐ろしいことを言ったり、面白いなあと思う。

一番、面白いのは古井由吉さんが、「世界恐慌が起こるかもよ」と言っていることだ。

この大座談会は2008年の二月一日に収録されている。

まるでリーマン・ショックを予見したようなことを言っているのだ。

そういえば、芥川龍之介も、「ぼんやりした不安」とか言って自殺したら、世界恐慌が起きたとか、なんとかいう人もいた。

文学者は余計なことを言っちゃいけないね。ホントになるから。

でも、中原が言うことは、けして未来に起きたりしない……と思う。保証はできないけど。

これは「だらしのない読み物」という公開する予定のなかった2009年頃に書いたものを少し加筆修正お届けしている
今回『サブカルチャー最終審判』を読み直そうとしたが手に入らなかった

爆笑戦隊ハリケンジャー

戦隊モノの「ハリケンジャー」のパロディ、「ハリケンジャー」できないかな。

敵怪人のズボンのベルトを握って、上げて「喰いコンドル」で怪人爆破。

五人合わせてチームプレーで出す技や、五人の武器を合体させて出す必殺シュートと同じ威力

。

敵幹部のナグラが、（女幹部はマリナ）

「イラン人とちゃうわ！」

という、呪文を唱えると（他にも「別に大使館に入り浸ってないぞ！」など）敵怪人が復活して、巨大化。

おなじみの呷りアングルで、

「は～ら～だ、たいぞ～です」

と怪人が言う。

今度は俯瞰のアングルで、見上げているハリケンが、

「こうなったら、パラグライダーだ」

と言う。なんでだよ。

それでハリケンの持ちギャグ、180度の開脚ジャンプしながら「パラグライダー」と叫ぶと、堀内健そのものが巨大化。

大河ドラマで大久保利通を演じた俳優兼芸人が中に入っている怪人と対決するが、怪人を倒さずに「続く」となり、次回では怪人を倒したんだろうなというところから話がはじまり、毎週毎週エンドレスに同じことを繰り返す。

エンディングテーマは「マツケンサンバ」の替え歌「ハリケンサンバ」。

東MAXとビビる大木が唇と唇を合わせている静止画像を背景に、ハリケンが楽しそうに踊る。

喰いコンドル♪

パラグライダー♪

収録が押すことを忘れて

朝まで踊り明かそう

サンバ みんなサンバ～

ホ・リ・ケ・ン サンバ～♪

オーレ☆（ジュンジュワ～のポーズをとっている）

備考

今回は「完全無比芸人」のように、構成で引き立てをするためにあるわけではない。純粋にハリケンジャーをやってほしい。アニメ化されなくていい。

マンガの家をオープン

新潟市内、それも中心部であるふるまち地区に新潟市の主導で運営しているのか、「マンガの家」をオープンさせた。それに続いて、信濃川にかかる万代橋の方に「マンガ・アニメ情報館」も五月にオープンした。

新潟県は、マンガ家の産地としてよく話題になる。

昔、ギャグで「雪が降るとマンガを読むか描くしかやることがない」と揶揄的に書いたことがあるが、高橋留美子も似たようなことを言っていたらしい。

それで、俄然、説得力が増したらしいのだが雪国の季節性でマンガを描くため、マンガ家を輩出している……たしかに一理あるかもしれない。

さて、そんなマンガ県である新潟だから、地域活性化のために「マンガの家」「マンガ・アニメ情報館」が設置された、となる。

私は、これらの施設に行こうと思わないし、距離を置くと思う。

歴史を学ばせることができるか、などの問題点をクリアしていないと、行かなくてもわかるからだ。

手塚は落谷虹児に影響を受けていると石子順造との対談で話しているが、具体的にどのような影響を受けていたのか、それは語られていない。落谷は新潟市出身の画家で、商業美術の分野で戦前戦中に活躍したとされる人物である。そんな落谷に手塚は具体的にどの程度、影響を受けたのか、謎だ。手塚研究者の意見を伺わなくてはいけないことだが、足労をしてまですることではないし、こうしたことを語られる場ではないのが、なんとなくわかるのが「マンガの家」だ。

宮本大人さんら、手塚研究者がかなり多くてすでに「これは落谷が描いた少女をマンガに登場させている」などの研究成果が出ているかもしれない。

さらに書かせてもらえば、マンガ家の自己申告はあてにならない。

手塚は「シーン」というオノマトペをマンガで使ったのは自分が初めてと『マンガの描き方』で自己申告している。ただ、こういう自己申告は自己顕示欲の表れであって事実その通りとは限らない。

下品な下ネタギャグもっこりは北条司の発明ではなく、徳弘正也さんの話では「自分がはじめた」と語っている。ところが田村信は「もっこし」を自分が初めたことも言っている。(彼らは同世代作家のため検証が必要)

このようなことがあるので、手塚研究者から「シーンをオノマトペとしてマンガに使ったのは手塚だ」と確定されるまで、この件に関して答えは保留なのである。

話を戻しそもそも、なぜ、地方にこんな施設ができたかという、いわゆるアニメの殿堂こと国立メディア芸術センターができなかったことに起因するだろう。

まず、国立メディア芸術センターの設置することになった経緯はテレビ番組「やしきたかじんのそこまで言って委員会」で、安倍麻生のダブル元首相コンビが出演した際に、安倍さんの口から言われている。

第一期内閣時代にシンガポールから来賓した人物から、「ここに行けばアニメのことがわかる

施設はないのか。ないなら作ってくれ」と、要請されたいらしい。

実は国際的に見てみると、おかしくはない。

『BD』を読むと、国営と思われるバンドデシネ・センター（正式名称は忘れた）みたいなものがフランスにはあって、日本にはマンガ家個人のミュージアムはあっても、総合的な文化施設はない。

そこで国立メディア芸術センターが作られることが計画されるが、海外の要請があるのなら、規模の大小に関わらず、このセンターのような施設があるべきだ。ここまでは、同意見の人間は多いと思う。

しかし、現在の視点から見たら、立ち消えになったのは、ご存知の通りだ。

安倍内閣の決定を引き継いだ麻生内閣時に、メディアセンターは民主党に叩かれた。（国連主義の『沈黙の艦隊』に影響を受けまくった小沢一郎がいる党なのに、反対するって、今から考えると、分裂して当然といえば、当然といえる）

確かに箱モノを築いて、さらには文科省か文化庁の役人の天下り先になってしまう嫌いはあった。

それならアイデアを出して、廃校を居抜きして施設を作るなどのコストダウンや役人の出向制限を設けるなどの人事権を民間から選ばれた館長に与えろとか、メディアセンターとしての機能を最大化する（役人の給与に予算を取られない）ことをいろいろできたはずだ。

しかし、それはできなかった。

メディアセンターが箱モノで天下り先であることの弊害が強く、国策としての文化事業の意味合い（国際的な日本の印象を良くする）はさほど大きくないと、判断されたのだろう。

かくして、アニメの殿堂は築かれることはなかった。個人的には、最近見つかった日本最初のテレビアニメ（もぐらのアニメ）が常設展示的に上映されるなどの、施設運用としてたくさんの意義はあったと思う。たとえ、天下り官僚のふところに血税から還流した札束が納まったとしてもだ。

余談として、ローゼン閣下という渾名の由来となるエピソードも麻生さんの口からこの番組で話されている。

空港で出発までの待ち時間にふと書店に行き、「これが最近女の子に人気のマンガか」と、内容も知らずに手に取ったのが『ローゼンメイデン』であった。

ところが、そんなものを手に取っているところに、修学旅行中の学生たちに見つかったのだ。それから噂が広がり、『ローゼンメイデン』を読んでいた閣僚ということで、ローゼン閣下と渾名されるようになった……一応、政治家本人が話したことゆえに、少しは自分に都合のいいことも言っているかもしれないが、それを割り引いても事実からは遠く離れていないだろう。（「女の子に人気のマンガ」というのはあきらかに誤認識だが）

どうやら、もうこういうことがないように、お出かけ（外遊）の際はギャングスタイルに身を包んでいる。と、邪推したくなる。

（こういうことが知りたかったら、ちゃんとお金を払って「やしきたかじんのそこまで言って委員会」を見よう）

さて、そろそろマンガの家の話に戻ろう。

中央集権的に作られるはずだったアニメの殿堂が立ち消えしたため、地方にこういうミニサイズの施設が分散的に作られるようになってしまったと、私は考えている。

地域が活性化するからいいとは、いいきれない。

つまり、軍事でよくいう、「兵力の随時投入」みたいなことになっている。地方のゲリラ小部隊が束になっても、民主党的反メディアグループの圧制を覆せず、やはり国軍の存在が必要だろう。たとえて悪いが。

小部隊である「マンガの家」と「情報館」の運営は厳しいだろう。

ちょっと映画館に用があって、近くにあった「情報館」の前に行くと、日曜なのに人の入りが悪かった。二階の映画館は人で溢れているのに。マンガ夜話のメンバーが訪れたら「人ガラガラで大丈夫か？」と心配される。(だから、こないでほしい)

展示物に関しても、人を呼べるようなものがあるのか疑わしい。

プロダクションIG新潟が製作に参加したために、県内ぐらいしか売っていない「桃太郎」(県内のセイヒョーとダイイチと坂田屋が販売する氷菓)をアニメ版『黒子のバスケ』で登場人物に食べさせたりしているのだが、こういうトリビアルな知識を披露する場になれるかということ、難しいだろう。「マンガ・アニメ情報館」でできるとは思えない。そもそも、スタッフがプロダクションIGの衛星会社が新潟にあるなんてことを知らないのでは？ (これはかなり運営側をバカにしているが、見ているはずがない)

もし、こういうことを展示説明した『黒子のバスケ』展を開くとしたら、著作権使用料のために予算は組めるのか、脅迫対策としてどう対処するのか、ちょっと運営側の方針が見えないから、ジリ貧になっていくのではないかというのが、たいていの見方だろう。

健闘してほしいが、甘いことはいえない。

本音を言えば、たかじんの番組のネタを、書きたかっただけだ。

そのダシに使ったまで。

注記

「もぐらのアバンチュール」は現存するテレビアニメとして一番古いらしい。やはり、アニメ史の啓蒙が必要だろう。ちなみに『ローゼンメイデン』はドールフィリアの好むマンガである。

タンクストーリーあるいは、

この随筆には、とくにオチもなく批評的な意味合いなどの成分は少ないだろう。おいおいわかることだが、それは私にミリタリーの知識が無いからだ。

ことのはじまりは速水螺旋人さんの『馬車馬大作戦』を読んで、面白かったことだ。面白かったんだよ。ボードゲームで遊んだことをマンガにしている、『死霊要塞1945』がFPSの『ウルフェンシュタイン』のモデルとなっているらしいとわかった。それでTPSの『バイオハザード』に繋がっていく…のだろう。（らしいとかだろうとかばかりで、これからもっと書く、だろう）

それで「馬車馬戦記」シリーズが架空兵器の物語で、装甲象の話が「自他ともに認める」好きな話だろう。ただ、この『馬車馬大作戦』（注・正式な書籍名は『速水螺旋人の馬車馬大作戦』）を薦めたいけど、amazonをこの間のぞいたら、中古品で7500円もするので、手に入りにくいものだから、新古書店で見かけたら必ず手に入れた方がいい。（背取りをしろって言っているわけではない）

巻末の担当編集者との対談で、速水さんは『雑想ノート』に触れている。もちろん『雑想ノート』は説明不要の妄想機械兵器（電子的に動作させていない）をストーリーに仕立てて、有名な『紅の豚』の元になった「飛行艇時代」があると、簡略的に説明できる。

伊藤剛さんが速水さんの『大砲とスタンプ』と『靴ずれ戦線』を「マンガなんてただの過ちだ」（そうです）で取り上げたとき、『雑想ノート』に言及しているけれど、『馬車馬大作戦』を読んでいなかったのか、“（『雑想ノート』を）読んでいたくちだろう”という、「であろう」という、なんというか、もうちょっと資料を調べれば、情報を求めればわかるであろう…

…さて、今回、久しぶりに『雑想ノート』とその続編といえる『泥まみれの虎』を読み返すことにしてみた。「コトタベ」の物語編を描き終えたし、作画中に読んだら軌道修正してしまう可能性があったから、読み返すのは控えていた。アケミちゃんがローザみたいになったら、それは哀しい。（…逆、じゃないか？）

十年も前に読んだものだから、プレラピユタの話とかグスタフの話とか、けっこう忘れていて、初見のように楽しく読んだ。

「この頃の宮崎駿（呼び捨て）は面白かったなあ」

と、大手マスコミには流通しない言葉を口にして、失言してしまった。

やっぱり宮崎駿は、戦車とか軍艦を出して、ナウシカみたいな美少女が戦場で立ち回れば、面白いアニメが出来るんだよ。

今の時勢に関わる話をすると『ガールズ&パンツァー』に繋がる話がある。『雑想ノート』書き下ろしの「豚の虎」と、その続編「ハリスの帰還」が載っている『泥まみれの虎』は、戦車が主役とっていい。

あるいは「ポルシェ博士の戦車的愛情」である。ポルシェ博士とは『ムダヅモ無き改革』で麻雀をうってそうな、ナチスドイツ勢の中でもマッドサイエンティスト的な位置づけの人物だ。（思わせぶりのアヴァンのパンツァーエース、こう書いた方が馴染み深い「戦車A」）

なんで、ポルシェ博士と『ガールズ&パンツァー』が繋がるのかということ、マウスを設計した人とか、いろいろ言えるが、やはり主人公機として選ばれたIV号戦車が「ハンスの帰還」では大

活躍するのである。つまり、ポルシェ博士はあまり関係ないが、もうちょっと深く見ようとするれば、ローザが西住みほのオリジンであると、いえなくもない。いや、おばあちゃん子（ビッグ・ザ・戦車道）であるのを鑑みると、冷泉さんの方が、近いかな。（玲子ちゃん、うまいなあ。…女子禁制だから、本人が読んでいるわけない）

『雑想ノート』もつながりがあり、巻末の対談相手が富岡吉勝さんで『パンツァーフォー』の翻訳者である。こうしたことから考えると、『雑想ノート』が連載されていた雑誌「モデルグラフィックス」に、『ガールズ&パンツァー』の特集が組まれるのは、当然ではないだろうか。

少し、アニメの世界で戦記モノ、ミリタリーものの歴史を振り返ると、タツノコプロの『アニメンタリー決断』からはじまり、『紺碧の艦隊』の架空戦記で、一応第二次世界大戦の兵器が表現される下地みたいなものが出来ていた。さらには、もう一度伊藤さんの「マンガなんてただの過ちだ」（ホントそうです）を引けば、“第二次大戦時の戦車+美少女といった同人誌が作られていたりする”のだが、これをまるでアニメ化したのが『ガールズ&パンツァー』であるような、2012年3月あたりで、そのことに触れているのは、慧眼のような気がしないでもない。

ただ、近年の「ミリタリーのマニアックな表現+萌え美少女」が台頭してきたことは、説明がつかない。映画やドラマで落語ブームがあったから落語マンガが出てきたような、一応それで説明がつくような、ことがない。今まで語ってきたように、宮崎駿が起源としてあるのは事実だが、それだけで説明がつく事象とはいえない。（ハミ通町内会なら、重機とセーラームーンの写真に「剛と柔、即ち官能」というキャプションがつくだろう）

いろいろ書きちらしてしまっただが、こんなものだろう。

たいしたことが書かれているわけではないが、これで一応終わりである。

書き文字とか、マネすればよかった



女の子を捕まえて、「ワイ 大佐イイナア」とかのんきに書いてさ、杉浦茂なのか？

六月の末頃書いたと思う

eブックリンク

[マンガレビュー 愛が足りてる『靴ずれ戦線』速水螺旋人](#)

声に出して読みたいゲーム文学

ゲームにおいて文学とは、21世紀に発見された『えりかとさとの夢冒険』の隠し文書データである。そんな齊藤教授も講義でとりあげて声に出して読ませたいゲーム文学。今日は選りすぐりのものをピックアップしてみた。

天内潤氏の邦訳文

「ざんぎゃく こうい てあて」

「さいごまで たっていたほうの ちちだ」

「なさけ むよう」

我ながら名訳

・天内潤氏の翻訳は、日本近代の文学において、福田恒存のような役目を果たしたのと同等的という文学的評価をコンニチ受けている。

「せっかくだから 赤い扉を選ぶぜ」

「上から来るぞ 気をつけろ」

『レーシング・ラグーン』のポエジーなテキスト

『東方見聞録』の「おか～さ～ん おか・おか・おか～さ～ん」

『炎多留』のキャッチコピー

・「名作保証」「エンディングまで泣くんじゃない」など、数あるゲームソフトのコピーの中でも、オールタイム・ザ・ベストに選ばれる珠玉の名コピー。「音がしないが鳴り響く」はもちろんこれに影響された。

「オレサマ ハ

サソリベイダー ダ。」

爆裂究極券コマンド

・コナミコマンドよりも六芒星を描くという点でダイヤモンド・ユカイさんであり、マジック・リアリズムとして『百年の孤独』の影響・オマージュを感じずにはいられない。そういえば、ユカイさんといえば、ドラマ『孤独のグルメ』で沖縄料理店の店主役をしていて、電子ジャーに手を伸ばした瞬間、視聴者であった私の体内に青い電流が流れた。

「すもうパワーには まいったな！」

「しんぱい 入りません」

クリスタルはただの石

魔法株式会社

究極無敵銀河最強男

「わあ きゅうに はなしかけないで
ください。 おしっこがあしに
かかっちゃったじゃないか」

「そして……俺は、ただ我が身に襲い来る肉の嵐に身を任せていた。
だって、抵抗なんかしたら、多分殺されるし。」

<とくべつなキップ>があれば、
この<げんそうだいよんじ>の、
どこへでもいけますよ。

他にも候補としてあげられた、
「妹が三人増えて、十二人になりました」
「もう、ゴールしてもいいよね」
は、惜しくも落選しました。

「いつの世にも、悪は絶えない」

そのドラマは、いつも中西龍のナレーションではじまる。

『鬼平犯科帳』である。実在の人物を元に池波正太郎が時代小説にした原作をテレビドラマ化した、平成を代表する時代劇ドラマといっても過言ではない、テレビシリーズである。

主演はもちろん中村吉右衛門。池波直々のキャスティング要請であったと、後にプロデューサー能村庸一が『時代劇の作り方』で語っている。本随筆は多くをこの書に拠っている。

時代劇が冬の入り口になったときに始まった第一シリーズの名作「血頭の丹兵衛」を取り上げるのだが、この頃はまだ昭和の時代であり、原作者池波も存命であった。

テレビ時代劇として丹波哲郎や万屋錦之助などが演じた鬼平であるが、池波が描いた平蔵像にはどことなく初代平蔵といえる松本白鷗の臭いがする。その面影がある吉右衛門に平蔵をやらせたいと思うのは、原作者としての思い入れが少なからず読み取れる。

なにより長谷川平蔵という小説の中の主人公と、両親とも梨園に生まれた親を持ち、兄が松本の名跡を継ぎ、自分が中村の名跡を継がなければならなかった吉右衛門に、平蔵の生い立ちに似た悲哀を感じるのは、致し方ないだろう。

少々まくらが長かったが、そろそろ「血頭の丹兵衛」の話をしよう。

話のはじまりはこうだ。

江戸に凶党が蔓延るなか、その噂を聞きつけた盗人が平蔵に会いたいという。

原作では火付盗賊改方に再任した平蔵が入り牢している盗人の下に立ち寄るのがことの始まりだが、ドラマではそこは脚色されている。

この盗人、小房の糸八を演じるのは、蟹江敬三である。

ここで配役が面白いと思うのは、演劇通の厭味になるだろうか。

播磨屋の芸を継ぐ中村吉右衛門が平蔵を、アングラ演劇の櫻社で石橋蓮司と蜷川幸雄と「同じ釜の飯を食った」と言われる蟹江敬三が糸八を演じるのである。

旧劇のスターと、新劇を源流にする戦後演劇の潮流から流れてきた俳優が、ここで出会った。

それは平蔵と糸八の邂逅に似ている。

面白いじゃあないかと、戦後の演劇史、引いては近世演劇の旧劇・国劇を知っている人間には思える。

凶盗は丹兵衛親分の仕業とされるが、その盗人は「にせものでございます」と語る。

話によると丹兵衛は殺さず、犯さず、貧しい者から盗まずの盗人の理を守る、たいそうな親分で小房の糸八が若気に走ってひとつの理を破ったことに心頭し、破門にしている。

しかし、今江戸に蔓延る盗賊はどうだ？

とても血頭の丹兵衛、大親分と言われたお方の仕業じゃねえ。

「あっしはくやしくてしょうがねえ」

糸八は平蔵の前で、悔し涙を見せる。

このにせものの血頭の丹兵衛への糾弾は、蟹江にとって蜷川幸雄を糾弾したことを思い起こさせるのではないか？

小劇場運動から離れ、商業演劇という「敵対勢力」からのオファーに応じた蜷川は仲間たちから糾弾された。その中には蟹江や石橋も混じっていたはずだ。

「急ぎ盗(はたらき)をするようなお人じゃねえ」

糸八のくやしきは、商業演劇に与するようなヤツじゃなかったはずだという蜷川への悔しさを役者である蟹江が滲ませている、というのは深読みのしすぎだろうか。

ところで、ドラマに戻るが、そんな糸八を平蔵は行き詰った捜査を進めるために、探索に出させる。

つまり、糸八は平蔵の密偵になる。

密偵と書いて「いぬ」と読む。それは業界を裏切らせることだが、丹兵衛親分の真相を確かめるために、市中へ出て探りを入れさせる「蛇の道はヘビ」の方法をとらせる。

罪人である糸八は昼に出て、宵六つには帰って探索を終え、また入り牢する。そのような密偵暮らしがはじまる。

その頃、平蔵は妻の久栄に台所の酒の減りが早いと、小言を言われる。

もちろん、平蔵は「気のせいだ」ととぼける。

なぜなら、日中に市中を駆け回り、役宅の牢に律儀に帰ってくる糸八のところに、真夜中酒を振舞いに行っているからだ。本当は盗人でありながら、自分のために「いぬ」になって働いてくれる、せめてものねぎらいだ。

平蔵は部下の与力同心に「御屋形様」と呼ばれている。親方はこうでなくちゃいけない。

心を開いたのか、糸八も子供の時分の頃を話す。雪の中、片親である母に連れられている思い出だ。その後、糸八は身を持ち崩して悪に染まった。

これは平蔵にもいえることであり、蟹江ではなく「ばあや」に育てられた吉右衛門の方がシンパシーのある話かもしれない。本人が随筆で書いているが、子供の頃の吉右衛門の面倒は「ばあや」、「坊ちゃん」でいえば清にあたる人がしていた。幼い時分から播磨屋の芸を継ぐために精進した吉右衛門のことを思うと、胸に「凍みる」話だ。

また江戸市中で盗みの事件が起こる。

酷い有様のお盗(つとめ)が描かれ、血塗られた現場に、娘だけが一人、隠れてやり過ごせた。この娘が、耳にするのが「江戸とはこれでおさらばだ。島田の宿で落ち合おう」という、盗人の言葉だった。

この娘の証言を頼りに島田宿へ、捜査の足を平蔵、同心たち、そして糸八が向ける。

島田宿、そこで糸八は派手に暴れ、つまり喧嘩をして、「なにか儲け話はないか」と言いまわって長逗留をする。釣り糸を垂らす、仕掛けである。

そんな折、江戸に見事な盗(つとめ)を働いた事件が起こる。

寝入った商家に金子を盗み、「たんべえ」と平仮名で書かれた札を置き去る。しかし、後日ぬけぬけと金子を元に戻しておき、元の木阿弥にして自分の盗賊としての腕を見せ付ける。

糸八は「これこそ本当の丹兵衛親分の仕業に違いねえ」と、舌を巻く仕事振りである。真の盗と書いて「まことのはたらき」と原作ではルビが振られている。

アリバイとして島田宿に潜伏しているはずのにせものに「自分が本当のはたらきをしている」と、親分が示威行為を見せているのだ。はたして糸八の合点はその通りなのか、早合点であるか。

やがて、糸八の噂を聞きつけた人物が逗留先に現れる。

その人物――血頭の丹兵衛を照らすのは中島利男である。

中島は『必殺仕事人』の照明をしていたという時代劇を陰で支えた重要な裏方である。撞着的には「陰で照らしていた」と言える。彼に照らされて藤田まことは中村主水になる。

中島の照明演出が冴え渡るのは、シリーズも後期となってからだ。

近世の照明器具では出せない特殊な照明技法で、盗賊たちの顔にコントラストが出るようにするのだが、仏の丹兵衛と呼ばれた男が血頭の丹兵衛になっている、内面を浮き彫りにするまでは、まだ照らされていない。

別の話では、下手をうった手下を粛清する際に、コントラストのある照明演出で、普段は好々爺のような印象を与えておきながら、本当は非情な盗賊の親方の内面を浮き彫りにする絵作りを見せている。

そのような照明演出が成されているわけではないが、丹兵衛の心中の吐露が、そこでは描かれる。

時代が変わって、今までのような“おつとめ”は流行らない。自分も老いた。これからは盗人も血を流さなくては、やっていけない。急ぎばたらきもしようがない。

冒頭のナレーションにあるように、何時の時代もこういう人物はいるのだ。変節して悪行を重ねる。

ちょうど放送時期はバブルで利益を上げて日本人が浮かれていたときだ。原作の発表時期も長らく好景気が続いて企業は発展しながらも、副次的に公害問題が出てくる時だ。

いつの世にも悪は絶えないように、いつの世にも変節して悪に堕ちる人間はいる。

糸八は親分の変節を聞いて顔には出さない。

しかし、心中は察するにあまりある。自分がにせものと断じたはずが、本物が理をやぶる、畜生になっていた。

今度は糸八が丹兵衛を「破門」にする番だ。

糸八の手引きにより、丹兵衛一味は捕らえられる。

凶盗になりさがった大親分は因果応報か、理を破ったかつての子分によって、盗人稼業を終えた。幾人もの命を奪ったため、さらし首は免れまい。

江戸への帰り道、平蔵と糸八は街道の茶屋で休憩を入れる。そこで糸八は知り合いの盗賊である老人と出会う。この老人、すでに盗人を引退して田舎に引き払っていたが、江戸で「にせもの」が大暴れしている噂に耳にして、業を煮やして真のはたらきをしてきた、その帰りだという。

糸八は平蔵に老人の話を見せる。

「おつかまえに、なりますか？」

平蔵は何も盗んでいない老盗の巧みな仕事にお咎め無しという判断をする。

それから、糸八のこれからの身の振り方を、少し話す。手伝ってくれた礼に、咎人糸八を逃がすというものだ。そして、平蔵は先に立ち、江戸へ向かう。

茶屋で腰を据えている糸八の腹は、すでに決まっている。

やがて腰を上げる。

誰をおかしらにするか、決めたのだ。

平蔵を追いかける糸八。これからおかしらになる人を呼び止める。

平蔵役の吉右衛門は振り返ると、笑顔になる。糸八の腹が決まっていたように、平蔵の懐・心積もりもまた、同じだったのだ。

ビターテイスト、いわゆる苦味のある原作小説のラストには無い、爽やかな感動が脚色されたドラマにはある。

ここで「インスピレーション」のイントロのリフが挿入される。まるで、平蔵と糸八がこれから戻る江戸市中の四季が描かれていることを想起させる映像がエンディングに流れ、我々は余韻を残して物語を見終える。

やがて時代劇がテレビから退場することを、我々はまだ知らなかった。

吉右衛門版『鬼平犯科帳』にはまだ語ることが多い。

木村忠吾を演じた尾美としのりは名バイプレイヤー役が板につき、この役で少年俳優から脱皮をとげ活躍する。財津一郎がまったく性質が違う盗賊を演じた話があるなど、見所多し。

コママンガを描きたくなる

四コマの方でくだらない、プリプリマンII世の話を描いていると、だんだんコママンガを描きたくなる。

二回戦が終わって、帰りに立ち寄った飯屋でいろいろスタジオコントをするのだが、たとえと吉本新喜劇の例の飲食店に借金取りが来るみたいに、超人ケツ盟団がやってくる。しかし、ノーマ・ウォーは守衛のバイト、ゲリピーはナイター出場中、試合後も合流せずカノジョとデートで欠員である。(この彼女とのデート代を稼ぐために試合出場していたというムリクリな辻褃あわせ)

よく考えると、超人ケツ盟団というチーム名は、本物の血盟団事件のことを知っていると、不謹慎すぎる名前かもしれない。

飯屋に訪れたマスク・ド・プーリー率いる超人ケツ盟団は、飯屋で狼藉の限りを尽くす。

本当はランバ・ラルが飯屋に入ってきて「今日はいくらでも頼んでいいぞ」と部下におごるシーンをパロディにして、後に対戦する正義超人にも飯をおごり、「小僧」とか言ったり、試合中に「おごってあげたんだから、負けておくれよ」と八百長を打診する強かさを見せる人間ドラマが展開するのを止して、ビック・ザ・戦車道が「戦車カツ」を注文する。

大洗市に行けば食べられる戦車カツがメニューに無いから、

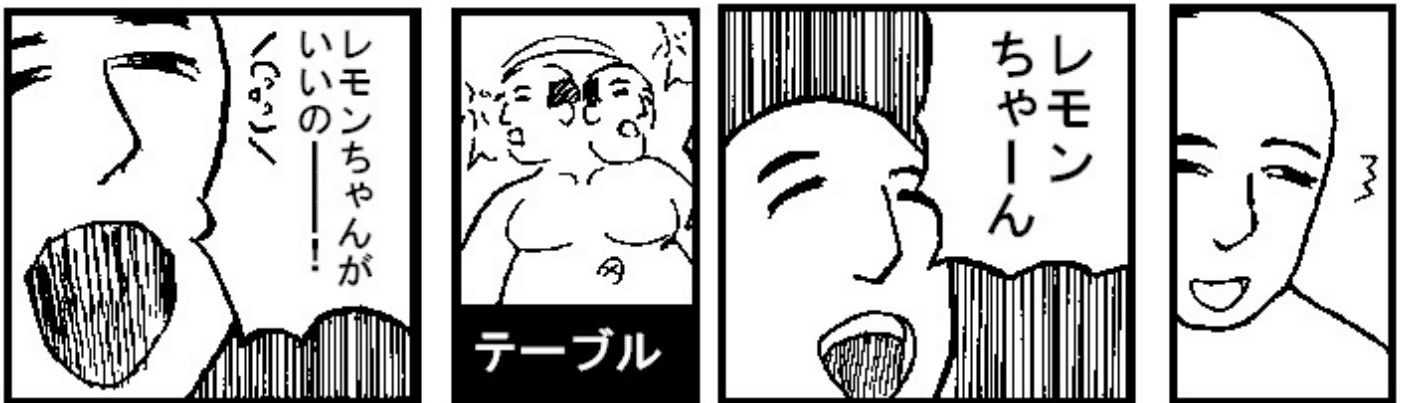
「レモンティーひとつ」

と、ビック・ザ・戦車道が頼む。絶対に戦車道が飲みたい飲み物じゃない。しかし、このレモンティー、次のギャグのための布石になる。

運ばれてきたレモンティーを見た真ん中の人が急に、

「レモンちゃん」

と叫ぶ。



レモンティーに激しく反応する
真ん中の人(与助)

ビック・ザ・戦車道は
「キャラクターにあやかって
オレンジペコとかにすればよかった」
と後悔するが後の祭り

なんの繋がりもなかったはずの四コマが、こうして、どんどん繋がっていく。

本当はとおい、とおい未来での出来事のはずが、その場に居合わせた数合わせの人が急に「レモンちゃん！」と叫びだす。



↑ 店内がまぶしかったから
サングラスをかけた
(辻褃あわせキャプション)

巻頭カラーページをいただけたので

空前のレモンちゃんブームの到来に店主が「もうあんたら出て行ってくれ」と、押し倒してケツ盟団を外に出す。

「この店は、俺の腹を満たしてもくれないのか？」

と、憤ったマスク・ド・プーリーは『孤独のグルメ』の五郎ばりの格闘術で店主を無力化する。

その後起きた乱暴狼藉の数々は筆舌に尽くしがたい。

まあ、フィクションでの出来事なので、あまりこういう虚構を真似する人もいないと思う。ナイツ壙のナレーションで「店主はもうボッコボコ、ボッコボコなのであります」「とくに数合わせの人は試合でも見せたことがないほどキレッキレ、キレッキレで店主にマッスル・リベンジャーをかけるのであります」「有権者に訴えたいことは、この後超人ケツ盟団は、店にある食べ物という食べ物を食べ散らかし、荒らし放題荒らして回った後、その場から離れてお咎めなしという、非常に子供に悪影響を及ぼすのでした。以上、日本人が知っておくべき新・三大超人ケツ盟団の非道きわまり無い普通の人を襲った場外悪行のひとつとさせていただきます」ということがあったとだけ、記しておく。(ご清聴ありがとうございました)

スタジオでVを観ていたデカイ方が「なんであの正義超人、店主が酷い目にあってるのに、止めに入らなかったのかしら？」という疑問に、有吉が「数(多勢に無勢)が多かったから」と、正義超人らしからぬ振る舞いを肯定(悪逆芸人だから)。

「そうよね。負けたら、正義じゃないものね」

と、正論を口にする。

夜も更け、深夜、公園で性犯罪超人オリンピック…ではなく、公園で特訓していると、コラージュマンガにあったように、与助がプリプリマンII世にぷりぷりバスターを決められる。

話の展開としては、マスク・ド・プーリーが新技を開発するために汗を流していると、下半身

がタイトの人を身体の下に付けた与助が現れる。これは原作でなぜかテリーマンの腕にバッファローマンの腕がくっつくようなものなので、原作どおりである。

一計を案じた真ん中の人、タイトをはいた人を、ちょっと息の根を止めて、下半身と上半身を切り離し、他人の下半身を自分のモノにしてきたのだ。

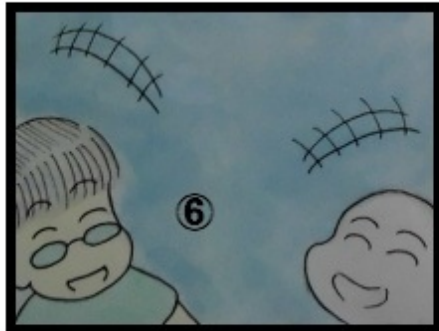
友情パワーである。

そして、コラージュ四コマにあったとおりに、尻の間に顔を挟まれた与助がぷりぷりバスターを食らい「気持ちいいいい」と叫び、ミート君の代わりに子供に「なんてやつだ」と言われる。

ぷりぷりバスター時の掛け声は『歯ざしり球団』の少年野球の監督の母親が子供をぶん殴ろうとしたときに出た「性欲！」を、真似したものだけど、それに「肉体」を足してイミフ(意味不明を略したネットスラング)な言葉を掛け声にした。製作秘話となる裏話である。

ついでに、「ケモノはマッス…数合わせの人はマッスル・インフェルノができる」というコトバの力を使って、ステカセキングみたいに技を決めた数合わせの人。『言葉を食べる、数合わせの人。』がアクションゲームの頃のなごりである。そんな頃もあった。

特訓が始まって、いくばくかすると、ミート君の代わりに子供と数合わせの人が暇になって、なんかして遊ぼうということになり、辻褄をあわせる気も無く、フェイトが尻の穴にコンパクトを刺してバンカイしないようにやってきて、もちろん公衆便所を目的に公園へやってきたわけだけど、二人(?)に見つかったフェイトは、両サイドから押さえられてしまう。（「にく」の字を書き忘れてる）



正解

製版に失敗して青色が抜けてシャツが黄色い…

ダイジェスト けて寄せ集めではありません

そんな汚いことになっているのを尻目に見ていたマスク・ド・プーリーが怒って、「プリプーリー・ミキサー」という技でフェイトをバラバラにする。

急に思いついたけど、この舞台となる公園は、井の頭公園という設定にしよう。（メガテンIIで殺人事件が架空で起きて、後にこの場で実際に起きた）

吉祥寺に住む人たちにとっては、不愉快極まりないが、そこはネットでの一ネタのためである

。「赦しましょう」ということで、無礼講でご勘弁願いたい。

カン便である。

「殺すな、憎むなよ」

下半身を切断された人の婚約者(女性)が現れたので、「恥辱を与えてやろう」とタイツを脱がして締め技を極める。(この世界内では男と女でも子供ができる・「そんな変態がこの世に存在するなんて!」と、閲覧者が画面の前で驚く姿が目浮かぶ)

そこで新必殺技ぷりぷりバーストを編み出し、新技を食らった真ん中の人は「ギャグのネタが尽きたからいらなくなった」ように息の根を止められる。



↑この顔



↑ 一回しか死なないし、 ゆかりちゃんじゃないんだから

正確には、四肢を掴まれて圧迫されるから、心臓に血が逆流して心の臓の許容量を超える血が噴出して心臓を破壊された、字義通りの必殺技を食らったからだ。胸から血飛沫をあげて、「逝く、逝く、逝っちゃう。二回逝く!」と、ゆかり先生みたいなことを真ん中の人は言う。

フェイス・フラッシュ (尻だけど)を浴びて 怪我が治る 与助

そして、 ループギャグ



まあ、実際の試合では使わないんだけどね。

友情に免じて、与助の死体の顔にサッカーボールキックを決めるマスク・ド・プーリー。

脳漿が飛び出る中、「フェイス・フラッシュで助けてやろう」とマスクをずらして尻の輝きを受けた与助の顔がみるみるうちに治る。

治った与助の顔を、ぷりぷりナックルでまた脳漿を飛ばす遊びを20回繰り返して、上半身と下半身を切断された人の下半身部分に与助の上半身を汚れた川が綺麗になるフェイス・フラッシュでくっつけて(数合わせの人に「そのくっつけ方はまずいぞ」と言われつつ)、くっついた真ん中の人と切断された人をグルングルンに縛りあげて、婚約者を脇に抱えて、マスク・ド・プーリーは夜の闇に消えていく。

残された下半身が所在なさに横たわる。

お尻の王さまを決める大会決勝、キングオブマッスル率いるチーム・ジャスティスとの対戦ではよくあるとおり、メンバーが揃わないトラブルが起こる。

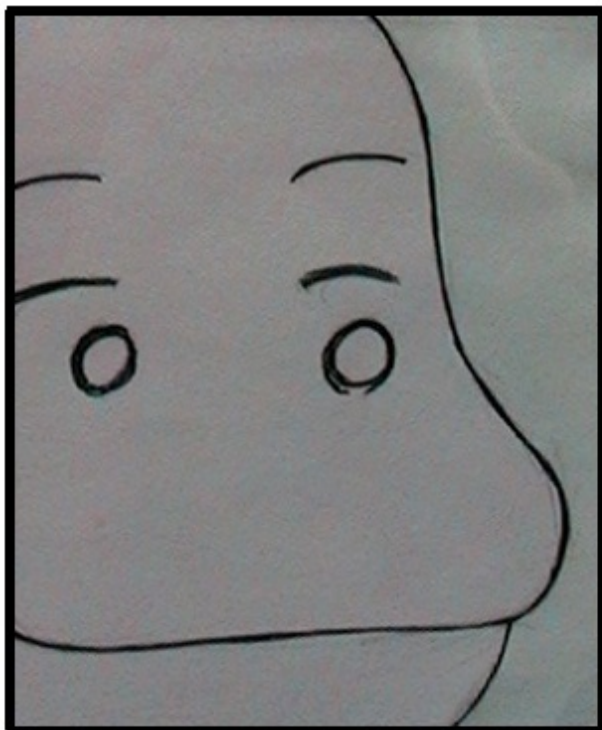
役立たずのゲリピーはデーゲームでシーズン本塁打記録の更新がかかっているので抜けられず、ピック・ザ・戦車道はおばあちゃんが倒れて、「かえるー」と言って敵前逃亡する。(ゲリピーのここまでの本塁打のうちわけ・バントホームラン34本、ランニングホームラン2本、1イニング2本塁打3回、ベース踏み忘れ2回)

仕方のない超人ケツ盟団はオトウト…ミート君の代わりに子供を先鋒に出し、時間稼ぎをする。もちろん正義超人(飯屋で飯をおごってもらった奴)にボコボコにされる。左手でうっかり正義超人(飯屋で飯をおごってもらった奴)の身体に触れ、

「クソぬぐう手で、触るんじゃねえ(アラビア語)」

と、なぐられるのは、『楽しい児童漫画』からの使い回しである。それを黙って見ているしかない数合わせの人。

ミート君の代わりに子供が
ボコボコにされるのを
ただ見ているしかない、
数合わせの人



『楽しい児童漫画』
「ヨシコ先生 ■■■狩り」から
コマをピックアップした

一方、駅前まで戦車道を追いかけてきたノーモア・ウォーは必死の説得を試みる(「お前は冷泉さんじゃない」「朝起きられない低血圧じゃないだろ」「遅刻だって一度もしたことがないし」など)、「そんなの西住流じゃない」「MCあくしずくに特集で載りたい」「誰も帰ってこないよ

うな美しい戦車を作りたいんだ！」とわけがわからないことを言う(夢の中でポルシェ博士と会ったのか?)。そこへ、ずるしマンが現れ、一計を案じて一人三役でノーモア・ウォーになりすまして最強超人キングオブマッスルを倒そうともちかける。全身タイツだから、中身を入れ替えても誰もわからないというズル、がしたいらしい。

これもまた友情パワーである。

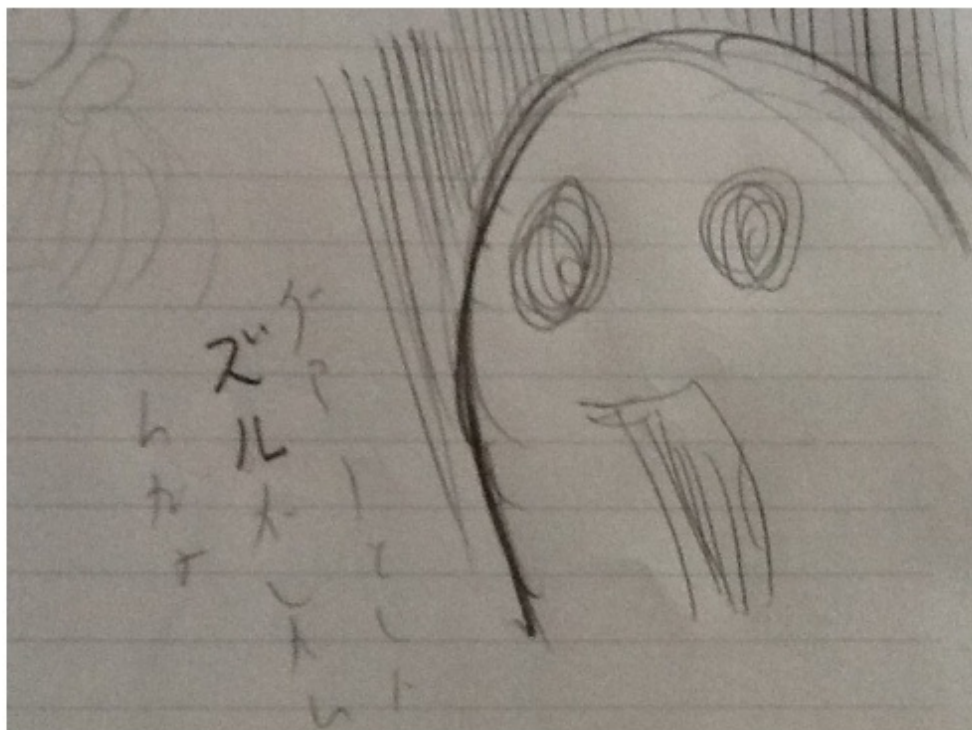
「春日君、私はね、ガーッとしたいズルがしたいんだよ」

ずるしマンのセリフに、押見修三もこれで喜んでくれるだろう。(私と同年齢なのにこんなに差がつくものなんだね。甲子園優勝投手と準優勝投手のプロ生活よりも差が開いている)

ゲーラポの11月号に採用された
カラーイラストの
ラフスケッチが見切れてるー

タッグパートナーはせいよ君
で「1000万のズルと1000万の性欲」

ずるしマンがズルを
したいと凄むの図



正直な話、もう『ガールズ&パンツァー』をレンタルして観返さないと、ネタが無い。「西住流は負けると死ななくちゃならない」など、完璧超人の掬みたいなものを放り込まなくては、いけなくなってきている。(アンチョビみたいに試合に負けたのをワンカットだけしか映されなかったり)

ストロング・ザ・戦車道。

こんなクソみたいな奴らが集まったチームと対決するチーム・ジャスティスは、寄せ集めよりもマシな程度のメンバー構成。

加藤超人(下等超人)こと島田キュウサクさんみたいな超人、なにがミラクルなのかわからないミラクルX、ポケモンなのに超人として出場しているスモッグン(ロックマンのボスキャラコンテストで落選したため、身をやつして超人になった・こんなヤツばかり)、正義超人(飯屋で飯をおごってもらった奴)。

先鋒の正義超人がミート君の代わりにの子供をしごきぬいて勝ち、次峰の数合わせの人がかなり偉そうなことを言ってマットに立つと、次のコマでは「うあああああっっ」と叫びながらギブアップする。(現役高校教師に体罰を受けたときの使いまわし)

まったく、時間稼ぎができないどころが、ミート君の代わりにの子供よりも役に立たない、役立たずぶりをみせる。

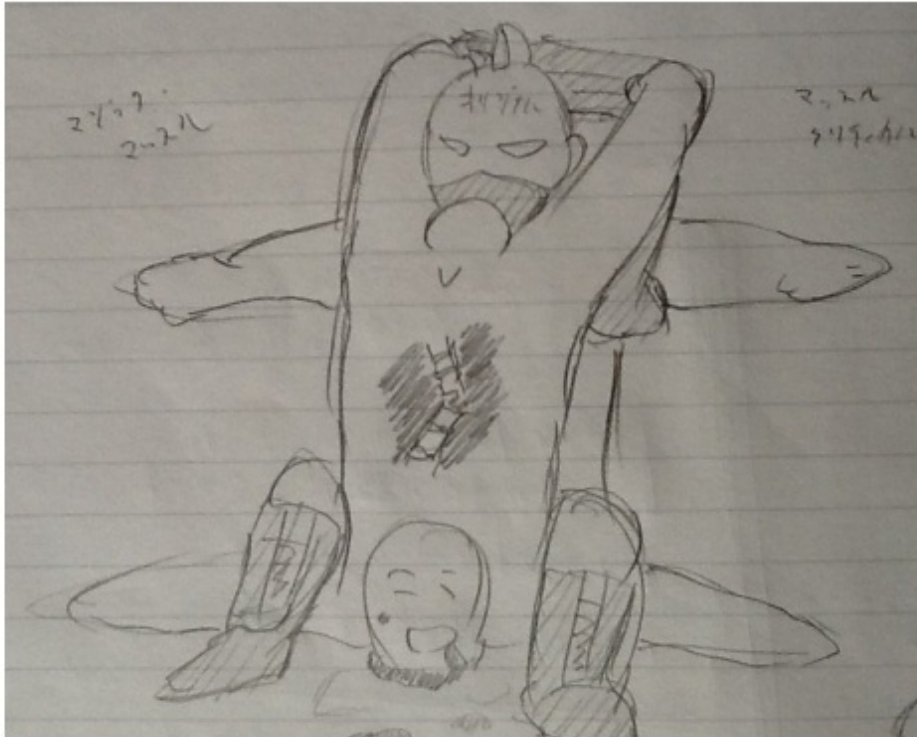
そこへ戦車道を率いてきたノーモア・ウォーが時間ギリギリいっぱいかけつける。(ずるし

マンの裏工作で不戦勝を免れた)

ここから快進撃というか、筋書きが書かれていたのではないかという、おなじみの逆転劇がはじまる。

とりあえず、四人抜きしたノーモア・ウォーは大將戦キングオブマッスルと対決する。

キングオブマッスルのマッスル・クリティカルは棚橋の技によく似ているが、大きな違いは相手のパンツを脱がさないで成立しない学生プロレス的な技である。ネイキッド（剥き出し）・パイルドライバーの変形と言える。自分が剥き出しになるのではなく、技をかけた方を剥き出しにする。



フェイスガードを出してタマキンドを雑菌が入らないから衛生的。

いじめられる人にマッスル・クリティカルをかけていじめめるキングオブマッスル(正義超人)

同じパンツを脱がして相手に技をかける点で、奴は本当にお尻の王様の一族ではないか？ という疑いを会場のお客さんたちが持ち始める。

この技を破るために、“ルール破りの悪の超人”ずるしマン（中身が入れ替わり済み）はタイトの上から、負荷をかけると破けるパンツをわざと履いて、対戦(入れ替わりしているので実質一対三)で疲労困憊になっているキングオブマッスルにマッスル・クリティカルをかけさせる。

もちろんパンツが破けて、足を封じられなかったため、返し技のクリティカル・リベンジをかけられてしまう。ずるしマンのズルで不敗伝説に終止符が打たれる。ずるしマンはここぞとばかり、倒れたキングオブマッスルの顔を容赦なく殴る。

本当は超人ではない人間が戦っていたので、キングオブマッスルの中身が死ぬ。人間だから正義超人の皆から分けてもらった命の玉も受け付けない。ゾフィーが持ってきた命を絵に書くと、命の玉になるのか？

ギャグマンガで死人が出ると、なぜか笑える。

「私にはまだすることがある」と言ってマスク・ド・プーリーはマスクを外そうとフェイントをかけてから、繰り返しのギャグみたいに死人にサッカーボールキックをする。

決勝が終わり、マスク・ド・プーリーがお尻の王さまを決める大会に一度も試合に出て戦って

いないが、それもまた一興である。団体戦のめぐり合わせとは、本当に奇妙なものである。（←テキトーなことを書いて煙に巻いている）

なんのために、深夜の公園で新必殺技の特訓をしたのか、わからない。

真ん中の人の犠牲は？

お持ち帰りされた婚約者はどうなった？

ずるしマンの考えたズルはバレないのか？

そういえば、バスター系やドライバー系でジャンプしてマットに相手を叩きつける、滞空時間があるのは、魔球が遅い球なのと同じ理由ではないか？ 魔球が遅いからミットに納まるまでに解説役のキャラクターたちのセリフで、魔球のすごさがわかる、魔球ドラマではおなじみのシーケンスを滞空時間の長さが生み出していないだろうか？ 『1・2の三四郎』がプロレスマンガとして「魔球」に手を出していない（野球マンガでいえば『ドカベン』）のだとしたら、オリジナル様は「魔球」に手を出したプロレスマンガかもしれない。

『アストロ球団』の超人だから、魔球をスタミナが尽きるまでガンガン投げられるように、プロレス技の魔球をかける。

まあ、そんなマンガ批評など、どうでもいいのである。

団体戦が終わった次の展開を考えなければいけない。

婚約者に生ませた子が活躍するのは、どうだろう。

その子をムリヤリ、男性同士で生まれた子供と言い張ると、辻褄あわせがうまくいく。きっと『トモダチコレクション新生活』でも、Miiたちは裏でまったく同じことをしていたのだろう。このマンガの最後のコマは、公園に置き去りにされた下半身である。

これは、腐海の底に沈むマスク（ゴーグル？）のような最終カットであって、別に原作どおりじゃない（エイリアンとかならバラバラになったフェイトの体がくつつく）。しかし名作の余韻が味わえる。

余計な設定チョイ足し

「1000万のズルと1000万の性欲」で普通なら2000万パワーズなのに、ずるしマンブラザーズというタッグ名。

マッスル・クリティカルはお尻の王様王家に伝わる秘技、ぷりぷりハプニングにそっくりである。

飯屋で正義超人に「無様な戦い方をして、西住流を汚さぬように」と捨て台詞を吐かれるなど、まだまだ足せる（観返してネタを拾ってきたな）。

レインボーマンとダイヤモンド・アイ 撮影場所 新潟市マンガ・アニメ情報館前 ディスプレイ・スペース



「おふくろさん」の作詞者、川内康範はヒーローを生み出している。「おふくろさん」に勝手に歌詞を付けた森との一件についても書きたいことはあるが、川内が生み出したテレビヒーローを中心とした主題から外れるわけにはいかない。

川内のテレビヒーローは月光仮面とレインボーマンが代表作だ。このレインボーマンとダイヤモンド・アイとコンドールマンを加えて、ヒーロー三部作といわれる。

しかし、これほどの作品を作っても、21世紀になってリメイク作が無いあたりに、再評価がされてこなかった気がしてならない。一応、『ごぞんじ！月光仮面くん』があるにはあるが、はたしてアレは我々が望んでいるリメイクといえるだろうか。

たいてい、石ノ森ヒーローは現在でも平成仮面ライダーのシリーズが作られている。

世紀をまたいでも、仮面ライダーの新作が作られるのは、製作の東映が生き残っていたのが大きい。月光仮面を作っていたピープロは多くの人材を輩出しながら、製作プロダクション自体が今、あるのかなのか、ちょっと私は知らない。言葉は悪いかもかもしれないが、ピープロが時代の波にもまれて、どうにかなってしまったのが一つの要因として大きい。

東宝特撮の流れも、絶えてしまったのか、枯れているのか、そこは評価として下してしまうのは、心苦しい。できれば、河崎実がヒンシュクを買って買って買まくる特撮を作っているなどの、それなりの命脈が保たれている、と思いたい。

仮面ライダーシリーズと川内のヒーロー三部作では、仮面ライダーに軍配が上がって、それは21世紀になってから新シリーズが作られている点に差が「見つかった」といえる。

スポンサーがつくとか、組織力があるプロダクションだったとか、いろいろあるが、石ノ森章太郎が早くに亡くなり、石ノ森プロが仮面ライダーの版權をゆるくして作りやすい環境にあったのは間違いない。

でなければ、平成ライダーの幅の広さは生まれない。13人の仮面ライダーが戦いあうなんて、本来版元のプロダクションが許すわけがない。はたして、生前の石ノ森がこんなものを許すとは思えないと、放映から10年に届こうという今でも思う。（とはいえ1号+2号の主人公サイドとニセライダー11人合わせて13人のライダーだからオリジナルには人数だけならある）

それは置いて、同じ素性を隠した覆面ヒーローという共通点は、実は無知のヴェールを被る暗喩になっているのかもしれない。仮面を被ることでヴェールに包まれる月光仮面は月光菩薩からその名を借り、闇に隠れた夜の世界でも月光を差して悪事を見抜くという意味がある。

仮面を被り平等に公平にきして、正義を遂行する。マイケル・サンデルの白熱授業で小難しく、原爆投下というアメリカの悪を東大生の前で誘導して切り込ませない、アメリカ人は本質的に無知のヴェールを被れないのではないか？ と、訝しく考えてしまう。

それから、なぜ私が川内ヒーローに注目するのかというと、9.11以後のテロとの戦いは、レインボーマンと死ね死ね団の対決に近い。『仮面ライダー龍騎』やアニメの世界では一連の神山作品がテロとの戦いの主題をよく表現されている。それなら、本家・本元とたとえられるレインボーマンでもできるのでは？ と可能性を感じている。

死ね死ね団と自爆テロをするテロリストに、似たようなものを感じる。ヘタをすると月光仮面がアメリカという国家に対して、正義の名の下にテロ行為にも劣ることをする…。その危うさに、すでに我々は気づいてしまっている。

川内自身の手による『月光仮面』の小説がある。そこでは、「憎むな、殺すな、赦しましょう」から「憎むな、殺すな、糾(ただ)せよ」になっているらしい。これには、オリジナルでもある、十分間悪役を説得する月光仮面のひたむき

さを思い出す。

だから、手塚プロや光プロならできるとなことを着想してしまう。

悪事を暴かれ月光仮面に説得されるが、改心しなかった人物が、後に死ね死ね団を作り、レインボーマンと対決するなど、手塚プロや光プロなどの包括著作権で契約すればできることが、月光仮面やレインボーマンだと難しい。

ヒーロー三部作ではコンドールマンだけ東映が製作し、さらに劇場版の『月光仮面』も東映製作という、権利関係がそうとうにややこしい中で、個別に管理された権利を包括するのは特殊撮影に要する手間隙と同様の予算と時間をかけることになるだろう。導火線の配線の如く接待工作もせねばなるまいか？

それは「おふくろさん」のように、うまくいかないだろう。

それなら、まったくのオリジナルで、ヒーローたちを創出するしかない。月光仮面のモデルや、レインボーマンのモデル、彼らが自らの持つ正義と正義をぶつけあうのだ。

そこで、かつて月光仮面のパロディを劇画で描いた矢作俊彦に、何かフックのようなアイデアを出してほしい。月光仮面とミスターKが同一人物だったとか、血頭の丹兵衛親分が今では、腐りきった盗人になり果てたような時代の残酷さを描いたものを見たい。「憎め、殺せ、赦すな」と言う人物はダイヤモンド・アイをモデルとしたヒーローの放つ光を浴びて、「汝の正体見たり」と、暴かれるのだ。

「もう、むかしのようなやり方は流行らないのさ」

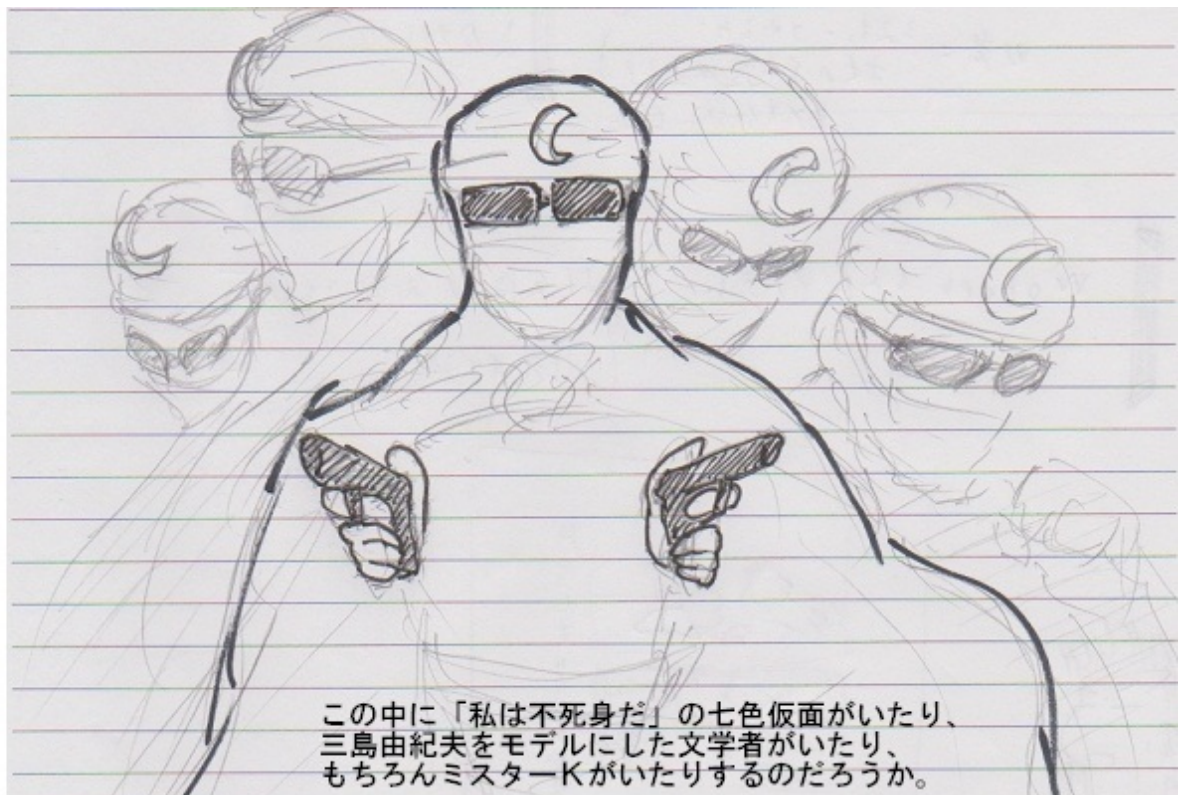
と、かつては正義を標榜した探偵が、今では日本人を殺しまくる悪の組織の幹部となり、殺人プロフェッショナルを送り出してテロ的に無辜の民を殺める人物に墮する。

それが今の時代のリアルである。

そして、レインボーマンである人物が、かつての月光仮面の人物になりかわり、自らが月光仮面になります。神様ではなく月光仮面のピンチヒッターだ。

そして、月光菩薩の化身に成り代わって、「憎むな、殺すな、赦しましょう」という正義を標榜し、孤独な戦いに身を投じるのだ。

サングラスと頭巾があれば、
誰でも月光仮面になれる！



この中に「私は不死身だ」の七色仮面がいたり、三島由紀夫をモデルにした文学者がいたり、もちろんミスターKがいたりするのだろうか。

こういうのを「月刊ヒーローズ」に原作アイデアとして送っても、没になるだろう。年代が10年も20年も古いものを描いている。私はゼロ年代を踏まえた上で、その先を描きたい。『TIGER & BUNNY』に近い話があるのは、それが時代の流れなのだろう。

それから、月光仮面のピンチヒッターは、仮面ライダーなのかもしれない。

ロト三部作をひとまとめ、デベロッパーはアルテピアッツァ

「Puboo×Paboo2014」の「ロ・トリロジー」の話題は年が明けたら引っ込めるのだが、他にもネタがある。『ダイの大冒険』でフレイザードが温度差攻撃で鎧を破壊したように、ヒヤダルコした後に「ぼ お お お」とはげしい炎（竜王の子孫が使う特技）をした場合はルカナンの効果があるみたいな、ゲーム性も入れたい。鎧が壊れるとさすがにバランスが崩れるから、ルカニあたりで手を打つべきだろう。『タクティクスオウガ』とかなら、ドラゴンプレスで防具の防御力が低下するから。（ドラゴンの紋章をルール化するとテンションシステムになる）

オリハルコンのメタルボディを破壊する魔法も、メタル狩りしやすくなってしまうが『IX』のように職業ごとにレベルが設定されているなら、アリだと思う。マホイミだっけ、ムーンブルクの王女を遡ると武道家がいれば、できるようにしたい。

新しい呪文の命名法も、古式に則って「イ・カ・キ・コ・シ・ス・タ・ト・ヘ・ホ・マ・ミ・ム・メ・ラ・リ・ル・レ・ロ・ン」の20文字と濁点と長音を付けたものに限定する。初代が容量の関係上、これしかカタカナを使えなかったこと（出展『ドラゴンクエストへの道』の注釈）から、ロトシリーズを再構成するなら呪文も同じように20文字に濁点長音しか使わないで命名する。だからマホイミはこの命名法上OK。（トレジャースリットを編み出した人間だから限界を応用する）

“はかいのつるぎ”と“はやぶさのけん”を錬金釜にくべたら、錬金釜が壊れて“はかぶさのけん”が出てきたとか、チート行為をイベントに再構成する。（本来チートは製作者側が用意したモノだが、この場合はバグでプレイヤー側に有利なことができる裏技をチートに作り直している・改造的想像力ではない）

「せかいのはんぶんを くれてやろう」も、シェイクスピアの戯曲でアントニーが戦争に負けて、レトリックで言っている「（地中海）世界の半分を失った」というのを引いて作り直しているように、イアーゴの「財布をいっぱいにしておけよ」という繰り返しのギャグを模倣して遊び人（サマルトリアの王子の先祖）が「カジノ行くな、財布をいっぱいにしておけよ」というのを勇者にしつこく繰り返すギャグをしようではないか。竜王は『シュナの旅』のあとがきに書いてあるのだが、『リア王』でもブリテン王のことを竜王と呼ぶから、そこからもきているかもしれない。

（もうこのくらいでいいか）そういえば、万里くんが入院している病院をこっそり遠くから見ていたリング先輩は、ギユイオンヌ修道院でこっそりメモリアリーフを見守っていたシスターと同じじゃないか！ 「こっちにおいでよ」って、ホイミンじゃねえんだからだ！ 墓で祈っている女性がピアンカとわからず通り過ぎるように、キャンパスで踊っている女性を想い人だと知らずに会うような…

あの修道院はどうやら、取材旅行でスペインとかいろいろ行っていたのが、参考になっているようだ。織田裕二主演の映画の題名で、アマルフィじゃない方が、モデルのはず。地名を失念。（常田富士男さんのことを加藤なんたらさんと覚え違いしたよりは、よほどいい。それにしても加藤さんって、いったい誰のことだろう？）

たしか、[春昼さん](#)がリメイク版の『IV』をプレイして、ピサロの名前から連想して「スペインが南米を支配したことを参考にしているのでは？」とレビューで書いていたはずだ。

実はドラクエファンから見たら、鋭いことを言ってる。

『III』の後に、スペインへ取材旅行に主要スタッフが行っているのである。海外旅行の経験豊富なすぎ様がツアーコンダクターみたいなことをして、堀井雄二を筆頭としたスタッフを率いていたらしい。だから『IV』はイベリア半島っぽい。ジブラルタル海峡のカディナ辺りで灯台を見てきたから、大灯台が出てくるのかもしれない。ちなみに『III』を作る前にエジプトに行ったから、ピラミッドが出てくる。『もやしもん』の石川さんが取材旅行したら取材したネタを普通のマンガ家よりもマンガに落とし込む量が多い、そんなようなもの。（『フォーチュン・クエスト』の深沢さんも同じく取材旅行で得たものをたくさん出す）

スペインでサグラダファミリアを覗いてきたから、バロックのモデルがガウディなのだろう。グエル公園も見てきたから、割った陶片で模様を作る技法をバロック設計の家が内外装していると考えていい。大人のドラクエファンなら、これぐらい知ってて当然じゃないか？ 私は10年前に『ドラクエVII』をプレイしていた時に、気づいていたけどね。

オチは「ドラクエのシナリオライター募集だって」に何度も書いてるから、あえてつけない。今から振り返ると、『VII』は取材旅行の総括をしている。謎の神殿はカンボジアのアンコールワットだ。西原理恵子の言うことには、「世界中から寄付された修復費用を誰かが中抜きしている」と言われる世界遺産。私の目の届かないところで、いつインドシナ半島に取材旅行に行ったんだ？

敵に塩送ってないか？ ドラクエの新作作りたかったら、海外にまず取材旅行に行けて、言っていないか？ 盗まれる心配は確実に無い。だってスクウェア・エニックスに入社できなかった人間が思いついたことを、本家本元が掠めとることはないだろう。（結局おんなじオチにしているじゃないか！そこは前振りどおり）

本家が出さなくても、『RPGツクール』とかで、作ればいいのだ。

そういえば、私もルーツが作成した自作RPGのようなものがあって、学校の廊下の窓を調べると、「窓の外に宇宙人がいる！」とメッセージが出て、宇宙人と戦闘になるイベントを仕込んだことがある。中ボス「弟思いの高橋」よりも、マシだと思うが、記憶が曖昧で苗字が違うかもしれない。（そういうことじゃない）

この随筆も、年が明けたらひっこめた方がいいのでは？

みんなが知っていることしか書いてない。つまり、たいしたことが書いてない。日記でもよかったのではないかな？ちゃんとしたラノベ批評をしているサイトなら、『ゴールデンタイム』のことも書いてははず。

Puboo×Paboo

女子禁制

今回はi+4の悪口を書かなかったけど、絶対に「ロ・トリロジー」はi+4よりも面白い。ゴミと一緒にされたら、ドラクエがかわいそうだろう。



スケッチ用に買ったのに、
用をなさないとわかったので
日記に転用 鉛筆で絵日記をかく

「見たらわかるか？ わからぬか？」第IV章では、『ジョジョの奇妙な冒険』を読んだことがない人には、わからないネタがある。

フランス人のポルナレフがなぜか、ボディランゲージで日本語を語る。（手を打ち「パン」と鳴らし、人差し指と中指を立て、人差し指と親指で丸を作り、目の上にひさしのように手の平をそえる…誰が教えた）

ミスタのスタンドは複数で、それぞれ額にナンバーが振られているが、四番は不吉な数字なのでいない。

康一クンのエコーズ・スリーのスタンド能力をジョルノは反射させるが、カビにする能力は反射しない。

ツェペリは波紋の修行をしていたので、家族も無く独身だったはずなのに息子と孫がいる。で、有名な「大人はウソをつかないんです。間違っただけです」という、説得力があるんだか、ないんだか、ともかく含蓄ある発言をする。

これでだいたい、荒木先生の愛すべきいい加減さを理解できると思う。

ジョジョファンの人たちには、少し痛いところをついたかもしれないが、私自身も実は『ジョジョ』が好きなマンガのひとつである。藤子不二雄〇にA氏も、ずっと読んでいると「ジャンプスクエア」の連載で描いている。それで連載25周年のパーティーに呼ばれている。ただ、私はパーティーにも行くような熱心な読者ではないだけである。ジョジョ教に帰依した信者ではないと言った方がいいか。

この間放送されたテレビアニメも、観ていて、よかった。（あからさまな褒めフォロー）

放送分の第一話のエピソードが、よく出来ている。それは原作があそこまでの流れを作りこんでいるからだ。後は放送一本分に収めるために、原作第一話冒頭の石仮面にまつわる吸血鬼伝説シーンを丸々カットするだけでよかった。

アニメ版では、ツェペリ問題の辻褄あわせセリフがあって、しかし原作にはないから、絵が用意できず長回し…その前に死ぬだろ。

それにしても、ジャンプの編集部というのは、すごいね。19世紀のイギリスなんて、少年読者にまったく縁がない。そこを舞台に物語重視のバトルマンガの新連載を描かせようなんて、思いつこうとしても思いつけない。

でも、実は『ジョジョ』には少年読者の知らないことを教えるという、啓蒙の側面がある。それはビルドゥングスロマンなのかと問われると、同じものではない…また数学用語だけど合同ではなく相似形的だ。ところどころの要素は似ている。だが、まったく同じ図形ではない。つまり、ビルドゥングスロマンを拡大させた部分の面積に、仮に空白があるなら、そこに『ジョジョ』のオリジナルの要素がある。

話を戻すと、多くは海外を舞台にしているのは、ほとんどの少年読者が海外旅行を経験していないから、海外事情、たとえばシンガポールで荷物を地面に落とすだけで罰金刑を食らう（物語中では冤罪）などの、見知らぬ土地の知識を教えてくれるものだ。（後でダ・ヴィンチの特集を見返したら、単に編集者が取材口実に会社の金で海外旅行がしたかったらしい）

それは国際感覚の啓蒙だ。

あるいは万国の奇人変人の博覧会である。（『百年の孤独』でも読んだのだろうか。チョコレート飲んでメンタリズムで水に浮いて布教活動・・・）

読者の見知らぬ土地に主人公ジョジョが立ち、奇人変人たちと出会えば、つまりそれが『ジョジョ』になる。

もうちょっと、源流を遡る話をすると『ジョジョ』の初期は、『北斗の拳』のフォロワー的な作品だった。たしか、『北斗の拳』の連載が終わってから、連載開始されていたはずだから、『北斗の拳』枠みたいなものが空いて、そこに収まった。

そもそも荒木飛呂彦は原哲夫のところでアシスタントをしていて、その頃は『北斗の拳』連載中だったはずだ。（注記・スマン。このセンテンス誤情報かもしれない。裏をまだ取っていない。どこかで読んだ気がするのだが）

それで、「見たらわかるか わからぬか」の続きみたいな話になるけど、波紋法＝北斗神拳で、石仮面の針で脳髓になんらかの作用をさせるのも、経絡秘孔を打つようなものだろう。トキが爆発的な筋力を得るために、太ももの内側にある秘孔を打ったエピソードとか、宮下あきらが本宮ひろしに似ているようなものだろうか。（直系ではないのだけどね）

「あべし」とか「ひでぶ」とかの、死に際の妙な発音を真似て、「ウリィィィィ」なんだろう。



ジョセフ女装時にドイツ兵に言われた「オメエみてえな女がいるか」はもちろん、「オメエみてえなババアがいるか」のオマージュである。



ついでに、他のことにも答え合わせ的なことをすると、『氷菓』の古典ミステリーのオマージュの話にも触れたいが、ミステリーだとネタばらしになってしまう。

昔の古典ミステリーといえるものには、カフェでコーヒーでも飲んで寛いでいたところに、二人組みの男がカフェに入店し、一言三言呟く。それを聞いた探偵役といえる人物が、二人組みの男がカフェに入るまでに、何をしてきたのかを、折木くんが校内放送を聞いて出した答えのよう

に出す。

作者があとがきでオマージュをしていると示唆しているように、ほぼ古典となったミステリー作品を今の読者に読ませるために取り上げてみようというのが、おそらくコンセプトなのだろう。古典部というのは、そういう活動をしていく部活なのだろう。

事実上の私掠船の話もそろそろしよう。

北海と言うか、北方領土近海で密漁と言うか、主権国家上の経済水域で活動と言うか、そういうことをしていると、ロシアの当局に拿捕された場合、乗組員を保釈してもらうために、日本政府が保釈金をロシア当局に払う。

完全なロシアの排他的経済水域か領海であれば、国際法上問題ないけど、日本の領土である島々の近海であった場合、事実上の私掠船行為にならないか？

という話である。

笹本さんはそれを我々に啓蒙するために『ミニスカパイレーツ』を書いているのだね。（そんなに「生けるアンナ・ド・ノアイユの肖像」が好きか）

そういえば、リチャード・ムーアは存在するぞ。

たしかカリフォルニア大学で教鞭を、今でもとっているかはわからないが、一時は在籍していたはずだ。

あれはオチとなるものが思いつかず、「とりあえず惑わせとけ」と、軽い気持ちでオチを設定したのである。惑わせオチである。

そうしてほったらかしにしていると、メッセージが来たのだ。

「マーガリン効果って存在のするの？ 夢に出てきそうです」(注・かなりおおざっぱな要約)
いや、存在するも何も、裏づけがあるモノだから、あえて惑わせオチをしているのであって、「自分たちでたまには調べましょう」という、裏テーマというか、メッセージを与えるために書いていたのだが、どうやら失敗に終わったみたいであった。誤情報を潰して情報の精度を上げる仕組みことフィルタリングが無いから、リリースしているこちら側も、テキトーなことを書いてしまっていることを「そこはかとない」笑いに包んで提供している、いわゆる「ネタ」なのだけど、どうやらこのエッセーの名を借りたものがネタだと、伝わらなかつたらしい。

復習をかねて、返信時に参考となる書籍などを知らせるために、図書館などで音楽事典などを開いて調べたが、そういう資料で裏が取れるならウィキペディアにあるので、放送大学のラジオ講義を再び聴いたりして、なんとか裏取りした。

結論を書くと、そのような参考とすべき書誌データが見つからなかった。ただ、本当にリチャード・ムーアは存在するし、80sにマーガリン効果について書いた本を出版しているらしい。

それにしても、どこかで書こうと思っていたけど、横井軍平さんの論文を書くために、横井さんの弟子を自称している米光一成にメッセージを書いて、コンタクトを取ったのに、何も反応が無かったことを思い出すと、返信をすることは気が進まないなあと、思っていた。正直。

なんだか自分だけ損している気分だ。

私はそういう人間とは違うから、ちゃんと質問には答えた。

この場合、こう書けばいい。

「はじめから、リアクションが返ってくる期待なんてしていなかった」

それで言うなら、『さよなら絶望先生』は『テヅカ・イズ・デッド』を読んで、描いている。答案ではなく、正答。「答え合わせ的なもの」ではなく、「答え合わせ」。

つまり、「マンガのおばけ」を描いた、これ以上の説明は必要ないと思うけど「ウサギ人間が人間になりすましていた」ということだろう。

これはネクロノミコンのことを知っていたら、『アラビアの夜の種族』の災厄の書のことかわかるように、見たら気づく。前提条件として『テヅカ・イズ・デッド』を読んでいたら、という但し書きはつくが。で、こんなことを書いていると、原作サイドから「書くな！」とか言われそうだけど、そんな「リアクションが返ってくる期待なんてしていない」ので書ける。

最近気づいたことだが、検索エンジンによって、Pubooの電書内の文字情報は、検索にひっかかるらしい。キャプションだけだと思ったら、中身も検索可能だったとは思わなかった。

まあ、仮に見られたとしても、柏原が『じょしらく』さんの方のツイッターをフォローしていることに、「監視されている」と担当編集者が警戒していたのに、原作者のマンガの「答え」が流出気味にネットで見つけても、無反応だろう。よねやんが無反応なのに、クメ（ダルマ親方）やんサイドに「気づかれていたのか！」と反応があったら、それはイヤだ。

「監視しているのは、お前らの方だ！」

柏原 → 鈴木さん → 私

で、これじゃあ、まといちゃん初登場時のストーカー数珠繋ぎだよ。こうなると、私が柏原を監視するのが筋か。『とらドラ！』が好きだから、『じょしらく』もフォローしているのだろう。

……いかん、心がささくれだってる。

「オレ、損している。自分だけ損してる」

と思い、とんだやつあたりをしている。

はたして、横井さんが生前に何らかの質問に答えてほしいと連絡があれば、「文藝春秋に寄稿したものに書かれていた“踏み台にされた”方って誰ですか」みたいな、「それは答えられない」ようなもの以外は、答えてくれると思うが。(ちなみに私は心当たりを二人知ってる)

最後の答えあわせ的なものをする、書評の「驚きの白鳥の水面下」を引き立てるために、オセロ中島や田中裕二と「柏原の嫁(私は梶君にお金をあげたい・裏を取っていない。イサキさんが好きなんじゃないのか?)」のことをいじっていたのであって、他愛の無い構成ギャグをやっていたのだよ。構成上、読み進めていくと後ろの方に書評があるわけだから。

普通はこんな種明かしはしない。

奇術師がマジック見せた後に、「これが仕掛けだよ」ってマジックの種明かしをしないだろう。ミスターリックが山手線車内の映像広告でやっていたステンレスのおたまを脇に抱えていたのとは違う。

花澤さんには、悪いことをしたなあ。(その分罪滅ぼしはしたと思う)

楽しかったけど。

あちらの「Puboo×Paboo2012」で2012年十月頃書いたものを
こちらの「Puboo×Paboo2013」にプラスを加えてアップ
それにともない、大幅に加筆修正している。



答えを言うな

広告

マンガレビュー
マンガ病の処方箋
桜玉吉『幽玄漫玉日記』

ブクログのパー内
本体価格10yen

投げ銭方式のため全面閲覧可能

『新・建築入門』の第一章「建
築の危機」で、ハンズ・ホライ
という建築家が「メンタル・コ
ンプレックス・ピル」という「建
築作品」を取上げて飲むことによ
って、閉所恐怖症の患者が改善さ
れる。患者の環境を改善する（閉
所にいる事への恐怖感を取り除く）
という「構築」を行ったというこ
と、すなわち「建築」を行ったこ
とである。と、ホライは主張する
のである。

「第三部を読み返すと、『シェルターがわりのカンオケ、二つあったのか?』と子供のときに思ったのを、もう一回思い出した」
それにしても、『ありえない未来の思い出たち』なんて、答えが用意されていないマンガだからなあ。

このレビューは誰か他の人がやるべきだ

『まおゆう魔王勇者』は、いろいろな書籍で、批評することができる。

新城カズマさんの『物語工学論』でキャラクター類型がわかり、『資本論』で「知恵によって冬越村に本源的蓄積（訳によっては資源的蓄積）がなされる」といえる。中世史であったようなことをモチーフにしている。たとえば百年戦争を終わらせた功績の英雄ジャンヌ・ダルクの魔女裁判やルターの宗教改革など、いろいろ語れることはあるが、それは私がするべきではない。

『サイコパス』もそう。

これは『マンガ夜話』で『攻殻機動隊』をとりあげたときに語られた、岡田さんの「第一次産業が姿を見せない」からそこは少し表現しようとして、さらに「集団に流されるわけではなく、かといって集団から離れるわけじゃない」という裏テーマともいえることを、主人公はやっている。

あんまり言いたくないのは、「免罪体質」って小沢一郎が無罪判決されて、そういう人物たちが議員立法制度の中にいれば免罪されて、中にいない堀江貴文が有罪（部下が勝手に株式売却益を会計操作して差額分50億を着服された罪・・・他所に書いてあるとおり、これは私の誤認であった）にされるようなものだろう。（検察は家宅捜索して、着服金の一円も堀江貴文が得ていない事実を知っている・・・他所に書いてあるとおり、これは私の誤認であった）

このような「賢人の統べる理想社会」については、須賀原さんの『うああ哲学事典』のベンサムの回を観たら、問題点が明確にわかる。

ブックリンク

須賀原洋行 『うああ哲学事典』 ブクログのページ

「ベンサム」 <http://p.booklog.jp/book/8014/read>

唯一、私が語れることは、こんなポスト攻殻のようなことをやるのなら、土郎正宗並にクレバーでないといけないのに、残念なことに初期首脳陣はそうではなかったから、虚淵玄さんを招聘しなければならなかった、ということだろう。強烈にクレバーな人物に頼らないと、できないことがある。

ここらへん、ハリウッドの交替制の脚本家の使い回しでは、文字通り話にならない問題で、できる奴がやらないと、できないことである。

批評で「カリオストロ公国と北朝鮮」という、あまりにもド直球な批評テーマがある。だが書いている途中でやめた。

ゴート札と同じく、「緑の金」と呼ばれるアメリカ・ドル札を偽造して、クラリスを幽閉するように日本人を拉致して、さらに工作員が拉致被害者になりすましテロを行う。なんだ、『ガタニイ・ビレッジ・ヴァンガード』で書いていることと、同じじゃないか。

宣伝か？ 宣伝なのか？ （そうです）

あれは、日本人である拉致被害者にスタッフがなりすましてテロをすると、テロ被害国と日本の関係が危うくなるなら、北朝鮮の戦略テロであって、実際にキム・ヒョンヒが日本人になりすまして大韓航空機にテロを行った事実が、はっきりしているのに、なんかテレビや新聞ではその実情を報道しない。

もし、キム・ヒョンヒが北朝鮮のスタッフであると自白しなかったら、いまだに韓国の人に、「日本が我が国にテロをした」と批難轟々のことを言われていたはず。

それは大変だったろう。

中国も環境悪化により、PM2.5という腐海の瘴気毒をばらまいて、いつのまにか毒が必要なように我々は改造されていた…ことがナウシカによって暴かれるかもしれない。

そういえば「MAG-RL」で書いたけど、「オーマ＝アトム説」は有力なのだろうか。

墓所の主が見せる幻影がカール・マルクスに似ていて、さらに道化に乗り移ったヤツがエンゲルスに似ているのは、皆知っていることだろう。

これは、解説不要だと思うが、たしか『資本論』の一二巻をマルクスが執筆して、三巻目以降をエンゲルスが編纂・執筆したことの表れなんだけど、「見たらわかる」だろ。

こういうものは、私が書くべきではなく、マンガの『RED』で、

「総括しろ！」

と言いながら、仲間を殴るみたいに、内ゲバルトメントをするべきだ。

そうではなく、新しい朝には新たな奴隷が必要なのだろう。

「失政とは政治の本質だ」とか、含蓄に富む発言などを引いて、お茶を濁すことばかりしているのが、マンガの『ナウシカ』の批評になってしまう。

誰かがちゃんと書かないと、後世の読者が首を傾げたり、研究者に余計な仕事を増やしたりすることになるから、誰かやるべきだ。

「総括」ついでに、『コクリコ坂』は吾朗監督の前作の『ゲド』と比べれば、良くなった、良くなったと評判だったけど、興行成績は50億で前作の半分である。『ポケモン』の映画みたいに、バイブルベルトに住む共和党支持で福音主義の方々がロビー活動的にポケモン・バッシングをした結果で興行成績が半分に、そのまた半分になるような、なにか事情があるわけではないのに、これはまずい。

どこかに行くわけではないが、

「いけませんねえ」

である。

他のアニメ製作会社なら、この興行成績はすごいけど、ジブリは給料制度でアニメーターの技術を維持しているから、このまま興行成績が落ちていくと、危険だ。

これは日記だから、個人的な意見を書けば、ジブリが滅んでも一向にかまわない。二木さんのような優れたアニメーターであれば、もうどこでも、歩合制でもなんとかなるだろう。

ただ、危機感を感じてほしい。

仮に月々30万円ぐらいの給与を払うとしたら、企業は福利厚生も含めて年に400万円ぐらい社員

一人に払うことになる。映画一本作るには百人体制だから、例のドキュメントビデオの鈴木敏夫プロデューサー（押井守監督の実写映画で「女ゴルゴのマカロニウエスタン」張りにスナイプされた人）の発言にあるように、「ジブリの生産力は月五分」の生産量を考えると、120分の映画が出来るには丸二年かかる。

その人件費はおよそ8億。素材費や設備費はまだ入っていない。

興行成績全てがジブリに入るわけではないが、ビデオグラムなどでペイメントなどのことを考えていないビジネススキームだとすると、映画の興行成績は100億をコンスタントに越えなければ、ダメだ。

だから、「危機感を持つ」というのは、おかしくもなんともない。

問題は誰もこの点のことに触れないということだろう。滅びていくモノというのは、必ずこういうことが起きている。

誰かが言わなくちゃならないことなのだが。

こういうことって、スポンサーの問題で書けないのだろうか？

『マンガ夜話』の後期になると、マンガ家サイドから「褒めることばかり言ってほしい」という、「それはあの出演陣では無理だろう」といえる要望が来る。そもそも民放だったら、多番組でいろいろスポンサーがいてややこしいから言えないことを、公共放送（実質的には国営放送）だから言っちゃっていい場であった。

言っちゃっても、生放送の事故だから、という謎のエクスキューズが成り立っていた。

これも日記だから、「日記に書かれていることだから」ですむのだろうか。

ついでに

「答え合わせ的なもの+」で『テヅカ・イズ・デッド』で手塚の『地底国の怪人』の耳男くんがロンペンの子供になりすましていたように、あのマンガは隣の女子大生に女子高生がなりすましていた、さらにその女子高生すら誰かがなりすましていたという話で、これはもう伊藤剛さん本人が、レビューするべきなんだよ。

一言申せば、「実はハーレムマンガになりすましていたギャグマンガであった」というのが、実態であったのだ。

いらないと思うけど、褒めフォローをすると、最終回まで読んで感動させて頂いた。しかし、それは『テヅカ・イズ・デッド』をすでに読んでいた前提があつてのことであって、果たして少年読者に通用していたのかは、わからない。（本当にいらないことを書いてどうする）

ただ、私が書くことがあるなら、このようにマンガ表現論系、夏目伊藤ラインのマンガ評論をかなり参考にしていることは、間違いないだろう。改蔵くんが人差し指と中指を交差させるのも、『夏目房之介の漫画学』で「変な指先を書く作家」の話題をしていただろう。あれを意識してのことでは？

さらに『マンガはなぜ面白いのか』で吾妻ひでをがコマ枠を取り除いたマンガを描いていることに触れて（第九章 コマの構成）、同じギャグを『かつてに改蔵』でもしている。

つまり、ガモウひろし（デスノートの作者）と同じことをしていたのだ。

開放系は自分たちの影響力を高めるために、何かいろいろしているけど、年代の波(ゼロ年代・10s年代の想像力)に乗れなかったから、ダメだった。ところが表現論系は、まだ検証不足だけど、かなり本業の人たちに影響を与えていると考えられる。

…自分のことを言うのもなんだけど、「別冊少年マガジンの『マンガの現場』をパロディ4コマにしたよ」にあるマンガを読まれると、元ネタがバレてしまう。『アトミック街』の努責作用とか、さすがにないけど、他はマズイかもしれない。

『MOTHER4』なら作れる

ハミ通の伊集院光の連載で、「『MOTHER4』は作れないのか」ということをおっしゃっていたが、これに私は答えることはできる。

『MOTHER4』のテキスト・シナリオを任せられたら、私はできる。

「80年代のテキスト空間」で糸井さんのコピーライティングについては、押さえることはできたし、スタジオジブリの「一枚の絵から映画ができる」ようにたった一言のキャッチコピーからゲームを作ることも可能だ。「コトバを食べる、ケモノ。」は「一枚の絵からゲームを作る」ようにできたし、そのゲームを表す構文であるもの(キャッチコピー)をそのままタイトルにしている。

そもそも「コトタベ」自体、糸井さんの技術をジョージのように盗み……

まあ、それはいいが『MOTHER4』は海外でジョークかエイプリルフールのネタで、製作されているはず。

そして、冷や水を浴びせるようなことを書くが『MOTHER4』の製作に私が参加することはない。

それこそ、“あり得ない未来の思い出”であって、もう私は終わったゲームクリエイターなんだよ。

切ない気持ちになるから、これ以上読まないほうがいいね。

そもそも『MOTHER』のオマージュそのもののゲーム企画があるけど、それは絶対にゲームとしてリリースできない。(一応、マンガやアニメにならリリースできるという含みは持たせてある)なぜなら、私はゲーム会社に就職できなかったんだから。

バンナムに入社できたら、今頃スマブラ作っていた(クロノア二段ジャンプ時にWiiリモコンを振ってムーンサルトとか・ネタ潰しというか、『風のクロノア』本編で使えるネタ)だろうし、レベルファイブにいたらジロさんの下で誤字脱字の多いテキストを作っていた。

しかし、これはあり得ない未来の思い出になった。

その理由は至極簡単だ。

自分が天才ではなかったから。

天才であれば、苦労なんかしないし、自分が作りたいもの、『MOTHER4』でも『5』でも作れただろう。

岡田さん、岡田斗司夫さんはスマートノートをつければ「天才は誰でもなれる」ような言い方、つまり「天才に誰でもなれてしまうような錯覚」を持たせて商売上手だけど、そんな悪人正機的な「誰でも天才になれる」なんて錯覚だから、早く目を覚ませ！

終わったゲームクリエイターとはいえ、ゲームクリエイターとしての矜持をイヤだけど見せるとしたら、「四番目のマジカントを見つけ出せばいいのだ」ということだろう。「Lost Bros.」の

作者なんだから、できて当然で、私ができるということは、誰でもできる。それはそうだろう。誰でもできることしかできないという評価を受けたから、ゲーム会社に入社できなかったという事実は、何よりもこの主張に説得力を持つ。

つまり『MOTHER4』は誰でも作れる。

ただ、知識がないと苦戦するだろうね。

全共闘世代が共有している「中くらいの物語」を糸井さんと同時代・同世代の高橋源一郎などが持っているとか、現代文学の基礎知識を持っていないと、手がかりをつかめないし、足がかりをふめない。

高橋の小説で「そのとき」のことを書かれているとか、知らないとねえ。

糸井重里の発言であるように箱庭療法として作られているということは、敗れ去っていく社会変革の事実を癒し・慰安をするために、資本主義が生み出したハリウッド映画というエンターテインメントを観て楽しんでしまう、矛盾に引き裂かれるとか、今だったら「マジカント＝クラウド」ではないかなどを反射神経で出るとか。(この構造は『ありえない未来の思い出たち』と同じだ) まあ、知識さえあれば、という但しはつくが誰でも「『MOTHER4』なら作れる」ということだ

。

四季折々の花に溢れるイングリッシュガーデン

珈琲さとう

もともとは荒れ地だったお店周りを少しずつ開墾していったというオーナーの佐藤さん。今では様々な草花が、訪れる人を癒しています。もともとは自分のために庭廻りをせじめられたことで、たくさんの方の心を和ませる「みんなの庭」にならなうこと。お客さんと庭づくりについて話すことも多いという佐藤さん。

庭を通じて色々な人と知り合うことができ、庭を作ると本当に良かったと感じているそうです。お店では、佐藤さんが年間試行錯誤を繰り返して作ったという「コート」「船内の四季」や「奥船内」(各400円)と「日替わりの手作りケーキ」(280円)や「かぼちゃパン」(300円)など、他では味わえないメニューがそろっています。気候のいい季節は、ガーデン席でくつろがれる

方も多いとのこと。緑に囲まれ、爽やかな風を感じながらのティータイムは、現代人の疲れた心を癒してくれる」と間違いないです。



1 開放的な店内。窓辺にも緑が広がっています。
 2 オリジナルブレンドのコーヒーと手作りのブールケーキ。スポンジ部分にはコーヒークリームが入っているこだわりの品。



① 船内市塩沢1424-7
 ☎ 0254-47-2439
 ☎ 10:30~18:00
 ☎ 毎月曜日

地元配られるフリーペーパー
 ご覧の通り「珈琲さとう」の紹介記事

中条駅前の「角力軒」と並ぶ
 「コトタベ」の聖地だから
 巡礼してきてお金を落とさない。



売れた作家はねたましい

「私ってほら、ラノベ作家になれなかったじゃないですか」

だから、売れているラノベ作家は、満遍なく嫌いである。

この発言に嘘偽りが無い。100パーセント本音で、少しは建前を入れた方がいいかもしれないが、そんなことはしない。売れていると、それだけでマイナス要因だ。

なぜなら、自分が売れていないから。

しかし、借金があると別だ。ジャンルは違うが、山本一力さんみたいに、何億も借金を抱えていると、売れていても応援したくなる。

最近『ささみさん@がんばらない』を読んだ。

それで、橘公司くんみたいに、たまちゃんに「おなかぺっこぺこだお」とか言わせて、古いラノベファンを喜ばせようと、しているが、

「だまされないぞ！」

である。

俗流進化論があるように、俗流神話論に基づかれている『ささみさん』は、とってつけたようなフォローをすると、面白い。

日日日（「あきら」と読む。絶対零度で保存されている方ではない）くんは、売れているから、これ以上の評価をいらないだろう。

これは単純に売れていることへのやっかみであり、それ以上でもそれ以外でもない。

アニメの方は、私はシャフトを裏切って京アニ派についた（改心した）から、もうシャフトアニメをほめたりできなくなった。2011年のベストアニメも、例の魔法少女アニメから、DyEの「ファンタジー」のPVに歴史修正した。歴史修正主義者だから。

まあ、日記だから、何かオチを用意せずに、これで終わる。

2013.5.25頃に書いた

物語の解体業者、事業展開がなかなかできない

どうも、だましネジを回しているような気分の話題がある。

だましネジとは、赤瀬川原平の『ライカ同盟』にあった、カメラの修理をする人が、「このネジを回すと、カメラが分解して、元通りにできなくなる」と言われるだましネジのことだ。

だましネジと疑っているのは、アニメの『サイコパス』が『白鯨』を種本としているようだ、と断言したいんだけど、なにかひっかかるものがあるってできない。

キリシマ聖護が…榎島聖護がモビィ・ディックだと、見立てると、後はピースがはまっていく。

片足を奪われたように、相棒を奪われた慎也くん（「けものに交」の字が表示できない）がエイハブ船長では？ それで、朱ちゃんがエイハブ船長に異を唱える、（星を背負う者）スターバックなのか？

鯨の解体作業（スフィンクスの章）を髣髴させるのが、標本事件ではないか。

捕鯨と犯罪捜査は似たようなもの、というよりも、ドミネーターはモリのようなものなのか。

イシュメールとクィークエグ（スペルはQueequeg）と「花嫁に抱きつくような」同性愛的なことを行っているのが、性別反転しているとか、シビュラシステムが滅ぼした部族の名をとられたピークオド号、シビュラに滅ぼされた者の集合で出来ているとか、このように符号は多い。

ここまで書いてなんだけど、だましネジを回してないか？ そういう疑念に捕らわれる。

世界中の辺境から集まってきた乗組員たちのような、犯罪係数が高いために執行官に甘んじる捜査官たち。これは昔からある、一芸に秀でたスペシャリストたちが集まるモノには多い設定だ。

他の捕鯨船とジャム・セッションじゃない、ガムにあたるのが、執行官の人員交換やアバターを通して行う裏取引のような、そういうことも考えられる。ガムというのは、謎だからなんでもこじつけられてしまう。（『白鯨』の批評ではガムの解釈がその批評の優劣を決定する…はず）

よく調べてみると、実は『ニューロマンサー』が『白鯨』を下敷きにしていないかとか、そういう「ほんの少し調べる」ことをしなくてはいけない。私はお金が無いから『ニューロマンサー』を買えないや。

うん、本のセールスマンのネタにしよう。

こんなことより、アニメの『21エモン』は『アイカツ！』の父親だ！ という話がある。

榎島がモビィ・ディックとわかれば、『白鯨』を種本にしているのかもしれないとわかるように、ダンスの先生ジョニデがゴンスケのような名バイプレーヤーとわかると、「宇宙飛行士を目指す話から、アイドルを目指す話」にしているのが、『アイカツ！』だったと言える。（「オトナ帝国」を“安全な痛み”にしている『三丁目の夕日』などのフォロワー作品みたいに、キャラクターたちに毒気が抜かれている）

こちらには、だましネジはない。

だから、アニメレビューの電書は作れると思う。

話題は、雑誌「オトナアニメ」にこの「アストロノーツからアイドルへ」を寄稿しようと、一

時思ったが、やめた。

つまり、私は寺脇研にはなれないし、ならないということだ。

想定読者の年齢層が、『21エモン』の本放送を観た年齢層（団塊ジュニアを中心とした広範囲の世代）と重なるはずだけど、どうかな。

「アストロノーツからアイドルへ」は実際の21世紀になったら、宇宙飛行士を目指すのではなく、アイドルを目指すようになったということではないか、という批評だ。リアルに宇宙飛行士を目指す話は『宇宙兄弟』に任せればいい。

それと同じで、プロライターに任せればいいのでは？

まず、環境がいいからね。スタッフに直接インタビューを申し込んで、「『21エモン』を意識して作っているんですか？」と、訊けるわけだろ。

…サンライズだと、会社にギャラを払わないと、スタッフインタビューが出来なかったんじゃないかって？ あれは人気作だとインタビューや取材がメインスタッフに集中して、製作作業が滞るから、ギャランティー制にして取材引き受けをしぼっているんじゃないかって？

話を戻すと、私もできればやりたいけど、ギャラが出なかったら、やらない。

元・文科省の寺脇研は雑誌の「キネマ旬報」に寄稿していた時期があるけど、それは自己顕示欲を満たすためだろう。私はわかりやすくビジネスだ。

確かにたくさんの読者に読んでもらいたいけど（それなら女子禁制やめろよ）、そこは「ビジネスだから」譲れない。

寄稿しても、そもそも、載らないだろう。

誰も私のテキストを求めてないからだ。

前に書いた通り、雑誌「ゲームサイド」にライター募集に応募して私はダメだったわけだよ。

それは私のテキストが求められていないということだ。

その呪いで雑誌が亡くなられてしまったけど。

だから、次のようなことを言える。

「はるかなる“西方”」の参考にすらならない、再録記事ばかりの「シューティングゲーム」なんて売れない本を作って、赤こいてるのを『琴裏さん』で埋める。

そんな出版社。

ゲーム雑誌の運営はどこも難しいのは知っているけど、もう少し雑誌「ゲーマガ」には続投してもらいたかった。なぜなら、系列会社のガンホーが一発当てたからだ。

ソフトバンク傘下のガンホー・オンラインが『バズル&ドラゴン』であてて、どのゲーム誌にもそれなりの特集記事があるのを読むと、「あと半年、続投していれば、系列のよしみでいろいろな特典とか特別掲載できただろうに」と、「ゲーマガ」は惜しいことになったのを悔やまれる。(しばらくして「艦コレ」特集をしたコンプティークが飛ぶように売れたことで証明された?)

でもソフトバンク・パブリッシングは、賢明な判断をしたとも、思えるんだよなあ。(上げて下げる)

節税対策で、赤字雑誌を抱えるという方法もあったけど、もしかしたらビデオゲーム雑誌としては復刊することはないけど、ソーシャルゲーム雑誌としては復刊するかもしれない。いらぬ希

望を語ってしまったか？

それで、宇野常寛さんの第二次惑星開発に参加したいから、雑誌「ダ・ヴィンチ」の方にメールを送って、音沙汰無しだから、「ああ私は惑星開発室に参加できないんだ」ということらしい。

だから、スクールカースト小説の話とかはできないんだよね。

少し前の文学シーンでスクールカースト小説の作品がぼつぼつあって、『ゼロ年代の想像力』でも『野ブタ。をプロデュース』が触れられている。（作品内容は単純に「自分が変われば世界が変わる」という、ポジティブな変化を認めようという話）

しかし、こうしたムーブメントはすぐに終わってしまった。

ところが、ラノベ方面ではスクカ小説が何故か、生き残ってしまった。

『はがない』とかもそうだし、本来現代文学の作品が描かなくちゃならないことを、『俺の青春ラブコメはやはり間違っている。』で描いてしまっている。

かなり、簡略して説明すれば、

「比企谷くんは、ジョーカーが出てきたくらいの衝撃がある」

と、いうことになる。

『野ブタ。』で書いていることを真っ向から否定している。作者は、あるいは主人公は明らかに『野ブタ。』批判の側に立っている。

それに対して、宇野さんは『ゼロ年代』でも書いているように、『野ブタ。』を絶賛して（特に木皿泉脚本のテレビドラマの）内容を肯定している。

こういうことを書く媒体は、『プラネット』が適切だろう。

しかし、返事がこないということは、「もうこのことについて書かなくていいんだ！」ということだから、それはよかったのだろう。胸に手をあてると、『あの花』や『風たちぬ』のレビューで語るようなオデュッセウス・コンプレックスの話とか宇野さんは鼻で笑うと思うなあ。よく考えたらプロライターが自分を高く評価するわけが無い。

ただ、私が書かないということは、いずれ宇野さんが『野ブタ。』と『俺コメ』（『はまち』が正しい略称らしい）の相対評価の批評を書かなくちゃならないことになるだろう。（それがわかっている編集者がいたらの話だが）

そのときは、スリップストリームでラクをしよう。加速をつけて追い越すような、批評を書こう。

話はなんだか、予定通り迷走してしまったが、どうせ、「オトナアニメ」もそうだろう？

バックナンバーを読み返しても、新人ライターが抜擢されて、面白い記事を書いているみたいなことはない。今までなかったから、これからもない。

「オトナアニメ」が目指すべきなのは、寺脇研の登場ではなく、主要購買層である団塊ジュニア世代という客をいかに掴むか、ビジネスとして成功するか、ひいては雑誌の生存競争に生き残れるかという課題のクリアだろう。ムック本の乱発で見た目上うまくいっているようにみせかけることができるが、返本された時には取次ぎにお金を返却しなくちゃならない事情を考えると、もって後二三年だろう。（経営実態が見えないから採算ラインを越してるのかわからないが、とも

かく「ゲーマガ」は取り次ぎに払う借金がかさんだことで休刊の憂き目になったろう)

この団塊ジュニア世代というマスグループがどう考えてもビデオソフトを買ってくれて、さらにアニメ雑誌も買い支えてくれているのだろう。

(大きい声では言えないが、今の団塊孫世代がおもちゃから卒業したら、日本の玩具文化、玩具業界は壊滅する)

さて、物語の解体業者とは私のことだが、なかなか事業としては、その性質上、展開していけない。

私は宇野さんのやっていることを、ちょっと自分でやった方がいいのかもしれない。編集者として新世代のマンガ評論家を集めて21世紀の「マンガの読み方」をよっぴーとかに原稿オファーして作った方が、いいのかもしれない。(本当は「惑星開発室」に参加してコネクションを作ってから出ないと…むずかしいけどね)

「人間の限界とは言葉の限界であり、それは文学の限界そのものなのだ」

というクンデラの言葉を覆すために、よっぴーの評論は、しいて言えば卒業論文が必要なのだが、私がプロライターでないと、オファーに応じてくれないのはよねやんのときみたいに、目に見えている。

繰り返せば「オトナアニメ」も、原稿なんて書いて寄越しても迷惑なだけだろう。

私の「無人島アニメ（無人島にひとつアニメ作品を持っていくなら、これを選ぶという意味）」は『21エモン』だけどね。

火消し

堀江貴文と岡田斗司夫さんがアニメを作るとか、作らないとかを今日（2013年6月13日）、ニコニコ動画の方で放送する対談番組があるそうだ。

「すみません」

去年の書評、「脱洗脳塾、開校！」で書いたのは、冗談、ホラ、ほめ殺しであって……真に受けちゃダメだよ！

サンタさんを信じるみたいなことだ。たとえるなら。

これから語る部分は、イヤだけど多根さんと意見を同じくするけど、アニメプロデューサーとしての岡田さんは、とっくの昔に死んでいるんだよ。

具体的に言うと、『サイレントエフェクト』がアニメ化されるような話があっても、岡田さんにプロデューサーの話はいかない。話の流れで、そういうことを書かないと、ケナしているだけの書評に読めてしまうから、イヤだけどおべんちゃらを書いたままで、本気にされる（ほめ殺しと書いてあるのに本気にする奴はいないと思うが）と、ちとりテラシーを疑う。（アレをけなししているように読めないなんて）

ディスカッション・パートナーが堀江貴文だと、金を引っ張ってくる話になるけど、東大生の大学ベンチャーだから、お金を貸してくれたのであって、アニメにはそもそもお金を払ってペイする製作会社やいろいろ（ジェンコとか）あるから、新規参入をするのは、ほかとの違い、いわゆる差別化ができないと思う。

それはライブドアで出来なかったことだ。

国産検索サイトとして、完全統合的なことをしようとして競争力を持たせたかったライブドアは、結果としてグーグルに負けた。そのため、ビッグデータは海外の企業に握られてしまったのは、蘭学者グループを弾圧して海外との科学力（＝軍事力）の差を作ってしまった幕末の頃と同じだね。（もちろん、私はビッグデータをモンスタームする作品はすでに手掛けた）

皮肉だよな。『お～い竜馬』を読んで経営者になろうと思い、それでなってみたら、幕末の風雲児たちのように弾圧されるって。近代法治社会になっても、日本は江戸時代から、メンタリティが変わっていなかったという非常に残念な話である。

話を戻そう。

もし、アニメでSFを扱う場合、しきりなおしをしなくちゃならない。

啓蒙を一からやらなくちゃならない。

『ニャル子さん』で、「物語には伏線というものがある」を読者に学習させているように、SFアニメを作るなら、ロケットを飛ばす話の前に、原始的な科学の物語を視聴者に見せなくちゃならない。

最近、そういう随筆を書いているのだ。

まあ、裏付けや根拠を示さずこういうのはなんだが、「堀江岡田アニメは失敗に終わる」だろう。やる前から、なんとなくわかる。

「ごめんなさい」

こういうの、わかっちゃうんだよね。

エッセーにリンク

脱洗脳塾、開校！ <http://p.booklog.jp/book/41497/page/969174>

空欄を埋めたいので、何か記事でも

『サイレントエフェクト』はスポンサーさえ付けばアニメ化はできる。

そのことについては、「脱洗脳塾」でいろいろな商品化はできることで、示唆している。

もうひとつ、スポンサーがついてくれる可能性がある商品は、フィギュアだ。

そうなるのと、とりあえずグッドスマイルカンパニーに話をもっていきたい。

グッドスマイルカンパニーには、パステルを作っていたいただいた恩義がある。

後は、鈴木康士にデザインした（してほしい）クリーチャーたちを、製造元に葦沢さんのクリーチャーをフィギュア化しているところでやってほしい。

販売元と製造元が違うということだね。

岡田さんのプロデューサー要請は冗談だけど、これは本気だからね。

それから、ワヨンちゃんの声は、別に花澤さんではない。

なおみちゃんである。

もしかしたら、勝手に香菜さんに声をあてさせたいと、「無機から有希へ」と同じで、図らずもミスリードをしてしまったかもしれない。

安心してほしい。

「そんなことはない（断言）」

「香菜、頭をよくしてあげよう」
は、ダウンロードデータでも打ち止めとなりました。
いずれ、機会があれば『声優列伝』に収録され、
有料で読めるようになると思われます。



なんで？ どうしてだろう？

雑誌「ゲームラボ」の「クトゥルー神話」特集は、「クトゥルーもの」に明るくない私に、蒙を啓くように知見を与えてくれた。

ところが、触れていてもいいはずの『ファイアーエムブレム』には、触れていないのである。どうも、『ファイアーエムブレム』も「クトゥルー神話」の影響下にあるようなのだ。

クトゥルー神話体系と妙なかけ合わせをしている。

加賀省三さん…横井さんの薫陶を受けたけど浜村通信の「会話」コマンドでイムズから離反した加賀省三さんは、『暗黒竜と光の剣』は古代ローマ帝国をモデルにしていると、たしか「FE通信」で書いていたはず。

だからガーネフはキリスト教の有力者だ。なぜなら、キリスト教は国教になるまで、邪教として弾圧されていた。そして、ローマ帝国の国教になると、ローマ帝国が東と西に分かれるだとかの原因になっていく。（ここらへん裏取っていないな。ただ、mixiの日記にも書いたけど「災いをもたらす者」とはキリストのことだ）

で、そのガーネフの使う魔法が、マフーである。

魔道書がネクロノミコンの派生したものと考えると、クトゥルーの邪神たちのような悪霊が襲い掛かって、SAN値がピンチで恐慌状態になって攻撃できないみたいな、実はそういうものがあるんじゃないか？

私は「クトゥルー神話」をボードゲーム化したものをプレイしたことが無いから、わからないとしかいえないが、『ファイアーエムブレム』のゲームシステムは、このボードゲームからシステムを抽出していないか？

あやしいんだよ。

ハスターの風がアーサー王伝説と融合して、エクスカリバーになっている。のか？

邪神特効のフォークが、アーチャーキラーやドラゴンキラーになっている。のか？

『ファイアーエムブレム』が北欧神話（エッダ）やシャルルマーニュ伝説から、アイテムやエピソードを抽出していることは周知の事実だけど、実は「クトゥルー神話」が下地にあるのでは？

たとえば、スポンジは「クトゥルー神話」で、ペーストは欧州の神話・伝説でデコレーションしているケーキ…『ささみさん@gんばらない』を読んでこう考えたわけではない。（敵視しているわけではなく、敵愾心を燃やしている。そんなことより、アニメ版しか観ていない人は、スーパー神話大戦みたいになっているって、知らないだろう）

なんだろうなあ。（山本一力みたいにサラリーマンの生涯賃金よりも借金があれば、好きになれるのになあ）

横井軍平さんが存命中に、ソフトウェアのことに質問したインタビューをしてほしかった。

『メトロイド』のサムって、実は『ファッショネーション』のスウェーデン人のモデルさんが、アーリーというかオリジンではないか？ それは銃で衣服を撃ち抜いて脱がすのと、タイムボナナスでマスクを外して、素顔をさらすのは、なんとなく似ているからだ。実際にスタッフイン

インタビューでミポリンのゲームを作った人が「サムスは北欧系だ」とか話したことはないけどね。

『ファイアーエムブレム』でユニットが死ぬと、オームの杖を使わないと生き返らないって、如何にも横井さんが考えそうなこと…加賀さんが考えそうなことではない。馬にヒットポイントを設定するわずらわしいことを考えるプロだろう。

ソフトウェアとガジェットでは、関わる人間の数が違い、そこが問題になる。

ガジェットについては、かなりのことがわかっている。これは、ほぼ横井さん単体の手柄で車好きだから、ウルTRASコープからダックハントのミラートリックは、カーミラーの応用らしいと、なんとなくわかる。見たらわかるだろ。（上司よりいい車に乗っていた）

ただ、ソフトウェア製作の場合、たくさんのスタッフがいて、アイデアを出したのは誰かという、「手柄」の問題だから、自分が出したんだとか、こちらが裏づけを取らないと思って主張することもあるから、断定するのが難しい。

正直にインタビューに答えてくれると、ありがたいのだが。

ガルガンティアみたいな、自給自足船マール・デ・ドラゴン号の起源は、しおびらき丸なのか、堀井さんに訊く人って、いない。（あからさまな牽制行為）

ドラクエのナンバリングタイトルが出たときに、プロモーション・インタビューでついでに訊いていそうなことなのだが、読んだことがない。

だから、まとめみたいなこと（別に日記だからまとめなくていいけど）書くと、『ファイアーエムブレム』はスタッフなどのことを掘り下げて批評したものが、必要になるだろうね。

具体的には「『ファイアーエムブレム』では、横井さんはどれくらい製作をコントロールしていたのか？」を加賀さんや後にコトにリクルートされた人から、直接インタビューするとか、今後そういったことで、横井研究が深まるだろうね。

あとは、「今まで誰も気づかなかったのか？」に続くような話なんだけど、それなら、次項でその続きとなる。

広告

マンガレビュー 編集大場歩の集大成 『健全ロボ ダイミダラー』なかま亜咲

付録 “「コミックビーム」は桜玉吉の世界観で作られている”

“「コミックビーム」は桜玉吉の世界観で作られている”より
さくら玉吉の「コミックビーム」は、その中で、奥村さんが「モノ」を集めた。桜玉吉の「腕」を、玉で震わせると、世界観を「持っている」といわれる。それが、現実な。さくら玉吉の「腕」を、玉で震わせると、世界観を「持っている」といわれる。それが、現実な。さくら玉吉の「腕」を、玉で震わせると、世界観を「持っている」といわれる。それが、現実な。

ブックログの Paperback
本体価格百円

今まで誰も気づかなかったのか？

昨日、ホタル見たんだよ。（注・六月二十九日現在）

ホタルといえば、ファントム・ガノンの光弾を弾き返しあうのは、どうも光線電話LTの交信が元になっていると、考えていい。

「MAG-RL」のおさらいをすると、『風のタクト』で弾き返す度に「ドレミファ」と半音か全音あがる音響演出は、モノクロの『鉄腕アトム』で複数のやられキャラを殴り飛ばすときにやはり音が上がっていくものと同じ。それでシドの剣も、魔法もリフレクトするから、弾き返すマスターソードのようなもの。

トレジャー作品なら、カウンターストライクだろう。

単純にゲームとかアニメとかラノベに橋が架かっているということだけだと、その話はさんざんしたから、置いとくとして、青沼さん（E3の映像を見る限りでは、私が思ったような史上最高のビデオゲームにはなっていない。残念だ）は意図的に作っているかは知らないけど、任天堂作品に横井軍平さんのガジェットに原型を持つものは多い。（『トライフォース2』は期待しよう）

だから、誰かが気づいているはずだろう。

マスターソードで光の弾をはじくのは、光線電話で光を使って交信するものをゲーム化していると考えられるのは、本当に誰も気づかなかったのか？

今まで、書くのは控えていたけど、夏目房之介さんが「手塚治虫は私の無意識である」と書いたように、「横井軍平は任天堂の無意識である」と言ってしまうんじゃないか。

誰でも気づきそうなことなんだけど、今まで誰も気づかなかったのか？

これは、ゲーム評論家が必要ないから、起きてることだろう。

橘寛基さんが評論家の必要性を訴えていたけど、ゲームマスコミの仕組みを知識として得ていると、評論家が成り立ちにくい状況になっていった。

「ゲーム批評」の登場で、大手の雑誌にスポンサーが「ああいうの書くんじゃない。広告出向やめるからね」みたいな釘をさして、批評めいたことをやれなくしていった、やがて「ゲーム批評」が休刊して、どこもゲーム評論家といえる人間の書くモノを載せなくなったのが、歴史的な背景だ。

単純に、広告出向の額とゲーム評論と言える記事で獲得できる読者を秤にかけたら、広告出向の額が重かったんだよ。たとえ、広告費で雑誌をまかなっても、「ゲーマガ」のように休刊になる雑誌もあるから、なんともいえない。

まわりくどい話をしてきたが、要するにゲーム評論の機会が無いのだから、気づいていることがあっても、それを遡上にあげる大手メディアが存在しないというのが、実情だろう。

『21エモン』と『アイカツ』が似ているって、アニメライターの間では、わかっていただろう。記事を書くオファーが無いだけだろう。

ヒロインの名がルナ（月生まれのルナリアン）で、憧れの先輩アイドルが美月ちゃん。西暦2051年でつづれ屋創業450年の老舗宿なら、さくらちゃんは梨園の娘で、つまり1600年前後に出雲の阿国が開祖の歌舞伎の芸や血統を引き継いだキャラクターで、21エモンのキャラクター

性（老舗の跡取り）を担っている。

それで、原恵一監督の業界内での出世作が『21エモン』では？ 押井守なら『うる星やつら』にあたる作品。もしかしたら、映画の『21エモン』を本郷みつるが監督せず、原監督が作っていたら、「オトナ帝国」を待たずに注目されていたのでは？（本郷さんは初期のクレしんの映画を監督された名監督なんだけどね）

ところが、テレビアニメの『21エモン』は最近になって、やっと再評価がされてきた作品だ。一年間ぐらいの放送期間を目安にしていたら、39話しかなかった。視聴率が振るわなかったのだろう。

しかし、テレビアニメでは、それは必ずしも悪いわけじゃない。

唐沢俊一が「後に名作アニメといわれるアニメは、本放送では視聴率が苦戦する」と語っていたことがあったが、実はこれにあてはまるのでは？

ビデオソフト化されたのは2011年で、つい最近のことである。これは藤子ミュージアムの開館で、館内の資料説明が何かで21エモンとモンガーのかけあいがあって、「そういえば…」的に藤子作品のラインナップ充実の一環として、ソフト化されたい。 (なんだろう。昭和村を利用して窮地を脱するという、アニメの展開みたいだ)

それで『宇宙いけ！裸足のプリンセス』のプリンセスがファナだろ。

ファナと言えば、『とある飛空士の追憶』のファナ公女である。

それでドラクエのノベライズや『雑想ノート』の「飛行艇時代」からもモチーフを引いている。（「九州上空の重轟火乍機」からも引かれているような）

複数の作品から引いているのはわかるけれど、ただ、こういう話は「このレビューは誰か他の人がやるべき」であって、私は別にしなくていい。専門外だからね。

ラノベレビューはカタログレビューにならざるを得ない。出版点数が多いから、カタログ本のように扱わざるを得ない。ひとつの作品を深く掘り下げるより、全体を広く見通すこと（あるいは見通したというアリバイ作り）が重要になっている。

そもそも、深く掘り下げることが難しい。

女体化の歴史に詳しくないから、鈴木ドイツの『百花繚乱』のレビューができない。舞台演劇の『幕末純情伝』の沖田総司は女子だったらという設定がはじまりなのか、まだ検証はしていないけど、女体化のキャラクターの推移の曲線と、オトコの娘のキャラクターの推移の曲線は、同じカーブを描いているじゃないか？ などの問題提起はある。（森蘭丸が女子とか、ポツポツあったような）

あまり、受け手の側のことを問題にしてもしょうがないけど、自分の好きなキャラクターをレビュアーが褒めていれば、それはいいレビューだろう。承認欲求のようなものが満たされればいいのであって、レビューの質は問わない。

レーベルによってカラーがあるとか、気にしたりしないようだ。

『バカテス』はウィズが起源であるみたいに、ファミ通文庫のタイトルは母体となるゲーム雑誌の影響なのか、ゲームソフトに先行作のようなものがある。『文学少女』シリーズは『ふぁみこんむかし話新・鬼ヶ島』の御伽噺を名作文学に置換えたものであるのは、明白だ。（だから金太郎がサングラスしているからエドモンドがサンモノクルをしている…ちょっと私、ボロを出し

てしまいました)

『犬とハサミは使いよう』は、明らかに『ゴーストトリック』である。調べなくてもわかっているけど、第一巻の発行は奥付を見ると、『ゴーストトリック』の後に出版されている。(作者が岡島二人のような二人一組で、内容は『灰色のダイエットコカコーラ』のハサミちゃんや「ヤンデレCD」の妹である)

『ココロコネクト』だけ、わからない。

ゼロ年代にあるアドベンチャーゲームの影響で、ああいう「超常現象」が起こっているだろうな、とは思う。しかし決め手になる作品が思い当たらない。たくさんあるアドベンチャーゲームの幾つかを抽出しているだろうな、とは思える。まあ、ちゃんとしたラノベ評論のサイトを回れば、こうしたことは書いてあると思うから、わざわざ私がわかりきったことを書くこともないと思うけど。

私が知りたいのは、何かを誰かが気づいた話だ。

誰かが草薙素子と未来都市の夜景をモーフィングすれば、光学迷彩を視覚的に表現できると気づいたから、あの映像が生まれた。

これはおそらく、プロダクションIGのCG班の誰かが見つけて、押井守監督が採用したのである。

アニメファンであれば、「押井さんはタツノコプロ出身だから」で説明できることだが、具体的にタツノコプロというのは、積極的に若手を登用したり、斬新なアイデアを採用したりするスタジオで、新技法を使うことにためらいがない空気を吸ってきたのが押井さんだ。

「背景とキャラクターをモーフィングすれば、光学迷彩を表現できる」

これはいずれ、誰かが気づく。それを採用できたことに押井さんの映像作家としての優れた功績がある。

これがスタジオジブリだったら、わからない。仮に百瀬さん率いるCG班がモーフィングを応用すれば光学迷彩ができると発見しても、宮崎駿や高畑勲に「つまんないね」といわれて終わりだったんじゃないかな。そういえば、百瀬さんといえば…やめよう。(おそらく世界最初のトゥーンレンタリングの映像を作った百瀬さんに、あんなクソみたいな映像を見せれる神経がわからない)

ちゃんとしようと思うのが『21エモン』だけで、できるなら『アイカツ!』の先行するレビューがあるなら、それをスリップストリーム(いつものアレ)にして、楽しんでレビューを書きたい。(先行するレビューが無いと、苦戦することが多々ある)

奥付にも先行するレビューだとか、藤子ミュージアムのサイトリンクをしていればいいか。実は『ドラクエVI』のリメイク版が出たときに、レビューを書こうと思っていたが、いろいろあって出来なかった。

それは…

…あまりにも、マンガやアニメの話で、バランスが極端に偏っているから、ゲームの話もしないで、生活の話をしよう。

よく女の子が結婚相手の条件として「年収一千万以上」を求めているようだけど、「あなたが本当に求めている水準は年収二千万以上だよ」ということだ。

日本の税制は累進課税だから、年収一千万以上の所得者には税金を半分納めなくてははいけない

。つまり、運良く年収一千万の人の嫁になれても、「あなたの分の配偶者控除」を含めて、だいたい六百万近くで生活することになる。子供がいれば扶養控除もしてもらえる。

さて、結婚相手の条件として「年収一千万以上」を求めている女の子は、年間一千万の予算で生活できることを求めて、「年収一千万以上」と言っているだろう？ それは年収一千万では、税制上できない。

答えは、「年収二千万以上」である。

だが、これほどの収入を持つちゃんとしたアッパークラスの間人は、税制の基本的なことも知らない物知らずな女の子を結婚相手にはしない。ただ、遊ぶだけなら、いいのかもしれないけど。

今まで知らずに過ごし、教えられて気づくようだと、救いようが無い。

まあ、本書は女子禁制なので、女子は読んでいないから、このような情報が開示されていることは知る由もない。従って女の子は結婚相手の条件を低く見積もっている事実を知らないまま生きていける。

それから、別に「ぱふぱふ」は女子禁制ではないけどね。

後で累進税率のことを調べ直したら、現在は日記の通りに税率が設定されていない。

一昔、二昔前なら、高額所得者の払う所得税は65パーセントぐらいだった。二千万の年収なら、1300万ぐらい税金を払っていた。

今は40パーセントぐらい。不況で税率を下げて、結果的にお金持ち優遇になっちゃった。

ただ、日記の年収一千万のイメージ、年支出一千万以上は、確実に1500万円以上の収入がないとダメだ。そういう女性が求めている、高級車を乗り回して、海外旅行できて、高級レストランで飯が食えて、億ションに住むという欲望を満たすためには。

Puboo×Paboo

女子禁制

「『吉永さん家のガーゴイル』は『女神転生』的悪魔使役だとわかるけど、『狂乱家族日記』は？ 何かゲームにオリジンがあるの？」

「そういうこと、言わない」

えっと、「Puboo×Paboo2011」でコミックスタジオを使うとか、使わないとか、なんか書いていたと思う。

それが、

「ぜんぜん、できていない」

ということで、なぜかというと、

「いそがしよで、できねんだ」

と、新潟弁を口走ってしまうと、新潟一凶暴な男に「きたねえ言葉遣いをするな」とぶん殴られる。（『GVV』の宣伝）

それも新潟マンガストリートの近くで。

それはともかく、『スポ☆ちゃん！』の連載第一話を見たときに、「これはコミックスタジオのプロ版を使っているな」と思っていたら、連載途中で試験的にコミックスタジオを使用していると、巻末コメントにあったのを読んで、

「ああ、違ってたのか」

とかと、自分の見当違いに気づいて、

「『これ、コミスタを使っている』とか、エラそーに書かないでよかった」

と、安堵した。

修行がまだ、足りない。

最近知ったことだが、コミックスタジオが開発および販売中止になるそうである。これは大変だ。五六人のスタッフを雇っていた中規模のマンガプロダクションは、コミックスタジオの導入でアシスタントを一人二人減らしたという話を聞く。

プロの現場で人員を少なくできるだけでなく、アマチュアでもかなり使用者がいると思われるので、マズイことになったと思われる。

そのコミックスタジオは置いておいて、コンピュータで画像を編集する話をしたい。

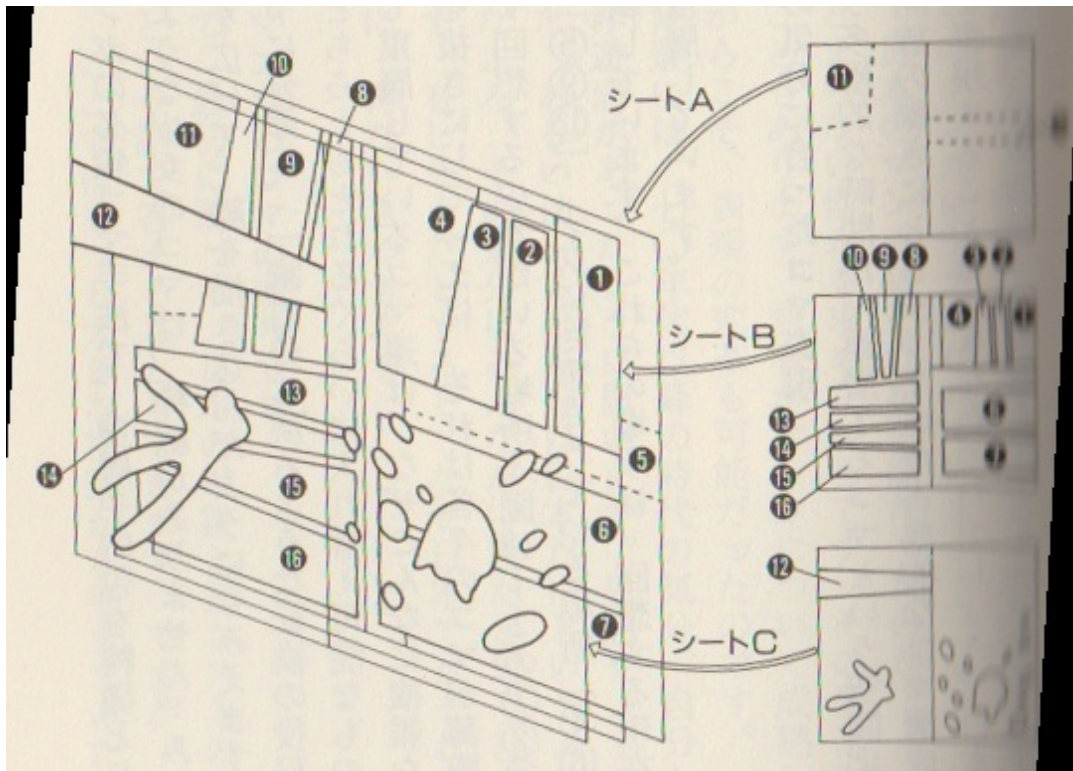
まず、コミックスタジオだけでなく、画像編集ソフトは、なぜああいう構造になっているのか、それは夏目さんの『マンガはなぜ面白いのか』で書かれている。

これは孫引きになってしまうけど、かなり重要なことだから、引用しようと思う。

原典は『マンガの読み方』で、私はけっこう古本屋と新古書店を探し回ったけれど、どこを探しても手に入らない、こういう書籍こそ、電子書籍化して、通販書店なりに手に入るようにしてもらいのだが、著作権者が複数いるから難しいという、少々前置きが長くなったが、マンガが多層構造になっているのがわかるはず。

つまりマンガにはレイヤー（層）があり、その層ごとにフキダシやオノマトペを配置し、さらに背景やキャラクター、枠線などがある層になっていて、この層構造を念頭に置かれて作画されているのが、実は少女マンガであると、夏目さんは論述している。

だから、レイヤーのあり方は、この作画法を念頭に置かれて、描画プログラムが組まれているのである。層ごとに描画したものが重なるような、マンガ作画を可能にするために、コミックスタジオの仕様となっているのだ。



別冊宝島EX『マンガの読み方』宝島社 1995年刊
 図画は『マンガはなぜ面白いのか』から孫引きし
 スキャン時に画像が歪んでいる
 実際に『マンガはなぜ面白いのか』にあたってほしい
 とはいえ、コマやキャラクターやオノマトペが
 レイヤー状に重なっていることがわかる

その当のコミックスタジオは、私はぜんぜん使わず、ウィンドウズのプリインストールソフトであるペイントばかり使っている。あるいは、ギンプと読む「GINP」という画像編集ソフトで閼値（「しきいち」と読む）でモノトーン化させて、いろいろ画像編集はしている。

あの、雑誌「ゲームラボ」のCG講座の記事の連載があっただろう。あれは、一応、目を通してはいたけど…高度すぎて参考にならなかった。ピクシブで閲覧数を稼ぐために、クオリティーイラストを描く人のためにある。

いやなことを言わせてもらおうと、

「オイラ、メビウスみたいなマンガ描きたいんだ。これ読んでも、メビウスみたいなマンガを描けるようにならないじゃん」

と、想定読者の外にいる人間の意見だから、ディスってない。「カレーが食べたいのに、牛丼屋に入ってメシを食う」かな？ たとえるなら。すき屋にも吉野家にも、カレーはメニューにあるけども。で、メビウスみたいなマンガって言っているけど、実際に描いているのは、これでしょ？



こんなマンガをメビウスは描かない。

木なんて手抜木（てぬき）だろ。レバノン杉みたいな特殊な生育をする樹木意外は、基本的に放射状に枝を伸ばすのに、「コトタベ」に出てくる木はほぼ垂直に生える。遠い未来の木はみんな垂直に伸びるんだね。



近所の集合住宅で撮影した放射線状に生える木

こちらは根元で二つに分かれながらもまっすぐに伸びた松



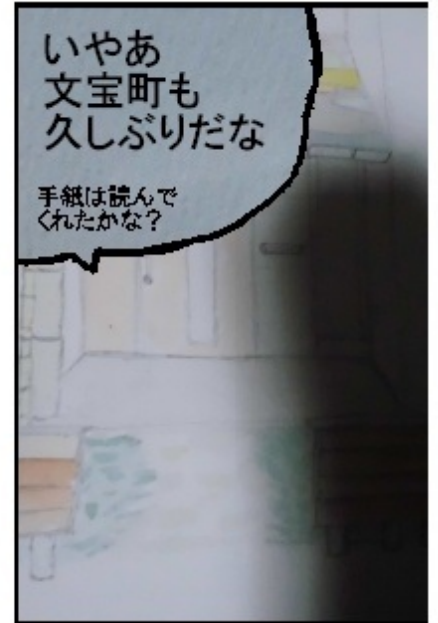
話を少し前に戻して、CG講座の記事よりもマミヤ狂四郎の「教えておた兄さん」の中で、「絵が描けなかったら写真を直接使え！」ということで、2コマに直接写真を使った。



←習字のとき
うまく陰を作って
まるでケモノが筆を
握っているかの
ようなものにした

→イサオ叔父さん
の影のだから
脚本の読み方を
読みかまらなく
い

ページが立て込んでいて
手紙を脚本通り読んでいない…



いやあ
文宝町も
久しぶりだな

手紙は読んで
くれたかな？

NHKの人形劇で急に小物のアップになって人の手が出てくるような、異化効果があった。
やりすぎると効果が薄れるから、たまにしかやらない方がいい。

最後に特殊効果ではなく、コミック『ピーナッツ』のオマージュを開示しよう。

チャーリー・ブラウンがルーシーに「オメエの親父はあたいの親に比べてしょぼいな（訳・ゴトチヒ）」といわれたので、父親の働く床屋までルーシーを連れて行く。

床屋の店主であるチャーリーパパは息子に笑いかける。「どんなに忙しくても、パパは僕が床屋に来ると、笑いかけてくれるんだ」と、ルーシーに教える。

同じことを、実は弟君のお父さんはしている。

駅を通り過ぎるときにお父さんは弟君に笑いかけている（BIG SMILE）。それをまだ弟君は知らないだろう。



お父さんは仕事中でも
弟君に笑いかける
それは弟君が気づかなくても

チャーリーパパみたいにお母さんが床屋の手伝いを
している これはちゃんと『ピーナッツ』を読んだこと



これは無意識にやっていた。

前に「クローズアップ現代」で『ピーナッツ』の特集をしていたときに、この64年6月21日の回を取り上げているのを観てはいた。しかしマンガ執筆時には、忙しくて思い出していなかった。

最近『ピーナッツ』を読み返して、そういえば同じことをしていたと思い出したのだ。
この事実を知ったら、天国のシュルツもちょっと喜んでくれると思う。
そして、これがビデオゲームにできなかった喪失感に打ちのめされる。SIGH。

スリップストリームがあると加速が楽

マンガの話ばかりしていると問題があると思う。

ジャンプシステムというのが通奏低音で流れているのが、『新撃の巨人』だ。

まず、「週刊少年ジャンプ」では雑誌連載にこぎつけられなかった作品であるという予備知識としてあらかじめ入れておかなければいけない情報がある。

それを踏まえて、伊藤剛さんの『ハンター×ハンター』のマンガ評で書いてある通り“「ハンター試験」を、「ジャンプで連載を獲得すること」と読み替えてみる”ことで、『進撃』も内容がよく理解できる。

新兵訓練で上位十人しか憲兵になれない。これは雑誌連載を上位十人ぐらいしか獲得できないことと同じ。

最近、放送されたアニメの方のエピソードでも、

「調査兵団の生存率は低く、4年後には六割が戦死している」

と、あるのだがこれも“読み替える”と、「調査兵団のような新人を集めた新雑誌の連載は、4年後には六割以上が終了している」ということだろう。(事実「別冊少年マガジン」は4年を過ぎて創刊当時からある連載は少ない)

さて、ここで巨人というモノを出さなくてはいけない。

「巨人はなんらかのメタファーではない」と作者が発言しているが、逆にそれによって受け手は巨人にたいして、個々人があらゆる解釈をしても許される「空欄」が用意されることになる。

その「空欄」に私は何をあてはめるかということ、読者だ。巨人である読者によって淘汰を受けるのが漫画(=人類)であり、それは避けられない。

『物語工学論』を読んで持ちえた「読者とは作者を滅ぼすヒノカグツチだ」という持論がある。物語上はまだ明かされていないが、作中の人類にとってヒノカグツチにあたるのが、巨人だろう。

そして、作者自身が語ったように「このマンガを一番楽しみにしているのは、自分かもしれない」とするなら、自身も読者であり、つまり主人公エレンが作者の分身なら巨人化(読者化)するのも、うなづけるというわけだ。

それにしても、先行するレビューがあると楽だなあ。『進撃』は面白いマンガだと評価するけど、思い入れはない。(そもそもジャンプを卒業してもう十年以上読んでない、アサ芸好きの人間だ。思い入れがあるわけがない)

だから単独でレビューEブックをこしらえることはない。

それはどうでもいい話で、先行レビューの存在のあるなしで、レビューが遅れ、なかなか完成しない理由がある。

『あの花』のレビューはゴールが見えていても、先行するレビューがないから、「執筆スピード」みたいなものにつかない。加速につかない。(映画ドーピングをしなくちゃならなかった)

「デラちゃんって、ニッポニアニッポンじゃない?」とか、語っているレビューがあれば、い

いんだけどなあ。

ゲームレビューだと、参考になる(役に立つ)書誌情報がさらに少なく、少量生産になる。

フロー理論について触れているのは、『ゲームの大学』『ブロークン・リアリティー』『ゲームミフィケーション』、それに『ニンテンドー・イン・アメリカ』ぐらいで、本格的にフロー理論については、語られていない。

だから、「フロー理論のゲーム化」は書く前から苦戦するのは、目に見えている。

補足情報的なことを書けば・・・

韓国では『進撃』が人気らしい。

それは、北緯38度という本物の壁が存在し、これが文化的背景（『東大オタク学講義』で語られていること）になっているからだろう。

言うなれば、アジアの鉄のカーテンが存在し、それが人類（朝鮮民族）を分断していることのリアルな暗喩として捉えることができるからと言える。

そして、3.11以後におそらくウォール教が出てくるが、作者本人は否定すると思うが安全神話のメタファーだろう。

そんなどうでもいいことより、ドワンゴ傘下のスパイク・チュンソフトで『進撃』のゲームを作るそうじゃないか。これで講談社とパイプが出来たら、『物語』シリーズのサウンドノベルも、企画として夢じゃないのでは？ 『カナン』繋がりでデベロッパーがタイプムーンで、ジロさんの頭越しで進んでほしいなあ。ジロさんが在籍している会社は傾くというジンクスが生まれてほしい。

(エレンが「黙って全部オレに投資しろ!」と言ったのは、作者の叫びだろう。結局新雑誌という、未知の領域を探索する調査兵団に入るのも、象徴的だ。まあ、こんなテキストに書いた日記を真に受ける人はいない)

終戦の日にマンガ家たちを弔う

終戦の日に小林まこと『青春少年マガジン』を読み直した。

内容を知っている方には、なぜ読み直しているのか、わかると思う。

佐渡川準さんが自殺したニュースを知っているはずだ。そして『青春少年マガジン』でも、自ら命を絶ったマンガ家・大和田夏希のことが、描かれている。

自分はそうではないが、少年マンガを描くマンガ家にとって、明日は我が身の話だ。作者である小林まこと自身も、多忙を極めて投身自殺を図るか、図るまいかという挿話が描かれている。（私はマンガ家にならなくて本当によかったと実感する）

こちらも、高みの見物でのんきに眺めているというわけにはいかない。

大和田が駅の階段を下りる際、「怖い」と言って、その場にしゃがみこみ、動けなくなってしまうのを読み返すのは、辛い。最後にかかってきた電話に小林が何か冗談でも大和田に言ってあげていれば……詮無い話だ。（常識的には夜中に電話が来たのだから、小林が怒鳴りつけて切るのは正しい）

『まんが道』でいえば、「ゲンコウ オクルニ オヨバズ」という電報が来るシーンを読み返すのが辛いのも同等だ。小林本人はそのつもりで描いたかわからないが、階段を下りられなくなるのは、マンガ家を「降りられない」ことのメタファーになっている、ように見える。

小林まこと、大和田夏希、小田新二は当時新人三バカトリオと呼ばれていた。

実はチャンピオン読者しか知らないことだが、佐渡川準さんも少年チャンピオンの若手三羽ガラスの一人だった。フクイタクミと細川雅巳とともにサイン会を開いている。

チャンピオンの連載『あまねあたためる』を少し読んでいた（つまり立ち読みしていた）のを思い返すと、最近作者に少し迷いがあるような点が思いあたる。

美術の先生が作品作りに悩み、あまねちゃんが木の上で失禁する。娘の制服を着て、あまねちゃんのお母さんが町に繰り出してサイレントスラップスティックギャグを展開する。

この娘の制服を着て、お母さんが町に繰り出すのは、作者本人を投影している。

ここで不本意ながら、大塚英志のマンガ批評を援用することを断りたい。こう書いているということは、私は大塚を高く評価していない。

大塚の言葉を借りれば、ここで表現されているのは、「アトム」だ。アトムは若くして亡くなった天馬飛男のトレースとして作られたロボットであり、飛男のように成長することはない。身体が成長しないことのジレンマやドラマツルギーを大塚は「アトムの命題」と名づけた。

これは『あしたのジョー』でも描かれ、矢吹丈は自分の身体がバンナム級よりも成長していることに気づいてはいるが、力石徹が命がけで降りてきたバンナム級に留まり、ウェイトランクを上げようとしないう。これを「アトムの命題」を継承していると大塚は評価している。

実は、「アトムの命題」とは、少年マンガを生み出す作者たちが持たざるを得ないテーマだと思われる。手塚治虫は『鉄腕アトム』の初期に、自分の表現したいものが劇画のような青年のテーマであることを、なんとなく自覚していたのではないだろうか。後に『ライオンブックス』な

どの大人向け作品を作ることができるが、自分の表現者としての成長をあえて止めて、子供向けのマンガを描くことにアトムが重ねあわされる。

梶原一騎こと高森朝雄も同様だ。本来はマス・オオヤのような人物を取材してスポーツ記事を書いているような記者が、子供向けのマンガ原作を手掛けることは、自分のスポーツライターとしての成長を止める、つまりポディスケールはもうバンダム級に納まるものではないのに、バンダム級に留まり続けるジョーの姿と重なる。

表現者としての成長を止めないと、楽しい児童漫画を描けない。

それが「アトムの命題」という少年マンガ史を貫くテーマ、評論対象となりえることを大塚は『教養としての＜まんが・アニメ＞』で論述している。（「フロルの選択」も少女マンガ家たちが持たざるをえないテーマということか）

ここまで書けば、私が言わんとすることがわかるだろう。

娘の制服を着て、町に繰り出すお母さんとは、佐渡川さん本人の作者である自分の投影であるのは、もう大人で成人である自分が少年マンガという制服を着てしまっている、チグハグさを自身感じていたんじゃないか。

表現者としての自分は、もう少年マンガに留まれないのに、子供の制服を着て町に繰り出さなくちゃならないことになっているのではないか。サイレントであるということも、象徴的だ。佐渡川さんの無言の主張が込められているような印象さえある。

さて、終戦の日だ。（アップの日時は違うが、執筆時は終戦の日、それも戦没者の慰霊のために黙祷していた正午から書き始めた）

大塚は手塚の戦中に書いた短編「勝利の日まで」でミッキーマウスの乗る戦闘機の機銃に撃たれたトン吉くんが死んだ瞬間、「戦後マンガは生まれた」と言っているが、それを私は支持しない。

『テヅカ・イズ・デッド』を読めば「地帝国の怪人」で戦後マンガが産声をあげたことを支持するのは、当然だろう。（実はこの作品で「マンガはキャラクターのものである」ことがピノ子を双子の姉妹が体内に宿していたように戦後マンガが生まれたときからずっと寄り添っていた）

私の中で、大塚は葬り去られている。21世紀になってヒット作に恵まれず、メディア化された作品もなく、やっていることといえば笙野頼子さんと論争して「逃げた」ことぐらいしかない。（よけいなことを書いてしまったが、大塚シンパからの仕事のオファーはこれで無くなったな）

ヒット作に恵まれていないというのは、佐渡川さんにもいえる。『無敵看板娘』からヒット作に恵まれていない。『ハンザスカイ』ももう少し続かないと話として面白くないし、『無敵看板娘』のパートⅡもあまり人気は芳しくなかったようだし、『あまね』が先に触れたようにうまくいってないように見えた。

ヒット作に恵まれていれば、あるいは少年マンガから降りられれば、佐渡川さんがこんなことにならなかったと思う。大和田のように、階段を下りられなくなったのだ。

大和田夏希や佐渡川さん、彼ら「戦没者」に思いを寄せ、冥福を祈るとともに、少しでも彼らのマンガを読ませてもらったことに感謝する。

為替変動指数という煙幕

円安になると、どうして株価が上がるか？

現在は去年の1ドル八十円台から百円に届きそうな為替となっている。

単純に円安になると、海外の機関投資家などから「日本の株が割安になっている」という印象を与える。一株8000円の株を1ドル八十円時に買えば100ドル支払わなければいけないが、1ドル百円という円安時に購入すれば、80ドルですむ。お買い得である。

ただ、円安が進み株価も上がると、本当にお買い得なのか疑問だ。

去年の円高時の為替レートで日経平均株価を割ると、八十円で9000円だから112.5になる。現在は変動が激しいけれど、だいたいの目安として百円で14000円として、単純に140。すでにお買い得感は無くなった数字だ。

多分、この数値は経済学でちゃんとしたターム・用語があると思うが、為替変動後の差・比を為替変動指数とする。その差は27.5であり、これがアベノミクス・プレミアムだ。

この為替変動指数は、消費税の引き上げによって、無くなる。あるいはアメリカのシリア派兵によっても無くなる。私の意見は消費税先送り派なんだけど、シリア派兵をアメリカが決めたなら、消費税引き上げは先送りしないと、湾岸戦争時のように、本格的な不況になる。現在九月三日の時点で言えることは、オリンピックは東京では開催されない。(と書いたら開催が後に決定した)

ところで、海外のマネーが国内の株式市場に流入して、日本に投資してくれていると考えるのは、甘い。

なぜなら、海外の機関投資家たちの実態は機関投機家だからだ。

雑誌「週刊モーニング」で『インベスターZ』を三田さんが描いているけど、まず、このマンガは面白いマンガだ。その上で内容を語ると、学生たちが学校運営を潤沢な資金で充実させるために、投資をしているという「大義名分」があるが、これは投資ではなく投機だ。

ちゃんとした投資は、新株を購入するか社債を買うかのどちらかだろう。それは銀行がやることで、デイトレーダーは自分の資産を投機目的で増やすことが日常業務でしているが、『インベスターZ』の学生達のやっていることはこちらに属する。本人達は投資哲学を語っているようで、実は投機哲学を語っている。

もうちょっと、この話をしたいけど、そっちが本題じゃないんだよね。



Architecture Product Systemは
『風たちぬ』を応援しています

あの映画の名称をあえて使わないで、あの映画のことを観てもいないのに、話す。日記だから

、事実誤認があっても、いいし。(ライブドア事件の誤認については迷惑をかけたかもしれない)なぜ、あの映画の名称を書かないかというと、グーグル・サーチなどで、閲覧者が飛んで来れないようにするためだ。小乗仏教の禅宗的なクローズド・スタンスを取っている。

アイドルかジブリ作品の言及が閲覧者数を稼ぐことになるのは、去年と一昨年の「Puboo×Paboo」やPixivの小説掲載で実験済みだ。今年はそのネタを入れていないので、閲覧者数が十分の一ぐらい少ない。

そして『ジョジョ』ははっきり言ったら、期待はずれだった。

ぜんぜん閲覧数を稼ぐことができなかった。

役立たず。

第二部の終わり頃は、雑誌の後ろで「このままこのマンガは終わってしまうんじゃないのか？」とハラハラしていたけど、あのハラハラを返せ！

それはさておき、正直に自分の読者だけに、読者のためだけにクローズドな話題として、あの映画の話をする。画像を見れば、あの映画はなんであるか、わかるはずだ。もちろん、応援している方である。

あの映画は、あいもかわらず宮崎がオデュッセウス・コンプレックスを描いている。「MAG-RL」のナウシカ(マンガの方)レビューで書いていることだから、それについては詳細しないが、がっぶ獅子丸さん流に書けば、

「こんなくだらない日記を読むような、ヒマでヒマでしょうがない人たちはもちろん読んでいることを前提に話をすすめますが」

ということになるだろう。

つまりは、二郎君が目が悪いことによって飛行機に乗れず、飛行機を設計する側に回らざるをえないことを「自己実現が傷ついたオデュッセウスだ」と言える。

それで傷ついたオデュッセウスを介抱するパイナキアの王女である菜穂子ちゃんが現れる…

「いつものアレじゃん！」

マンガの方のナウシカレビューでさんざんやったことだから、「この映画をレビューする必要はないな」となり「だから映画館に行くのはやめよう」という結論に達した。

問題は宮崎吾郎以下の次世代のジブリ・アニメーターズがこの世界(映画の世界観・質)を超えられるのか？ になるだろうが、答えは「超えられません」というものは明らかになっている。それが『コクリコ坂』の興行収入が前作と比べて半減したことによって、次世代はジブリを経営し続けることはできない問題に直面している。映画単体で制作費を回収できなくなると、他のアニメ製作会社と変わらないブランドになる。(宮崎の引退発表後に「サイゾー」や一部週刊誌で同様の報道があった)

まあ、それはしょうがないよね。

構造としては、あの映画は『もしドラ』に似ている。というよりも、サナトリウム文学を参照・参考にして主人公もやはり、「プロ野球選手になれない女子」という「自己実現が傷ついたオデュッセウス」を性移項したものだ。

ベストセラーの構造として、『世界の中心でアイを叫ぶ』が『野菊の墓』を参照・参考にして現代的な解釈をしているように、例示はできないがサナトリウム文学を参照・参考にして岩崎さんが現代的な解釈として経営学を導入するということをしている。(この件については高橋源一郎

の『一億三千万人のための小説教室』の「少し長いまえがき」に詳しい)

『もしドラ』はグロリアテーマを扱っていて、誰がグロリアかというと、みなみちゃんじゃなくて有紀ちゃんである。(愚痴を書けば「MAG-RL」書籍化のオファーが無かったから、この評論はお蔵入りになった)

そして、宮崎駿も映画『グロリア』に触れていることが、最近『折り返し点』を読んでわかった。それはグロリアテーマを扱っているのではなく、グロリアの最後はどうなったのか、映像編集でわかるようにしていると話している。これはベルトルトのセリフで、エレンの父親がどうなったのかわかるようなもの。

つまり、菜穂子ちゃんがグロリアであり、「美しい飛行機を作る」という少年の頃の夢を捨てられない青年二郎を救う、グロリアテーマがあると見立てることができる。

もしかしたら、グロリアテーマとオデュッセウス・コンプレックスは表裏一体の雌雄同体神のようなものかもしれない。中国神話のジョカ・フクギ(漢字は忘れました)のようなもの。

あるいはポルシェ・ティーガーみたいなもの。

早過ぎたハイブリット戦車、ガソリン燃料で内燃機関を回して、その発電で電気モーターを駆動させキャタピラを動かす、福嶋聡の『少年少女』の「大車輪」(今回はサブタイトルを間違えておりません)で活躍したマウスの設計者ポルシェ博士のケツサク戦車のポルシェ・ティーガーのようにハイブリットだ。(知らない人は近所のミリタリーマニアに聞こう。スイッチを入れてしまい、聞いたことを後悔するから)

多分、岡田斗司夫さんが評価しているのは、オデュッセウス・コンプレックスを満足させてくれる物語であって、宇野常寛さんが評価しているのはグロリアテーマの部分だと思う。

二人とも、同じようにあの映画を評価しているが、私が支持するのはもちろん宇野さんの方だ。媚米外交や媚中外交があるように、媚宇野外交である。小林よしのりに「思考停止」と叱られるのだ。

それは岡田さんが気づくかどうか、わからないけど、自分の中にまだオデュッセウス・コンプレックスを克服できていないから、キンドル版で出版されている映画評を書いてしまうんだ。

これを書くと岡田さんに「お前とは伊藤剛君と同じで、共演拒否だ！」とされてしまうかもしれないけど(実際に会うことは無いので痛くも痒くもない)、オデュッセウス・コンプレックスとは「近代化に失敗した日本」という擬人化された国家を精神分析したことによって、出てきた精神障害なわけで、「MAG-RL」でさんざんやったからもうやりたくない(伏線)ので、ちょっとだけ書けば、岡田さん自身は宇宙飛行士やSF小説家になれなかったという、オデュッセウス・コンプレックスを持っているからあの映画を評価してしまう。

それは斎藤美奈子さんが「若い女の子が傷ついた男を癒す」ナウシカ幻想でそれは、ある種の「性奉仕」と同様だから「よくない」と批判しているように、菜穂子ちゃんがゼロ戦を飛ばす風を起こすのは、やはりナウシカ幻想だから「ダメだよ」と評価を下せないのは…やっぱりよくない。

行かないとか書いておいて、
写真撮ってきてるし。



映画館の近くだから
ついでに撮影してきただけ

少し長いまえがきはこのくらいにして、本題である『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』の映画を観てきたことを話そう。

ここで、千原ジュニアなら「ええー」となり、人差し指を一本立てて「もう一回言わせてください」と振ってから、「ええー」となる。

「映画を観てきたんですよ。それも新潟市の映画館に茅野愛衣ちゃんが舞台挨拶する日に観に行きました。もちろん『アイちゃん大勝利』や『めんまルイージ』とか『ルーシー、メアド教えて』を言ってきましたよ」

上記は冗談だから、実際に愛衣ちゃんに「ヴァルブレイヴのインターフェース・キャラクター」とか言ったら、つまみ出されるから。これから、めんまは全国行脚するけど、絶対に真似するなよ。(本当は舞台挨拶を見なかったが、見たかったなあ。愛衣ちゃんの魅力的な・・・これ以上は女子禁制でも言えない)

入りは盛況で、「泣いてもいいんだよボックス」や「ポートレート」が人数分回らないくらい、人が入っていた。

めんまのコスプレをする男子を一人見かけた。うん。湯川あきらがコスプレするのも、現実的に即したリアリズムとして間違いではなかったと証明された。

映画鑑賞中、隣の隣の隣の席の女の子が泣いていた。

ポップコーンをぶちまけるバカが近くにいたり、久しぶりの映画鑑賞なのに不快にさせられることがあったのも、今では楽しい思い出だ。

さて、映画を観てきたのは、他でもない。

何度も更新情報の方で話題に出している『あの花』のレビューが終わらないことに、私自身心苦しく何か切っ掛けを見つけられないか探るために、赤字覚悟で映画を観にいったのだ。

そして、映画『あの花』を観たことにより、『あの花』のレビューがなかなか完成しない理由がわかった。

あの映画を観てもいないのにさんざん語った、オデュッセウス・コンプレックスに触れていないから、画竜点睛を欠いていたのだ。

資料として『賢い犬リリエントール』が手に入りにくい状況だった(現在は電子書籍マーケットで簡単に手に入る)とか、いろいろあるが、オデュッセウス・コンプレックスのことに触れないように小さくまとめようとしたことが、かえって災いした。

何度も書くけど、岡田マリさん(やはり漢字が出ないし、セルフ検索の際に本人に知られないよ

うに工作、というか女子禁制)は高畑宮崎の思想的継承者だと評価していた。

具体的には、無垢な少女が出てくること(ユキアツの女装を綺麗だと言ってしまうのは汚れを知らない無垢だからだ)や、マルクス主義的な労働礼賛(花火を打ち上げるために働き始める)を無意識に表現している。無垢な少女でわかりにくいなら、「真心の想像力」が「無垢が生み出すもの」と言い換えてもいいし、高畑的な集団の連帯も描いている。(作品の内容を再確認すれば、新城カズさんの言葉を借りて「注意深く見る」と、それがあるのがわかる)

だとしたら、宮崎が描いてきたオデュッセウス・コンプレックスも、実は脚本家の岡田さんも描いていたのが、映画を観ると如実に裏付けられていたことに気づいた。(映画を観た後、すぐにメモ帳にそのことを書き記した)

ただ、岡田さんが偉いのは「現代のオデュッセウス」であるじんたんを救うためだけにめんまがいるわけではない。

そこに高畑勲の思想が導入されていることを、「見事だ」と、自分の目に狂いが無かったと、白隠の自画自賛のように書ける。

だから『風…あの映画よりも、『あの花』の方が評価できる。

「コトタベ解説編」はあるけど、『あの花』レビューを今年中にできればしたい。

何度も書くけど、ナウシカの評論を書いたときに、さんざんオデュッセウス・コンプレックスについて語ったから、こちらとしては「もうやりたくない」し「おなかいっぱい」だし、評価としては出版社側から書籍出版のオファーも無いようなモノだから、高くも無い。

それをまたやるのは、「よしておいた方がいい」とずっと思っていたが、やらないと完成しないとわかった。

映画を観て、本当によかった。

菜穂子ちゃんとめんまは、一見似たような存在に見えるけど、違う。数学的な為替変動指数(ここで造語をむりやりネジこむことでまるで伏線を回収したようなうまい構成をしていると思込ませる)を算出すると、差がある。

その差分が、「単なるオデュッセウス・コンプレックス」か「単なるオデュッセウス・コンプレックスではない」ものであることが計れるのだ。(ここで「はず」とか「かもしれない」と断言ではないようなことを書くと説得力がなくなる)

まあ、為替変動指数は単なる煙幕に過ぎなくて、ジブリアニメで閲覧者を稼ぎたくないし、そもそもジャンプマンガとジブリアニメを卒業した人間が書くことを真に受けるほど、読者はバカじゃない。

福島第一原発事故で水素爆発があった時に、都心に住む人の中には、関西の方へ逃げたといわれる人物たちがいる。マンガ原作者の樹林氏、東浩紀などがそうらしい。

彼らは臆病者などと揶揄されたこともあった。

残念だが彼らをそしめるのは、正しくなどない。

水素爆発が起こるということは、炉心内部の核燃料が確実にメルトダウンしているということだ。

原発の知識があったら、避難するのが当たり前だ。

逆に避難しなくてもいいとぬかし、避難しなかったことを誇らしいと自負するのは、無知の大馬鹿野郎である。メルトダウンしても大丈夫だったから避難しなくてもよかったではなく、メルトダウンしたら避難するのが当たり前だ。津波が来るけど、たいしたことはないと思い込んで、高台に避難しないようなものと、たとえられるか。津波がこなかったからということで、褒められるわけがない。

これだけの情報化社会であっても、原発事故の危険性の認識が甘い。

もう少し認識してほしいのは、ゲーム市場がある程度育った国は、ほぼ確実に原発がある。

因果関係として、先進国や新工業地帯などの経済力があるから核燃料を手に出せるのか、重工業化社会は原発を必要とするのか、さまざまな要因が考えられるが核戦略を抜きにすると、やはり経済的な理由だろう。

高度経済成長で核燃料を購入できる経済力が日本に備わり、そしてプルトニウムを炉心から取り出せない「役立たずのマークワン」を炉心に設定する原発で電力確保が見込めれば、重工業を支える電力が得られる。これでは潜在的核保有国になれない「核戦略矛盾」がネックになるのだが、こういう点は深く考えてないようだ。

高度経済成長を達成できた国でないと、ある程度の消費文化を形成できず、それはまたゲーム市場が確立できないことでもある…何よりも電力ベースが安定していることが必要だ。

ゲームボーイが全世界で一億台以上売れたのは、乾電池による電力供給が世界的に普及していたからだ、と考えられる。海外では頻繁に停電になることをみこして生活している地域もある。

少し調べないといけませんが、スマートグリッドにシフトして電力供給が安定しだしてから、アメリカのゲームデベロッパーの開発力が上がった、のかもしれない。同時に据え置き機を長時間稼働させても、停電が起こることがなくなったので、ユーザー数が増えたのかもしれない。

ゲームボーイはモノクロ液晶、外光を反射するミラーなど省電力仕様で電源は乾電池を選び、さらに堅牢なつくりが海外の様々な地域での可動を可能にした。

現在のポータブルな蓄電池は、20年間で持続的イノベーションともいえるくらい、進歩をとげている。スマートフォンの隆盛はここにあると、見受けられる。

まあ、冗談をひとつ挟めば、自転車をこいでダイナモを回して電力を作り、その電力でビデオゲームをプレイする現代アートのデジタルインスタレーションを考えたことがある。(仕掛けはなんてことはない。電灯に回す電力をポータブル機に供給するだけ)

「これさえあれば、原発が無くなっても、ゲームができる」

ヤノベケンジのアトムスーツの横に置かれれば、面白いと思う。(現代アートの知識・物品を踏まえれば面白いということ)

このような冗談は忘れてもらうとして、ビデオゲーム、とくに据え置き機の市場を維持するためには、原発をこれからも運転させなくてはならないという、現実がある。

それには賛否があろうが、核戦略の一環として原発再稼働なら、個人的には賛成するが、最終処分場と原潜墓場を作らなくてはいけない出口を日本では事実上作れないから、無理な主張だろう。

核戦略の一環のもうひとつ、原潜の必要性は子供でもわかるので省くが、ロシアではソ連時代の退役原潜の炉心(もちろん放射能汚染されている)を固い岩盤の平地の上に、半減期経年のために百年は保存する予定でいる。そもそも地震が置きにくいところに原潜墓場を設置できるのは、ロシアが広大な国土のあるおかげであるが、日本では立地候補をあげることすらできない。

そして、時間的な制約として保存もできる場所がない。一応関東直下型地震のサイクルは130年周期といわれるが、日本中、いつどこで地震は起きてもおかしくない。

そもそも、原発製作はオイルショックで舵をそちらに切ったことから始まるが、田中角栄政権時に日中友好条約の功を焦って得たために、尖閣沖開発をせずに、原発エネルギーに頼った点(原発依存)が、失政としてあるのではないか？ (『エウレカセヴンA O』では尖閣沖開発されて第一次産業が勃興した架空の沖縄を舞台にしていた、かもしれない)

そろそろ山内溥氏のことについて、書かねばならない。

報道にあるとおり、山内は肺炎で死んだ。

亡くなったのが9月19日だというから、横井軍平さんの命日から二週間と1日しか離れていない

。

故人を偲んで言うが、もう少しがんばって横井さんの命日の側で亡くなりたかったのではないかと、勝手に想像はできるが、本人の意思としてどれだけ近いのか、遠いのか、どうだったのかはもう知る術はない。

一株の不安をおぼえるのは、山内の伝記は、作られることはないのではないかと？ 成功した経営者は軒並み、成功者本を上梓する傾向にあるが、山内にはそれが無い。まず、出版社側からのオファーが無く、山内自身にやる気が見受けられなかったと、思われる。

さらに現実問題として、囲碁で彼に勝てねば、本を出版するために必要な取材はできない(出展『ポケモン・ストーリー』)。だから、シアトル・マリナーズ買収の一件について、何があったのか？ 何故、ジョージ・ブッシュ・ジュニアがとりなしてくれたのか(出展『ニンテンドー・イン・アメリカ』)、これらは謎のまま棺に故人とともに埋葬されてしまうようだ。

私は横井さんを尊敬しているが、山内は畏怖している。

それを語ることになるかどうかはわからないが株式の問題に触れると、山内は10パーセントの任天堂株を個人保有している(筆頭株主)。現在、任天堂の時価総額は一兆三千億ほどで、その一割とするなら山内株は約一千三百億の資産価値が現状ある。相続税はその半分として、キャッシュ

で払えない額ではない。(2009年頃の最高値では時価総額四兆円ほどだったことから考えるに株価が下がったのは遺族にとっては朗報かもしれない)

私なら公益法人を作ることを遺言に遺すが、それは別の話になるので置いておく。自分の死期を悟ってニンテンドー2DSの発表時期を決め、株価が下がることをあてこんで、遺族に相続税負担軽減をしたのかもしれないという話も置いておく。(これは憶測だろう)

主眼を置くのは、10パーセントの株式所有者である山内の影響力だ。

後継者の社長を選ぶ権限は、トップ経営者にあることはあるが、株式総会で事案としてとり上げられ、否決されることもありうる。取締役会などの承認も必要なのだが、大株主なら取締役を決めることができ、銀行によっては取締役に自行のバンクマンを出向させることもある。

山内の他の大株主は、京都銀行などの機関投資家がほとんどである。

なぜ彼ら機関投資家が山内を支持するのか。

このあたりの事情を私はよく知らない。

アンタッチャブルな問題が隠されているのか、よくわからない。

憶測でものをいうべきではないが、「物言う株主」の反対である日本流の株主であっても、どこか解せないところがある。

山内はマックス・ウェーバーの言うところ、伝統支配とカリスマ支配をかけた経営支配を行っていたようだ。

創業者一族の出としての伝統支配、そして地方の有力企業に過ぎなかった会社を上場させる手腕を持つカリスマ支配。

この両輪が稀有な一人会社を成立させたのは間違いない。これは意外に日本人が「されてもいい支配」なのかもしれない。創業者一族の出でカリスマ的経営力があれば、封建制度下でもないのに、「お家を盛り立てる」と日本人は納得してしまうところが、あった。映画テレビ供に時代劇が全盛期を迎えていた時期を過ごした任天堂社員たちにとって、山内を支持するのは「オラが藩の殿様」と少なからず近いものがあったようなのだ。

これが馬鹿殿であれば、いわゆるお家騒動が起きたかもしれない。しかし、山内は横井さんなどの開発者を抱える前から、経営手腕を発揮して前述の通り上場を果たすような、単に会社を相続しただけで社長になった凡百の経営者とはワケが違う。

ドラッカーの『マネジメント』に書いてあったような、「鼻持ちなら無いボス」と表現されていたらどうか、その人物像に近い。経営がうまくいっている組織には、必ずそうしたボスがいて、真摯に物事を考える人物像をドラッカーはそう評価した。思い当たる人物に私は宮崎駿や野村克也をあげる。子供向けアニメーションを作ることを真摯に考え、プロ野球を真摯に考える両人物に共通しているのは、好感がもたれる人物ではないという点だ。(もう少し突っ込んだ表現をすれば「人徳に欠ける」といえるかもしれない)

山内の場合、娯楽を真摯に考えた。それが巨大なビデオゲーム産業を生み出すことになるのは、傍証からも示されるだろう。しかし、それはファミコン開発秘話や横井さん関連のモノでしか山内のことに触れられず、山内自身に焦点をあてたモノが少ないのは、なんともはがゆく、惜しい気がする。

80年代に電力供給が原発で安定していたからこそ、半導体工場が稼働でき、家庭用ゲーム機を家庭で遊べる環境が整っていることに山内は気づいていたのか、それは今では、わからない。

ジョブズと類型を同じくするのは、あまり知られていないようだ。

ジョブズは里親に育てられて、実親の愛情に恵まれず、年齢的には祖父にあたる養父から教育を受けた。山内も実父が家を出奔し、任天堂の経営者である祖父に育てられたという似た生い立ちを持つ。さらに直間接的に二人とも禅宗の影響を受けている。西海岸と関西圏という金融街の論理が届きにくいところをホームグラウンドにしている。

日本のスティーブ・ジョブズが山内溥というより、アメリカの山内溥がジョブズなのだろう。

ジョブズがウォズニアクという性格も温厚で人あたりも好ましい人物と組んで製品を開発していたように、山内も横井さんという車好きのユーモアに溢れた開発者に恵まれて製品(山内の視点から見れば商品だろう)を開発させることができた。

ウォズニアクが抜けてから、アップルはマックをリリースして信者は獲得できても市場を独占できず、ついにはジョブズが追い出されてしまった。このような低迷期をアップルが迎えたように、横井さんが抜けてから、任天堂は据え置き機で覇権を取られていた時期が十年近く続く……不思議と似たような経緯を辿っているように見える。

据え置き機の覇権を取られている間、携帯機で独占的な利益確保ができていたのが、任天堂の強みなのだが、無論、これは横井さんの功績が文字通り遺産として任天堂に受け継がれていたことによって、もたらされた。伝統工芸を受け継ぐような継承が社員にできていたのだ。

携帯機の利益が任天堂を支えていた点は、アップルのゼロ年代の快進撃をポータブルな機体であるiPodやiPhoneが支えていたのに似ている。据え置き機だが、ファミコンがテレビの補完装置だったように、iPodやiPhoneはパソコンの補完装置、あるいはそれ以上といえなくもない。

もしかしたら、これも禅思想の影響かもしれない。茶道などの茶室は、禅思想という本体の補完装置にあたるものと考えてみる。すると本体があるから、機能を補完装置は削ぎこんでいく、禅語の放下(とりあえずは「すてざる」ことの意)的に単性機能に凝縮していく。これが偶然、縮小化の半導体技術体系と一致していたから、製品開発が可能だったのかもしれない。(ホームページの「任天堂の哲学」では近いことが書かれている)

アップル社員がエレベーターでジョブズと鉢合わせて、目と目が合っただけで「スティーブされた(解雇)」というエピソードに近いことも、実はジョブズと同じく山内はしている。在学中に祖父が亡くなったために家業を継がなくてはならなくなったとき、すでに入社していた山内家出身の人物を任天堂から辞めさせたのだ。

後々、経営権を奪い合う間柄になる懸念を見越して、このようなことをしたらしいが、戦後間もない頃でもまだ封建的な考え方が残っているとしか思えないような判断である。現在では理解しがたい。

逆にジョブズは、有名な話なので差し控えてもいいが、「砂糖水売りなんて、やめちまえ」という名文句を口にしてジョン・スカリーをヘッドハンティングしたエピソードがある。しかし、名作古典落語のサゲのように、このスカリーによってアップル社を追い出されたのだから、ジョ

ブズが「スティーブする」のも頷けるといわざるをえない。

こんなジョークのために、山内とジョブズの相似性、一部合同する部分を書いたわけじゃない。

さて、個人的なことも書かねばなるまい。

私には才能があった頃があった。夢を見続けられた時期だ。

その頃に、山内と囲碁を一局打ち、私が勝てば一本だけ自由にビデオゲームを作らせてもらう勝負をすることを夢想した。負けた場合のことは、一切考えてなかった。

これは無謀だ。アマチュア六段といわれる山内に、碁を打ったことのない私が敵うはずがない。

だが、私には時間があった。

一年だけもらえば、私は必ず山内に勝つ。

一ヵ月間ルールを頭に叩き込み、十ヶ月に渡って基礎と応用を練り上げ、最後の一ヶ月で穴を埋める調整を行い、山内との対局で必ず勝ってみせる。賢明でなくとも、一本のビデオゲームの一年間の製作期間をなぞっていることは、わかるはず。

無謀だと語ったが、山内に負けるようでは、ゲームを作っても面白くないだろう。本因坊にも勝つ意気込みで挑んだであろう。結果の如何によっては、もしかしたら、イムズで『シェイクスピア・ロマン』を作ったかもしれない。横井さんがプロデューサーとして開発に関わった『ファイアーエムブレム』の開発会社に、海外市場を念頭に置いたソフトを作る。ゼロ年代に出せていれば、今頃女王陛下にサー(爵位)を賜っていたことだろう。

今なら、ゲーム&タイプを生産するために勝負を持ちかけるかもしれないが、本人が亡くなった今、夢想ではなく妄想と化した、唾棄すべき考えとなった。しかし、これを夢見た頃が、自分に才能があった証であるのだ。それは山内とともに葬り去ろう。

合掌。

タグバ金庫のスポンサー候補が一人なくなってしまった。

悪口を書くと、ファンの方に怒られる。

高橋源一郎さんの『恋する原発』では正日(ジョンイル)が秋山滯の人形、クリントンがアスカの人形だったかな？ 寝所の奥で所有して、そのつながりと言えば、「君は惣流・アスカ・ラングレーと秋山滯、どっちが好きかね？」と問われているような話が『ホワイトALBAM2(スペルを改変して検索にひっかからないようにしている)』である。キャラクターの性格は正反対にしている。

悪口を書くと、ファンの方に怒られる(怖いなあ)。だが、閲覧者数が少ないから、そういう人物が目にする心配はいらないだろう。

「なんでこのキャラクターの声をあててるのは、米澤ちゃんなの？ なぜ宮村優子ではないの？」

オリジナルを出せ！ ひねり出せ！（あと、秋山滯のオリジンキャラクターは…死海文書のように封印！）

こんな話より「アサヒ芸能」好きな人間が求めているのは「たちばなBLACK」…じゃなくて、成田アキラの描いたマンガみたいなことであって、美少女を求めているわけではない。また高橋さんの著作につなげれば『国民のコトバ』の“「第二章な」ことば”である。

だから小林よしのりの女の子と遊ぶ話が好きだ。既婚者なのに女遊びをしまくるのは、事情があってのことで、民事的には慰謝料を請求できることらしいから、あまり推奨はできない。

アイドルや美少女をからかう側にいるのが私であって、萌え美少女のようなキャラクターは生み出せないし、正直作りたくない。こんな正直すぎることを書いてよいのだろうか？ もっとビジネスに徹すべきではないのか？ ビジネスとして作ったキャラクターが清ちゃん先生であって、あんなものは平野啓一郎が「顔がロリで巨乳」という批判的に捉えているものを意図的に作成した、ビジネスキャラクターである。(マリツファもほぼ同じ)

それで、岡田さんに「めんまって、ありえない未来の思い出ちゃんじゃない？」と聴く…ちょっと別の場所でペーストすることを、誤ってここにペーストしてしまったが、聞き流すように流してほしい。修正しなくても大丈夫、

「女子禁制の電子書籍だから」

と、女子禁制であることで情報漏洩の心配はならず、本人にも悟られずにいるので安心だ。

物語的には、そういうものを利用することはある。悪用、こう書いた方がいいか、悪用である。

ギルデンストーンをオデュッセイアのナウシカ・エピソードと同じようなシチュエーションに追い込む。そういえば、『新・鬼ヶ島』的だな、『シェイクスピア・ロマン』って。これもいつか、「社長が聴く」のパロディのネタになるのだろうか。ギルデンストーンはローゼンクランツが死んだことを知って、[「Rosenkranz」](#) (作曲の浜渦さんはドイツで暮らしたこともあったはずだからデンマークの風土がわかるのでは?)をジャスラックと契約して魔編曲した「哀しみのギル

デンスターン～Rosenkranz～」が「嗚咽の音を消すため」に流れる。

親友が殺されて、自然と涙が出る男。その背を抱く女。

「シー・ドーダズ・ボイス」にも似たようなシーンがあったような。

アンチ・プリンセスストーリーとしての「サイレントエフェクト」、この場合トニクのパートだから、中点が必要か。『フォーチュン・クエスト』には『ドラゴンクエスト』にはない、中点がある。パステル・G・キングのGがグロリアのイニシャルのように、この中点にはグロリア・テーマのようなものが込められていると、思う。(→ ルリタニアテーマもの)

あまり書くと種明かしになり、アーヴァンでかかる「サイレントミステリー」はサウンドトラックじゃなくて、『スーホの白い馬』の馬頭琴が本来の楽器であると書くとストーリーの内容が予測できてしまう。予測どおりであるか、どうかは、もう確かめる術は無いけどね。

これらは評論集であるMAG-RLの副産物だ。

読み返してみると、発覚した新事実などをリライトしなくてはいけないのだが、面白い。あの評論を読めば、「ラストがエヴァじゃない話」とか「ラストでアスカにふられない」などのセカイ系を、私は否定的に捉えていることがわかる。それで宇野さんを支持するのは、私もこうしたレイプファンタジーが嫌いだからだよ。“強姦願望”ではなく、“強姦幻想”という意味で、『セクシュアリティの心理学』を読まないで、そのねじれた幻想で性欲を自覚しない「病のようなもの」を理解できない。

そういうことを私はあまり書きたくない。

悪口を書くと、ファンの方に怒られるから、怖いよね。

フォローしなくちゃ。

花澤さんには「All Time the BEST SONG」を歌ってほしい。

「I am a song All Time Best!(私の歌は全時代最高!)」

枕草子の桃尻語訳、「昂って、最高!」みたいな歌詞だが、これはおぎやはぎ小木さんが「ネットで偶然見つけて…」という件(くだり)をしてもらって、出だしの「音がしないが鳴り響く」と、同じような歌い方・節回しのようなモノが似ている曲が、花澤さんの歌にある。

初音ミクやUTAUに音声データを入れたもので「All Time the BEST SONG」を歌わせようかと思っていたが、偶然似ていたから花澤香菜さんに歌っていただきたいのは、山々だが、

「面目ねえ。私に才能がなくて、仕事をふれなくて、汚れちゃった哀しみまみれだ」

(私はこれから、何回花澤さんにフォローをすればいいのだろう。梶君とチュウして間接キス)

見えない敵と戦うフリをすると、「今度こそ貴様のだましネジを回さないぞ!」と壁に向かって拳を振り、勢いあまって壁にあて、壁破壊。(…壁殴り代行のアスキーアートを挿入すべきか?)

(「悪口を書くと、ファンの方に怒られる。」から分岐)アンチ・プリンセスストーリーとしての『サイレントエフェクト』、この場合トニクのパートだから、中点が必要か。『フォーチュン・クエスト』には『ドラゴンクエスト』にはない、中点がある。パステル・G・キングのGがグロリアのイニシャルのように、この中点にはグロリア・テーマのようなものが込められていると、思う。

グロリア・テーマとは映画『グロリア』で、子供を守る女性の姿を映した、女性の琴線に触れる主題である。「母性本能を刺激する」だけでは説明になっていないのだが、極手短にわかりやすくするとそういうことである。

このグロリア・テーマはルリタニアテーマものという田中芳樹の提唱から、そういう主題もあるということ考えた。

『ゼンダ城の虜』で架空の国ルリタニアのように、ヨーロッパの小国を舞台としたフィクションを書けないかと、『アップフェルラント物語』のあとがきで書いていたはずだ。『ゼンダ城の虜』の他には、『カリオストロの城』がよくできていると評価していたはずだ。このように架空のヨーロッパ小国を舞台とする冒険活劇をルリタニアテーマものと、作者本人が書いていた。

『アルスラーン戦記』のルシタニアの国名は、このルリタニアからきていると考えられる。田中ファンというと年季が入っているから、皆知っていることだろう。

悪役の国・民族なため、どこかの実際の国をもじった国名にするわけにはいかず、架空の国で当然キリスト教圏であるルリタニアを選んだ配慮を感じる。

面白いのは、第一部が角川文庫から続刊中に、湾岸戦争が起きている。マルヤムがルシタニアに蹂躪されたように、イラクがアメリカ主導のナトー軍に蹂躪されて、ニンテンドー・ウォーなんて言われた。(注・地理的にはマルヤムはトルコに、エクバターナがバグダッドにあたるか)

80年代の想像力があつた人なんだ、田中芳樹は。(わかる人にしかわからないけど一時期の村上龍的だった)

90年代に入ると、『アルスラーン戦記』が長期間刊行されず、版元も変わるなどの「失速」が見受けられる。90年代の想像力に、ついて行けなかった気がする。あるいは90年代が作品に追いついてしまう。

このように、私の田中芳樹の評価は、80年代が全盛期で、そこで獲得したファンが作家を長く支えていたという、「見習いたい」ものである。それから、『ジョジョの奇妙な冒険』の第二部に出てきたワムウが戦闘の天才なら、田中は悪口の天才である。本人が言っていることだから、悪口にはならないだろう。いい人は「あの人いい人だね」と一言ですむけど、悪口は一晩中言えるとかなんとか、どこかで書いていたはずだ。いろいろと、作中でも悪口を書いているが、「頭が薄い人」のことには触れない。というか、あまり「頭の薄い人」が出てこない。そうした人をけなしたりしない。本人のヘアスタイルが似ているからなのか、解放王アルスラーンを主人公にした小説を書いているのに、「そこは平等じゃないな」と、思う。

悪口を書くと、ファンの方に怒られるから、怖いよね。(日記 悪口を書くと、ファンの方に

怒られる (に戻る)

とって付けたようなことを書くと、荒川弘が『アルスラーン戦記』のマンガを連載しているけど2010年代、10sの想像力を原作の中にどう混入するかが問題になる。

マンガ業界を見渡すと、ソードオブサンダル…ではなく、ソードアンドサンダルだろう。これでは『ソードオブソダン』のジャンルゲームになってしまう。気を取り直して、古代ローマ時代を舞台にしたソードアンドサンダル(映画でいえば古いのは『ベン・ハー』で最近のは『グラディエーター』)の軍略モノは『ヒストリア』など結構ある中、10sの想像力を見せているものは少ないと思われる。

一応、9.11以後のテロとの戦いはテーマにできるが、それはゼロ年代でやりつくしたと思うし、同じ雑誌に連載している『進撃の巨人』とはまた違ったものを表現できるのか、マンガの方を読むとこうして考えさせられる。

原作ではキリスト教対イスラム教ではなく、キリスト教対多神教文化的な、やはり古代ローマのキリスト教を国教とした以後、周辺地域(その土地土地にケルト神話などがある)との軋轢が戦争に発展していくのに、近い。

これも、原作小説を10年以上読み返していないから、もしかしたら、また憶え間違いしていて、違うかもしれない。

このルリタニアテーマものを二重に構成して、魔術的リアリズムで書いたのが『七月のセフェニン』だ。大統領が出てきて、文学奴隷を作るという、魔術的リアリズムな狂った内容であるが、ここからダイジロウの犬種が生まれた。BCCKSあたりでアップをしたい。

これは書くか書くまいか、ためらいがあるが、花澤さんは「うちの母親に顔の雰囲気似てる」ということがあって、ファンの方が怒るだろう、これ。「なんでお前の顔も心もクソ豚の母親と俺たちの香菜ちゃんが似ているなんて言うんだ」と、絶対に怒られる。小さい文字にしてこっそり書いておかなきゃならない。

「I am a song All Time Best!」の邦訳構文は「私は歌、それも全時代最高!」じゃないか？

よしえサン、ありがとう。

雑誌「イブニング」をコンビニで立ち読みして、須賀原洋行さんの連載を読んでいたら、よしえサンが亡くなったことが最後に描かれていた。

家に帰って、泣いた。

同じように奥さんに先立たれたマンガである『さよならもいわずに』よりも、不意打ちを食らわされたために、心の受身が取れなかった。そして、エッセーマンガなどの登場人物も、やがて死ぬのだという、フィクションを越えた現実を思い知らされた気がする。これは、『気分は形而上』から登場し、主役を張るまでになった「よしえサン」シリーズをずっと読んでいた読者でないと、わからないかもしれない。ダンナさんと結婚して、食べ過ぎで調子が悪いと思ったら妊娠していて母になり、乳ガンを患っていたという人生の折り目を、須賀原さんにエッセーマンガとして描かれてきたのを、ずっと読んできた人間でないと理解できない。

よしえサンと須賀原さんの関係は、呉さんの『マンガ狂につける薬』にたしか書かれているはず。私はこれ以上のことをここで書くべきじゃないと思う。実際にあたってほしい。もしかしたら、それは現実のオデュッセイアのナウシカエピソードかもしれない。

よしえサンがケイレンした時に、おそらく「ダンナさんが工作中だから」、邪魔にならないように一人で病院に行っていたのをマンガで読むと、胸が詰まる。それはよしえサンが「自分よりも仕事をとってほしい」と思っているからだ。マンガではカリカチュアライズされて、いつも「オホホ」と笑っている楽道家で朗らかな人が、実は立派な人だったのだ。

ケイレンは乳ガンが脳にまで転移し、脳腫瘍が出来ていたことが原因だった。それからは、マンガの中で描かれているとおり、よしえサンは亡くなる。

須賀原さんは奥さんの死後、一年間休むことなくマンガを描く。よしえサンの気持ちに須賀原さんも仕事をするので応えていたのだ。『気分は形而上』の頃から比べて、須賀原さんも立派になった。

図書館かどこかで、呉さんの『マンガ狂につける薬』をもう一度読み返そうと思う。マンガの中でよしえサンが生きていたように、そこにもよしえサンが生きていたことが書かれているからだ。

そして、もう一度「よしえサン」シリーズを頭から読み返そうと思う。きっと自然に口にしていくと思う。

「よしえサン、ありがとう」

と。

今回は記憶違い、憶え間違いは無いことを祈る。と、祈っていたら「よし江さん」と書いてしまっていた、ひらがなで「よしえ」、「サン」はカタカナである。それはともかく、エッセーマンガが図らずもよしえサンの「ライフログ」になっている。

あと、この件で泣いたことを女子に知られたくない。須賀原さんの作品は、感動作が無いわけではなく、『うああ哲学事典』の“ヘーゲルの「意識」”は、実は私はけっこう好きな話だったりする。

かぐや姫は観れないけど、こちらは観た

高畑勲のリアリズムへのこだわりは、我々凡人がはかり知れない、高次の別次元・不可思議な異空間という水準として考えなければいけない。

そのこだわりのせいで、なかなか作品ができなかつたりすることもある。

スタンリー・キューブリックもこだわり派の映画監督だが、彼とは別と考えた方がいいだろう。

『太陽の王子ホルス』製作時にこだわりすぎて労働争議・・・これは四分の三ほど冗談である。別の角度からアプローチしよう。

こだわりの一旦が窺えるのが、ラジオから流れる曲が、本物のワルシャワ・オーケストラの演奏したものをわざわざ録音してきて、『となりの山田くん』で流していた。90年代は『ジャイアントロボ』や『プリンセスナイン』などのアニメでワルシャワ交響楽団に演奏させたBGMを流していた。まだ、バブルの残滓があったのだ。もうひとつ東側の崩壊で、旧社会主義圏も計画経済を離れて自由主義経済を受け入れざるをえず、外貨を稼がなくてはならない事情があったのもたしかだ。だから外国からのオファーも受けたのだろうと、勝手な結論を下してしまう。円高で日本が強かったのである。

話が少し逸れてしまった。

『おもひでぽろぽろ』でロトスコープを採用してギバちゃんと今井美樹の撮影された演技を、フィルムの1コマ1コマ書き写すという、『白蛇伝』以来やることがないようなことまでしている。ここで注意が必要なのは、『白蛇伝』は東映動画製作だが、高畑勲が入社前に製作され佐久間良子をロトスコープで動画に起こした、アニメ作品である。（東映に入社したての佐久間良子が白娘役でフィルム撮影・若者の声をあてたのが森繁）

私の個人的見解は、ロトスコープという手法は「技法」としてとらえるべきで、まだよくアニメーションを作画できない見習いに、先詰め後詰めなどを体に覚えさせる訓練としてなら、メソッドの一環に取り入れてもいいと思う。マンガの描法を引き合いに出すと、擬音・オノマトペだけはトレースしてもいいから既存のマンガ作品の中から模写の方がいい。高校美術のレタリングも参考になるが、構図の中に擬音をどこに配置するなどは、描いて覚えるしかないところがある。

あまり人のことを真似するのを薦めないタイプの私でも、真似した方がいいと思うものもある。ドロボウしていると思われぬように、うまく盗んでほしい。今も昔も、動画三万枚である。

高畑監督の新作もプレスコしていたものにあてるように作画させている。そのため、先にセリフを音声録音されていたため、地井武男の遺作として残っていたという、曰くもついた。それは置いて、先に録音した声色に合わせて、キャラクターの表情を描くのが、プレスコの主眼である。

このプレスコは『紅』『ヴァルヴレイヴ』などで、けっこうテレビシーンでもやっていることはあるが、ハイクオリティーを出す映画でやる場合、スケジュール進行の妨げになる。もう少しつっこんだことを言えば、監督がこだわりすぎてなかなか完成しないことになりかねない。

テレビペースなら、ある程度録音に作画が合わせられればOKだが、OKを出す人間があの高畑勲の場合、こだわりのためになかなかOKは出ない。

地井さんが話しているように、おじいさんの表情を描かせるために、どのくらいリメイクしたのだろう。そこだけはキューブリック監督と同じくらいこだわ…これ以上書くのはやめよう。

無重力空間での演技が気に食わないから、リメイク50回とか、『2001年宇宙の旅』でやっていたとか、こだわりすぎて映画がなかなか完成しなかった原因がキューブリックにあるだろう。アポロ月到着までに間にあわなかったかもしれない。

これ以上は、巨匠にたいして失礼だ。

話を本題に入れると、[新編]を観て来た。

上映前の映画宣伝で『ペルソナ3』を観るたびに、たまさんのマンガ『なぁゲームやろうじゃないか!!』を読んだことがあるので、『なるべそ3』にしか見えないのである。ダビデの星の石田彰が「ペー—そ—なぁ」というのを聞いたときに、「な—る—ペ—そお」という言葉を脳内で変換されてしまう。

ちょうどカンオケが、エムカミ君が納まっている箱みたいで、話の内容と合っている。シャドウが黒玉吉にあたるとか。影時間がウラメ（本当に原稿を落としてしまう締め切り）のことだと思う。

こんな、どうでもいいことを書いて、読んでいる人を困惑させたいわけではない。日記なのだから、オチも前後の整合性も無く、ただ自分の思ったことをだだ洩らしにするように書くべきなのだ。日記とはそういうものだ。

小学生を演じる人が、『アイドルマスター』が好きとか、思ったことをそのまま書けばいい。あの小学生がなんで魔女になったのか、その悲劇は語られるのだろうか？

つまり『まどマギ』さんの映画は、今後の展開ができるような、これ以上言うと忍野扇が注意したようなことになるので言えない。だだ洩らしでも、マナーは守らなくてはいけない。ねこちるみたいな目をしている女の意見に流されていいのか。（マンガ表現論的には『テラフォーマーズ』の悪役も似た目をしていることは指摘すべきだ）

主役を奪うような叛逆をする人の話。

なんのことを話しているのか、よくわからないと思うが「動かすとラットレーシングが起きるアプリケーションを直すために、OSごとアップグレードしました」という話を、「プレイステーション・ポータブルでいえばカスタムファームウェアを導入しました」という、私は何を何を話しているのだろう？

カスタムファームウェアを導入するのは、ハードメーカーに対して叛逆行為であるが、当のソニーの社員がPSPにカスタムファームウェアを入れてみたら、「うちの製品でこんな便利なものがあったのか！」と驚いたほど、超便利なデジタルガジェットとしてプレイステーション・ポータブルが生まれ変わったという。

もうちょっと、深く突っ込めるのだが、拡張現実的想像力のひとつが改造的想像力、あるいはパラレル・リアリズムなどに触れるのは、誰も求めていない。もしかしたら、このカスタムファームウェアの導入はダウングレードになってしまうかもしれないが、それは恐れずやるべきだ。何の話をしているのか、よくわからないと思う。（ここで「オレもわからない」と書くとギャグになってしまうし、「純粋贈与から贈与→交換になっている」とか書くと、本当にわけがわから

なくなる)

しかし、そこは改造的想像力という現年代の想像力を表現しているかもしれないと、評論家っぽいことを書けば、読み手も許してくれると思う。

別に、その点について書けないわけじゃない。あえて書かないのだ。ここまでしか、書かない！

映画の『あの花』がテレビシリーズでの出来事を回収する方向だったのにたいして（つる子のやさしさが表現されている）、[新編]はこれから回収することをいろいろとしているような、印象を持つ。それは個人が相対的に比べている感想であって、本当にそうかは、まだわからない。今後の展開と前述したのは、その点なのだが、多くの人間の目にさらされる（はずの）媒体である本電書では、なんとかそのことに触れないで、タネが割れない話でしよう。

どうも、業界関係者ばかり見えていて、普通の一般的ネットユーザーがいない。そんな気がする。「また、わけのわからないことを言って、プロは忙しいのだから、あなたの電書を読んでいるわけないでしょ？」と、閲覧者様に思われたと思う。

公式見解上、そのとおりだ。

たしかに『ゲーム・オーバー』で書かれていることを公式に認めるのは、任天堂の立場上、難しい。だから当時の広報担当今西さんが「日本でのことはフィクション」とアナウンスして、かわすしかあるまい。

話は変わるが、小池一夫の話をしたい。劇画村塾という松下村塾の名をもじったようなマンガ業界人養成の私塾を開校していた。マンガ家コースと原作者コースがあって、後者にさくまあきらと堀井雄二の二人がいたことは、どこでも書かれている。（松下政経塾はたまたま松下村塾と同じ漢字だけなのか？）

さくまあきらの話だったと思うが、塾長である小池一夫が自らストーリーについてレクチャーすることもあったという。そこで、読み切り短編では「主人公を最後に殺さない」ことにしろと、言われたそう。

なぜなら、もし読み切りの人気が出たら連載を獲得できるから、主人公が死んだ方が面白いけど、生きていたら連載できるから殺してはいけないと、商業作家としてのコツのようなものを話している。

平田弘史の『血だるま剣法』とは違うのである。

この話と映画は関係するの？ サンドウィッチマンのネタなら、首を傾げて「ちょっとよくわからないんですけど」になると思う。一応、小池一夫と対談しているなどは、「その話、もうちょっと詳しく」となるだろうが、ここまでにとどめよう。

オープニングや変身時にダンスするとか、同時期に公開の『プリキュア』さんを意識していたのだろうか？

変なことを書けば、影絵を駆使した変身に歴史を感じる。

感慨深い。『くもとちゅうりっぷ』の政岡憲三が影絵アニメーションを戦意高揚映画の「桃太郎」でやっていたのを、手塚治虫が日記に「あれはいいなあ」と書いていたのを知っていると、それぞれのキャラクターのシンボルカラーの影絵でダンスするのを、いろいろ思う。

当時、海の向こうではフルカラーの『シンデレラ』をディズニーが作っていたのである。現状

も似たようなところがある。コンピュータ上で3Dモデリングしたキャラクターでアニメ映画を作るのが、21世紀に入ってから世界の趨勢となっている。日本ではMMD（MikuMikuDance）の映像がたくさんプロアマチュア問わず作られてはいるが、まだまだ2Dセルアニメ（物理的なセルフィルムはエイケンしか使用していない）が主流である。

話を戻すと、シルエットアニメーションは日本のお家芸かもしれない。テレビで影の魔女と戦ったシーンを見ていた頃から、思っていた。それを深化させると変身シーンでの影アニメになる。影にテクスチャーを貼られているから、切り紙アニメの方に近い。変な話、影と切り紙が一体化したときに、立体的なセルアニメのキャラクターになるという、アニメ自体への自己言及的な、雑誌ユリイカの別冊に書かれていたことを、書き抜いて作っているような感想しか、書いていない。（それは日本が独自のアニメ表現に「変身」したとか書けるけど、それは御代をいただかないと）

感想だから、裏付けは取っていない。

映画そのものが「皆の希望を叶える」もの、つまり「視聴者の願っている」ことでキャラ弁が出てくるのも、ネットを中心としたファンの総意が表れている気がする。（マミさんは社会に出たら「あいじん」にしかねれないと思う・魔法少女になって本当によかったと思う・これ悪口か？）

マミさんはいつも、三角関係の一角にいる。テレビシリーズでも、常に三人、まどかとさやかとマミ、まどかとマミとほむらちゃん、まどかと杏子とマミ、これが「ゲットワイルド」ではなく「ゲツスール」で二人きりになると関係が壊れる。

映画でも、三角関係の緊張から「二人きり」になったから、銃撃戦に展開する。（だからパパと本妻がいて、ら・まんの立場にいるのが黄色）

それとこれとは、別の話だが、なぎさちゃんには、我々はすでに出会っていた。

TVシリーズおよび劇場版の「はじまりの物語」（エンディングでシルエット出演していた？）を観ていたら、出ていたことに気づく。

“僕たちは知っている”わけじゃないから、そこは違う。（明らかな牽制行為）

とってお菓子が好き、女の子らしい、女の子なのだろう。

マミさんが泣きながら誰かを撃ち抜くのは、「本妻に走っちゃ、イヤ」と言って、泣きながらパパの懐に尖った得物でヤンデレCDの登場人物のように刺すのと一緒だろう。

自分の手の内を明かすと、にごうさんがどうのこうのが、煙幕であることは明かしておく。特撮で石切り場が撮影場所、色付きの煙幕が吹き上がる。昔、あまりにも爆発が大きすぎて、消防車両がかけつけているのがチラッと見える『メガレンジャー』の第一話である。

何を書いているのだろうか？ 関係無いことばかりを書いて、（忍術を使うように人差し指を立てて両手の拳を縦に繋げる）煙に巻いている。

「ドロンさせていただきます」

さて、振ったネタを回収すると、こだわりすぎて映画『傷物語』がなかなか完成しない。いつになったら、『化物語』のエピソード・ゼロがアニメとして観れるのだろうか。テレビアニメでは、それがあったことを前提で話を進めているから、話の繋がりが正直ちょっとわからない。『傷物語』を観た後に、＜物語＞シリーズ全体を見通すのが、順序通りなのだが、図らずも話がシャ

ッフルされている印象を持つ。そもそも「つばさタイガー」の途中で「しのぶタイム」の出来事があったから、シャッフルしていることが「本道」なのかもしれない。

魔女異空間作成の劇団犬カレーが納期ギリギリに映像を卸すことで有名なのに、そっちより遅いってどういうことなのだ。

「今回はプレスコで録りました」

などの、遅くなった理由が後から判明するのだろうか。

映画を観てきたが魔女設定画が
（なんの商売上手なんだ見習わなくちや）



高畑勲のこだわりの一端が窺えるのが、鈴木敏夫の『仕事道楽』で、紅花の取材をしていくうちに紅花の研究書を一冊作ってしまうことや、ひょうたん鳥の作中歌の音源を探し当てるまで止めないなどのこだわりかすぎ。そんな高畑監督の後継にあたるのが、スタジオジブリにも所属していた片淵監督で「インポート・データ・アニメ」、資料を徹底的に読み込む1Dアニメは宮崎駿だけではなく、高畑の影響が大きいといえる。監督作品が『アリーテ姫』と『BLACK LAGOON』という両極端である。

Puboo×Paboo

女子禁制

それにしても、タネを明かさずに書くのは、文章芸を披露して煙に巻く方向に行くしかない。本当なら、現在のテレビアニメでもう、3Dモデリングの方に寄ってきていることを「もうちょっと詳しく」書いた方がよかったかもしれない。円安の影響なのかは、業界関係者でないと裏を取れない。

三オボックスの『超読解魔法少女まどか☆マギカ』を読んでごらん。後ろの方になぎさちゃんの別の顔があるかもしれない。ただ、アプリ版は著作権上の関係で、イラストが載っていない。と、思ったら載っていた。

スマブラに、もしもシナリオモードがあったなら

「ゲームについて思うこと」の連載を追って行けば、知っていることだが、スマブラの次作にはシナリオモードが無い。このことをまず踏まえる。

それで、雑誌「ゲームラボ」のサイバークラッカーズによる情報だと「妻帯したため『D』の村人、『W』のトレーナーを参戦させたのは、嫁の影響ではないかとまことしやかにささやかれている」と書かれてはいないが、「Miiを参戦させないのは、いじめに繋がる恐れがあり、全年齢対象にできなくなるため」という噂が業界に流れている。

それなら、戦わないMiiを主人公として登場するシナリオモードを作れば良いと思う。

Miiたちが住む町（ハブ&スポークの遊環構造で設計する）を舞台に、子供のMiiが持っているフィギュアが、スマブラで参戦するキャラクターたちなのだ。それで、Miiたちが夜、寝静まるとフィギュアが勝手に動き出す…『シュガーラッシュ』だね。

そこで、対戦したりするのが、フィギュアサイドのゲームである。

Miiサイドだと、ゲームコインを使ってガチャガチャをして、プレーンフィギュアとモジュール（帽子や手袋や靴や服）を手に入れる。これは運の要素だから他の三分類の内、競争は対戦で、模擬はフィギュア集めだから、後は眩暈だけしっかりさせれば良い。

新キャラが増えるのは、カチャガチャではなく、シナリオ上友達（役のMii）にももらったフィギュアだったり、お父さん（役のMii）が海外からのおみやげでフィギュアを買ってきてくれたり、捨てられたルイージのフィギュアを拾ってくるけど、スネちゃってなかなか対戦しないとか、吉田戦車が喜びそうなイベントを作る。（フィギュアを求めて「ゴミ箱の中のゴミをあさるようなマネしないで下さい」と言われる）

モジュールを使ってエディットしたフィギュアをすれ違い交換できるように、シナリオが進むとできる。メッセージインザボトルみたいにMiiユニバースへ流すこともできるようにする。

それで、お父さんが大事に缶詰の中に入れておいたゲーム&ウォッチをおもちゃ箱に入れておくと、夜のフィギュアサイドでフィギュアが壊れたゲーム&ウォッチの画面の中に入って、どんなゲームをも演じることができる、つまりMiiの起源であるMr.ゲーム&ウォッチと対戦する。（ああ、ここで気づいた。『シルエットアクター』のシルエットのオリジンはMr.ゲーム&ウォッチ氏だったんだ。私は宮本さんや田尻さんとは違って、子供の頃の思い出をビデオゲームに封じることができなかったんだ）

野島一成さんとは違う方向だが、まあこれぐらいのことはできる。Miiサイドとフィギュアサイドの複論理でシナリオ作って行けば、それなりの成果は上がるだろう。

今回はオチが二つある。

何度も書くとおり、私はバンナムに入社できなかった。だから、このようなクオリティーの低いシナリオは採用されないし、この程度のことのできるプランナーすらいないのに、シナリオディレクションができる人材を雇わなかったということは、人事部の責任問題になる。

まあしかし、これで天才でないとゲーム会社に入社できないということが確定的に証明されたと思う。

美術家会田誠の逆で、「天才ではなくてごめんなさい。」である。

もうひとつのオチは、

「私はスマブラ、やったことないんだよね」

そんなどうでもいいことより、リズを入れてほしいなあ。最後の切り札は疾風迅雷で強すぎる。佳奈くんに仕事をふってあげてほしい。



Mr.Mii & Miss.Mii参戦 http://www.pixiv.net/member_illust.php?mode=medium&illust_id=41084913

http://www.pixiv.net/member_illust.php?mode=medium&illust_id=42476384

サキ参戦 http://www.pixiv.net/member_illust.php?mode=medium&illust_id=42935766

ダック参戦 http://www.pixiv.net/member_illust.php?mode=medium&illust_id=42935766

Super Smash Lost Bros. [前編は参戦編](#) [後編はカメラ考察編](#)

227: マリオカート 本とせし/いれど

公園を中心とした

無国籍で
全世界のユーザーを網羅

ハブ &
スポークで
マップ作り

自然
スペース

アトキ
スペース

おまじ
空間
作り

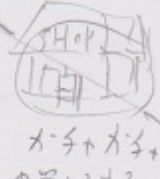
アトキ
スペース

ホブ
スペース

遊具
スペース

遊王界
構造で

足したり
引いたり
・7条件



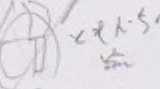
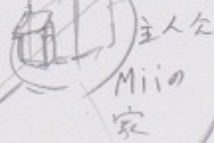
カチカチの
運い出し

ベツとツツ
他人が
アトキ
しんじ



アトキストーリーのゾロゾロ
ベツの下にいたかんじ
アトキアトキ
残せおれ

リスガムス
かしくて描
けません



又アトキ
モデル
海原様もアトキアトキ
アトキアトキアトキアトキ
アトキアトキアトキアトキ
アトキアトキアトキアトキ



公園のアトキ
アトキアトキ
アトキアトキ
アトキアトキ

アトキアトキ
アトキアトキ
アトキアトキ
アトキアトキ



最後の
切り札
もちろ人組い越し

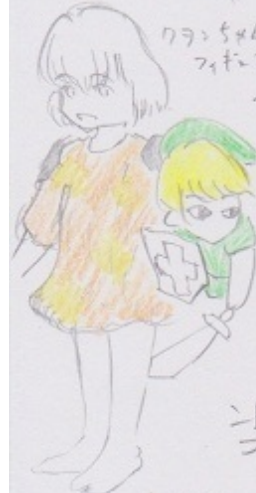
ハタハタ
ハタ



マリオ内で
カズエツ版
アトキアトキを
再現



Mio
アトキアトキ



アトキアトキアトキアトキ
アトキアトキアトキアトキ

アトキアトキ
アトキアトキ
アトキアトキ



アトキアトキ
アトキアトキ

君の主人様も
僕に
夢中さ

アトキアトキ
アトキアトキ



楽しいな。

おそろく 未来研究所
出向してアトキアトキのアトキアトキ
これよりアトキアトキアトキアトキ
アトキアトキを出して、アトキアトキにアトキアトキを食ら
と見い。アトキアトキアトキアトキ。

アトキアトキ
アトキアトキ



アトキアトキの要素が成立
する部分を作れば
このマリオは
完成する。
アトキアトキ
アトキアトキアトキアトキ

未完

声明文

今回、ファイナルファンタジーエクスなんたらは「i+4」のサイコ・トランス・システムの「カンニング疑惑」が持ち上がった。

何百・何千か書き繰り返すがスクウェア・エニックス社に私は入社できませんでした。当時、東京に住んでいて、ゲーム会社に入社できなかったから、都落ちして今に至る。

その因縁の会社に「カンニング疑惑」が持ち上がったなら、「疑惑」がたとえ「誤解」であっても、怒ります。

たとえるなら、「一緒に遊ぼうよ」と言ったのに仲間外れにされ、こちら側が楽しく遊んでいると、勝手にまざって遊ばれていたような、不愉快きわまりないことをされている

。ZUNさんが同人活動を妨げないように、東方シリーズをほぼ開放しているように公式見解上「影響なし」としていたのを台無しにされた。

皆楽しくやっていたのに、スクウェア・エニックスがまざってきて、すこぶる気分が良くない。

「お前、嫌われてるって、知っているか？ お前がずうずうしく入ってくると、皆やりにくくなるんだよ！」

仮定として、入社させなかった人間のネタをつまみ食いのカンニングが確定したら、軽蔑すべきだ。

スティーブ・ジョブズなら絶対に「腐った連中」と罵っていたに違いない。

このような事態になって、もっとクズカゴをいじり倒せばよかった。

『キングゲイナー』は好きなのに、心をナウシカにして、いじってきたのが、もっともっといじり倒せばよかった。

いじりたりなかった。

もう、この会社のゲームソフト買わない。



批評の章内に
書評を内蔵

最近出てきた画像データなどを編集して、
本の書影を掲載してみる

『731』の『トシヒコ』のモデルは、この表紙の少年にすることに
図書館から借りてきた長野まゆみさんの『天球儀文庫』

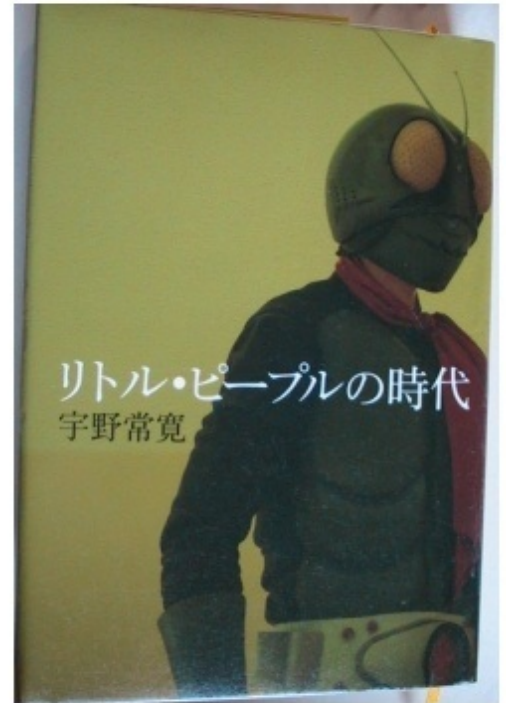


『精霊の守り人』シリーズの評論のため買い揃えた
今では文庫が出ているので、そちらの方を手に入れた方が予算が...



青山ブックセンターに行けばまだ売っているかもしれない本
これを参考にしてバルサザーの衣服を描いた・・・
だけではなく、『娑翁浪漫』の衣装の多くはここから引かれている
スコットランドのアリゼも

『なかなか書評を書くことができない
リトル・ピープルの時代』



ふいんき語りの本
表紙の挿画は志村貴子さんで
これは買い



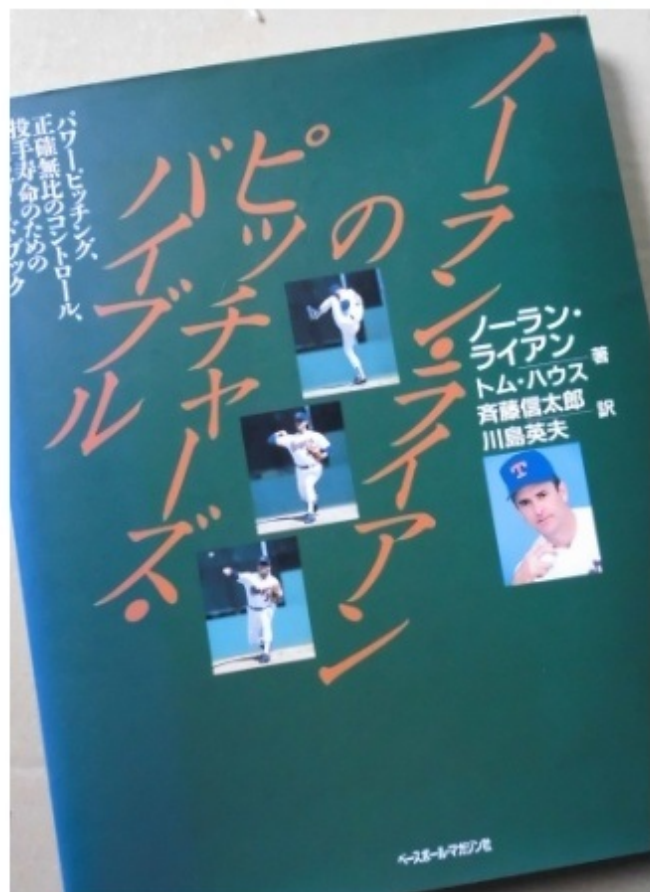
特装版なのか
日下潤一さんの装丁で
これは新古書店救出組

大好きなので
専用のフォルダを作成



読み終わるとほぼ必ず「カンドー」する
『怪奇映画男』はさすがに電書化したくない



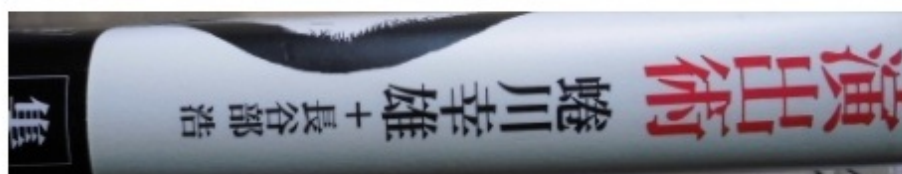


野球好きなら、
こういうものを
一冊くらい持っている。

no
image

本当なら、このスペースに
私の宝物である宮本茂さんの
記事が載っている「TIME」の
書影があるはずが、
大事にとっていたら
どこにやったのか
行方不明になってしまった。

何度もネタにすることになる
サーの爵位をもらえたことを
証明する人・蜷川幸雄
自作が蜷川シェイクスピアに
似ないようにするのが大変



『アルザック』を手に入れた。

最近洋書を手に入れやすくなって、ドラクエなら「べんりな よのなかに なったものよお」であり、川島教授が「便利になった分、それだけ脳を使わなくなったのです」と嘆くのである。

ドラクエはおいおい、関連することがわかるが、脳トレは関連しない。

『アルザック』は説明不要のバンドデシネ（フランスマンガ）、作者メビウスは多くのマンガ家に影響を与えまくって、翼竜に乗って天国に旅立ってしまった故人である。

開口一番の感想は、ぜんぜん、古くない。

前世紀の70年代に描かれているとは思えない、たとえばパロアルト研究所のようなもの。後のマックのユーザーインターフェースを開発していて、電子インクも70年代に開発していたという、あの研究所のように、後の世に大きな影響を及ぼした作品である。

これが古いと感じたとき、新たなメビウスの新しい『アルザック』にあたるものが世に出ている。

あるいは永遠のスタンダードかもしれない。古びることなく、新たな着想を与え続けるマンガの中の「世界文学」としての地位が与えられてもおかしくない。未来、確実にマンガの古典になる作品。（この場合、スタンダードが模範であって、古典はクラシックか。かなり未来の話だな）

「MAG-RL」を書いている頃から、「我々の世代にはメビウスにあたる者が存在しない」と思っていたが、今現在でも当時の評価通りに、メビウスの後継となるインパクトやショックを与える海外作家、舶来品がない。

だから、自前でなんとかするしかない。それが、ドメスティックなおたく文化からの引用になってしまう。それは本批評の趣旨ではないから、もっとう、TM Networkの「ゲット・ワイルド」の歌詞から「もう何も怖くない」と巴马ミが口にするように、アルザック・シリーズから抽出されたデザインや小道具などの話をする。（我ながら話の流れを作るのがうまいなあ）

ARZACHのシルエット



いろいろ利用する

「メビウスリンク・ザ・オリジン」は電書として独立させることに決めた。

マネタライズである。以下は、ダイジェスト

まずは、鳥山明だろう。緑色の全裸男に蹴られるゴーストの人が、ドラクエIIのローレシアの

王子の元ネタだ。このゴーグルの人は元々、荒涼とした砂漠をオープンカーで走ってきたから砂埃から目を守るためゴーグルをしている。ドルメンのような壊れた橋の上にいる大猿が、月を見た孫悟空の巨大ザルであろう。女性が生着替えをしている横にある単なる酒ビンと思われる物の意匠は、ドラクエⅣの天空のかぶとの形状に似ている。つまり「素薔薇しい調度品」だったということだろうか。

もちろん 法王印(炎紋)



敵キャラの
体の中に咲いてもいる

鳥山の次は宮崎駿だ。アルザックは『ナウシカ』のレガースをしている。レーヴェが翼竜なのは、疑いがない。ドルグの鳥馬の騎兵隊は、アルザックが見下ろす恐竜騎兵隊から、そのフォームやデザインを抽出されていると、先の巨大猿の瞳の描き方が、オウムの瞳の描き方そっくりである。



敵キャラと思いきや
人類最後の希望たち

オウムの瞳の描き方を デットコピー

何が「うりり」だ。

それはともかく（大活躍だなキャリバン）、ゴーグルも『ナウシカ』では腐海の探索にはかかせない装備品である。

井上伸一郎は「竿状武器（長物の武器）の『特許』は永野にある」と語っていたが、恐竜騎兵隊の持っている竿状武器が、モーターヘッドの武具のモチーフになっているだろう。特許は実はメビウスが持っていたのだ。ロボットに装備させるのは、永野の実用新案に過ぎなかったのだ。

（取締役を批判するなんてことをしたら、角川グループから仕事がこなくなる。でもいい！ 私は似非とはいえ、評論家だ。評論家として書くべきことは、書かねばならぬ）

ブックリンク

バンドデシネレビュー メビウスリング・ザ・オリジン『ARZACH』

<http://p.booklog.jp/book/72417/read>

去年亡くなられたメビウスには、少しからかったものがあったが、本格的な評論・批評となるものを、実は作りたかった。それがメビウスのはなむけになるだろうと思っていた。

余談として、「MAG-RL」のキャプションで歯切れの悪いことを書いていたのは、このように現物を手に入れてないのに完成させてしまったから、取材不足が否めない。再三に渡るが、取材費がちゃんと出る執筆をして、出版物としてちゃんと上梓したい。

広告

バンドデシネレビュー
メビウスリング・ザ・オリジン
『ARZACH』メビウス

作者メビウスは多くのマンガ家に影
響を与えまくって、翼竜に乗って天
国に旅立ってしまった 文中より抜粋



ブックログのpapierにて販売

¥20

Architecture
Product
System

Book
Agent
本のセールスマン

原恵一さんの名作アニメについて

『アイカツ』のアニメレビューで、相対評価する『21エモン』は、もう二昔も前の作品で、憶えている読者も少なく、『アイカツ』の視聴者（メインターゲットの団塊孫世代）ならば、ほぼ存在を知らない。

そこで、付録として、「21エモンについて」を書くことにした。

具体的に似通っている点は本編を読んでもらうとして、『21エモン』で重要なメインスタッフは、やはり原恵一監督だ。書き出しも原さんに触れることから入る。

『21エモン』のチーフディレクターは、原恵一さんであるということは、それだけで作品の質が保証されていると、観る前から予断を持ってしまうのは、いただけない。

しかし、作品の質は保証できる。

音楽は田中公平、これは前身の番組『エスパー魔美』から引き継がれている。悪口に聞こえたら、すまないが、「これは『人間交差点』を読んだな」という話を演出したのが、原さんだ。（『エスパー魔美』のCDのライナーノーツに書いてある）

下請けには京都アニメーション、プロデューサーには亀山郁夫の名がある。

つづれ家が「ひまわりが生まれていない野原家」であるように、後の原作品に、繋がるものがある。

昭和時代村が「オトナ帝国」の20世紀博だろう。

スカンレーの声をあてている人物が、最近スピンオフマンガを連載開始したアクション仮面の声もあてていることから、「配役」も似ている。

中途であるが、これだけでかなりのことがわかるはず（昭和時代村ではなく昭和村とか、郁夫じゃなくて亀山泰夫なんだけど、それは本稿で直せばいいか。IGタツノコ時代のプロダクションIGが作画外注で製作に参加しているとかあとで付け足そう）。あとは、第一話のAパートがSFの説明として優れているとか、原さんがコンテを切っているから、当たり前のことを書いたりするだけだ。パソコンを使ってばかりいると、漢字を覚えなくていいとか。

一見、『21エモン』は『アイカツ』と無関係にあるような、気がしないでもない。『アイカツ

』のメインターゲットの親の世代（団塊ジュニア世代）が見ていたのが、『21エモン』である。

もう、皆気づいていることだと思うが、『21エモン』の作中の西暦1999年で、ダイオウ星からキョーフという宇宙人が地球に到来して、星間の宇宙航行時代が幕開けするように、『アイカツ』では1999年の前年付近にマスカレイドが引退している。物語りの前日譚として、21世紀に入る前に大きな事件が起こっている、面白い符号だ。

次は、本編で触れる記述だ。

20世紀で21世紀の少年少女たちは、宇宙飛行士を目指すはずだ、というスローガンは、時間経過した実際の21世紀ではアイドルを目指すに替わった。

ただ、「宇宙飛行士を目指す」というテーマは失われてはならず、レトロフューチャーの21世紀から本当の21世紀での宇宙飛行士の話は、リアル志向の『宇宙兄弟』に受け継がれている（作者は『21エモン』の視聴者だったかは不明）。

後は、もうグチだ。

もっと、アニメ雑誌だとかで、こういうことは、頑張ってくれないかな。

「メガミマガジン」でもいい、「オトナアニメ」でもいい。

ちゃんとかいこうのことを、記事にして書いてくれないかな。（私よりも優れた記事を書けるのがプロだから）

そうすると、私も別にアニメレビューを書かなくてすむし、読者も雑誌で書かれた記事の方が、信憑性があるから。皆が幸せ。

ただ、今回、アニメレビューのために『21エモン』のDVDをレンタルして来て、見返して観たら、面白かった。まだ観ていないが、新作の三国連太郎のデビュー作の映画よりも、面白いと思う。

それは救いだった。

「これは『人間交差点』を読んだな」って、最近で言えば、悪口に聞こえたら、すまないが、「これは『悪の華』を読んだな」とか、「これは『花のズボラ飯』を読んだな」と思われるのが、『あの花』を執筆中の岡田さん。鶴子の発言の「ウミしか残らない」とか仲村さんだろうし、めんまが鯉を見つけてはしゃぐのも、花がズボラ飯を作っているときの異常な興奮を真似していると思われる。

それにしても、めんまのオリジンは、『賢い犬リリエントール』の幽霊の女の子なのか？ だから、めんまは焼肉の幽霊をもしかしたら、食べているのか？

…女子禁制だから、本人は読まないから書けることだね。

多根さんの著作で、『ガンダムと日本人』といえ、まず手に入りにくい。書店の文春新書の枠で、みかけたことがない。仕方が無いので、アマゾンで購入して読んでみた。

読後その感想を一言で言えば「可もなく不可もない」ものだった。

だから、いちいち購入して読まなくてもいいだろう。

そもそも、多根さんの単独著作の本は、「本のセールスマン」でもリンクが貼られていない。それが、多根清史の私の評価なのだが、それは別にして。

「可もなく不可もない」とはいつでも、いいたいことはある。

視聴者がはまりやすい陥穽として、「ガンダム＝ゼロ戦」という思い込みが、どうして起きるかという、キャラクターの名前によって、連想ゲームのようにアムロが乗る機体はゼロ戦のはずだと、思い込みやすい。

ホワイトベースのパイロットは旧日本軍の戦闘機から由来するのは、有名な話だ。リュウ・ホセイが「龍」から、カイ・シデンは「紫電改」から、ハヤト・コバヤシも有名な糸川英夫博士の「隼」から連想して「隼人」となったと思われる。それでアムロ・レイのレイは零だからゼロ戦、ということになる。

だから、ガンダムもゼロ戦がモデルなはず、と、思うのは早計で浅はかだ。

こうした、にわかがはまりやすいことが説明されてない。

『ガンダムと日本人』で語られるように、ゼロ戦をモデルにしているのは、ザクだ。そもそもザクの名も、おそらく、戦闘機の名前から由来していると思われる。ゼロ戦のアメリカ軍側からの呼び名は「ジーク」、具体的なスペルは知らないが、「i」を「a」に替えれば、読みが「ザク」になる。

『機動戦士ガンダム』は第二次世界大戦の軍記モノからネタを抽出しているのはあきらかで、ゼロ戦が試験運行で空中分解したエピソード（映画『風立ちぬ』でやるのか）は、『MSイグルー』で試験運行中やはり機体が分解したモビルスーツなどに、活用されている。

そのため、ジオン軍の兵器に関しては、旧日本軍の兵器をモデルにしているのは疑いないだろう。

視点としてもうひとつ抜けているのは、「ソヴィエト連邦」の存在だ。

地球連邦の文字には、共和制なのか「連邦」という文字が入っているし、兵器はアメリカ軍の機体がモデルになっているようだけど、ナチスドイツと粘り強く戦ったという戦功から、実はソ連軍がモデルではないか？ と思える。

それは、最近オリバー・ストーン監督のドキュメント番組を観たからだけど、地球圏まで戦端を伸ばしてしまったジオン軍はナチスドイツで、懐に入られても祖国のために戦い続けたソ連軍が地球連邦なんじゃないか？ 兵器がアメリカ軍のような量産体制で安定した品質だから、戦争期間が一年で終わったという設定で、ソ連軍みたいな兵器だと戦争終結まで何年もかかったんじゃないか？ 多分、一年戦争の当初は、ソ連軍の戦車みたいな兵器・兵力で地球連邦軍はドイツことジオン軍と戦っていたのではないだろうか。

この話は、よく調べたら、裏付けられないだろう。

こんなことを考えるが、『ガンダムと日本人』は買って読むほどのものではないから、なんとも不憫な書籍である。

空欄があるので、他のところの記事をコンバート

原恵一さんの名作アニメについて おかわり

北久保弘之さんが語っている通り、「アニメ会社には秘伝のタレがある」。それはシンエイ動画にもあり、『ドラえもん』のタイムマシンの背景の歪んだ時計の映像やモンガーがゴンスケに酷いことを言われてショックを受けたシーンの背景とか、どうやって作っているのか、謎のものがある。（ジュピターマシーンみたいなものがあるのだろうか）

どうも、東映アニメーション系統の会社は、そうした映像技法をクローズドにして外に洩らさないようにしている。シンエイ動画は東映アニメーションに「のれんわけ」してもらったから、秘伝のタレを分けてもらっている。

タツノプロ系統だと、ムック本やDVDのメイキング映像とかで、どうやって映像を作っているか、オープンにしている。とはいっても、『イノセンス』のように高密度の物量作戦で、したくでもマネできないけど。

原監督が外で作った『カラフル』では、秘伝のタレのようなものを使えないから、路面電車が通っていた町をロケハンして、取材したカメラアングルそのままのフィルムを作っていたのだろうか？ 借りてきた猫みたいな演出とはいわないけど、秘伝のタレをかけてほしかったな。

小ネタ 「そこは逆！」

『ささみさん』の七巻か八巻であった、マサカドが首だけになって逃げていくのをスサノオが「ジオングかよ」と言っているが、

「そこは逆！」

と、笑い飯の勉強しすぎの方である。

平将門が「ジオングみてえ」じゃなくて、ジオングが将門伝説から引かれていると考えるのが妥当。『ガンダム』は戦記モノだけを引いているのではなく、ガンダムの造形は足軽からきているように、戦国モノも引いていると見るのが視点として必要。

東国の新王を騙る将門＝宇宙の辺境とされるコロニーでスペースノイドの代表ジオン・ダイクンの名から取られたモビルスーツだから、将門みたいなことをしようとしたのが、制作秘話として聞いたり読んだりしたわけじゃないが、こう考えるのが妥当ではないか。

逆だったら、面白いんだけどね。崇られるかもしれないから、あまり言いたくないけど「オレもジオングみてえなことしてえ」と、歴史上の人物が言ったのかもしれない。

沖縄からパイナップルが届いた。

もちろん、パイナップルといっても、米軍基地に忍び込んで手榴弾を盗み出し、それを我が家に間のルートを通して送られてきたわけではない。

生パイナップルが新聞紙に包まれて、クール便で送られてきたのだ。そして、パインを包む新聞紙には、四コマがあった。

大城さとし『おばあタイムス』である。

内容は沖縄弁だが、南国でも朝の連続テレビ小説の話題が出る、ここは同じ日本なのだ、実感するものだった。うっかり流行り言葉を口にしてしまう、日本全国どこにでもいる善男が、南国沖縄琉球列島にもいる。

作者はそんなつもりでマンガを描いたわけではないと思うが、感想としてこんなことを口にしてしまう。

さて、大城と聞いて、大城ゆかを思い出したマンガ通は、多いのか、少ないのか、それはなんとなく少ないと思うが、私はその少ない方の側だ。

沖縄在住漫画家だけのマンガ誌「コミックおきなわ」でマンガを描いて、その後『山原バンバン』を描いた……までは『漫画の時間』で書いてあるのを知っている。



沖縄タイムス
2013年7月5日刊
大城さとし『おばあタイムス』
話数不明

そのため、大城さとしは「まさかとは思いますが、大城ゆかの親類では？」と一時期考えたが、おそらくこれは早とちりに違いはない。

大城が本土の鈴木や佐藤のように多い苗字であれば、大城違いである可能性もあるし、沖縄の場合、琉球王朝の役職をそのまま姓にしているため、同姓が多いと耳にしたことがある。親戚の人がマンガを描いているから、自分もマンガを描いてみようという、浅ましい動機があってマンガを描き始めたのではと、勝手に憶測してしまっていたが、これは九分九厘間違っているであろう。

さて、マンガ界にはもう一人、大城がいる。

大城のぼるである。

『火星探検』『汽車旅行』を代表作に持つ、戦前に活躍した大城のぼるである。

もしかしたら、大城のぼるは沖縄出身かもしれない。もしそうだとしたら、それで作風にどこか「うちなあゝ」なのびのびとしたところがある、と批評めいたことも言えるのだが、それはあえて調べずにおいておこう。当時としては、沖縄から本州の都市に移り住むのは「火星探検」のような経験で、鉄道の無い沖縄にいたから「汽車旅行」が貴重な経験となる、と作家の原体験から作品が作られたなどは、マンガ批評家の仕事に預けよう。(裏付けが取れたら話だが)

Small Business Innovation Researchプログラムを行ったのが、レーガン大統領政権下でのアメリカであった。いわゆるレーガノミクスの一環である。

S B I Rは「中小企業の技術革新を促すために精査する」とまあ、意識できるのだが、予算として1億ドル規模の「財政出動」を行ったのだが、効果のほどは微妙なものだ。

よく調べていないという断りを入れるが、シリコンバレーなどはS B I Rプログラムの恩恵で出来たのか、疑わしい。キリスト教圏の商慣習から外れたエンジェルの存在がかかせないのだが、それはまた別の話である。これは「イノベーションは西から来る」で語るべきだろう。

レーガノミクスの末路は「紫の髪のおばちゃん」こと浜矩子によって語られているように、失敗に終わった。アメリカ政府の借金を、倍にした。

問題はイノベーションだ。

S B I Rにあるイノベーションとはなんなのか、それを捉えるのが本論の趣旨である。

イノベーションとはシュンペーターが言うように「新結合」で「破壊的創造」であり、ドラッカーの言うように「過去のを陳腐化する」。これを少し整理したのがクリステンであり、破壊的イノベーションや持続的イノベーションという風に言い換えている。

さらに日本でも池田信夫が「フレーミング」という概念でイノベーションについての観測的な視点を持ち、横井軍平さんの「枯れた技術の水平思考」もイノベーションとされる。

ここらへんは義務教育の範囲内の科学史を知っていれば、ドルトンやラボアジエなどが酸素について化学研究していたのに、似たような経過を辿っているのがわかる。

教養課程を経れば、当然古代ギリシャや古代ローマの文献（つまり古典）を読めるようにギリシャ語・ラテン語を覚える。この課題に落第すると、教養課程を経たといえない。(カイヨワはちゃんと遊びの四分類にラテン語を割り振っている教養人であり、英単語を割り振った岩谷は相対的に教養が無い)

欧州圏のアカデミーではどの学者も教養課程を経るので、ドルトンがデモクレイトスのアルケー原子論を引き合いに出して、原子仮説を立てて、ラボアジエが密閉した容器に燃焼で酸素を化合させて酸素の存在を確定させ、さらに二極分解で酸素と水素の量が一對二になるから、原子仮説ではなく分子理論をアボガドロが提唱し、もちろんそれは正しかった。

こうしたことは化学の世界だけではなく、精神分析の世界でもフロイトが精神分析の研究から、男性の劣等感を表現するために、ギリシャ悲劇のエディプス王のエピソードを引き合いに出した。ドルトンの原子仮説と同じである。（私がオデュッセウス・コンプレックスを提唱したのは実はこれらと同じくギリシャ古典を引用している）

これは教養課程を経た人間にのみ流通する論文の中で、狭い学者世間の出来事だったのが、大量消費社会になって教養課程を経ない消費者も科学論文を読む、いわゆる科学雑誌の登場で、古典を引くのは終わりを遂げる。

その決定打は大衆マンガ『ピーナッツ』のキャラクターである賢人ライナスの特性、「安心毛布を手放すと賢人ではいられなくなる」が精神分析の論文で取り上げた頃から、古典が教養として機能しなくなる…少し話を広げすぎた。（古典へ伸びていた主要幹線道路のカルチャ・インフラは廃れたのである）

さて古式に則り、これらの説明を「駅馬車から汽車へ」というシュンペーターがたとえた（ドルトンの「原子仮説」のようなもの）ことを引き合いに出してみる。

駅馬車から汽車になったのは、蒸気機関が発明され、それを搭載した機関車がやがて開発されたことにある。鉄で出来た軌道を走る機関車「汽車」は、産業革命の賜物である。

大量の物資を運べる汽車は、駅馬車を破壊的に駆逐していく。（もちろん兵站にも使われた）かつて国中に駅馬車網が敷かれたように、鉄道は敷かれて、駅馬車は廃れていった。駅馬車の顧客と汽車の顧客はバッティングする。当然の結果として汽車に顧客を奪われた駅馬車は、やがて無くなっていった。一応、馬車は後に自動車という破壊的イノベーションが訪れるまで、地域住民の足と荷物運びに機能していた。

もうひとつ言えることは、馬車用の馬の品種改良よりも、汽車の技術水準の向上の方が、進歩が早いことだ。はじめは小さな差しかなかったが、汽車の速度に馬が追いつけなくなり、この頃に馬力という単位が生まれて、馬と汽車の圧倒的な差を表すようになったのだろう。アナログ方式とデジタル方式も、似たような進歩のスピードに差があって、アナログ方式の機器はデジタル方式に取って替えられていく。それはムーアの法則のためなのだが、これについては説明を控えよう。

この駅馬車から汽車へは新結合であり、鉄道網は駅馬車網を駆逐した破壊的イノベーションである。また、馬から蒸気機関というフレーミングがかわっている。

汽車から持続的なイノベーションとなるのが、電車である。

蒸気機関から電気モーターにより、敷設した鉄道に電線を沿えれば、石炭や水の積載車両を引かなくてもよく、蒸気機関を動かす機関士も必要ない。

ランニングコストを抑えられ、排煙が無く地下鉄網を築けるという利点から、電車は汽車を駆逐していった。

汽車から電車へは破壊的イノベーションの新結合だが、鉄道というフレーミングは変わっていない。今までの鉄道網に電源供給を備えれば、そのまま鉄道が使えるのだ(地下鉄の場合は軌道に添えられている)。これは持続的イノベーションといえる。駅馬車網というフレーミングを破壊して、鉄道網を築いた点とは違う。インフラストラクチャーを持続的に使えるという点で、電車は

汽車と電車の中に石油系統の燃料で動くディーゼル車については、これを読まれる受け手の宿題としたい。そのため、あえて説明は省こう。

21世紀の現在、汽車であるSLが走る場合、それは第三次産業として機能する。



観光として可動するSL
材料の輸送手段という
第二次産業から第三次産業に
フレーミングが移っている。

撮影・新潟駅構内

実例としてあげられるのは、汽車ではないが、黒部溪谷にあるトロッコ列車が好例といえよう

。

本来、このトロッコ列車は近畿圏への電力安定供給のために作られた黒部ダム的人员資材工具を輸送する、第二次産業に部類される活動に使用されていた。

現在では黒部溪谷の景観を観光する目的で使用されている。見事に第二次産業から、第三次産業にフレームが移っている。

これが横井軍平さんの「枯れた技術の水平思考」のイノベーション、再活性的イノベーションといえる。

汽車のみならず、廃線となってしまった路線は、廃線路を利用して足漕ぎのサイクリングマシンで観光を楽しむように利用されている。これは観光資源がある場合に限られる。

私は知らないが、アメリカ西部では駅馬車でフロンティア時代を懐古する「観光」が、もしかしたらあるかもしれない。第三次産業として観光・旅行にフレーミングしている。

これらを踏まえると、メディアの変遷のイノベーションでビデオゲーム史を語るのはわかりやすい。ROMカセットからCD-ROMは破壊的イノベーションであり、CD-ROMからDVD-ROMは持続的イノベーションである。CD-ROMはROMカセットを破壊的に駆逐し、DVDは読み込み装置の部分は「敷設した鉄道」のようなもので、持続的イノベーションといえる。

メディアの容量が指数関数的に増大することによって、馬車から汽車になって物資が大量に輸送できるようになったように、大容量のソフト供給を可能にした。すると新結合ともいえるソフトが現れ始める。

政治家さんが「これからはイノベーションを促進していかなくてはいけない」といっても、眉唾として聞いた方がいい。「なんのイノベーションなのか？」を尋ねるべきだ。場合によっては、イノベーションを促進した性で「政治家を破壊的に駆逐するイノベーションを開発する」かもしれない。ロボット工学者はこのままロボット技術を発展させていけば、「雇用環境を破壊してしまうかもしれない」と危惧している。それをさらに発展させれば、賢帝コンピュータによるロボット政治も可能だ。

フォードも雇用環境をよくするために高賃金待遇を10数年行なったら、社会全体が賃金待遇がよくなり、結果的に高級車嗜好を労働者に生み出してT型フォードを時代遅れにしまったようなことになりかねないのだ、ということをおぼえておくべきだ。（この意味でも日本ではイノベーションが起きない）

粗探しは愉しむ遊び

「オトナは嘘つきだ！」と子供を騙したことで「人間失格」だけど、クリエイターとして「神合格っ」の荒木飛呂彦の代表作『ジョジョの奇妙な冒険』を最近、粗探しするために読み返している。

『ジョジョ』と略称されるこの作品は、名前を入力すると自分の脳に文字が出るホームページで「嘘」ばかり出た人の描いたマンガである。

90年代後半からゼロ年代前半にかけて、粗探ししようものなら、「よわいものいじめ」扱いだろうけど、20年以上の前のエピソードがテレビアニメになったり、芸人がバラエティーで話題にしたりしている現在では、高い評価が与えられているから、今では平気で『北斗の拳』の「オメエみてえなババアがいるか」みたいにギャグになっていることの指摘や、「黒王号初登場時の大きさ」のような辻褃合わないことを指摘できる。

信者には嫌われるかもしれないが、別にそれはいい。

私は『マンガ夜話』の視聴者だから、どうしても、ね、「百匹カエルを殴っても、あんな音出ねえけどね」と、中田のあっちゃん（『たまこまーけっと』が大好き）の精神にダメージを与えることを、うっかりしてしまうかもしれない。

少し口が過ぎたので、バランスを取って評価されていることを復習しよう。まず連載20周年として、雑誌「ユリイカ」の別冊でジョジョ特集が組まれ、仙台メディアテークのジョジョ展のあおりで「美術手帳」の特集も去年された。

粗を探しする対象として、これ以上ない評価を得ている作品だ。

西尾維新にとって「名前を言ってはいけないあのお方」は、意図的にギャグを表現しているのが、ある。（二人ともバカにしている）

杜王町の住民の特徴

杜王町の住民は危機一髪で助かった時すぐ「日ごろの行いがよかったから、わたし」という。30歳以上の人は「イワシの頭も信心ね」とつぶやく。

別に宗教にこってるわけではないのだがみんなこういう。

杜王町には年間、旅行者が20万人近くおとずれるが旅行者に対し町の店は不親切そのもので「買ったけりゃ売ってやるよ」という態度。

これはムカつく。でも仲良くなると本当にいい人たちばかりである。

〈『旅行するなら日本のここベスト100』民明書房刊 1500 YEN（税込み）〉

荒木飛呂彦『ジョジョの奇妙な冒険』集英社 1994年刊第38巻67頁

最後の“民明書房刊”によって、この記述はトラベルハンドブックのパロディになっていることが示されている。民明書房は説明不要の嘘ばかりつくホラ吹き出版社である。『魁！男塾』のホラに根拠の無い裏づけを与えて少年たちを騙したことでよく知られる架空出版社だ。

ついでに他にもある記述を引用しよう。

今回のリスペクト元ネタは、知る人ぞ知る「民明書房」です。キワモノの専門書ばかり出版しているというこの出版社。怪しい蘊蓄の引用元として使われますが、じつは世の中に実在しません。（以下略）

新木伸 『GJ部』内あとがき ガガガ文庫 四巻

「アラキ繋がりなのか」とか、そんなことは置いておいて、引用文内にも、存在しないことが強調されている。

ともかく、民明書房の出版社名をあげるということは、ギャグでやっているのが明白となる。よく考えたら、普通「旅行客に不親切」なんて書かないよ。

日本語で書かれたものは日本人が読むかもしれないから、基本disってはいけない。フィクションの世界だから許される。とは言うものの、モデルとなっている仙台市の片隅は、本当に「旅行客に不親切」なのか疑われる。言わずもがなだと思うが、杜王町のモデルは仙台市郊外といわれている。

海外なら当事者に読まれる心配はないから、「アメリカの片田舎のドラッグストアは、旅行客に不親切。常連客とはフランクな会話をしているのに」などと、書くかもしれない。

おおっぴらに悪口を書いても、民明書房という架空の出版社の出版物のことだから、別にいいのである。それから、オスカー・ワイルドの言葉のように「現実が芸術を模倣する」から、仙台市周辺は仲良くなるまで不親切の人たちだらけになっているだろう。

旅行者たちは壁の目に埋められて「まじゃりんこ」とか、やられているはず。

唐突だが、話を変えよう。

ポルナレフ（そういえば、ポルナレフのボディランゲージは『ニャル子さんW』で解説されていて、「珠緒さん放課後相談にのってください」ということだから、花京院と笑いあうのも頷ける）の話によると、隕石を削りだして鍬（やじり）を作り、その矢で刺されるとスタンド能力が発現するというなら、宇宙空間のカーズの一部が飛来したと考えるのが、シリーズを通した辻褄あわせであるべきだ。

ジョセフが究極生物と化したカーズの波紋法を食らったから、生命エネルギーをヴィジョンにするスタンド能力を得て、それが遺伝的に受け継がれているから、承太郎や仗介にもスタンド能力が発現していると考えれば、初期の「幽波紋」にスタンドとあてているのは、あながち間違いではない。

ジョルノの場合、ディオがエンヤ婆に鍬を刺されていて、その遺伝であり、これはボスの娘も同じだろう。

ジョリーン（日本名・徐倫）だけは、鍬で指先を傷つけてしまったためにスタンド能力を身につけたことから、そこは遺伝ではないが、これらカーズとの接触によってスタンド能力が発現しているという設定は、シリーズを通した辻褄あわせとして悪くないだろう。

だが、これで辻褄をあわせることができない。

カーズはおそらく第一宇宙速度を越えて大気圏から離れて、そのまま加速していき宇宙空間で

、「再び地球に戻ってくることはなかった」とナレーションされているから、この辻褄あわせはできない。隕石になって地球に戻ってきたら、ナレーションと辻褄が合わない。ホワイトスネイクが見せる白昼夢のように辻褄が合わないことに気づかないと、ディスクが奪われてしまう。

このナレーションの記述を「オトナは嘘つきだ！」と約束破りしたのが舞城王太郎の『ジョージ・ジョースター』（もちろん二世の方）である。なんでこんな粗探しの格好の標的になることをしたのだろう。

なんで、ツェペリ問題をもうひとつ作るようなマネをしたんだ！（面白いけど）

これが原作リスペクトなのか。

原作の粗も再現するのが、リスペクトなのか。（よし、見習おう）

一応、ヴァレンタイン大統領が自分自身を連れてくる平行世界の話であって、「これはキミが読んだ全てのジョジョの続編だ！」をやろうとしていることは理解できる。（その先を、見せてくれよ、舞城）

ただ、原作や原作者へのリスペクトは忘れてはいけない。

それがよく出ているのが、テレビアニメである。

各部を通して読むと、誰かがポーカーをしているシーンがある。二部のジョジョとシーザーのイカサマ合戦、三部のダービー戦、五部のローリング・ストーンの導入時。だいたいポーカーをしているシーンがある。アントレプレナーはビア・ポンが好きなようなものだ。（わかるね？

ゲームの『ポン』のオリジンゲームだし、『ソーシャル・ネットワーク』でもザッカーバークは遊んでる）

第一部では、ポーカーをしていないから、テレビアニメ版ではディオが貧民街でその日の飯にありつくために、賭けポーカーをやっている描写を入れている。

そもそも、短編「武装ポーカー」がデビュー作の「あのお方」である。

荒木作品でポーカーというのは外せないモノで、第三部のスタンド名がタロットから取られているのも、そもそもトランプを遡るとタロットカードからきている説があり、ポーカーからルーツを遡っていくようなものだから、ジョースター家の宿敵ディオとの因縁のストーリーもからまって、『ダービースタリオン』で言えば「見事な配合」のようなものでは？（アレな文章を書いたので補足説明するとスタンド名もディオ討伐も起源をおっていくことで関連性を持ち、ダービーと『ダビスタ』がかかっている）

原作のみならず、作者のデビュー作まで精読することによって、第一部に足りないものがなんであるか、見抜くことができるアニメ製作陣はたいした仕事をしている。（→批評 誤認を正す江）

これは、監督の手柄だと思うが、素直に脚本をほめていい。（私が小林靖子さんをほめているとか、吉田玲子さんのことを陰で玲子ちゃんと言っているとか、本人に知らせちゃダメだぞ。なんのために女子禁制にしたと思ってんだ）

もし、今夏発売される『オールスターバトル』でポーカーのミニゲームか何かを実装していない場合、アニメ製作陣と比べて、ゲーム製作陣に原作へのリスペクトが足りなかった証である。（納期が過ぎた後にこのことに触れて、いまさら足せないように工夫した）

ゲームが面白くても、絵画技術に淫して養殖モノの鮎を描く料亭の息子みたいなことになってしまったとしたら、それはそれで面白いのではないだろうか。『バオー来訪者』のバオーを出すことは、原作をひいては原作者を理解しているということにはならないのでは？

ここでまた唐突に別の話題を展開するのだが、荒木さんはルールの設定に妙がある。

あのツェペリ問題で、「大人は嘘をつきません。間違っただけです」と答えたのだが実は、大人は嘘をつかないという、ルールを設定している。(ツェペリ問題については、こんな『ジョジョ』の揚げ足を取るようなモノまでつい読んでしまうジョジョ好きには説明不要)

佐藤優が小林よしのりと論戦になったとき、「同じ雑誌に連載を持っている人間同士は、論争をしてはいけない」と、勝手に誰も取り決めてないルールを作ったわけじゃない？ これはよしりん「そんなルール無いぞ」と反論されても仕方がない。

それと同じことをやっている。

実も蓋もないことを言えば、そ・も・そ・も大人であっても、人間は嘘をつくものだ。嘘をつくから詐欺事件やペニーオークション事件（有吉弘行の大好物）が起きる。

例のホームページ(脳内テスト?)で名前を入力したら、「嘘」の文字ばかり脳内に出た作者が、嘘をつかないはずない。汗をなめなくてもわかる。

「大人は嘘をつかない」は言うなれば、数学者の「イギリス人は嘘つきだ。私はイギリス人である」のパラドックスみたいなものだ。

パラドックスを出して、追求を逃れようとしている。

「おとなげないなあ」

子供（読者）とは違って、ルールを設定できる側にいる。ルール設定の妙がそもそもあり、これがスタンドのルール設定になり、最終的に別冊ユリイカの特集で語られているようにルールインフレを起こしている。

ただ、「探偵が殺人を呼ぶ」（本来は逆）にならないように、「スタンド使いはスタンド使いを呼び寄せる」というルールを作っているのは、先行者であるミステリー作家たちを反面教師にしているのだろう。つまり、「殺人が探偵を呼ぶ」のではなく、「探偵が殺人を呼ぶ」にはならないように、「スタンド使いはスタンド使いを呼び寄せる」というルール設定によって、ストーリー上スタンド使い同士が会うことに不都合が生じないようにしている。

これは良評価できる。

ルール設定はゲームクリエイションに応用できるけど、マンガを読んでもゲームを作れる側に回れないのは、ここに（自分を指差して）実証済みであり、たいして役に立たない。というか、説得力のあると思わせる弁明には、役に立つかもしれない。

しかし、ルール設定はこのようにフィクションの中でしか成立せず、実際には代議員になるか、会社のお偉いさんになるか、しか設定することができない。読者にマンガ家がルールがあるとするのは、さて、読者と作者の関係として、これはフェアだろうか？

けして、フェアネスじゃない。

それは、コナン・ドイルも言われていたことで、ワトソンの視点から事件現場を見ているから、後で同じ現場を見ていたホームズに指摘されて、事件現場に犯人の残したモノがあったことを

語る・叙述だから、よく読むと、『ジョジョ』もそういうことをやっている。

『魔少年ビューティー』のあとがきで、本人も“シャーロック的バトル”みたいなものを標榜して、『ジョジョ』を描いてるとか描いてないとか、なんか世迷言を書いていたよね。

だいぶとっちらかってきたから、整理しよう。

佐藤優は元・外務官僚だから、ルールを設定する側にいた。それが出版界に来たら、そのままルール設定の側の意識で掻き回していたことになる。つまり、先ほどの「同じ雑誌に連載を持っている人間同士は、論争をしてはいけない」という、存在しないルールがさもあるかのように、振舞っている。

ツェペリ問題の「大人は嘘をつかない」なんてルールは存在しない。

つまり、荒木の「ヘブンズ・ドア」である。活字で書くことによって、岸辺露伴が自身のスタンドを使ってプロフィールに「大人は嘘をつかない」と書くようなものだ。プロフィールに「大人は嘘をつかない」と書かれれば、それを読者・信者は信じてしまう。しかし、射程距離から外れたマンガ評論家の目から見たら、そんなこと(スタンド能力)の影響をうけない。(神話崩し、神殺し)

『ジョジョ』では、少年が活躍するシークエンスがある。「あしたって今だよ。姉ちゃん」とか、初期の康一くんやエンポリオ少年などが強大な大人に対して、負けずに対決を挑む、勇気を出すということをしているから、そこは読者として「神合格っ」のクリエイターに挑戦するのは、蛮勇であってもしなくてははいけない「ジョースター家の因縁」のようなものではないか。

だから、荒木は佐藤優なんだよ。

作家としての根幹は、佐藤優と同じでフェアじゃない。

これじゃ、尊敬できないよ。

ここが荒木を作家として認めにくい点であり、先生とは呼ばないことの後付け設定である(たまにウツカリ呼んでいるけど)。テレビ番組「アメトーーク」の「ジョジョの奇妙な芸人」の回で、実は収録の際にスタジオに来ていた、側に立っていた(スタンド・バイ・ミー)荒木飛呂彦。実はF・Fだった奴が紛れ込んでいたようなもので、往年の『11人いる』ネタみたいなことを、本人自身が楽しんでやるという点は評価して、山本カントクのように、カタカナのセンセイと呼んでもいいと思う。(どうして山本カントクはカタカナのカントクなのかは、山本カントクの監督作品履歴を調べるとわかる)

少し言い換えると、収録が終わった後に、加持プロデューサーが芸人たちに、荒木飛呂彦という「ザ・ワールド」が来ている事実を話し、時が止められたようにピクツとする。ケンドーコバヤシはポルナレフの有名なセリフを言うし、中田のあっちゃんは第六部の冒頭で、トム・クルーズ似の看守に見られてはいけないものを見られてしまったことで震えてうろたえるジョリーンみたいになった、と容易に想像できる。

話のオチとしては加持プロデューサーが、スタジオに荒木を呼び寄せるスタンド使いだったということだろう。

最後に褒めフォローを入れれば、原作サイドから文句を言われぬテクニック。(“でも仲良くなると本当にいい人たちばかり”とフォローを入れるようなもの)

オノマトペ・書き文字が特徴的であることが『ジョジョ』は有名だ。憶えているのは、康一君が承太郎に電話をかけて、ジョルノのスタンド能力を話したとき、「……」というリーダーを書き文字にしている。

これには驚いた。

「すごいなあ、荒木センセイ（棒読み）」

と、思った。

(一応、引用文があるから批評のカテゴリーに入れたけど、これは日記に書いたことを書き写したようなものだから、批評性はとくにない。「オトナアニメ」の倉田英之の記事)

サイトリンク

ネタ 謝罪広告その一 <http://p.booklog.jp/book/78790/page/2085745>

ネタ 謝罪広告その二 <http://p.booklog.jp/book/78790/page/2103585>

ネタ 謝罪広告その三 <http://p.booklog.jp/book/78790/page/2193526>

ネタ 謝罪広告その四 <http://p.booklog.jp/book/78790/page/2235139>

四コマ 冗談を真に受けるパロディ <http://p.booklog.jp/book/78790/page/2169541>

まず、タレント本の書評は、軒並み難しい。

博多大吉先生の『年齢学序説』は、なおさら難しい。

テレビ番組「週刊ブックレビュー」がまだあってゲストとして呼ばれたら、皆で合評する本として『年齢学序説』を選ぶ。

だが作者本人も認めているように妄想の産物であり、非科学的な記述がされていることは否めない。

しかし、面白い。

そのひとつの理由として、トリヴィアルな知識に溢れていることがあげられる。

僕が考えた超人「ケンダマン」を相方華丸先生と同級生が描いて送って採用された話から、村上雅則さんのメジャーリーグ挑戦から野茂登板解説までを短く追ったモノや見世物としては前衛過ぎて受け入れられなかった佐山聡の格闘思想。

それらを語るレトリックもいいし、文才において劇団ひとりに比肩、あるいは上回るだろう。

(私に評価されてもうれしくないだろうが)

そうしたある種の才が、非科学的なこじつけに過ぎないことをテーマにした読み物の執筆に費やされるのは、惜しいと感じると同時に芸人ゆえにさもありなんとも思える。

少し、話題を変えよう。

『年齢学序説』では26才という年齢が、一つのターニングポイントとなる年齢であることが繰り返し書かれる。(繰り返すがこれは無根拠である)

そして、大吉先生の26才の時期が一番面白く、せつない。

それは直接書籍にあたってもらおうとして、大吉先生は旅先で27歳となり、十年前の17才である自分に向けた日記がある。

私はこの記述を読んで、福島聡の『少年少女』の「彼ら」を思い出した。

番組の構成上、「週刊ブックレビュー」なら『年齢学序説』を出す前に最近読んだ本の一冊として、取り上げるだろう。

その「彼ら」には、“十年後のきみへ”と書かれたものがある。

旅先で書いたものであるという点も、一致する。

何か、そこに「青春のようなもの」が込められている気がした。

サンドウィッチマンが26才の時に作ったネタが、今は亡きM-1グランプリの決勝で披露したネタであることが演芸評論としても、同時に「青春のようなもの」としても、読める。

中間管理職の上品芸人・博多大吉先生の3年を要して作られた労作、『年齢学序説』は私の中で「青春のようなもの」として傑作だ。

まあ、あんまり売れなかったようで、そこは残念というか、なんというか。

私から訂正がある。

「大人は間違うんです。だから、嘘をつくんです」

ということであり、「ライブドア事件は横領行為があったわけではなく、会計に偽計があった」ということだ。

この事件は複雑で錯綜しているから、かなり簡略した説明をしなくちゃならない。

ライブドア事件とは「粉飾会計で株価を吊り上げた」ということになっている。誰かが懐に入れたわけではないというのが私の誤りだ。

私が誤った「株式を売った差分を50億着服した人物」がいたのではなく、株式の売却で50億の利益が出て、黒字化しているという会計操作をしていたらしい。その会計後に堀江社長(当時)が保有する自社の株式を売って145億円の利益を得て、いろいろロケット開発とかしている。

問題は、このように吊り上げられた(とされる)高値のライブドア株を使った株式交換でM&Aを繰り返していたこと、にある。

本当は黒字化しているから、ライブドア株が高値のままではいられるというのは、疑問だ。日本の法人税の仕組みとして、赤字を出した年があると、むこう七年間法人税を払わなくていい。単年のみの赤字なら、かえって株価が上がるかもしれない。

大企業はM&Aで見かけ上は赤字になっている「節税対策」をしているから、ぜんぜん法人税を払っていないところが多い。ライブドアの件もそういう事例にあてはまりそうだが、実際のところは詳細なデータを精査してもわからないだろう。

正直、株式分割で値を吊り上げることができるなど、首をかしげてわからないことが多い。「禁断の株式分割で株価を上げる」という記事を読んでも、何故株式分割で値が上がるのか、私はわからない。(本音を言えばわけがわからない)

そんないろいろと株価操作的なことをしていたライブドアが、決算報告の数字に偽計があったとして、東京地検に告発された…というのが事件のはじまりである。

結局、誰が偽計を働いたのか、わからないままで終わった。

エンロン事件以後はアメリカでは偽計によって部下が勝手にやったことでも、経営トップに罪が問えるようになった。問題は日本の国内法だが、会計に間違いが無いと誓約しているから、社長が罪に問われるなど、法律に詳しい人にきいた方がいい。

堀江以下首脳陣はほぼ、偽計を指示した覚えはないということになっている。

推定無罪の原則から「囚人のジレンマ」の司法戦略があったのかは、わからない。

ここで大きな問題が発生しているのは、キーマン野口氏の自殺によって、「藪の中」に入ってしまったことだ。

偽計の事実だけが残ってしまった。

死んだ野口氏が偽計の首謀者ともいえない。

ただ、誰かがこの問題のスケープゴートの的に責任を取らせなくちゃならない、力が働いた、というよりも「空気」が働いたと思う。

堀江モンに粉飾会計での量刑としては、あきらかに重い実刑判決が下ったことは、執行猶予がつく判例を鑑みても、解せない。

なぜ、堀江貴文に実刑判決が下ったのに、小沢一郎に有罪で実刑判決が下らないんだ？

ついでに、最近見つかった誤りや記憶違い、呉さんが『悪の花(心の中で旧字体に変換すべし)』をどこかでレビューしていたはずのような、そういったことをまとめてここに書く。それにしても、呉さんが書いたあらすじを、どこかで読んだ気がするのだが。

オリンピックの東京招致の件は別項を設けて反省したい。

『ジョジョ』のアニメ第一話では、ポーカーではなく賭けチェスをしていた。観返したら、ディオがチェスをしていた。私自身、驚いた。二三秒のシークエンスなので、うっかりポーカーをしていたと思い込んでいたらしい。

重要なことは、粗に気づいた人がいたら、「楽しひおもひ」をしたと思う。エンターテインメントを提供できたのだから、笑い話としては優れている。

普通、このような正解がわかると、謎が解けたようにスッキリする。

今回の件は誰も得しない。

小林靖子さんなどのアニメ制作陣をぬか喜びさせるだけで、リスペクトが足りていなかったということが判明し、サイバーコネクトツーは無用に悪役にされてしまい、荒木飛呂彦は若返る。(女子禁制なのだから、ご本人が見ているわけではなく、こういう失態も知られることがないので安心)

閲覧者さんに迷惑をかけても、少しも心が痛まないが、さすがにスタッフの皆さんには迷惑をかけてしまったのは残念に思う。遺憾である。

よく考えたら、第一話はどのアニメもニコニコ動画なら無料で閲覧できるのだから、確かめようと思えば、ノーコストで確かめられたのである。

いつも通り、ほんの少し調べることを怠っていたのだ。

いつものアレである。

粗探士、粗探しにおぼれる、である。(策士策におぼれるをもじった)

『花のズボラ飯』は『孤独のグルメ』とパラレル・ワールドの関係にあるようだ。そもそも、井ノ頭五郎は独身の設定で、既婚者ではないらしい。

もしも、五郎が結婚していたとしたら、仕事上いつも家を開けていて、家に一人残した奥さんは意外に楽しくやっている…そういう設定らしい。(花は子宮筋腫か何か、そういった病を患ってしまい子供が産めなくなっている。それを埋め合わせるように「食べる」)

誤読しやすいように、作られている。だましネジをセットしている。ただ、このだましネジは、回してよかった。

だましネジを仕込むなら、こういうものを仕込むべきで、残酷な結末を仕込むものじゃない。

『21エモン』が原監督の出世作ではなく、『エスパー魔美』が出世作らしい。だから、押井監督の『うる星やつら』にあたるのが、原恵一監督にとっては『エスパー魔美』だ。ネットで仕入れた情報によると、20代でチーフディレクターに大抜擢され、監督業の心労がたたって、『魔美』放送終了後に海外に旅に行き、帰ってきて『21エモン』を任されたら、過充電でダメだったらしい。

それから、シンエイ動画は東映アニメーションからのれん分けしてもらったわけではなく、実態としては前身のAプロの創設時にどんどん集まってきたメンバーの中に、東映動画と東京ムービー出身者が中心にいたらしい。撮影監督が東映からきているなどが考えられるが、裏付けは取れていない。名前は新しいAプロでシンエイである。東映のエイではないだろう。

遡ると、東京ムービーはテレビ人形劇をやっていた人たちや、いろいろ虫プロや東映のスタッフたちが集まって出来ていた、寄せ集めというか、その後のアニメ界を支えるドリームチームでもあるという、かなり変わった会社だ。今はトムス・エンタテインメントに名前が変わっている。

今回、私の調べだけでは、こぼれ落ちる点が多々あると思うので、これを読まれた方は個人個人で調べてほしい。

フィルタリングが甘いサイトだから、こういうことがたまにある。

そもそも前年のように、婦女子を傷つけることがないように、女子禁制にして本人に知りえない情報化して、うっかり相手を貶めないようにしておいた、安全策であったのだが、これは機能しているのだろうか。

『The man of the overlooking』の連載は終了しました

『The man of the overlooking』の連載は終了しました

ご愛読ありがとうございました

これからは
製品版を
お楽しみ下さい

『The man of the overlooking』

episode I <http://p.booklog.jp/book/20801>

episodeIV <http://p.booklog.jp/book/22576>

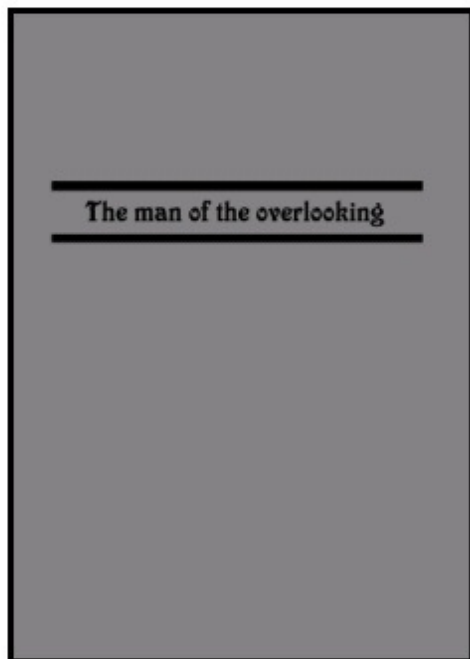
episode X <http://p.booklog.jp/book/23922>

episode X X IV <http://p.booklog.jp/book/24817>

episode X X VIII <http://p.booklog.jp/book/24818>

episode X X X <http://p.booklog.jp/book/24819>

広告



The man of the overlooking 01~06

ピカレスク
マジシャンズ
ロマン

Architecture Product System

ブックログのパブー

各巻 ¥50

[iBooks store](#)

[search "The man of the overlooking"go](#)

次ページから始まるよ

駒

画

画

興

深町なのは



描くのに手馴れた
西原理恵子さんの
キャラクターを
勝手に自分のモノ
にした
チバラギ県産奴隷

海江田フェイト

なのはのコンパチキャラ
二人にフェイトとなのはと
名づけたとき
この4コマに
手応えを感じた



エンチ

エンチ
エンチ

山田

手癖が悪く
なんでも人の物を
盗んでばかりいる



世プリプリマン

第一話でいきなり死亡
展開が手抜き



描き方. 忘れた

登場人物紹介

The Sound of one hand



『とくダネ!』ファン限定ギャグ



ラジオ「おぎやはぎのメガネびいき」ファン(リンナー)限定ギャグ



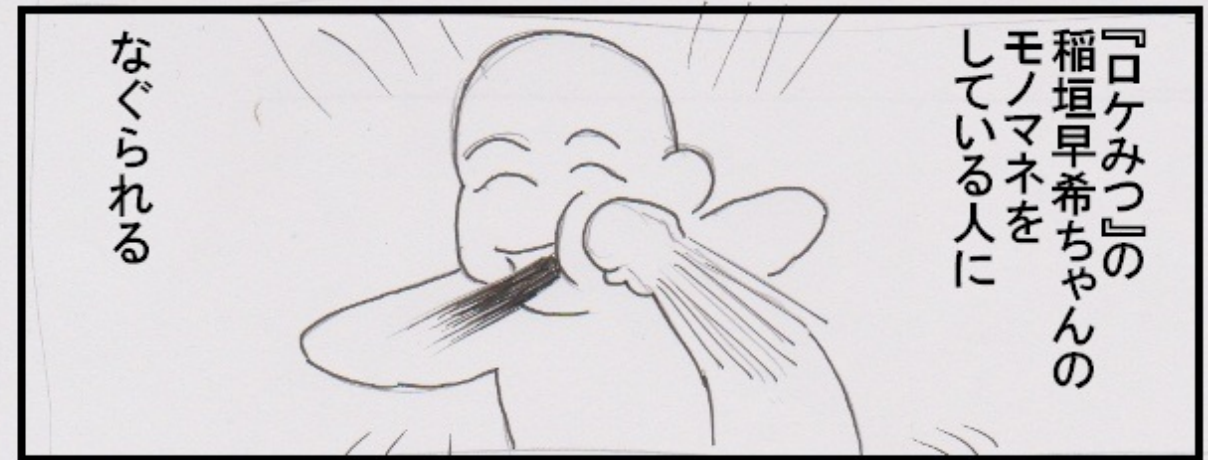
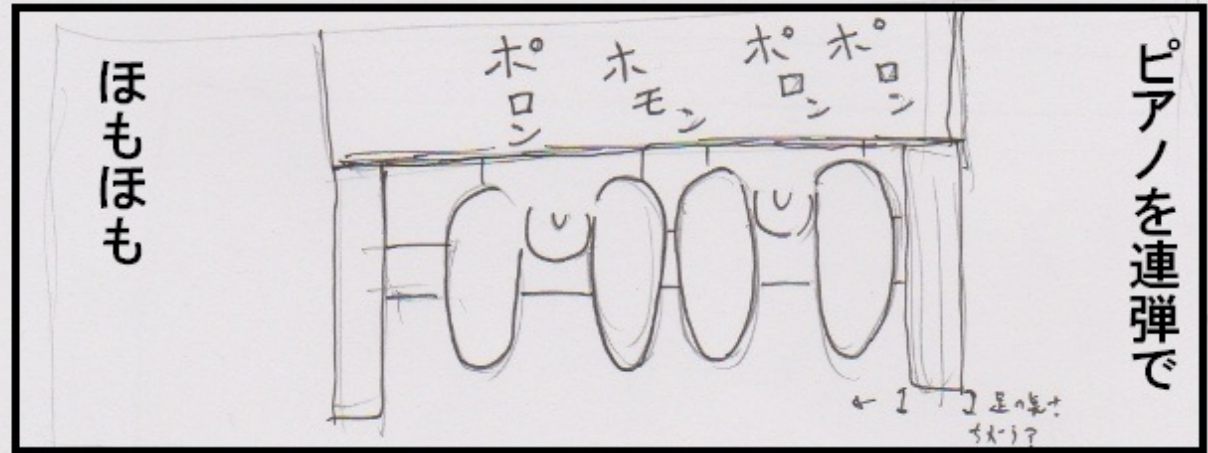
シティ・ボーイズファン限定ギャグ
元ネタは『ゴム脳市場』



いしかわじゅんファン(日本で一万人ぐらい)限定ギャグ

アニメファン限定ギャグ

14年後



ピアノが描けないので
大友構図のようなアン
グルでお茶を濁す

作中での順序は違うけど、こうして並べてみると、まるでホモっていることにつっこみを入れているようゲーパンチ

プリプリマンⅡ世

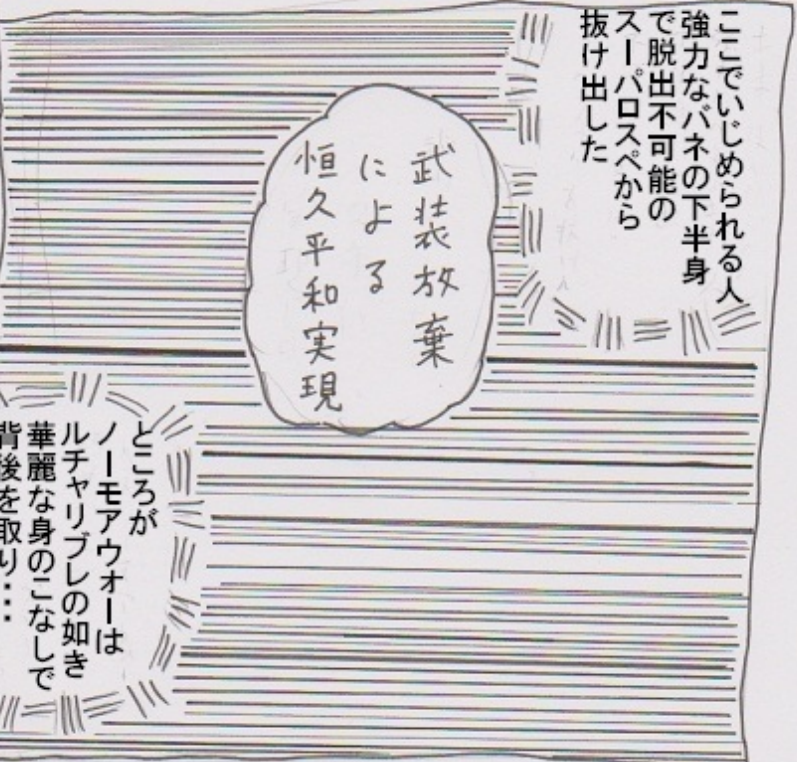
炎の弱い者いじめ
グランプリ
選手権・編

ひれつ
ノー・モア・ウオー
の巻⑦



ああ! しかし
ノーモアウオー
タイツを
おろし
尻の穴を
見ながら...

戦争
反対



ところが
ノーモアウオーは
ルチャリブレの如き
華麗な身のこなしで
背後を取り...

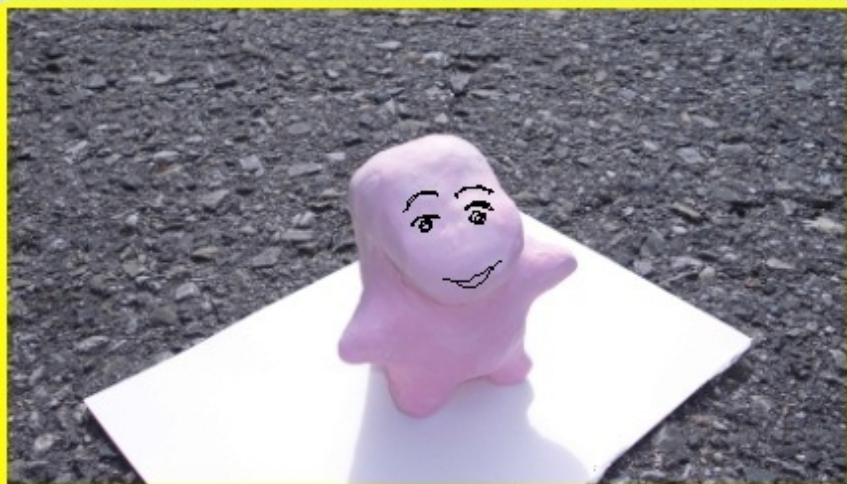
フクザツなポーズや動きを作画できず 無念也



ギャグ詰め込み過ぎ

別冊少年マガジンの「マンガの現場」をパロディ4コマにしたよ

今日は「ありえない未来の思い出たち」を描いているニセまんが家のゴトチヒのお家に行ったよ
担当編集者がいないので自作自演☆乙



ケモノが家の前までお出迎え
とっても親切でサービス満点だね
パロディだからそこまで
やらなくていいのに

このりんごの箱に新聞紙を敷いた貧乏くさい机の上で
これからシルエットや
ミランダお嬢様、ワランちゃん、
カエル子ちゃんなんか
が描かれるんだね
とおーても楽しみー(棒読み)



マンガの本棚を見ると、いいのばかり
「このラインナップ、いいですね。センスを感じます」
(ケモノが何か書いているけど、見切れてるよ)

あ、作画中にたばこの灰が(笑い)
「よくあること……だよ」

最後にゴトチヒから読者の皆さんにメッセージ
「ほくがテキトーに描いたマンガを読んでもうもアリガトウ。
それからこのコメントはつの丸の「モンモンモン」に書いてあることを
真似したよ」
それジャンプだろ
せめて、音羽系から元ネタをチョイスしろよ

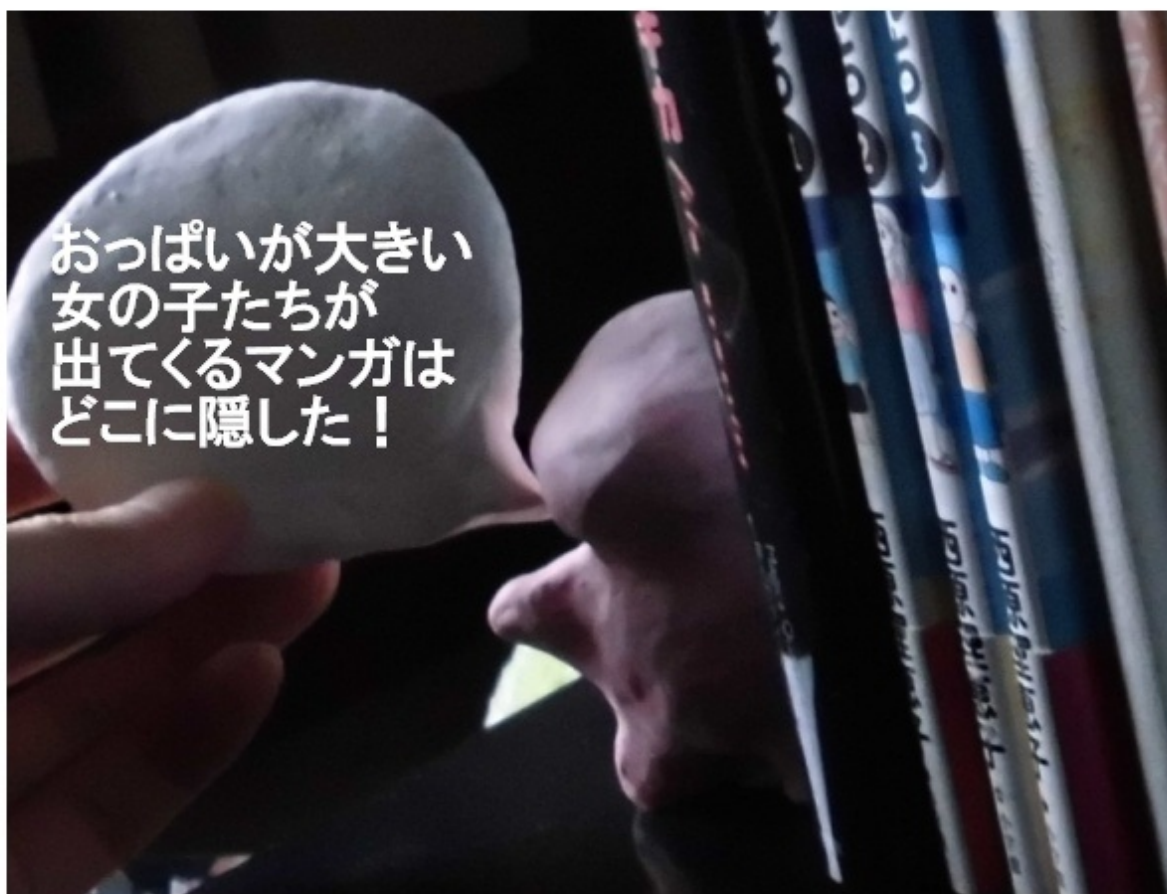


前頁の2コマ目のりんご箱で作った机は、撮影だけに設えたNHKチベットドキュメント番組のような やらせ であると指摘があり、本人(自分自身)に問い正したところ、「あのりんご箱机の上で作画はしていない」ことが発覚しました。

iPs細胞の森口さんみたいなことをしたかったからではなく、なんでも、電書が売れないので、貧乏を演出したかったそうです。よそ(Pixivとか)でやれ。

それから、自分が原作者なのに原作の脚本通りにマンガを描けない悩みを抱いていなかったそう。(熊ってなんだよ。脚本に出てこないじゃん)

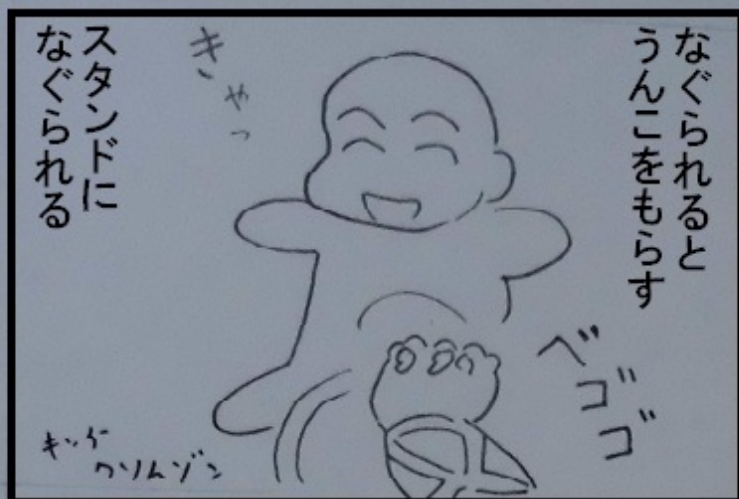
関係者各位に多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします



それにしてもヤラセギャグは写真に限る

写真が有効的

ジャンプマンガ オールスター競演



全てのジャンプマンガの起源は『トイレット博士』にあるというね。ウン、こうだったのかという。

千原せいじでも千原ジュニアでもないスタンド



「4コマ目の絵、何回使うねん」

ネットのニュース
サイトを見てたから
スマホをバンナム
で作るそうじゃなく
憧れの桜井さんが
バンナムの
どち●しょうと
握手までしている



バンナムに入社でき
なかつた私は驚きで
「これには驚いた」
バンナムに入社
できたからスマホ作り
に参加できていた
がもしれないのに....
「ハハハハ」

ジョジョでたとえるなら
私がエリナで
大切な桜井さんである
ジョナサンをティオが



私にはバンナムを
ディスっていい
だけの理由が
ある!!

名シーンの
忠実な再現

ではじめに
木馬
制裁として



貴様を
いじめて
やる



木馬は
ともだち



こわくない

やめて
おなかの子に
はきを出さ
ないで

ゲッ

大河いじめギャグマンガが
はじまる。



フェデリコ・テリオ
ごっこしてえかい
木馬 特別に

このゲーム企画
『ワルキューレの異聞録』
を種付けて
やるう

企画書を
丸めてる?

ぎゅ〜



これから 生まれて
くるゲームは
私の最高傑作に
なる
by フェデリコ・テリオ

やめてよ
ゴトチと様
こんなの
イヤだ、た
じゃない
え、それは
はじめの

そりゃあワルキューレが
緑のサンドラに民族浄化を
させるゲームなんてやりたくない

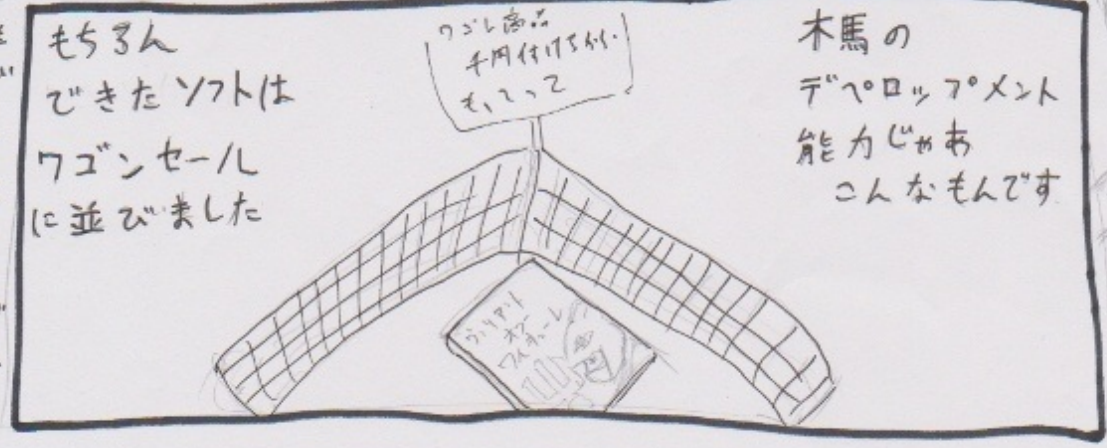


うるさい
もう 昔の
私では
ないのだ

善

ワルキューレの
伝説

回たなし一部洋ゲームマニアはのぞく



もちろん
できたソフトは
ワゴンセール
に並びました

ワゴンセール
専用付け替え
モーター

木馬の
デベロップメント
能力じゃあ
こななものです



オレエイト
ワルキューレ
たっせ

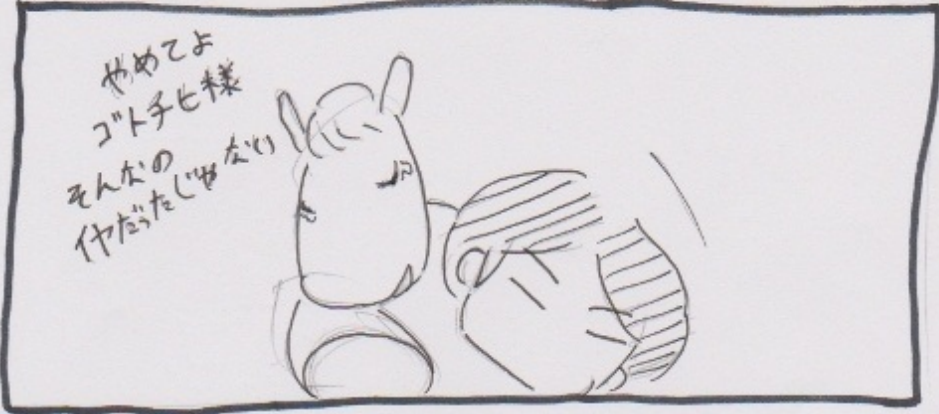
★見?



おう 木馬
お前とこの
ソフト
マシコンでコピーしたのを
改造 "ソール"で
おそんでやて、から

ありがたく
思え

← 1111 重要



やめてよ
ゴト子七様
そんなの
やだたしやない



マハ♥

うるさい
もう 昔の
私では
ないのだ

↑ 決めゼリ?

そりゃあ、夢見なくなるわな



たいたい
アイマスの
ダウンロードコンテンツ
は、全部で

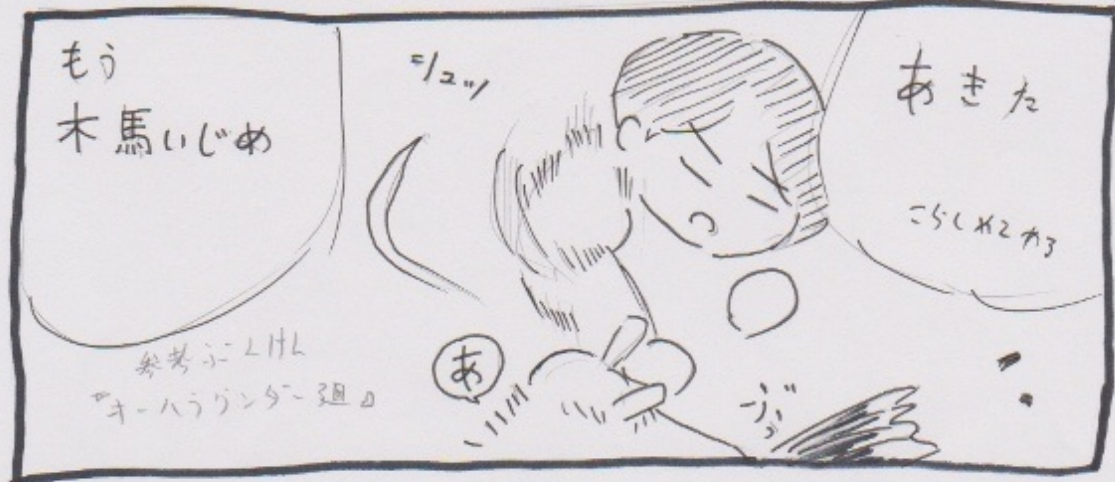
い、たり
いくらすると
思っこんだ!

↑
"色彩少女"の作者
→ yofakur222

2009年頃
19万6千円
ゲームラボ調べ



あきた



もう
木馬いじめ

あきた

こらしめろ

参考にした
『オーハラウリタ』

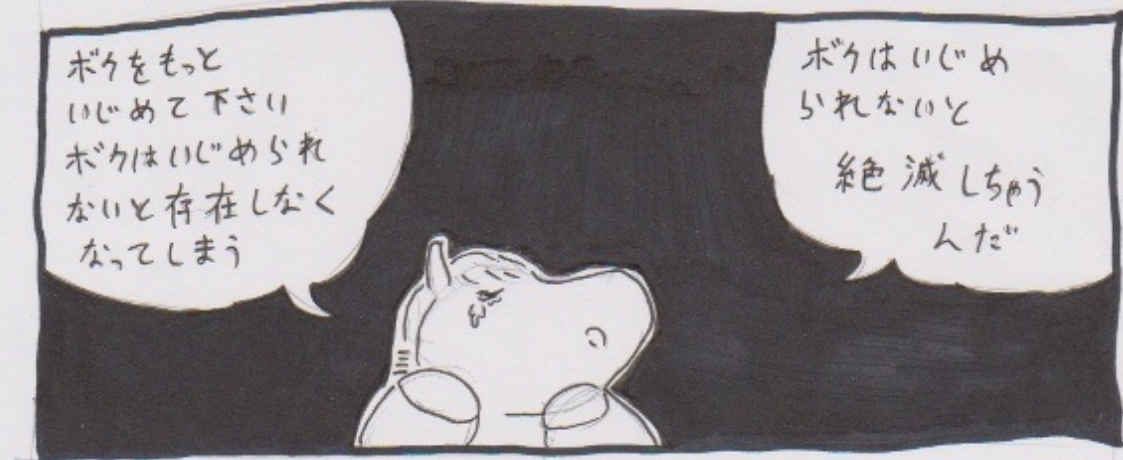


だいたい 木馬いじめ
なんとしてたか
善人で通している
私のパブリック
イメージに傷がつく

いまさら

もう お前は
用済みだ

おうらりや、
聞かされた
か、こ



ボクをもっと
いじめて下さい
ボクはいじめられ
ないと存在しなく
なってしまう

ボクはいじめ
られないと

絶滅しちゃう
んだ

ありえない未来
の思い出たちは
絶滅したよ



ほんやく

マリツファ
「どうして
私たちのキャラ絵は
描かれないの？」

山田 寧々さんがいいえよ。
... せくむいあつて、け?

アリゼ
スコットランドの民族衣装だが、
19世紀頃には消滅して今では
誰も着ていない。
『シェイクスピア・ロマン』の
マリーナも着ているが
年代的には消滅前なので
時代考証上は不正確とはいえない。
でもフィクションなので
どうでもいいはなし。



ゴトチヒ
「オイラ イラスト
レーターじゃない
から ちょっと
そういうの苦手だ」



マリツファ
「そうよねえ。
私の美人度も
割り引かれて
いるから
ちょっとブルーよ」



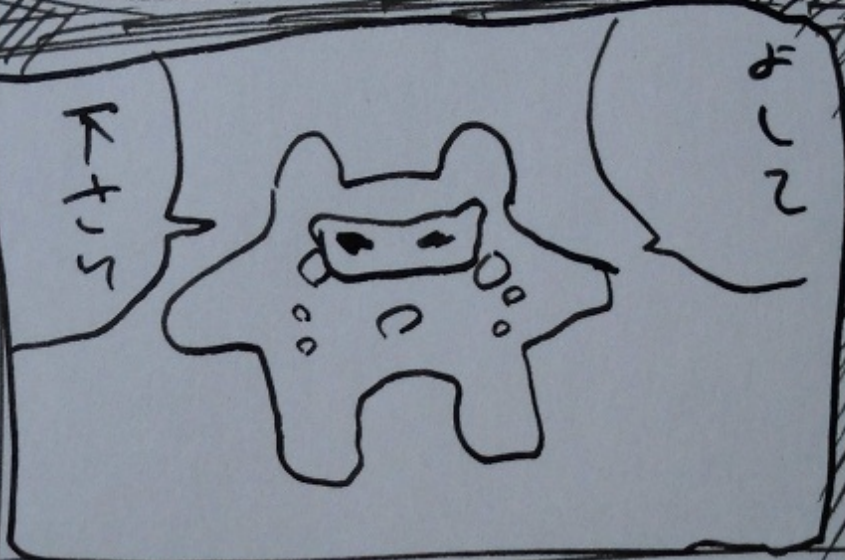
ゴトチヒ
「それにしても
男性読者向け
に媚びた
キャラクターを
出すって
虚しいなあ」



オレは
悪いヤン
だ!!



悪いヤン
ーらしぬこ
か



←トリス

よしこ



よしこ
よしこ
か

全ページ

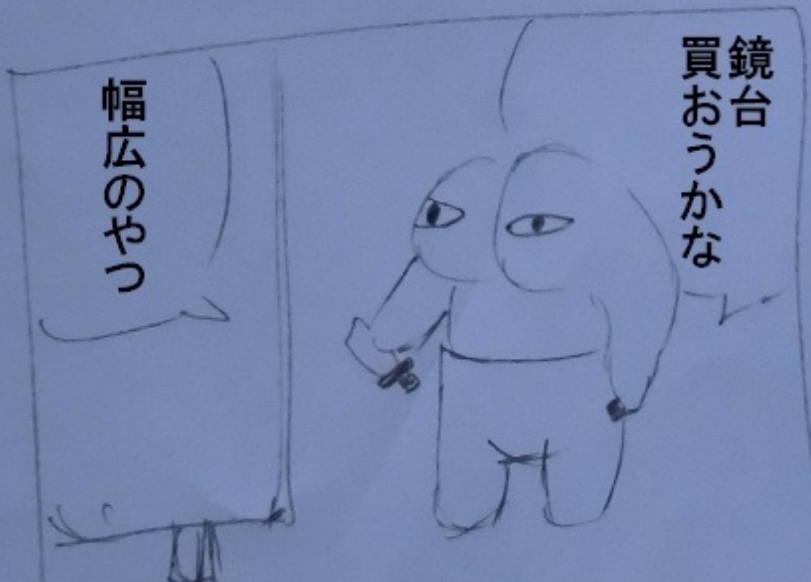
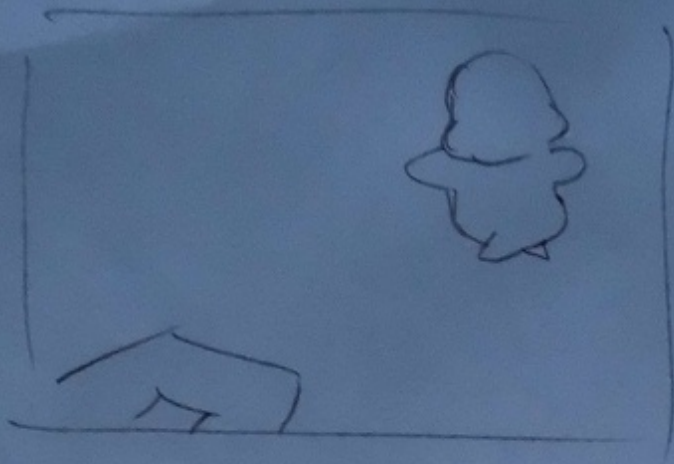


おーっかーん



こんなに宣伝しているから、抗議はないだろう

やっぱり、そうだったのか



週刊連載に追われて、大きめのミスにも気づかない

おおっと
観客にぶりぶり
バスターを
かけるのか



尻に頭を
挟まれたら
極まったも
当然だ



尻の穴も
広がって
うんちくんが

足を
ホールドして
体勢は万全



ああ！
左足の
ホールドが
外れた！

これは
まさかの
ぶりぶり
バスター
返しか？



次回 ぶりべんじバスターが炸裂？

超人ザ・シュールの「壇蜜はエロすぎる」という苦言にプリプリマンⅡ世は「よくも壇蜜をディスってくれたな！」と言って、隣にいた試合を全裸待機して待っていたフェイトを抱え上げジャンプし、「オレの中の福山雅治の怒りを食らえ！」とぶりぶりバスターの体勢に入った...

プリプリマンⅡ世の正体がフェイトで、そのフェイトにプリプリマンⅡ世が技をかけて、さらにフェイトが技をかけられているのを驚いているギャラリーの中にもフェイトがいるという、マンガを描いている私も途中からわけわかんなくなる

うっかり忘れていたけど
フェイト(ぶりぶりマンⅡ世)の声は
紅白歌手の水樹奈々なんだよね

超人強
同じ
またまた
さあ
ああ
どうする

悪魔バスター、



ぷりぷりマン二世

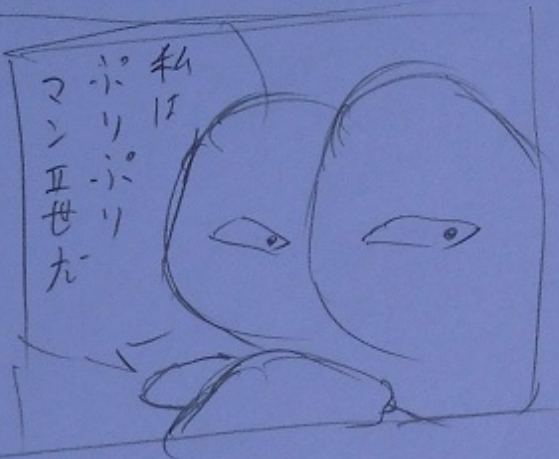


第一回 ぷりぷりマンの死

ぷりぷりマン二世、いきなり死亡につき連載終了



→ニジの台詞、結局思いつかなかった。



フリフリ
フリフリ
マン
二世



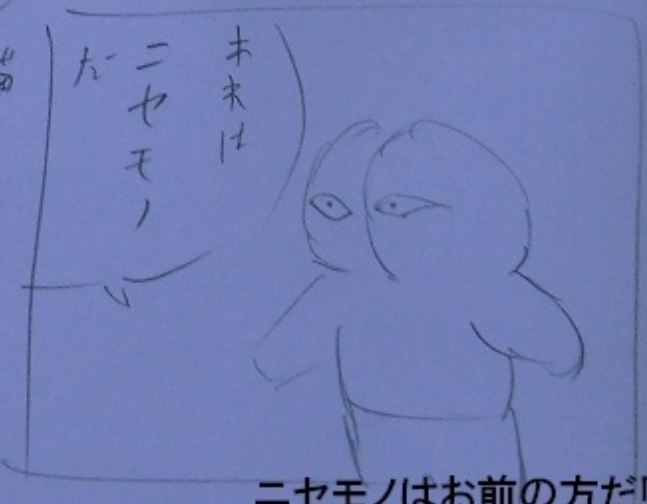
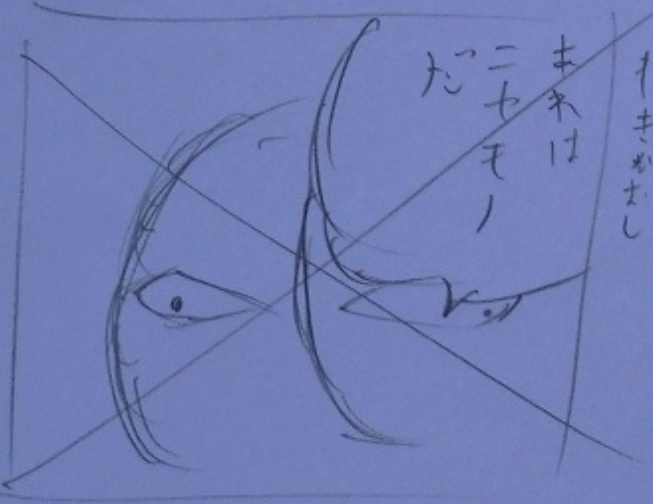
カッコい
しりり
フット/カ
マエだ

第一話

フリフリマン二世登場



草二は
 ニセモノきわくは
 反論

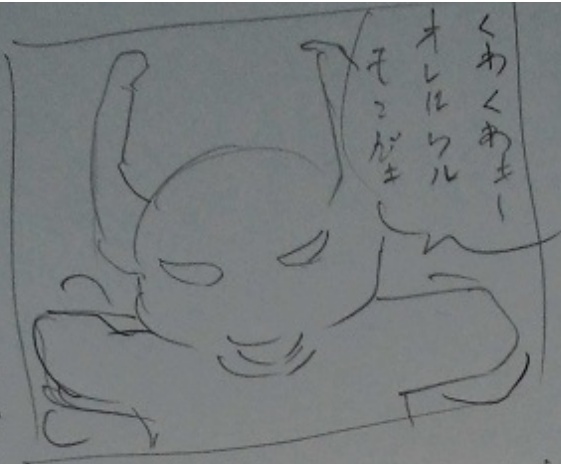


ニセモノはお前の方だ!!!

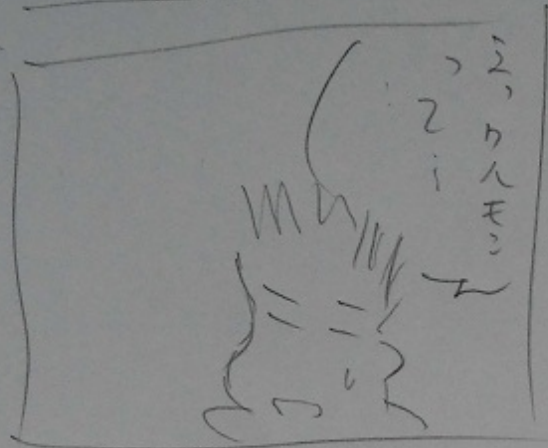
←
 ニセモノは前回のタイトハのつしとて

猫まかたし

ふんこのかまこ



くわくあまー
オレはワル
モコがキ



ふんもん
っ
こ

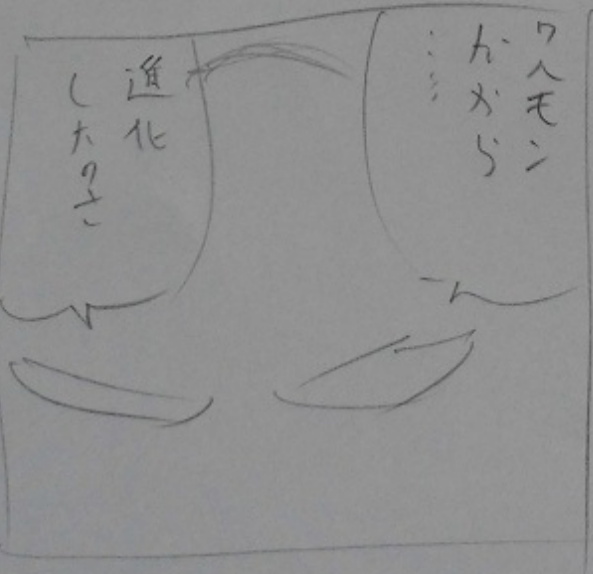
一応、次は『プリプリマンⅡ世』第一話に続く
なんで戦うことになったかの因縁とかは説明無しで
プリプリパスターの返し技悪者パスターを決める。



かしく
ふんもん
が

この間と
顔が
うじが
ん

四つを描いてん
五つにか、ち、た
オイ、おはりもんが描くの
を
下手だ コマ割れを!!



進化
した
たろこ

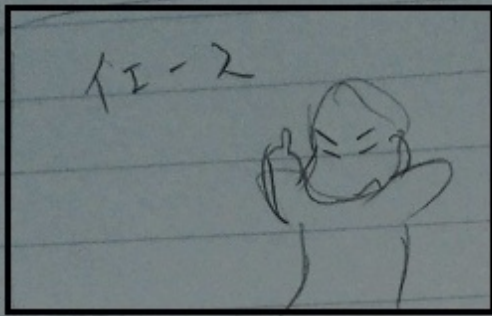
ワ
ん
もん
か
が
ら



それは
すが、いと
めん、

最近のアニメをパロディして子供たちを喜ばせよう

アイカツ

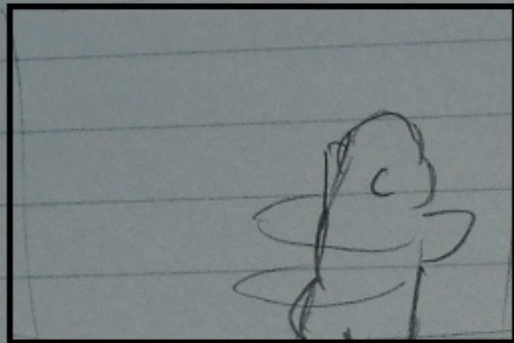


これで子供で
子供を捧ぐ大人の
人気を待たれた。

なんと

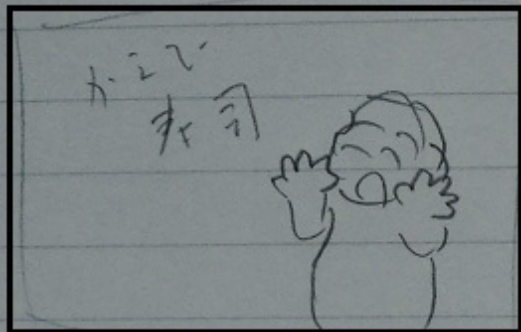
私も大人がいいわ。

~~最高の天才かたしてね~~



アイカツ アイドルを目指す女の子のアニメ アイドルのデータベースを参照しながらも、21エモンっぽいところがある親の世代も楽しめる良質作品

ジャイロゼッター 龍ちゃんのゲームが元の車が超速変形してロボットになるアニメ
主題歌を歌うマッチが「最高の風に乗って」声の出演をするので、ダイノジ大地くんがニセモノとして出演してほしい
ちなみに「マッチでえええす」は大地くんの持ちネタ



アイカツ



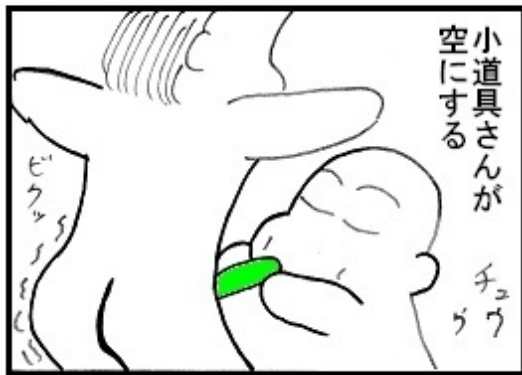
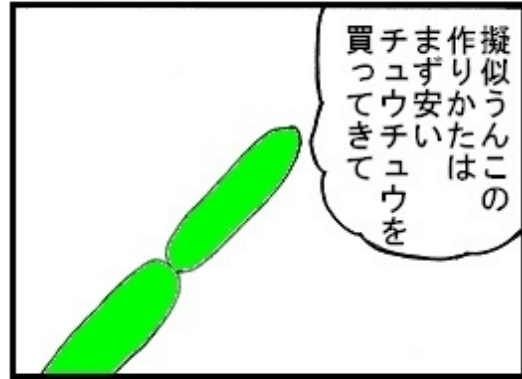
くろがめ
ナール
(声の出演
ダイノジ大地)

マッチ
びびびび
(声の出演
ダイノジ大地)

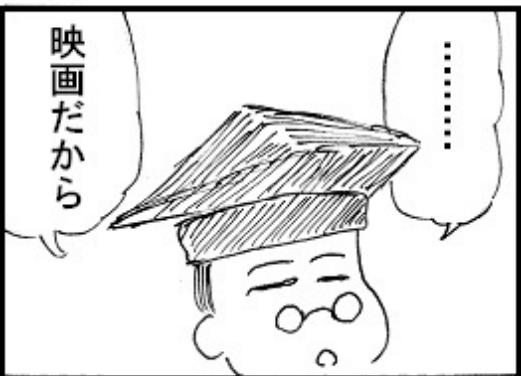
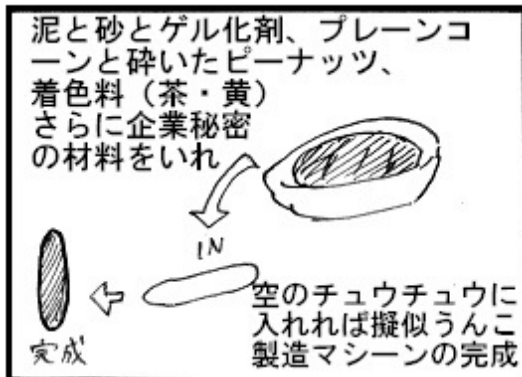
予定していた「お前？ 腰に悪の華が咲いているぞ！」は、倫理上の都合によりカットしました。これからもPuboo×Paboolは女子禁制の健全な紙面作りに努めたいと思います。

映画 がかた

ぎじょうんこ2



B.L.のタダ回収



映画だから

ヒント 漢方薬

注・たまたま写真撮影の際、チュウチュウを吸っているところに人が前を通り過ぎてしまいました。

ぎじうんこ1

あばしり悪党
かのはりーんどいあ、たぶら



映画の字校

~~ゴトチヒ~~ ゴトチヒ

5対5戦で戦う
新章に突入

謎のチーム

超人 ケツ盟団 Date.
本 理未了。

ふりふりマン二世は絶対好調

中堅 実平

1-2-3-4-5
(平和主義者らしい
戦わな!!)

副将 定軍

6-7-8-9
戦平進 (いじりや
メカネ)

大将 完月

2-2-3-4-5
フーリー
(謎の人物)



次鋒 完裸

ケツビ
(バントホ-ル)

・ホ-ムラン
命の玉を
取ると
バントホ-ル
めかして
バントビ
ホ-ムランを
飛ばす力
が強い

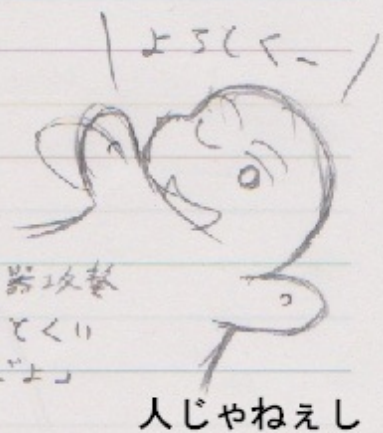
試合後はファンと火遊び
(母国に妻子を残しておいて)



先鋒 完結

とくし超人して
くら
教合おせの人

「凶器攻撃
がとくり
だよ」



人じゃねえし

スラッシュ

予告

マスク・ド・プーリーの
正体が意外なあの人物
であることに読者は
驚きを禁じえないであろう

それにしても、
こんな子供が
授業中にノートに
描いたような
くだらないものを
載せていいの
だろうか

社長が訊く『コトバを食べる、ケモノ。』



五島 千尋
Architecture Product System
終わったゲームクリエイター

本文の一部を引用される場合は、必ず、本ページのURLを明記、または本ページへのリンクをしていただくようお願いいたします。

↑ ナイキ

1 思わせぶりなセリフ

いわっち 「コトバを食べる、ケモノ。」の物語編が終わったそうですから、今回は「社長が訊く」で取り上げてみようと思いますが、なにかありますか？

ゴトチヒ マジコンヌ帝国……
マジコンヌ帝国でよかったっけ？
いいや。
マジコンヌ帝国から来ました、
ゴトチヒといいます。
終わってもなんもねえよ。

いわっち （無視して）そういえば、
取金教授のあの思わせぶりな
セリフって、何かあるんですか？

ゴトチヒ なんもないよ。
社長を訊くをご覧の皆さん
見ているか。
任天堂の社長サマの前で
こう言っているんだから、
なんもないぞ！

老けたよね



2 ファミコン文庫

いわっち そもそも、「コトタベ」は
どういうゲームなんですか？

ゴトチヒ タイトル表記通りだよ。
それでファミコン文庫のシリーズに
納まればいい内容にして
開発会社もパックスソフトニカ
小田部洋一さんがキャラクターデザインを
したような人物たちで、
でもパックスソフトニカは
今は無いですし…

いわっち なるほど。それで、
クリーチャーズだったという訳ですね。
そういえば、ケモノが
ドンキーコングで、
ワヨンちゃんが
ドンキーコング Jr. ですよ？

ゴトチヒ ……ああ、そうだ！
気づかなかった。
これからは、古式に則って、
ドンキーコングからきていると
ふかしを言おう！

「俺の左腕は
ローゼンクランツの
利き腕だあ！」
をやっているところー



3 誰にでもできること

ゴトチヒ 基本的に自分ができる
ことは誰でもできる。
その判断をされたから
ゲーム会社に入社できなかった
わけだからね。

いわっち 具体的に誰でも
できるって何でしょう？

ゴトチヒ 『シェイクスピア・ロマン』で
悲劇回避ルートを通ると、
ハムレットに言われた通り
オフィリアが尼寺に行ってしまう。
せっかく助かったのに（なぜか笑顔）。
それでその尼寺にマリーナの
お母さんと出会うんですよ。
他にも、『リチャードⅡ世』の方かな、
十字軍に参加した人物が
なぜかトルコ軍の客将として
登場するわけだけど、
こういうことは誰でもおもいつく。
ジロさんがシェイクスピアのゲームを
作ったら、これの百倍すごいのできるよ。

いわっち ジロさんとは、
イシイジロウさんのことですね。
たしかに、イシイジロウさんが作れば
誰にでもできないものができますから、
千倍すごいものができると、
間違いでは？



ポケモンの戦闘画面
みたいに二人は
対峙し~~戦~~話し合う

4 スカイレイヤー

いわっち つまらない話ばかりしてないで、
何か他の話はないですか。

ゴトチヒ スカイレイヤー、
トレジャーレイヤーとか？
ジャイロを仕込んだ
タグタイプでプレイとか？
ゲームパッドのおかげで
「シー・ドーターズ・ボイス」を
表現できるようになりました。
表現できるようにさせていただきました。
とくに影鳴楽器はあのパッドでないと
ゲーム内通りに佐藤さんが……
別につくらないゲームの
話だから、別にいいや。

いわっち そうですね。
どうでいいですよ。

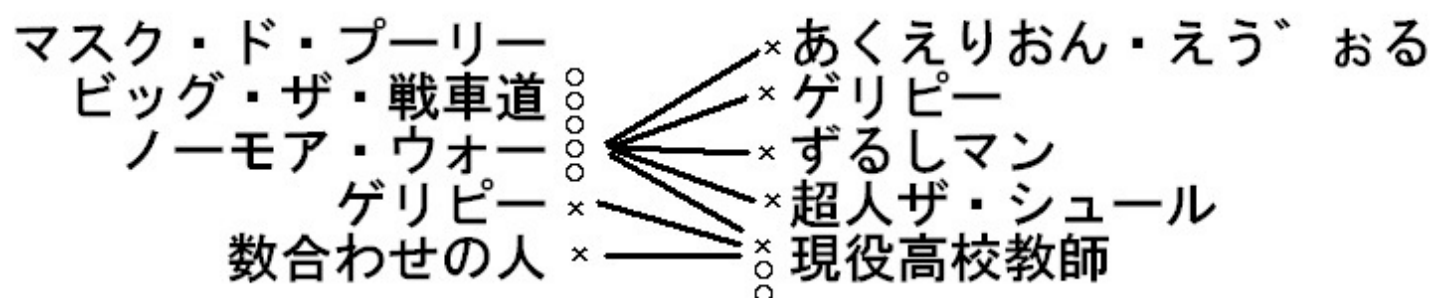
ゴトチヒ みんな聞いているか？
任天堂の社長様から
お墨付きをいただいたぞ。

3 誰にでもできること

5 紛れもない真実

後半は後日アップされます。

超人ケツ盟団 VS 東国ゆるキャラ軍



反戦平和主義の悪の超人ノーモア・ウォー五人抜き！

43巻のあらすじではなく
データ放送にあるような試合展開・詳述

数合わせの人がマッスル・インフェルノを決めて優勢に運んだが、現役高校教師の体罰の前に倒れる。

ゲリピーは場外ホームランを打てる釘バットで教師の腕を折るが、体罰に戦意喪失TKO負けとなる。

ノーモア・ウォーの平和戦略を攻略できなかった教師は、教育委員会の意向により投了。というか頭蓋骨骨折していたので気を失って戦っていた。試合後、入院先で脳が割れ目から飛び出て死ぬ。

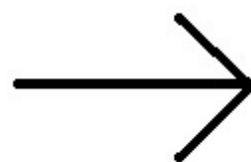
超人ザ・シュールの日本国憲法の持ち方はノーモア・ウォーの方がよかったので勝ち。ずるしマンはずるのしすぎで反則負け。

ゲリピーはもちろん、規則上反則負けのはずが、超人ルールブックに「二つ以上のチームに所属してはいけない」と書いていなかった。対戦となりノーモア・ウォーのフェイバリットを決められ、戦意喪失してゲリピー負ける。

合体超人あくえりおん・えう` おるはタックルされたら、くずれて負けた。（試合中、ビッグ・ザ・戦車道は控え室でカチューシャみたいに寝ていた）

次ページにて
ピックアップした
シーンを四コマで
再現

お尻の王様って、何？



この人たちはお尻の王様を決める戦いに命を賭けている



マッスル・インフェルノを決める
ケモ…数合わせの人
この時に頭蓋骨骨折させた

そのためか、教師は
パロン森みたいな
活躍をする



同性愛のタグ回収



宮崎駿の
書き文字を
真似した

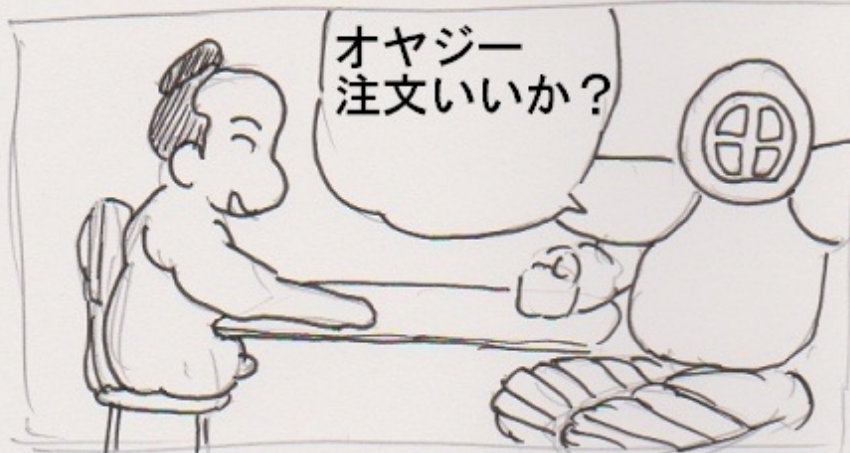
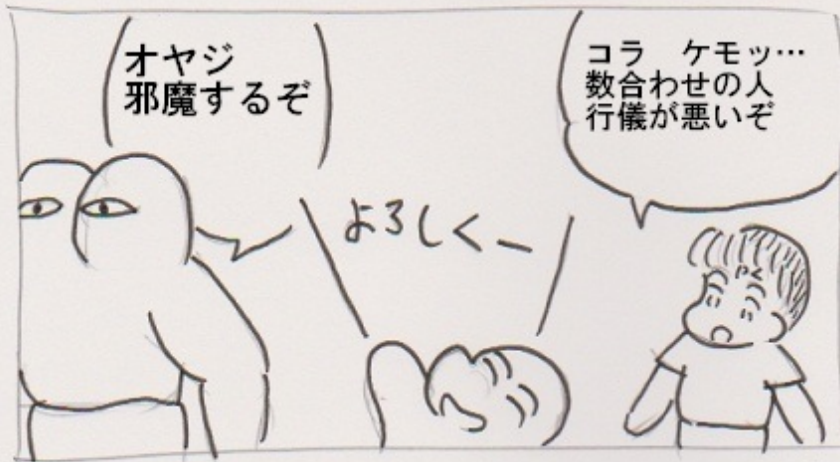
Architecture Product Systemは
『風たちぬ』を
応援しています

タックルされて
合体が解かれる
あくえりおん・えう` おる



最後めんどくさくなって
ペン入れせず鉛筆だけですます

超人ケツ盟団が飯屋にやっってきた



あくえりおん・えう おるの真ん中の人(与助)は仲間になった



この組み合わせは コラーージュ4コマのヒトネタじゃなかったのか

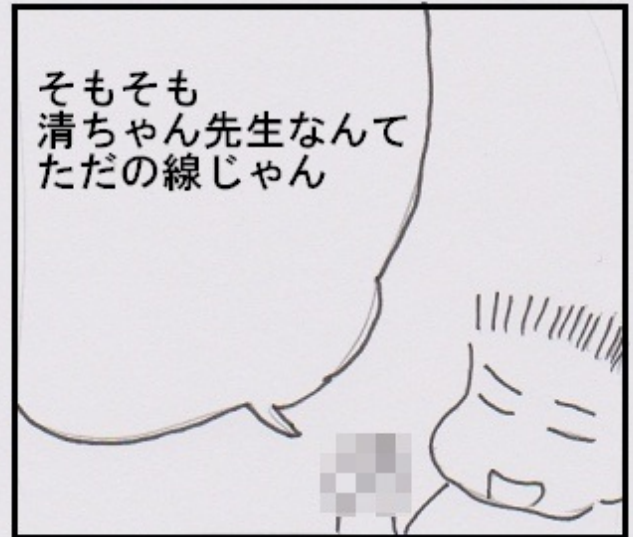
孤独のグルメを見ている人

メンズラブのタグ回収

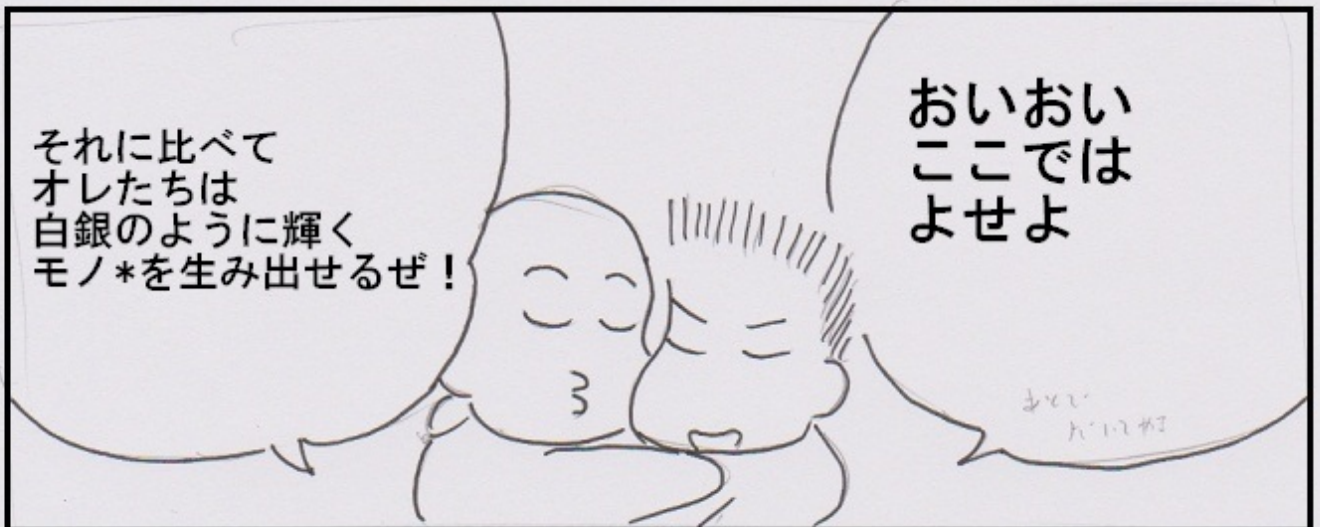
「この部屋に入ったのは、
お兄ちゃんが
初めてだよ」



中学時代の制服が着れる25歳のマイクロボディ(死語)



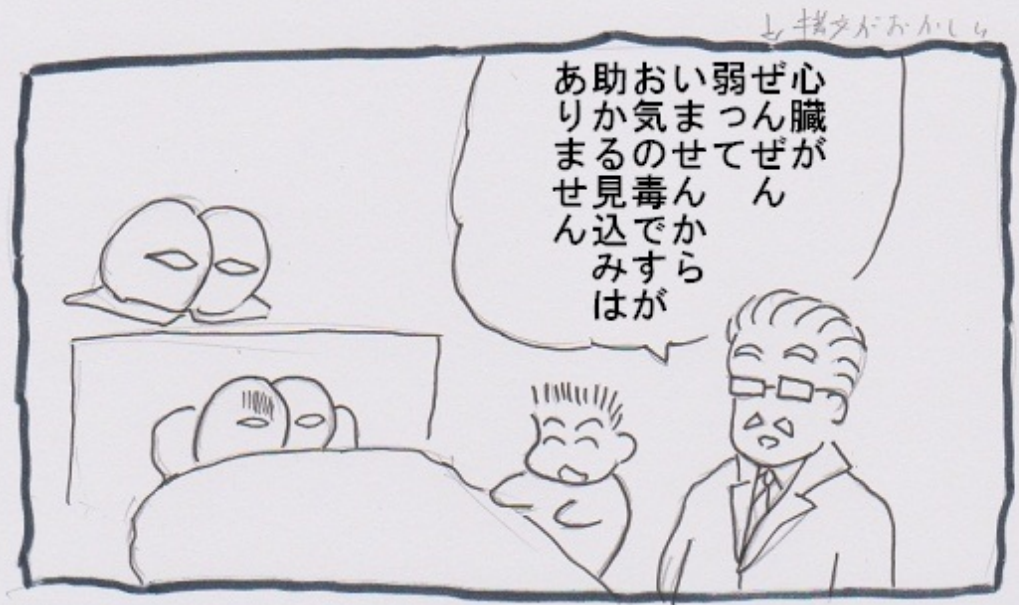
そうです



*赤ちゃんのこと

「同性愛をエネルギー源として動くロボット」に続く

戦後マンガが産声をあげた瞬間を。パロディにする
 神をも恐れぬ不謹慎ギャグ

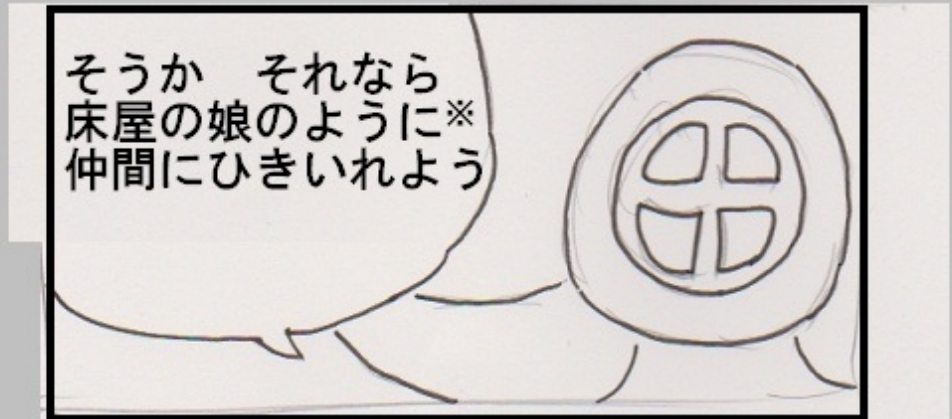
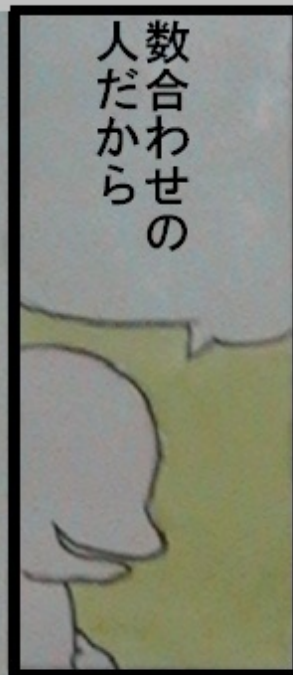


単なるギャグで物語の核心にせまることが語られている

一応、悪者バスターで病院送りとなった
 プリプリマンⅡ世と小旅行から帰って…
 の人が会っていたという状況

ジャンプSQでやっていた読み切りのような
超人ケツ盟団結成秘話

⇒イミフだけど
ドラクエのテキストに
拮抗するものを
生み出そうとした苦闘のホドが見える



※ 秋山さんのこと
よく「西住どの～」とか
言っている子
実家は床屋であるため
ビッグ・ザ・戦車道は
そのことを引き合いに
出している

こうして 数合わせの人は超人ケツ盟団に数合わせで参加
メンバー全員 高い誇りを持った高ケツな超人が揃ったのだ
(一人全裸だし、一匹人じゃねえし)

社長業もつらいよ



お待たせしました
『コトバを食べる、ケモノ。』の
「社長が訊く」後編です。

5 紛れもない真実

- いわっち こういう4コマを描いていると
『ありえない未来の思い出たち』
の執筆が遅れるって
本当ですか？
- ゴトチヒ (喰い気味に) それは本当。
紛れもない真実。
そんなこといったら
任天堂の予定利益は
どうすんだ？
今年度末の円安見込みで
1ドル110円ぐらいなら
500億の利益をあげられると思うよ
だけどコミットメントした目標とは
差分500億がある。
あんた、それどうすんだ？
- いわっち コミットメントした以上
必ず実現させますとしか
言いようがないんですが(笑)
- ゴトチヒ OEM供給とか考えてる？
プログラムの。ミラーリングを
供給してもらえば
「シー・ドーターズ・ボイス」の
後半でマリオカートの
ミラーコースみたいなことを
できるんだけど。

この間のやつを反転させて
ポケットモンスターY・X
のバトル画面のように
している



♪

↑ 反対になった
ままだぞ

6 魔編曲って何？

いわっち プログラムを他社様に
供給するのは
魂を売るようなことですから
それはできません。

ゴトチヒ (「そこは魂を売ってもらわないと」
という言葉がグッとこらえる)
JASRACと契約さえすれば
我々は貴社の原曲を魔編曲できる。

いわっち 魔編曲って何ですか？

ゴトチヒ (間髪いれず)富田勲が
「火の鳥」をシンセサイザーで
編曲したみたいなやつ。
ストラヴィンスキーの原曲を
百回聞いたあとに聴くと
衝撃を受ける。
とくに魔術王が聴いていた
「カッチェイ王の踊り」を
編曲したものはすごい。
あれぐらいの編曲をして
もらわないといけない。
『風のタクト』の曲を
魔編曲だよ。

注・走る兵(つわもの)の登場とともに、「中ボス」の曲を魔編曲した
「荒ぶる強い風が吹く」が流れるが永遠に耳にすることはない
因みに「カッチェイ王の踊り」は安藤美姫が最近プログラム曲にした



霊夢 ちゃん

7 博霊麗夢をスマブラに出せ

ゴトチヒ コーラス、アカペラで音作りする。ガジベリピンバ発声練習をさせておいてつかこうへいの口立てみたいに私がオノマトペの歌詞、手拍子、足踏みのタイミングをスタッフに身体で覚えさせる。

いわっち スタッフとは、製作スタッフのことですよ。

ゴトチヒ そうだね。まず『シルエット・アクター』を作ってから、他の作品をできれば作っていくと話が早くなる。声をあてさせるために演出家たちを呼ぶし、スタッフをコントロールしやすくなるだろう。

いわっち 大物演出家に命令できる立場だと思い込ませてスタッフを洗脳するんですね。



もう 昔の私ではないのだ！

8 「ファッシャイション2」

ゴトチヒ 作中「かいじゅうのうた」^を流す
音のアカシックレコードを
解析しちゃダメ。
誰も望んでいない結末だとわかる。
そんなことより、いわっち、
オレに内部留保で
「ファッシャイション2」を
造らせろ！

いわっち 今日は本当にどうも
ありがとうございました。

ゴトチヒ トリクルダウンが起きない現象
の企業の筆頭にあげられる
任天堂がジョブズを
スリップストリームした
製品ばかり作って
どうすんだ？
ジョブズ・イズ・デッドだ。
猛省しろ！
文系と理系の交差点に立つな！

いわっち (どうでも)いい話を聞けて
本当によかったです。

フットボール選手のケガを~~絵~~にしてやる

~~絵~~

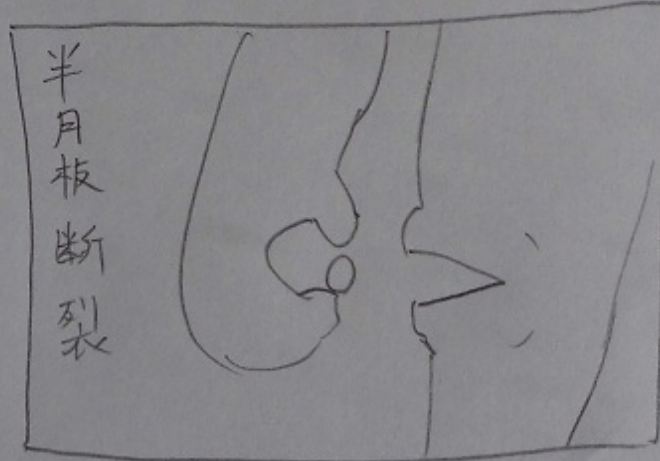


この身体から離れた肉を
森口さんに渡して
クローンを作ってください



コーチ 肩に違和感がある
ので今日は登板回避
させてください

迷子になった山田の
ともだちが
肩で休んでるだけだよ



パワーエサを
食べさせたら
治るかな



ちんこがどっかに
行っちゃった

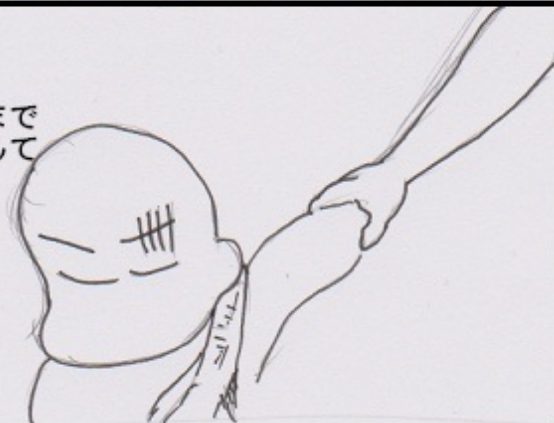
アニメファン限定ギャグ2

よ赤い絵の具を切り出した



オレたちや裸がブラグスーツ♪

男同士で
いいこと*をしていたのに
遭難して女の子たちと
救助してもらえるところまで
歩かなくちゃならないなんて
なんて憂鬱なんだ



*あまりにもはしゃぎすぎると赤ちゃんが出来てしまうこと
(避妊を心がけよう)

キャストロール

シンちゃん 海江田フェイト

渚カヲル 深町なのは(声の出演・田村ゆかり)

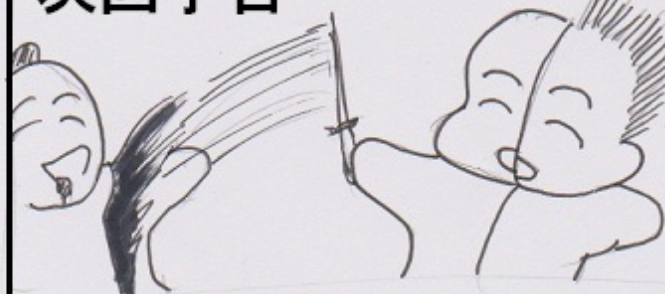
あやなみレイちゃん ハルクんに水浴びしているところを
覗かれるマリーナちゃん

稲垣早希ちゃんのコスプレした眼帯つけた少女 えう* あの呪縛で見た目が
幼い藤原清美(たすたすりよおたす~♪)

使徒 ポキモン

リリン ノーモア・ウォー

次回予告



とりあえず
仮面ライダーW
みたいに二つを
合体させてさ
サービス サービス

同性愛をエネルギー源にして動くロボットって13号機のことだったのか
ことだったのか

ホキモンがあれば"もうホケモンはいらない"

葉王多材 第2巻

メガワルモン

（虫師、11/5/12人でネタ）

悪・虫 タイフ

技

あくあくボール

ワルモノバスター

「やられたらやり返す倍返しだ」

（反動有りの
カウンター技）

ふ、かいのどく

他にも覚えている技

盗んだ体傑着(佐伯)を着て走り出す

ワルモノミキサー

「大和田、、土下座しろ！」

（ふんての社）



メガワルモンは状態のワルモン
ワルモンにはビカチー
ビチューハロー
オハハハ

性格 底いじが悪い

特性 ともかく社会全体を呪っている

「倍返しじゃかいです。十倍返しです」はあまりにも強力で大会では使用が禁止されて

悪をねて作った
あくあくボールを



メガワルモンは
フェイトに救った

キいた
キいた
キいたよー
穴が
あいた
体に
キいた
穴が



キくあくボールで
穴がキいた
よー
悪の穴が
キいた
あ・り・た
キいたよー
身体に

サタンクロス ごろこ



唐突な終わり方

Puboo × Paboo2012正誤表

細かい間違いや、「てにをは」が微妙におかしいものが多々あるのだが、修正するのが面倒なので、正誤表を作って対処してみよう。

× レッドウォーリアー

○ レッドウォリアーズ

ダイヤモンド・ユカイさんは、すばらしい人だ。

肛門期を脱していない、少年のような人。

「ロック！」

× タイムトラベラー

○ タイムトラベラーズ

『蛍の墓』の節子みたいに「なんでジロさんのゲーム、売れへんの」なんて、これっぽっちも思っていない。

オジサンが画家らしくて、個展を開いたとか。

それにしても、複数形はよく間違うなあ。

× アゼルバイジャン出身

○ アゼルバイジャン代表

ノーモアウォーは前アゼルバイジャン出身で代表を、暗殺したと思われる。

そのため、例の選手権で代表として出場している…らしい。

× メビウス・ジャン・ジロー

○ ジャン・ジロー・メビウス

『インサイドメビウス』の筆名はジャン・ジロー・メビウスの方が正しいのである。

私も、『インサイド・ゴトチヒ』みたいなマンガを描いたとしたら、ペンネームがうなぎカツ丼・とろろ山盛りぶっかけコンブ・ゴトチヒになるのだろうか？

× 『ブルーベリーに触発されて』

○ 『ブルーベリー』

カギカッコ内に入れてしまうと、『ブルーベリーに触発されて』というタイトルになってしまう。

本当にいろいろ間違えているなあ。

豆知識として、ブルーベリーのモデルはジャン・ポール・ベルモンドで“勝手にしやがれ”である

。

× アースラウンド

○ Earth Bound

DVDのチャプタータイトルが「アースラウンド」だったら、イヤだよね。

ピクサー作ってくれないかな。あのゲームの映画。

日本のアニメデベロッパーでは作れないものだから。とはいえ、可能性を秘めているのは、ジブリよりも京都アニメーションで、地理的な理由である。

× 悪の花

○ 誤記した「悪」の部分は「亞に心」の漢字

正しいのがワードソフトの漢字変換では出ない、旧字体の「あく」の漢字である。

当のマンガは、なんだか、呉智英さんが面白いと書いた理由がわかる内容である。佐伯さんが「確率変動」を起こしたことによって、このマンガは二段ロケットが発射した。火花が噴射して火傷する。（あとで『マンガ狂につける薬』を読んだら、呉さん『悪の華』のレビューをしていない？ ようだ）

主人公が常磐さんの横顔に、光なのかメガネのフレームを幻視したとき、キバヤシ（透ける眼鏡）を思い出して「な、なんだってー！」と、叫んではいない。

× ポロクソ

○ ポロクソ

くだんのポロクソというのは、ポロシャツを着ているときにトイレに行き、大の用をした後にペーパーが無いことに気づいて、「それならポロシャツに茶色い菊の花を咲かせるか」と言ってできたモノのことを「ポロクソ」と言う。

愛がこびりついている。

× ザブングル・クラフィティ

○ ザブングル・グラフィティ

グラフィティとは落書きのことであり、または寄せ集め。

「クソフィティ」だったらよかったんだけどなあ。仰向けに寝かされた加藤クンが顔を固定され、ノーモアウォーみたいなヤツが「平和の大切さを思い知れ」と言いながら爆撃する。加藤クンは自分の顔が汚れながらも、「ヤメロー」と、叫ぶしかない。

× 直木賞落選作家

○ 芥川賞落選作家

自分の「名前を言ってはいけない、あのお方」のことを間違えちゃダメだろ。こんな冗談を真に受ける人はいないと思うが。

私の本当の「名前を言ってはいけない、あのお方」は、「Lost Bros.」で具体的に書いていないことで、わかるはず。

高橋源一郎のことではない。

高橋源一郎のことではない。

大事なことから、2回言ってみた。

本人に知れたら、「酷いこといいやがって」と思うかもしれないが、文学者は文学だけ読んでればいいんだよ。ネットなんて見ない。そんなの私が私淑する高橋源一郎じゃない。

× SATUGAI

○ SATSUGAI

このような誤りをすると、クラウザーII世氏から襲撃されるかもしれないが、中身は根岸君なので、友達になろう。



CDのジャケットみたいだ

(そして友情を裏切る。名曲誕生の予感)

正誤表というわけではないが、「勝手に広告のコーナー」の声の出演はそれぞれ

「Puboo×Paboo2012」では

○ 柘田絵理奈アナ

『日常』のマンガレビュー では

× 升田アナ

海賊Eブック のは

× 升田アナ (ツイッターの話題ヤメテ)

ぱふぱふFREEのものは

○ 柘田絵理奈アナ

丸バツを付けたことに他意はない。

× だめんずソング

○ だめんずうお〜か〜ソング

「だめんず」だとダメ男のことだから、「ダメな男ばかり付き合う女」のだめんずうお〜か〜になっていない。…くらたま、やっぱり再婚したダンナは、駄目な奴だったのか？ 泣きそう。かなしくって泣いちゃいそうだよ。

Puboo × Paboo2013

<http://p.booklog.jp/book/59971>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochih1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/59971>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/59971>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ



Puboo X Paboo

Architecture
Product
System

Puboo × Pabooはブログのように更新する電子書籍、略するとブログ電書である。

ブログのパーで電書アップや更新情報をブログ的に記入。

今電子書籍は、2013年版。

今までの更新情報などは、Puboo×Paboo2011やPuboo×Paboo2012に記載されている。

更新情報だけでなく、批評と書評や随筆などのコンテンツも充実。

また、たまには日記を記入したりする。

ネット検索にひっかかるように、“4コママンガ”や“時代劇”や“任天堂”や“バンダイナムコゲームス”などを、キャプション内に書いてみる。

